

Syllabus

大 学 院

社会学研究科 博士(前期)課程

社会学研究科 博士(後期)課程

保健科学研究科 博士(前期)課程

保健科学研究科 博士(後期)課程

心理学研究科 博士(前期)課程

心理学研究科 博士(後期)課程

地域創成農学研究科 博士(前期)課程

地域創成農学研究科 博士(後期)課程

吉備国際大学

社会学研究科
博士（前期）課程

授業科目名	比較社会学特殊講義Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	赤坂 真人					NO.	SS-BU-1-301
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ この講義は社会学のプラットフォーム(理論枠組み)について詳細な検討を行う。</p> <p>到達目標 私たち人間は社会集団の中で生活している。そのメンバーの価値観や生活様式はそれぞれ異なっているが、世界はなんとか社会秩序を維持している。この講義を受講すれば、私たちの社会がいかんにして構成され、維持され、そして変化するかに関するメカニズムを理解できるようになる。</p>						
概要	<p>講義の全体を一言でいえば社会の構造と機能を明らかにすることである。社会構造はミクロからマクロへと分節化できる。講義ではマクロからミクロへ、すなわち行為、自我、文化、社会的行為、社会的役割と地位、社会集団と組織、社会規範、社会階級と階層、社会体制(システム)の順番で講義する。</p>						
評価方法	授業内の小テスト(30%)と定期試験(70%)によって評価する。小テストは採点して返却するので復習すること。						
履修条件・注意事項	欠席回数が5回を超えた場合定期試験は受験させない。無断欠席をしてはならない。						
自己学習	毎回、課題を出すので、必ずやってくること。毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)に、研究室(9309)にて実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.人間社会の構造と機能 2.行為の構造 3.文化と環境 4.動機、目標、規範、価値 5.社会的行為 6.自我論 7.社会的自己 8.社会的役割と地位 9.社会的役割を演じるということ 10.社会集団と組織 11.社会階級と階層 12.社会規範 13.社会的価値 14.社会体制 15.社会システム 16.定期試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂					
教科書 1	<p>社会学原理 著者： 富永健一 出版社： 岩波書店 ISBN： 978-4000010379</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>社会学の理論 著者： 橋本和幸編 出版社： 有斐閣ブックス ISBN： 978-4641086494</p>						
参考書 2							

授業科目名	比較社会学特殊講義IV				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	岡崎 郁子					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	台湾は長いあいだ外来政権に支配された歴史をもつ地域・社会である。民族・言語・社会体制を見ても実に多様性に富む。ここでは複雑に絡む台湾・中国・日本の歴史を読み解くことをテーマとしている。それによって東アジア全体、ひいては世界の未来を見据える視点が養えるようになる。						
概要	国連に加盟していない一地域ということで、隣国でありながらあまり認識されてこなかった台湾を取り挙げる。台湾の自然環境・社会環境を含むあらゆる特色と個性を、講義を通じて概観する。この科目は専修免許に該当する(中学社会・高校公民)。						
評価方法	単位認定試験(60%)、授業姿勢(40%)による総合評価。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。						
自己学習	毎回授業時に予習(2時間)と復習(2時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	金曜日授業の前夜						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. オリエンテーション 2. 日本統治時代(上) 3. 日本統治時代(下) 4. 二大抗日事件 5. 植民地と近代化(上) 6. 植民地と近代化(下) 7. 知識人の反植民地運動 8. 台湾の芸術世界 9. 戦争下の台湾(上) 10. 戦争下の台湾(下) 11. ポストコロニアルの泥沼 12. 二二八事件(上) 13. 二二八事件(下) 14. 白色テロの時代 15. 党国教育 16. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎		
教科書 1	図説台湾の歴史(増補版) 著者:周婉窈 出版社:平凡社 ISBN:ISBN978-4-582-41109-6						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	比較社会学特殊講義Ⅷ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Theme of this course: Comparative perspectives to environmental studies. The course goal: This course serves as a broad overview at the MA level to academic discourses, debates, and research approaches related to social sciences-oriented environmental studies. The first gatherings will show how environmental topics have been treated in social sciences. Due to the interdisciplinary nature of environmental studies also the links with natural sciences and other relevant approaches are analysed.</p>						
概要	<p>Course description: The main emphasis of this course will be on interactive debates for exploring some of the most acute environmental issues and the social response to those issues. The perspectives of comparative studies of social issues and phenomena will be analysed by studying various social issues with emphasis on environment and nature protection and conservation.</p>						
評価方法	<p>The grading is based on students' participation in class activities (30%) and final individual research reports (60%: mid-term 35% and final 35%). It is expected that this course will be of use for the students who prepare for their MA research plans and theses. なお、評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>The instruction will be given in English. 授業は英語で行う。受講に際しては、必ず授業内容についての予習・復習に取り組み、疑問点は教員に確認すること。</p>						
自己学習	<p>毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。</p>						
オフィスアワー	<p>Tuesdays 12:45-13:30 (classroom)</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. Environmental issues 2. Globalisation and ecology 3. Risk society 4. Social movements 5. Social justice 6. Environmental protection 7. Ecological thinking 8. Deep ecology 9. Nature conservation 10. Global nature conservation 11. Pandemics 12. Natural disasters 13. Ecodemics 14. Mediation of ecodemics 15. Biodiversity 16. Final test	lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?		
教科書 1	Evolution of International Environmental Regimes: The Case of Climate Change 著者: Schiele, Simone 出版社: Cambridge Univ Press ISBN: 978-1316603499						
教科書 2	Comparative Environmental Politics: Theory, Practice, and Prospects 著者: Steinberg, Paul F 出版社: The MTT Press ISBN: 978-0262693684						
参考書 1	Global Commons, Domestic Decisions: The Comparative Politics of Climate Change 著者: Harrison, Kathryn & Sundstrom, Lisa McIntosh (eds) 出版社: The MTT Press ISBN: 978-0262514316						
参考書 2							

授業科目名	地域社会論特殊講義 I				履修期	2021年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマ:「文化と身体」ここでは文化とわれわれの身体関係を取り上げ、近現代社会が抱えていた陥穽を、「文化と身体」との関わりから講義する。文化と地域、そして社会の三者は密接不可分であると語られてきたが、周知のことだが、近代のスタート時にフランスのデカルトが「我思う、故に我あり」と語ったように、そこでは自分たちの「身体」が問題にされず、精神的な「自由な個人」が社会を構成するものとされてきた。だが、それまでは家庭教育、学校教育、そして宗教教育(日本では社会教育)の領域で、精神的にも身体的にも人間には人格personaが埋め込まれていると考えられていたけれども、近代における「自由な個人」はどこか人間ではなかった。そうした問題を含めて、ここでは精神的な規範や価値としての「文化」を「身体」に身に付けることの重要性を理解し議論できることを到達目標とする。また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>							
概要	<p>最近まで、社会と文化の問題において行為や態度が取り上げられることがあっても「身体」を取り上げて議論をすることはめったになかった。しかし、例えば剣道の試合などで対戦相手と対面する時、相手に気を感じて勝敗の行方を感じ取ったり、後ろに誰かが立ったとき、その人の気配を感じたり、あるいはその人がいるだけで場の空気が一変したりなど、「身体」と社会、そして文化は深く結びついている。なにしろ自分の「身体」に社会的な慣習が身に付かなければ、人間関係に重要となる表情やしぐさなど、その役割さえ発揮されることができなくなる。一般にわれわれは「精神」について議論することは多いが、「身体」と「精神」の関係を問題として扱うことは少ない。だが、「身体」がなければ、誰かに名前を呼ばれることはないし、また、この世界の何物にも「触れる」ことさえできない。この「触れる」がなければ、われわれの知覚も働くことはなく、「精神」の活動さえ不可能となる。そこで、われわれ人間が具体的に持っている「身体」を取り上げて、それを再吟味することで「精神」と「身体」が持つ文化社会学的な意味を議論する。</p>							
評価方法	<p>講義への意見や態度に10点、読書レポート(レジュメ)および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。なお、評価のために課した小テスト等はフィードバックするので、試験までに復習すること。</p>							
履修条件・注意事項	<p>受講する学生と相談の上、文献などを決定するので、それを読んで整理しレポート(レジュメ)を作成して、これを講義内で報告し仲間と議論すること。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもある。</p>							
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>							
オフィスワ-	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
(1) オリエンテーション(自己紹介) (2) 感覚の訓練と教育 (3) 身体と知覚、そして意味喪失 (4) 宗教儀礼としての芸能と祭り (5) 身体の分節と衣装 (6) 坐の文化と安楽な姿勢 (7) 歌うことと自分の声の誕生 (8) 同調する身体 (9) 個人化における身体接触 (10) 相互行為における挨拶 (11) 聖の接吻・俗の接吻 (12) 耳の世界と眼の世界 (13) 身体とことばの「同時性」 (14) 身体における「共同の現在」 (15) 単位認定小論試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋						
教科書 1	必要に応じて随時指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマは春期に続き「文化と身体」ここではわれわれの文化と身体との関連を取り上げ、近現代社会が見落としていた視点を、文化的な「精神」と「身体」との関わりから話を進める。というも、たとえば、われわれは自分の喜怒哀楽を「身体」を使って表現するが、「身体」がなければ泣いたり悲しんだり、笑ったり楽しんだりができないからである。では、「身体」の奥底からわき上がる感性や感情と「精神」とを切り離すことが出来るだろうか。確かに「精神」は感情や感性を抜きに働くとも考えることができる。しかし、その「精神」の源泉となる認識は、「身体」の感覚を通して関心をもった内容からでき上がっているの、認識の中心にあるのも「身体」である。このような意味で、「文化と身体」をテーマとして取り上げながら、「文化」が「身体」と大きく関わっていることを熟考し議論できることを到達目標とする。また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>							
概要	<p>われわれ人間は健康で元気であるとき、ほとんど自己の「身体」には配慮しない。「身体」に異常がなければそれを意識することは少ないからである。だが、ある意味でだが、これは自己自身を自覚していないことに等しい。でも、われわれが健康であるならば「身体」など問題にしなくてもよいという考え方があ。それでよいのだろうか。たとえそうであっても、われわれは食べなければ生きては行けないし、見ることや聞くとく、触れることなど、いわゆる感覚の根源性も、時間の経過とともに老いる無常感も、あるいは他者と具体的に接触する社交性も、いずれも「身体」があって可能となることである。そこで、ここでは「身体と文化」との関わりをテーマとしながら、人間の「精神」と文化社会との関わりを学生と一緒に話し合う予定である。</p>							
評価方法	<p>講義への意見や態度に10点、読書レポート(レジュメ)、小論および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>受講する学生と相談の上、文献などを決定するので、それを読んで整理しレポート(レジュメ)を作成して、これを講義内で報告し仲間と議論すること。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもある。なお、評価のために課した小テスト等はフィードバックするので、試験までに復習すること。</p>							
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>							
オフィスワ-	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			<ul style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション(自己紹介) (2) 意識する・しない身体 (3) 「食」と「意識しない身体」 (4) 老病死と健康との文化的文脈 (5) 「心身」の二元論と「身心一如」 (6) 生苦と「諦観の文化」 (7) 「お陰さま」と「型の文化」 (8) 身体における同調性と自律性 (9) 「時の文化」と「生」の構造 (10) 「生」における「時」と「道」 (11) 時令思想と「道の儀礼」 (12) 「業」と「共業」の関係 (13) 「共業」と「世間」、そして社会 (14) 「身心一如」の文化と社会構造 (15) 質問・意見 (16) 単位認定小論試験 				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	必要に応じて随時指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	李 分一					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>この講義のテーマは、グローバル化する「東アジアの政治経済論」である。既存のグローバル化は、トランスナショナル化でもある。それは、国境を越えた繋がりが拡大し、深まっている過程と言える。その意味で、国の枠を超えた関係が求められる。東アジアの政治経済論も例外ではない。こうした中で、東アジアの課題は東アジアで考え、また東アジア紛争は東アジアで解決させようとする内発的な動きが顕在化しつつある。</p> <p>この講義を受講すれば、東アジア政治経済の位相(現状)と行方(今後)が理解でき、しかも域内緒問題を融合的に捉えながら、複合的に考える力(総合力)を身に付けることができる。</p>						
概要	<p>最近の東アジア情勢は、日々ごとに流動性の速度が速い。ところが、地域情報抜きにしては我々の生活について何事も理解できないのが現状である。東アジアの政治経済に関する幅広い知識と教養、そして視野を持つ必要性はここにある。戦後東アジア諸国は大きな変動を成し遂げており、現在の変わりも顕著である。域内諸国は、独立、権威主義支配、急速な工業化、通貨危機、民主化、グローバル化という共通の経験を経て、大きく変貌しつつあるのである。この授業では、各国・地域の政治経済問題に関する個別の具体的かつ重要なイシューを取り扱う。</p> <p>ちなみに、この講義を受講すれば、教員の専修免許(中学社会・高校公民・高校地理歴史)が取得可能である。</p>						
評価方法	定期試験(80%)、提出物(20%)によって評価する。課題に対するフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 (2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。						
自己学習	(1) 参加型授業のために、授業者は事前課題を調べた上で参加すべきである。授業は、この課題をめぐって討論形式で行う。 (2) 受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、トピック別の宿題とレポートを課す。						
オフィスワ-	水曜日4時限目(9304研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.アジア政治の理解 3.アジア経済の理解 4.アジアの政治経済の理解 5.アジアの工業化とグローバル化 6.アジア政治体制の変動 7.アジアをめぐる国際関係 8.アジアの姿①:日本 9.アジアの姿②:中国 10.アジアの姿③:韓国 11.アジアの姿④:台湾 12.アジアの姿⑤:インドネシア 13.アジアの姿⑥:ベトナム 14.アジアの姿⑦:フィリピン 15.アジアの姿⑧:タイ 16.定期試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李		
教科書 1	アジアの政治経済・入門 著者:片山裕・大西裕 出版社:有斐閣 ISBN:4-641-18344-9						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域社会論特殊講義V				履修期	2021年度 春学期	
担当者	李 分一					NO.	
配当学科	社会学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	この講義のテーマは、「アジア地域研究」とする。21世紀初頭の世界は、あらゆる分野と領域においてグローバル化(世界化)とローナリゼーション(地域化)が同時進行している。これらの視点と認識をしっかりと理解することが大切である。この講義の到達目標は、多様で多面的なアジアの様々な姿を理解することにある。また、この講義を受講すれば、国際地域研究とは何か、そしてどのように進めるべきかなどの知識を身に付けることができる。						
概要	21世紀初頭の世界は、あらゆる分野と領域においてグローバル化(世界化)とローナリゼーション(地域化)が同時進行している。この講義では、「東アジア共同体」構想の問題を追及する。東アジア共同体構想をめぐる視点と現状、そして実現への道筋などについて、多面的・総合的な研究、国際・国内の相互比較論的接近、そして地域と国際の結合(融合)という三つの学び方から探求する。 ちなみに、この講義を受講すれば、教員の専修免許(中学社会・高校公民・高校地理歴史)が取得可能である。						
評価方法	定期試験(80%)、提出物(20%)によって評価する。提出物は授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 (2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。						
自己学習	(1) 参加型授業のために、受講者は事前課題を調べた上で参加すべきである。授業は、この課題をめぐって討論式で行う。 (2) 予習(30時間)と復習(30時間)のために、トピック別の宿題とレポートを課す。						
オフィスワ-	水曜日4時限目(9304研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.中韓両国の視点と立場 3.東アジアの地域経済協力 4.日韓両国の視点と立場 5.東アジアにおける金融協力 6.日中両国の視点と立場 7.東アジア経済共同体とその構築 8.ASEANの視点と立場 9.華人ビジネスネットワーク 10.東アジアの華人経済と社会 11.日本のエレクトロニクス 12.日本のアジア戦略 13.東アジア共同体構築 14.越境移民の現状 15.越境移民の将来 16.定期試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李					
教科書 1	東アジア共同体の構築 著者:西口清勝・夏剛 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-04615-X C3331						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅶ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	岡崎 郁子					NO.			
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	台湾は長いあいだ外来政権に支配された歴史をもつ地域・社会である。民族・言語・社会形態を見ても実に多様性に富む。ここでは複雑に絡む台湾・中国・日本の歴史を読み解くことをテーマとしている。それによって東アジア全体、ひいては世界の未来を見据える視点を養うのが到達目標である。								
概要	国連に加盟していない一地域ということで、隣国でありながらあまり認識されてこなかった台湾を取り挙げる。台湾の自然環境・社会環境を含むあらゆる特色と個性を、講義を通じて概観する。この科目は専修免許に該当する(中学社会・高校公民)。								
評価方法	単位認定試験(60%)、授業姿勢(40%)による総合評価。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。								
自己学習	毎回授業時に予習(2時間)と復習(2時間)をするための課題を指示する。								
オフィスワ-	金曜日授業の前後								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 誰の歴史か? 3. 先史時代の台湾(上) 4. 先史時代の台湾(下) 5. 先住民(上) 6. 先住民(下) 7. オーストロネシア語族 8. 「美麗島」の出現 9. 漢人の故郷(上) 10. 漢人の故郷(下) 11. 漢人と先住民の関係(上) 12. 漢人と先住民の関係(下) 13. 移民開墾社会(上) 14. 移民開墾社会(下) 15. 日本統治時代 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎					
教科書 1	図説台湾の歴史(増補版) 著者:周婉窈 出版社:平凡社 ISBN:ISBN978-4-582-41109-6								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	産業社会論特殊講義Ⅲ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	姜 明求					NO.		
配当学科	社会学研究科(修士)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	到達目標は、単に教科書をマスターするのではなく、自分なりの問題意識を持つと共に産業・経営学の基本的な分析枠組みを理解することにある。また、日本の産業と経営学の基礎知識を身につけると共に、情報収集力、読解力の養成、コミュニケーション能力、それに基づいて日本の産業と日本企業の経営を分析できるようになることが目標である							
概要	講義の概要は、日本企業のグローバル化への奇跡、日本企業の生産システム、日本企業の経営戦略、日本企業の産業と組織、日本的経営などである。この授業は企業経営において必要とされる様々な知識、経営学と産業の基本的なことを学ぶことを目的とする。また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。この科目は専修免許修得のための選択科目である(中学校社会と高校公民)。							
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。							
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。							
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。							
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				1.オリエンテーション 2.現代企業の発生 3.マクドナルドとモスバーガー 4.新しい事業の創造 5.GEの企業革新 6.M&Aと外部資源の利用 7.ソニーのロコビア映画会社買収 8.東芝の選択経営 9.デジタル化への富士写真フィルムの対応 10.いかに国際化するか 11.日本的経営は何 12.日本の生産システム 13.トヨタの生産方式 14.松下電器産業の組織改革 15.全体のまとめ 16.単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜
教科書 1	ケースに学ぶ経営学 著者:東北大学経営学グループ 出版社:有斐閣ブックス							
教科書 2								
参考書 1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。							
参考書 2								

授業科目名	産業社会論特殊講義Ⅷ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	湧田 英明					NO.	
配当学科	社会学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本の経営という場合には特殊日本的な経営方式が存在するか否かという問題があるが、日本の会社が「実際に」どういう経営をしているかという即事的な認識という課題もまた存在する。これが本講義のテーマである。地理的、歴史的環境の検討、日本の経営に関する諸論を踏まえつつ、経営事例を取り上げて研究者としてどのように分析していくか、受講者とともに考えていこうと思う。方法論及び実態分析法を身につけることを目標とする。本講義は中高社会科専修免許を求める人に更なる専門的知見を提供することを念頭に置いている。						
概要	日本の経営論をレビューしつつ、如上の目標を達成するべく方法論的考察を行う。講義、場合によってはコロキウム方式による文献購読読論を取り入れる。事例研究は講義の進捗を見ながら適宜、資料を配布する。						
評価方法	課題レポート70%。諸文献の理解度、また、講義時に講師が発する質問への対応30%も評価の対象となる。課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	文献購読に際しては下読み及び下調べが必要となることは言うに及ばないことである。また、事例研究の資料についても同様である。討議の際の質問も、当該課題についての予習を前提にしてなされるものである。履修者の予習が講義内容を決定する側面もあるので各自、責任をもって参加してもらいたい。						
自己学習	事前に配布される資料、課題について予習復習は不可欠である。各2時間						
オフィスワ-	講義の前後 受講者には常時、連絡できるようにする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
①開講／オリエンテーション ②講義: 日本的経営論の系譜(1) (課題文献【1】配布) ③講義: 日本的経営論の系譜(2) (質疑応答) ⑤ 課題文献【1】講読 (事例【1】配布) ⑥事例【1】検討 ⑦評価 ⑧講義: 文化論とアプローチ(1)(課題文献【2】配布) ⑨課題文献【2】講読 (事例【2】配布) ⑩事例【2】検討 討論 ⑪評価 ⑫講義: 日本社会論と経営文化(課題文献【3】配布) ⑬課題文献【3】購読 (事例【3】配布) ⑭事例【3】検討 討論 ⑮ 課題 ⑯ 試験 事例の詳細は公にしない	講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習	湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明 湧田 英明					
教科書 1	奥田健二『人と経営 日本経営管理史研究』マネジメント社1985. 参考文献は適宜、紹介する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スポーツ社会学特殊講義Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	高藤 順					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	体育・スポーツの社会学的研究をテーマとして、スポーツを取り巻く社会との関連についての知識を身につける。そのためにも、スポーツの現状について理解するとともに、その研究成果の基礎的知識を理解する。加えて、スポーツ社会学に関する修士論文作成につながる能力が高めることができる。						
概要	体育・スポーツの現状と課題について、社会学的研究視点から考察する。スポーツ社会学などの先行研究を取り上げ、これまで議論されてきたことについて検討する。さらに、自分自身がスポーツに関わる現場においてマネジメントできる能力が身につくようグループディスカッションを主体とした方式による授業を行う。この科目は、日本女子サッカーリーグ所属クラブにおいて監督・運営責任者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツマネジメント現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	毎回の講義終了後の小レポート、議論への参加(40%)課題レポートおよび発表(60%)なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので最終試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「スポーツ」に関する文献を数多く精読すること。事前に課題を出し、それについて調べたことを元に、参加型の授業を行うので、予習が必須である。また、授業終了後には、その内容を復習し小レポートにまとめること。						
自己学習	初回授業より毎回資料を配布するので、その資料を精読し、自分の考察をまとめプレゼンテーションできるよう、2時間の予習をしておくこと。また、授業終了後は、修士論文につなげるよう毎回2時間復習すること。						
オフィスワ-	個人研究室(9号館4階)にて、水曜日4限に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.スポーツ社会学の必要性 2.スポーツの社会学的理解 3.スポーツの文化システム 4.スポーツの社会システム 5.スポーツと政治・経済 6.日本人のスポーツ観 7.日本的スポーツ集団の形成とその性格 8.日本的スポーツ組織の歴史的・社会的性格 9.生涯スポーツ・コミュニティスポーツ 10.日本のスポーツ政策 11.スポーツとコマースリズム 12.スポーツビジネスにおけるマネジメント(外部講師) 13.体育の社会的構造と機能 14.体育の学習指導過程 15.今後の体育・スポーツの社会学的課題 16.最終レポート・プレゼンテーション	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート・発表	高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤 高藤		
教科書 1	スポーツ社会学講義 著者:森川貞夫・佐伯聡夫 出版社:大修館書店 ISBN:978-4-469-26140-0						
教科書 2	スポーツ戦略論 著者:上田滋夢・堀野博幸・松山博明 出版社:大修館書店 ISBN:978-4-469-26825-6						
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	天岡 寛					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究論文の完成と研究課題の総括ー研究成果と課題ー</p> <p>到達目標:研究方法のルールに従い、論文をまとめあげることを通して、研究のオリジナリティと実証的な成果を明示することを目指す。論文作成にあたっては、各研究方法に基づく十分な検討を実施し、結論づけていく能力を向上させることが目標である。また、どのような研究も、探求においては困難さや課題点が伴うため、その研究の限界や、残された課題点についても議論を重ね、今後の研究活動の見通しを立てることができる。</p>						
概要	<p>受講学生の研究テーマに沿いながら、研究方法を検討し、その手法を学んでいく。また、研究テーマに即した領域の文献、先行研究の内容を理解しながら、着眼点を掘り下げ、議論していく。</p>						
評価方法	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢(調査手順の進め方)やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
自己学習	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと(各2時間程度)。</p>						
オフィスワ-	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 研究結果の検討と論文作成(1) 目的・方法・仮説		演習	天岡				
2. 研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論		演習	天岡				
3. 研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ		演習	天岡				
4. 論文内容の考察に関する質疑応答(1) 考察のための論述		演習	天岡				
5. 論文内容の考察に関する質疑応答(2) 考察からのオリジナリティの検討		演習	天岡				
6. 論文内容の考察に関する質疑応答(3) 研究の限界と課題点		演習	天岡				
7. 論文の記述内容の修正と質疑応答(1) 論文内容の修正		演習	天岡				
8. 論文の記述内容の修正と質疑応答(2) 引用、注記の修正		演習	天岡				
9. 論文の記述内容の修正と質疑応答(3) データ類の表記の修正		演習	天岡				
10. 報告・発表などの準備(1) 要旨作成		演習	天岡				
11. 報告・発表などの準備(2) パワーポイントの作成		演習	天岡				
12. 報告・発表などの準備(3) プレ発表		演習	天岡				
13. 報告・発表などの準備(4) ポイントの検討		演習	天岡				
14. 研究全体の内容の見直し・修正(1) 質疑応答内容の活用		演習	天岡				
15. 研究全体の内容の見直し・修正(2) 誤字等文章全体の修正		演習	天岡				
16. まとめ		演習	天岡				
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1	適宜指示する						
参考書 2							

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義V			履修期	2021年度 春学期		
担当者	竹内 研					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	『人間の身体性』というテーマに関して、社会における人間の有様、社会に対する認識、社会への働きかけ、社会との関係性などについて理解し、考察を行えるようになる。ともすれば社会の構成要素(員)の一部として存在するかのように捉えられがちな現代社会における人間の存在感について、その身体に立脚した主体的存在であるとの概念を確立できることを到達目標とする。						
概要	近年、様々分野で、人間の身体性に関する問い直しが行われている。一方、機械論的また心身二元論的な概念を基盤とする思考は、相も変わらず根強くかつ幅広く展開されている。しかるに、人間の様々な認識においても、精密科学の発展の成果も相まって、主体性ある人間の主観の重要性に社会の目が向き始めていることも事実である。現代社会において、人間の身体性に関わる文化としては最たるものである、スポーツ、武術、ボディーワークを材料として、社会的存在である人間の特性について考察し、人、社会、文化、教育などにおける認識の基盤を得る。						
評価方法	授業時に課すレポートで30%、最終レポートで70%にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回の授業の予習と復習は十分に行うこと。						
自己学習	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読を2時間、授業後にその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えること2時間を行うこと。						
オフィスワ-	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1オリエンテーション 2身体性に関する概説 3主体と客体 4主体性と環界としての社会 5間主体性と人間と社会 6身体運動文化における身体性 7厳密科学と人間学的運動学 8スポーツ科学の限界性 9記号現象としての身体運動文化 10人間の関係性と身体 11競技スポーツの社会的存在意義と身体性 12武術、ボディーワークの社会的存在意義と身体性 13身体知 14現代社会における身体知の育成 15まとめと総括 16最終レポート		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内				
教科書 1	ゆるめる身体学 出版社: 青山社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義VI				履修期	2021年度 秋学期			
担当者	竹内 研					NO.			
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次				
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	『社会というシステムの機能』をテーマとし、さらに変容・発展していくためには、言うまでもなく人材の育成が重要である。育成される人材は当然のことながら、社会性を備えた人材でなくてはならず、また育成は社会においてなされるものである。本講義では、社会とのかかわり、人間対人間の関係性の中で執り行われる、人間の成長とその育成に関する、方法的原理を理解することを到達目標とする。								
概要	現代社会に生きる人々の育成において、身体運動文化であるスポーツや武術が多くの人々に対して、その場となっているのは、多言を要しない。加えて、これらの場における育成方法には、古今東西の文化的特性を踏まえて、実に様々な方法論や原則論が存在する。言い換えればそれは、その時その場での社会規範や思想を反映している。また、高度情報化社会、多様な価値観の時代、超高齢化社会そしてグローバル化などによって、従来の教育学的・心理学的原則にのっとりた方法論のみでは過不足が生じる。本講義では、人間同士及び人間と社会の関係性を基軸とする、新たな原則論にのっとりた、人材の教育・育成に関する方法論を展開する。								
評価方法	授業時に課すレポートで30%、最終レポートで70%にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	毎回の授業の予習と復習は十分に行うこと。								
自己学習	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索・抄読を2時間、授業後はその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えることを2時間行うこと。								
オフィスワ-	金曜日3限 個人研究室(6339)にて								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1オリエンテーション 2ゲシュタルト 3ホメオスタシスと認知的不協和 4情報空間とセルフイメージ 5RASとスコトマ 6セルフエフィカシー 7コレクティブ・セルフエフィカシー 8ソシオメトリック構造 9ラポール 10ソーシャルサポート 11ゴールの設定とステータスクオ 12コンフォートゾーン 13情動記憶 14創造的無意識 15まとめと総括 16最終レポート			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 最終レポート	竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内					
教科書 1	コンフォートゾーンの作り方 出版社:フォレスト出版								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅶ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	山口 英峰					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	本講義のテーマは「健康と社会」である。健康の社会的な意義を理解し、健康と現代社会の理想的なあり方について考える。私たちの健康や生活をとりまくさまざまな社会状況を理解することで、社会と健康との関わりについて理解を深めることができる。将来にわたる健康に対する考え方を学び、様々な視点から健康についての問題を提議し、実態や諸課題を整理することを到達目標とする。							
概要	健康についての正しい知識に加え、健康に対する考え方について学ぶ。それらをふまえた上で、現代社会における健康や病気の社会的要因について把握する。特に、現代社の生活に着目し、健康に関わる諸要因との関連性について講義を進めていく。							
評価方法	レポート(70%)、討議への参加(30%)から総合的に評価する。なお、評価のために実施したレポート課題等については講義内でフィードバックする。							
履修条件・注意事項	主体的な取り組みが必須である。教員はそれを最大限にサポートする。本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。							
自己学習	本講義は予習復習が2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので次回の授業時に発表すること。							
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
01. オリエンテーション		講義	山口					
02. 健康のとらえ方		講義	山口					
03. 現代社会と健康観		講義	山口					
04. 現代社会と疾病		講義	山口					
05. 現代社会の生活と健康(1)労働		講義	山口					
06. 現代社会の生活と健康(2)休養と心		講義	山口					
07. 現代社会の生活と健康(3)ストレス		講義	山口					
08. 現代社会の生活と健康(4)喫煙		講義	山口					
09. 現代社会の生活と健康(5)飲酒		講義	山口					
10. 現代社会の生活と健康(6)睡眠		講義	山口					
11. 現代社会の生活と健康(7)食生活		講義	山口					
12. 現代社会の生活と健康(8)生活リズム		講義	山口					
13. 現代社会の生活と健康(8)運動不足		講義	山口					
14. 現代社会における生き方		講義	山口					
15. 総括		講義	山口					
教科書 1	中高年の運動実践ハンドブック 出版社:昭和堂 ISBN:978-4-8122-0749-9							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅷ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高原 皓全					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	社会と健康との関係性について理解し、健康と社会の理想的なあり方について様々な視点から考える。学生は、社会や環境に対して健康的によりよく変えていくための視点、考え方を身につけることができる。健康に関連していることを多角的に学ぶ。様々な視点から健康に関わる諸問題を提議し、実態や諸課題を整理することを到達目標とする。							
概要	人の健康について、生活の場である地域社会、労働、家族等の関連において理解したうえで、健康に生きるための方策を様々な視点から探求する。学生は健康に関する制度政策についても理解することができる。							
評価方法	講義中のレポート(70%)、討議への参加(30%)から総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。							
履修条件・注意事項	主体的な取り組みが必須である。教員はそれを最大限にサポートする。							
自己学習	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。							
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			01. オリエンテーション 02. 健康とは 03. 健康づくり施策 04. ヘルスプロモーションのあり方 05. 健康と疾病 06. 健康と社会のかかわり 07. 健康と福祉のかかわり 08. 健康と高齢社会 09. 高齢者の社会保障 10. 介護保険と介護予防 11. 健康と労働 12. 健康と家族 13. 健康と地域社会 14. 健康支援システム 15. 総括				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原 高原
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)							
教科書 2								
参考書 1	適宜指示する							
参考書 2								

授業科目名	文献研究 I			履修期	2021年度 春学期			
担当者	姜 明求					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	「経営学の基本的な分析枠組みの理解」がテーマである。到達目標は、単に教科書をマスターするのではなく、文献の読解やディスカッションなどを通し経営学的なものの見方や考え方、自分なりの問題意識を持つと共に経営学の理論、経営学の基本的な分析枠組みを理解することにある。また、経営学の基礎知識を身につけると共に、読解力の養成、コミュニケーション能力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。							
概要	講義の概要は、企業のマネジメントとはなにか、戦略とは何か、競争のための差別化、競争優位とビジネスシステム、企業構造の再編成、国際化の戦略、組織構造、などである。この授業は経営学の基本的な理念を理解すると共に、経営学が研究してきた多様なアプローチやものの見方を学ぶことを目的とする。また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。また、テキストは変更可能である。							
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。							
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。							
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。							
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.企業のマネジメントとは 3.戦略とはなにか 4.競争のための差別化 5.競争優位とビジネスシステム 6.多角化と事業ポートフォリオ 7.企業構造の再編成 8.国際化の戦略 9.資本構造のマネジメント 10.雇用構造のマネジメント 11.組織と個人ね経営の働き 12.組織構造 13.インセンティブシステム 14.インセンティブシステム 15.総合復習 16.単位認定試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜					
教科書 1	ゼミナール経営学入門 第3版 著者:伊丹敬之・加護野忠勇 出版社:日本経済新聞社							
教科書 2								
参考書 1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。							
参考書 2								

授業科目名	文献研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	姜 明求					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「経営学の分析枠組みの理解」がテーマである。到達目標は、単に教科書をマスターするのではなく、文献の読解やディスカッションなどを通し経営学的なものの見方や考え方、自分なりの問題意識を持つと共に経営学の理論、経営学の基本的な分析枠組みを理解することにある。また、経営学の基礎知識を身につけると共に、読解力の養成、コミュニケーション能力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。						
概要	講義の概要は、計画とコントロール、経営理念と組織文化、リーダーシップ、ケースの研究、人の配置・育成・選抜、企業成長のパラトックス、場のマネジメント、コーポレートガバナンス、などである。この授業は経営学の基本的な理念を理解すると共に、経営学が研究してきた多様なアプローチやものの見方を学ぶことを目的とする。また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。テキストは変更可能である。						
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.計画とコントロール、プロセス システム 3.経営理念と組織文化 4.リーダーシップ 5.ケースの研究 6.ケースの研究 7.人の配置、育成、選抜 8.矛盾、学習、心理的エネルギーのダイナミクス 9.パラタイム転換のマネジメント 10.企業成長のパラトックス 11.ケースの研究 12.場のマネジメント 13.企業という生き物、経営者の役割 14.コーポレートガバナンス 15.全体のまとめ 16.単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜		
教科書 1	ゼミナール経営学入門 第3版 著者:伊丹敬之・加護野忠勇 出版社:日本経済新聞社						
教科書 2							
参考書 1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。						
参考書 2							

授業科目名	文献研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	岡崎 郁子					NO.			
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	<p>中国という国家を、世界の歴史から捉え直すための文献を教材として選び、現代中国の立ち位置を理解・研究することがテーマである。</p> <p>以上から到達目標は、文革から天安門事件、チベット、台湾、琉球というこれまであまり取り上げられてこなかった事例を、文献を通して読み進めることによって、東南アジア諸国および世界における中国という国家の全体像が理解できるようになる。</p>								
概要	<p>1960年代の東南アジア諸国は、民族解放運動の活発化・植民地主義の終焉を迎えていたが、中国は社会主義国家の変質に対して深く憂慮していた時期である。そこから文革が起こり、大規模な政治的迫害をもたらすことになった。その後、米ソの冷戦を経て、世界では民族－国家を超えようという潮流が生まれるが、中国はチベット、台湾、琉球の民族主義と政治的主体性との関係をどのように捉え、いまに至っているのかについて考えていく。</p>								
評価方法	<p>単位認定試験(60%)、授業姿勢(40%)による総合評価。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。</p>								
履修条件・注意事項	<p>予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。</p>								
自己学習	<p>毎回授業時に予習(2時間)と復習(2時間)をするための課題を指示する。</p>								
ワイルド-	水曜日授業の前後								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国における1960年代 2. 脱政治化をめぐって 3. 60年代の社会運動 4. 60年代の社会組織 5. 国体制の危機 6. 政治と党 7. 政治イデオロギー 8. 琉球の戦争記憶 9. 琉球アイデンティティ 10. 冷戦との関係 11. 国際規則の巨大な変化 12. 帝国主義国際法 13. 民族解放運動と国際関係 14. カイロ会議と中国 15. 中国と琉球 16. 単位認定試験 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎					
教科書 1	<p>世界史のなかの中国 著者:汪暉 出版社:青土社 ISBN:ISBN978-4-7917-6586-7</p>								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	文献研究IV			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	岡崎 郁子					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>中国という国家を、世界の歴史から捉え直すための文献を教材として選び、現代中国の立ち位置を理解・研究することがテーマである。</p> <p>以上から到達目標は、文革から天安門事件、チベット、台湾、琉球というこれまであまり取り上げられてこなかった事例を、文献を通して読み進めることによって、東南アジア諸国および世界における中国という国家の全体像が理解できるようになる。</p>						
概要	<p>1960年代の東南アジア諸国は、民族解放運動の活発化・植民地主義の終焉を迎えていたが、中国は社会主義国家の変質に対して深く憂慮していた時期である、そこから文革が起こり、大規模な政治的迫害をもたらすことになった。その後、米ソの冷戦を経て、世界では民族一国家を超えようという潮流が生まれるが、中国はチベット、台湾、琉球の民族主義と政治的主体性との関係をどのように捉え、いまに至っているのかについて考えていく。</p>						
評価方法	<p>単位認定試験(60%)、授業姿勢(40%)による総合評価。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。</p>						
自己学習	<p>毎回授業時に予習(2時間)と復習(2時間)をするための課題を指示する。</p>						
オフィスワ-	<p>水曜日授業の前後</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 琉球の曖昧性 2. 琉球の政治的選択 3. 東西間のチベット問題 4. オリエンタリズムの幻影 5. 植民地主義とナショナリズム 6. 民族区域自治 7. 多元一体 8. ポスト革命 9. 宗教社会 10. 市場拡張 11. 社会流動 12. 多民族社会 13. 台湾のアイデンティティ 14. 台湾の自治 15. 台湾と中国 16. 単位認定試験 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎
教科書 1	<p>世界史のなかの中国 著者:汪暉 出版社:青土社 ISBN:ISBN978-4-7917-6586-7</p>						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ 本年度は「大学と教養教育」をテーマとする。アメリカでは大学(学部)は教養教育(リベラルアーツ)に特化し、専門教育は大学院で始まるが、日本では重視されていない。教養はなぜ必要なのかについて考える。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p> <p>到達目標 この講義によって学生は人間にとって教養とは何か？自分が生きている意味、世界、歴史の重要性を理解できるようになる。また文献購読とディベートにより論理的思考ができるようになる。</p>						
概要	偉大な古典を読むと、著者たちが社会科学のみならず人文科学、哲学、自然科学にも習熟していたことが分かる。我が国の文部科学省は大学の教養課程を廃止してしまったが、これが現代日本の大学迷走に関する一つの原因である。ビジネスの分野で成功の鍵を握るのは教養教育によって鍛えられた思考力、コミュニケーション能力である。演習では教養について考えながら、同時に論理的思考、批判的思考、分析的思考、創造的思考を鍛えてゆく。						
評価方法	試験(100%)によって評価する。提出した課題は評価して返却するので復習すること。						
履修条件・注意事項	欠席する場合には必ず連絡するように。						
自己学習	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。提出した課題は評価して返却するので必ず復習すること。						
オフィス-	火曜4限(13:10~16:40)に研究室(9309)にて実施する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.教養主義が輝いたとき 2.エリート文化学生のうねり 3.50年代キャンパス文化 4.「教養」という言葉の起源 5.「教養」の定義 6.「教養」と「修養」 7.日本における教養主義の成立 8.学歴エリートの教養主義 9.教養主義の没落 10.ハバーマスによる教養の定義 11.現代日本の教養 12.アメリカの大学の教養教育 13.日本の大学の教養教育の破壊 14.教養主義の破壊とその余波 15.まとめ 16.定期試験		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂				
教科書 1	教養主義の没落 著者： 竹内 洋 出版社： 中公新書 ISBN： 978-412-1017048						
教科書 2	大学と教養教育 著者： 吉田 文 出版社： 岩波書店 ISBN： 978-4000258791						
参考書 1	これが教養だ 著者： 清水真木 出版社： 新潮新書 ISBN： 978-4106103612						
参考書 2	日本型教養の運命 著者： 筒井清忠 出版社： 岩波現代文庫 ISBN： 978-4006002312						

授業科目名	社会学研究演習 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	天岡 寛					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究計画の検討と研究手法の学びー研究活動のための基礎的学びー</p> <p>到達目標:受講学生の掲げている計画内容について、目的を明確化するとともに、そのテーマをめぐる一般的な知識、実態や諸課題を整理する。また、研究テーマに沿って、効果的な具体的研究方法を定め、分析を実施し研究を進展させていける力を備えることができる(受講学生は指導教員と十分に相談し、研究アプローチ、手法や研究内容も決定させていく)。</p>						
概要	<p>研究計画に基づき、研究枠組みを検討し合い、研究目的の明確化をしていく。さまざまな研究方法について、内容の把握を行ないながら、研究計画で予定している方法が望ましいかどうか、再度検討を重ねる。研究テーマに沿いながら、関係領域の基本的な文献、また先行研究から学びながら研究テーマに関する内容の理解を深め、着眼点を掘り下げられるように議論していく。研究仮説の言語化とともに、大まかな研究スケジュールを考案できるように取り組むことができる。</p>						
評価方法	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性がかなめである。文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
自己学習	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと(各2時間程度)。</p>						
オフィスワ-	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 研究計画内容の検討(1)計画概要について		演習	天岡				
2. 研究計画内容の検討(2)テーマをめぐる問題		演習	天岡				
3. 関係する文献からの検討(1)先行研究検索から		演習	天岡				
4. 関係する文献からの検討(2)先行研究の概要		演習	天岡				
5. 関係する文献からの検討(3)先行研究を基盤にした質疑応答		演習	天岡				
6. 関係する文献からの検討(4)先行研究からの方法の検討		演習	天岡				
7. 研究方法について(1)質的方法		演習	天岡				
8. 研究方法について(2)量的方法		演習	天岡				
9. 研究方法について(3)調査計画の検討		演習	天岡				
10. 研究方法について(4)具体的調査方法の検討		演習	天岡				
11. 報告・発表などの準備(1)研究概要の修正		演習	天岡				
12. 報告・発表などの準備(2)要旨等の作成		演習	天岡				
13. 調査内容、研究仮説の検討		演習	天岡				
14. 研究スケジュール、調査準備作業		演習	天岡				
15. まとめ		演習	天岡				
16. 単位認定試験		演習 試験	天岡 天岡				
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1	適宜指示する						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	高橋 正巳					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマは「論文執筆に向けた準備作業の考察」。この時期は修士論文の執筆に向けた最初の準備時期でもあるので、ここでのテーマは「学生の研究テーマ」を決定すること、そしてその後に論文執筆に向けた作業や手順を確認することである。そこで学生は、テーマの選択→修論執筆のスケジュール→文献資料収集(実験、実地調査、アンケート調査など)→先行研究の調査→独創的考えの吟味→議論の骨組み・素案(構想力)→発表・議論→推敲・執筆→見直し・調整の順に、議論や論理の正当性の検証、客観的な視点、あるいは反対意見への洞察など、いわゆる調査技術、分析力、整理力、構想力、論理力、表現力など、入門的な知識や考え方を身に付けることを到達目標とする。また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
概要	<p>日本人学生にしろ留学生にしろ、まず、自分の経験や思考、あるいはアイデアを他者に向けて「なるほど」と思わせる、そんな説得ができる必要がある。たとえ学生がどんなに面白い経験や思考、あるいはすばらしいアイデアを持っていても、その内容を簡潔に整理し伝えることができなければ意味をなさない。ただ、それができるには、それ以前に、文章を読みその要点を把握しておくことが必要となる。そして、それを表現するには、自分の関心や主張、あるいは問題意識を、一つのテーマに絞り込み論理的に伝えることが大切となる。このテーマを見出すために、これまでの関心の幅を広げ、その水準を一層高める作業が欠かせない。この意味で、テーマの選択をしっかりと吟味しなければならない。そこで、ここでは、文献資料の収集、実験観察や参与観察などの社会調査を必要とするかどうか、あるいは先行研究ではどんな人がどんな内容を展開しているかなど、論文執筆に向けた準備作業を一緒に話し合うことになる。</p>						
評価方法	<p>自分の研究テーマに合わせてながら、相談や報告、あるいは連絡をしっかりとすること。もちろん演習に参加しながら自分の関心を中心に、文献資料を整理したレジュメでもって発表することが欠かせない。評価のために課した小テスト等はフィードバックするので、試験までに復習すること。講義への参加状況を40点、読書レポート(レジュメ)および報告を60点として、これを総合的に評価する。</p>						
履修条件・注意事項	<p>自分の研究テーマに則して議論するためにも、文献資料を収集しそれを理解するために、どの学生も日本語で書かれた専門用語をマスターする必要がある。それには、まず予習・復習を徹底すること。また、留学生は日本語能力検定試験N1の取得で安心するのではなく、さらに日本語を勉強してレベルを高めること。そして、いずれの学生も、一般教養や時事問題を大切にすると同時に、自分の研究に向けた専門書を熟読し、その内容を整理して発表することが欠かせない。</p>						
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、応答や質疑が可能のように、書籍や資料に目を通してノートに整理しておくこと。また、新聞やテレビのニュースを読んだり聞いたりしてまとめること。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後は復習2時間をやること。</p>						
オフィスワ-	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(自己紹介) 研究テーマについて 研究テーマの書籍・資料の探索 資料の収集とその内容を発表 文献資料と先行研究の整理 現実の社会経済の眺め方 現実社会経済の観察の仕方 参与観察の必要性和重要生 自己の研究テーマの明確化 図式や表の作成 図式や表とプレゼンテーション 独自見解と研究との整合性 プレゼンテーションとは 修論構想(章立て)と準備発表 修論構想の発表と質疑応答 	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	竹内 研					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	『研究に於ける仮説検証』をテーマとし、調査(心理テストなども含めて)を計画・立案することができるようになる。さらに、調査票の作成や標本抽出に関して理解することができる。実際に調査を実施して、基本的な統計分析が行えるようになる。さらに、諸種の仮説検定について理解することができ、実際に仮説検定を用いて、検証を行うことができるようになる。これらの過程を通じて、調査研究の流れを理解することを到達目標とする。						
概要	集団を対象にした研究や、スポーツの指導の効果性などについて研究する場合、調査研究(心理テストなども含めて)は広く用いられる方法である。従って、本演習では、調査の実際の基本を学修する。まず、調査研究の標本について理解する。そして調査研究の種類とその特徴について学ぶ。調査用紙の作成方法を理解したうえで、標本を設定して、調査用紙を作成し、実際に調査を実施する。そして、収集した標本データについて、記述統計による分析を行ったうえで、仮説検定を行う。この過程において、仮説の検証のための統計手法について、実際に学修する。						
評価方法	調査研究の基本に対する理解(20%)、調査対象の設定と調査票の作成(20%)、統計分析の理解と実施(20%)、研究レポートの作成(40%)にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	授業時に指導した内容に基づき、毎回次回の授業時まで、調査を実施していくための立案や作成を行わなくてはならない。この行程を経ながら、調査を実際に実施していく。						
自己学習	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読することを2時間、授業後にその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えることを2時間行う。						
オフィスワ-	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
(1)オリエンテーション (2)調査研究の概論 (3)縦断的調査と横断的調査 (4)振り返り調査と追跡調査 (5)コホート研究と介入研究 (6)母集団と標本集団 (7)調査票の構成 (8)SPSSの基本操作 (9)データのタイプと記述統計 (10)集団の分布 (11)集団特性値 (12)属性の検定 (13)平均値の差の検定 (14)分散分析 (15)調査レポートの作成 (16)試験		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内				
教科書 1	SPSS超入門 出版社:東京図書						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	山口 英峰					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究計画の検討と研究手法の学び—研究活動のための基礎的学びをテーマとする。受講生の掲げている計画内容について、目的を明確化するとともに、そのテーマをめぐる一般的な知識、実態や諸課題を整理することを到達目標とする。学生は、研究テーマに沿って、効果的な具体的研究方法を定め、分析を実施し研究を進展させていける力を備えることができる(受講生は指導教員と十分に相談し、研究アプローチ、手法や研究内容も決定させていく)。						
概要	研究計画に基づき、研究枠組みを検討し合い、研究目的の明確化をしていく。さまざまな研究方法について、内容の把握を行ないながら、研究計画で予定している方法が望ましいかどうか、再度検討を重ねる。研究テーマに沿いながら、関係領域の基本的な文献、また先行研究から学びながら研究テーマに関する内容の理解を深め、着眼点を掘り下げられるように議論していく。研究仮説の言語化とともに、大まかな研究スケジュールを考案できるように取り組む。						
評価方法	どのような研究でも、受講生の研究への主体性がかねめである。文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
自己学習	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
01. 研究計画内容の検討(1)計画概要について		演習	山口				
02. 研究計画内容の検討(2)テーマをめぐる問題		演習	山口				
03. 関係する文献からの検討(1)先行研究検索から		演習	山口				
04. 関係する文献からの検討(2)先行研究の概要		演習	山口				
05. 関係する文献からの検討(3)先行研究を基盤にした質疑応答		演習	山口				
06. 関係する文献からの検討(4)先行研究からの方法の検討		演習	山口				
07. 研究方法について(1)質的方法		演習	山口				
08. 研究方法について(2)量的方法		演習	山口				
09. 研究方法について(3)実験的手法		演習	山口				
10. 研究方法について(4)研究方法の検討		演習	山口				
11. 報告・発表などの準備(1)研究概要の修正		演習	山口				
12. 報告・発表などの準備(2)要旨等の作成		演習	山口				
13. 調査内容、研究仮説の検討		演習	山口				
14. 研究スケジュール、調査準備作業		演習	山口				
15. まとめ		演習	山口				
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1	適宜指示する						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	赤坂 真人					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ 社会学理論の基礎知識 どのような学問であれ、理論のない研究はありえない。科学とはさまざまな事象の中に法則を見出し、それらの理論命題を体系化してゆく作業である。</p> <p>到達目標 この講義では社会学研究において必要かつ不可欠な理論を学び、それらを応用できるようになることを目標とする。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p>							
概要	<p>研究演習Ⅱでは院生の研究テーマの確定作業と、テーマの関連文献の精査、行動文献の決定を行い。毎回、購読文献の報告および内容についての院生と指導教員との討論で進めてゆく。討論の対象となる文献を指導教員も読むことは言うまでもない。もし教員の研究内容と重なる場合、協同研究の形で演習を運営することもある。その場合、教員がすでに読んだ関連文献を教員が報告し、院生と討論する場合もある。</p>							
評価方法	試験(100%)によって評価する。課題や小論文は採点して返却するので必ず復習すること。							
履修条件・注意事項	研究の進捗状況によっては春休みも演習を続けることがある。							
自己学習	学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)に、研究室(9309)にて実施する。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1.研究テーマに関する再検討。 2.意味世界としての社会的世界 3.社会はいかにして可能か 4.社会秩序という問い 5.事実生徒規範性 6.社会的世界の規範性 7.ミクローマクロ生成論と挫折 8.自生的秩序論 9.階級と権力の意味的秩序 10.社会システムは存在するか 11.理解社会学という方法 12.現象学という名の経験主義 13.リベラリズムの挑戦 14.規範的社会理論の可能性 15.協働性の学としての社会学 16.定期試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂	
教科書 1	社会学とは何か 著者: 盛山和夫 出版社: ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4623059461							
教科書 2								
参考書 1	適宜 教員が作成したプリントやレジュメを配布する。							
参考書 2								

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	天岡 寛					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究活動の調査や文献研究の実施ー研究の進行方法の理解ー</p> <p>到達目標:研究テーマに沿って、研究活動を具体的に進めていくことを目標とする。研究テーマに沿った研究手法を習得のため、各方法に応じた具体的な作業手順を学び、受講学生各自が自らの研究活動(調査や、フィールドワーク等)に臨む。文献研究を主としなくても、関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方、引用方法や各種資料の活用方法等について具体的に学び、その技術を身につけることを目標とする。春期に作成した研究計画をさらに練りながら、所定の発表会での要旨作成や口頭発表の経験を積み重ねることができる。</p>							
概要	<p>指導をもとに、研究テーマに沿って、テーマの周辺の知識を把握し、基礎的な入力を進めながら考察も展開していく。調査活動においては、その作業手順や守るべき調査の原則の理解を深め、実践的な取組を進めていきながら、研究の進め方を体得する。関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方を実際の文献や資料に実際にあたりながら指導を受け、検討を活性化させていく。研究の進展に応じて、各種文献や情報、資料等の引用方法、活用方法を学び取っていく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、研究実績のある者が担当する。研究活動の経験から、研究活動の進め方や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、理解を深める。</p>							
評価方法	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢(調査手順の進め方)やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。</p>							
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究テーマを探り、積極的に読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。</p>							
自己学習	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと(各2時間程度)。</p>							
オフィスワ-	水曜日4時限目 9号館4階研究室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 研究テーマ周辺知識の整理と検討	演習	天岡						
2. 文献・資料の検討(1) 調査活動、考察に向けて	演習	天岡						
3. 文献・資料の検討(2) 論文形成の実践(引用等)	演習	天岡						
4. 研究内容についての議論(1) 基礎データの活用	演習	天岡						
5. 研究内容についての議論(2) 先行文献の活用	演習	天岡						
6. 研究内容についての議論(3) 論文の批評を通して	演習	天岡						
7. 研究内容についての議論(4) 先行研究と仮説	演習	天岡						
8. 調査の実施(1) プレテスト及び、実施手順	演習	天岡						
9. 調査の実施(2) 実施における留意点	演習	天岡						
10. 調査の実施(3) 実施の課題点の検討	演習	天岡						
11. 調査結果の分析(1) 分析の実施	演習	天岡						
12. 調査結果の分析(2) 結果の概要	演習	天岡						
13. 調査結果の分析(3) 仮説と結果から	演習	天岡						
14. 調査結果の分析(4) 結果から研究計画スケジュールの再検討	演習	天岡						
15. まとめ	演習	天岡						
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)							
教科書 2								
参考書 1	適宜指示する							
参考書 2								

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	姜 明求					NO.	
配当学科	社会学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「修士論文の完成と論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い修士論文の作成に取り組む。修士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
概要	指導教授の指導のもとに、暫定的に設定された研究論文のテーマについての研究を着手する。関連文献のリストにしたがって、重要な文献を読み進めて、研究レビューを試み、論文の構成や焦点のあて方などについて考える。その成果を、ゼミで発表して、批判と指導を受ける。それに基づいて、研究論文の方向を改めて調整する。この科目は専修免許修得のための必須科目である(中学校社会と高校公民・地理歴史)。						
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、試験(40%)、研究の進捗度(20%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。						
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を数多く購読すると。1年次における社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)、2年次における社会学研究演習Ⅲ・Ⅳ(各2単位)の合計8単位は必須である。大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 3.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 4.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 5.資料の収集とまとめ方の指導 6.資料の収集とまとめ方の指導 7.研究テーマに合わせた文献の紹介 8.研究テーマに合わせた文献の紹介 9.研究テーマに合わせた文献の紹介 10.文献発表と討論 11.文献発表と討論 12.研究テーマに合わせた文献の紹介 13.文献発表と討論 14.文献発表と討論 15.文献発表と討論 16.試験	講義 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜		
教科書 1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。						
教科書 2							
参考書 1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方 著者:新堀 聡 出版社:同文館						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	竹内 研					NO.	
配当学科	社会学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	『スポーツ・健康などの領域』をテーマとし、社会現象や集団現象に関する調査研究ではしばしば、対象集団の状況や、対象集団への働きかけの結果について検証する際、ある事象が生起する原因や因果関係について探求することが必要とされる。当然、客観性と普遍性を求めるために、統計的な手法が広く用いられる。記述的な統計手法による結果からでは見出すことができない、要因や関係などを明らかにするための統計的な方法について理解することを到達目標とする。						
概要	調査対象の標本から収集したデータの関連性を測り、そのうえでデータ間の関係を関数として記述し、それをもとに結果の予測を行う。さらに、多くの社会現象や集団に現れる現象は大半そうであるが、複雑な多要因間の関係性を有する。こうした分析が可能で、多変量解析を学ぶ。因果関係の分析のみならず、標本データの背後にある要因の分析方法、分類のための分析方法、カテゴリカルデータの多変量解析、などを実際にデータを分析しながら、学修学習する。また、因果関係を検証するための、ケースコントロール研究について理解して、実際の調査レポートを作成する。						
評価方法	回帰性の分析について(20%)、多変量解析に関する理解(40%)、ケースコントロール研究に対する理解(20%)、調査レポートの作成(20%)にて評価する。 評価のために実施したレポート等は、授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎時の授業時において指導された内容に基づき、サンプルデータに関して、指示された分析を行い、その結果を提出する。						
自己学習	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を2時間、授業後にその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えることを2時間を行うこと。						
オフィスワ-	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			(1)オリエンテーション (2)因果関係 (3)ケースコントロール研究 (4)相関分析 (5)回帰分析 (6)多変量解析の概要 (7)重相関係数 (8)重回帰分析 (9)因子分析 (10)主成分分析 (11)クラスター分析 (12)判別分析 (13)多次元尺度法 (14)数量化 (15)調査レポートの作成			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内
教科書 1	SPSSで学ぶ医療系データ解析 出版社:東京図書						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	山口 英峰					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究活動の調査や文献研究の実施(研究の進行方法の理解)をテーマとする。研究テーマに沿って、研究活動を具体的に進めていくことを到達目標とする。研究テーマに沿った研究手法を習得のため、各方法に応じた具体的な作業手順を学び、受講生各自が自らの研究活動(実験、調査やフィールドワーク等)に臨む。学生は、文献研究を主としなくても、関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方、引用方法や各種資料の活用方法等について具体的に学び、その技術を身につけることができる。春期に作成した研究計画をさらに練りながら、所定の発表会での要旨作成や口頭発表の経験を積み重ねていく。						
概要	指導をもとに、研究テーマに沿って、テーマの周辺の知識を把握し、基礎的な入力を進めながら考察も展開していく。調査活動においては、その作業手順や守るべき調査の原則の理解を深め、実践的な取組を進めていきながら、研究の進め方を体得する。実験においては、機材の使い方を理解し、実際に活用出来る能力を身につける。関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方を実際の文献や資料に実際にあたりながら指導を受け、検討を活発化させていく。研究の進展に応じて、各種文献や情報、資料等の引用方法、活用方法を学び取っていく。						
評価方法	どのような研究でも、受講生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢(調査手順の進め方)やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	研究は他の誰のためにもするものでもない。自らが探求的に研究テーマを探り、積極的に読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。						
自己学習	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスワ-	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスワ-の時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			01. 研究テーマ周辺知識の整理と検討 02. 文献・資料の検討(1) 調査活動、考察に向けて 03. 文献・資料の検討(2) 論文形成の実践(引用等) 04. 研究内容についての議論(1) 基礎データの活用 05. 研究内容についての議論(2) 先行文献の活用 06. 研究内容についての議論(3) 論文の批評を通して 07. 研究内容についての議論(4) 先行研究と仮説 08. 調査の実施(1) プレテスト及び、実施手順 09. 調査の実施(2) 実施における留意点 10. 調査の実施(3) 実施の課題点の検討 11. 調査結果の分析(1) 分析の実施 12. 調査結果の分析(2) 結果の概要 13. 調査結果の分析(3) 仮説と結果から 14. 調査結果の分析(4) 結果から研究計画スケジュールの再検討 15. まとめ				
教科書 1	研究テーマに応じてプリントを配布する						
教科書 2							
参考書 1	研究テーマに応じて指示する。						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ 本演習のテーマはいうまでもなく「修士論文の執筆」である。論文というものは一気呵成に書けるものではない。小さなテーマに分けて、少しずつ書いてゆき、最後にそれらを組み合わせるとして一本の論文とする。それが初心者の論文執筆スタイルである。</p> <p>到達目標 この演習では毎週、院生が書いた論文を読み上げ、それについて教員と一文一文吟味し、議論しながら修正してゆく。最終的に論文の全体が明らかになるところまで書きあげる。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p>						
概要	修士論文の執筆と内容の検討						
評価方法	試験(100%)によって評価する。試験結果は公表し、なぜそのような評価になったかを説明するので、納得がいけない場合は申し出ること。						
履修条件・注意事項	場合によっては夏季休暇中、春季休暇中もゼミを続ける。論文を執筆しつつ、同時に毎週1冊以上の読書を課す。修士論文と関連する部分を取り上げ、批判的検討を加える作業をする。演習中に指摘された修正箇所は次回までに必ず修正しておくようにすること。						
自己学習	毎回4時間以上かけて準備をすること。学期期間中、毎回2時間の予習と2時間の復習をすること。提出した課題は評価して返却するので必ず復習すること。						
オフィスアワー	火曜4限(15:10～16:40)に研究室(9309)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.研究テーマ確認 2.学生による情報収集リスト報告 3.学生による情報収集結果報告 4.学生による収集情報分析 5.情報のカテゴリー化 6.カテゴリーの名称化・関連づけ 7.カテゴリーの並べ替え・一本化 8.文章化・批判的検討 9.文章家・批判的検討 10.序論の検討(目的と意義) 11.第1章(先行研究)の検討 12.第2章(データ分析)の検討 13.第3章(分析と考察) 14.第4章(結論と考察) 15.今後の課題 16.定期試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂					
教科書 1	質的分析法 著者： 佐藤郁也 出版社： 新曜社 ISBN： 978-4788510915						
教科書 2	論文の書き方 著者： 戸田山 和久 出版社： NHK出版 ISBN： 978-4140911945						
参考書 1	適宜指示する。目安は半年で10冊を読破すること。						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	天岡 寛					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究調査の分析と整理ー研究成果の整理ー</p> <p>到達目標:研究の枠組みや仮説に則って進めてきた調査や文献研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の受講学生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけることができる。</p>						
概要	<p>研究が主として調査による場合は、その結果の検討から論文に反映できる内容の整理をし、また必要に応じて追跡調査の内容や実施を明確化していく。調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。実際には、調査の結果データをグラフや表の形態にまとめたり、文献からの検討や引用を自分なりの考察と絡めながら、言語化させて明記していく。この研究の取組の中で、関連するテーマは当然ながら、他の受講学生の研究にも関心を高め、論文作成のためのロジックの整合性の習得のため、発表や質疑応答の経験を積んでいく。</p>						
評価方法	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢(調査手順の進め方)やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにもするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
自己学習	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと(各2時間程度)。</p>						
オフィスワ-	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 調査結果分析から追跡調査等の検討	演習	天岡					
2. 研究計画内容、仮説の再検討	演習	天岡					
3. 関係する文献からの検討(1)調査結果と先行研究	演習	天岡					
4. 関係する文献からの検討(2)引用表現の工夫	演習	天岡					
5. 関係する文献からの検討(3)論点の議論	演習	天岡					
6. 関係する文献からの検討(4)引用文献の挿入	演習	天岡					
7. 調査結果の活用	演習	天岡					
8. データ処理方法について(1)質的研究	演習	天岡					
9. データ処理方法について(2)量的研究	演習	天岡					
10. 報告・発表の準備(1)パワーポイントの作成方法	演習	天岡					
11. 報告・発表の準備(2)論文構成の課題	演習	天岡					
12. 報告・発表の準備(3)要旨のまとめ方	演習	天岡					
13. 仮説と問いの組み方(1)	演習	天岡					
14. 考察と結論の検討	演習	天岡					
15. まとめ	演習	天岡					
16. 最終試験	試験	天岡					
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1	適宜指示する						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	姜 明求					NO.			
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	「修士論文の完成と論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い修士論文の作成に取り組む。修士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。								
概要	指導教授の指導のもとに、研究論文のテーマについての研究を進める。関連文献・統計資料などの集め方、読み方、まとめ方、とくに他の論文からの引用の仕方については、具体的に指導を受ける。その成果を大学院社会学研究科修士論文中間発表会(2年次生)において発表する。この科目は専修免許修得のための必須科目である(中学校社会と高校公民・地理歴史)。								
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、研究の進捗度・試験(60%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。								
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を数多く購読すること。大学院は少人数の授業であるので、常に問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、授業の理解度を高めるために復習すること。指導教授とよく連絡をとること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。1年次における社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)、2年次における社会学研究演習Ⅲ・Ⅳ(各2単位)の合計8単位は必須である。								
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。								
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション			講義	姜					
2.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告			演習	姜					
3.自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告			演習	姜					
4.自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告			演習	姜					
5.資料の収集とまとめ方の指導			演習	姜					
6.資料の収集とまとめ方の指導			演習	姜					
7.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告			演習	姜					
8.文献の発表と討論			演習	姜					
9.文献の発表と討論			演習	姜					
10.文献の発表と討論			演習	姜					
11.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告			演習	姜					
12.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告			演習	姜					
13.文献の発表と討論			演習	姜					
14.文献の発表と討論			演習	姜					
15.文献の発表と討論			演習	姜					
16.試験			試験	姜					
教科書 1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。								
教科書 2									
参考書 1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方 著者:新堀 聡 出版社:同文館								
参考書 2									

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマは「論文執筆に向けた資料収集と調査方法」 修士論文の具体的な執筆に向ける時期なので、ここでのテーマは、「学生の研究テーマ」の確認と同時に、いよいよ修論執筆のスケジュール→文献資料収集(実験、実地調査、アンケート調査など)→先行研究の調査→独創的考えの吟味→議論の骨組み・素案(構想力)→発表・議論→推敲・執筆の作業を、本格的に反復し着実に準備を進めることである。この作業を通して、修論の専門性、テーマや視点の独自性に一定水準以上のものが加わることになる。もちろん、実験観察や実地調査、あるいはアンケート調査が必要な場合においても、資料やデータを整理し分析する力を身に付けること、そして先行研究などに照らし合わせて解釈力や評価力を高めることを到達目標とする。また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>							
概要	<p>日本人学生にしる留学生にしる、自分の経験や思考、あるいはアイデアから選び出した研究テーマを、他者に向けて「なるほど」と思わせる文章に書き上げなければならない。それには、その内容を簡潔で論理的にまとめなければならない。この時、研究テーマを一つのテーマに絞り込み、焦点から脱線しないよう論じなければならない。そこで、ここでは、文献資料だけなのか、実験観察や実地調査が必要なのか、アンケート調査を実施するのか、あるいは先行研究にはどんな人がどんな内容の議論を展開しているのかなど、こうした準備作業を話し合いながら進めたい。</p>							
評価方法	<p>自分の研究テーマに合わせながら、相談や報告、あるいは連絡をしっかりとすること。もちろん演習に参加しながら自分の関心を中心に文献資料を整理したレジュメでもって発表することが欠かせない。評価のために課した小テスト等はフィードバックするので、試験までに復習すること。講義への参加状況を40点、読書レポート(レジュメ)および報告に60点として、これを総合的に評価する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>自分の研究テーマに則して議論するためにも、文献資料を収集しそれを理解するためにも、まずどの学生も日本語で書かれた専門用語をマスターする必要がある。それには、まず予習・復習を徹底すること。また、留学生は日本語能力検定試験N1の取得で安心するのではなく、日本語の勉強をしてレベルの向上を図ること。さらに、いずれの学生も、一般教養や時事問題を大切にすると同時に、自分の研究に向けた専門書を熟読し、その内容を整理し発表することが欠かせない。</p>							
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、応答や質疑が可能なように、書籍や資料に目を通してノートに整理しておくこと。また、新聞やテレビのニュースを読んだり聞いたりしておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>							
オフィスワ-	火曜日 昼休みと2時限目(1258研究室)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
1. オリエンテーション(反省と今後) 2. 研究テーマの文献と内容整理 3. 先行研究の探索 4. 研究テーマの文献資料と一覧 5. 研究テーマと先行研究とを発表 6. キー概念の再整理 7. キー概念の図式的な体系化 8. 修論の目次と論理的な展開 9. 修論構想に向けた準備発表 10. 修論に向けた図式や表の作成 11. 修論の論理展開の整理 12. 修論に向けた論文の書き方 13. 修論構想に則した文章化 14. 章立ての発表と質疑応答 15. 定期末試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋						
教科書 1	必要に応じて随時指定。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	竹内 研					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	『人間の思考・感情・行為、及び人間関係や対人行動』などをテーマとし、脳科学や認知科学などの学問分野の著しい進歩によって、その理論は大きく変化しつつある。これを基盤として、自身の行動変容や、他者への働きかけ(教育や指導など)の方法論は、新たに開発・展開を見せている。 これまでの教育システムや指導ノウハウのパラダイムは、大いなる転換の時期にさしかかっている。 解明されてきた人間の脳機能について、新しい理解を持つことができるようになる。そして、自分自身への働きかけ、さらに他者への働きかけの、具体的なメソッドを習得することを到達目標とする。						
概要	これまで、スポーツの領域ではメンタルトレーニングなどと称され、さらにはスポーツ領域を超えて、社会における諸種の領域にまでその応用が拡大してきた、教育プログラムの数々は、その理論的基盤は、行動主義などの既存の心理学的パラダイムである。ここに、脳科学や認知科学などの成果を導入した、新たなパラダイムを理解する。その理論枠組みごとに、実際に見られる人間の行動様式や、社会現象などを取り上げて、それらの説明を試みる。 さらに、自己変革および他者変革の実際の働きかけの技術を習得する。						
評価方法	理論枠組みの理解50%、働きかけの技術の取得50%、にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎時の授業において、文献が提示される。その文献を抄読してくる。さらに、働きかけの技術に関しては、授業後実践し、その報告を提出する。						
自己学習	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読すること。 授業時にその内容について報告し、授業後はその論文の概要を資料としてまとめること。 必ず予習復習を、それぞれ約2時間ずつ行うこと。						
オフィスワ-	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
(1)オリエンテーション (2)RASとスコトーマ (3)情動記憶 (4)自己イメージと過小評価 (5)コンフォートゾーン (6)パフォーマンスとコンフォートゾーン (7)情報空間の恒常性維持機能とセルフレギュレーション (8)セルフトーク (9)自己イメージとセルフトークコントロール (10)セルフエフィカシー (11)ゴールの設定 (12)創造的無意識 (13)ゴールのリアリティ (14)ビジュアライゼーションとアフアメーション (15)アフアメーションの実行	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内 竹内					
教科書 1	コンフォートゾーンの作り方 著者: 苔米地英人 出版社: フォレスト出版						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 修士論文完成のための調査研究 到達目標: それぞれのテーマで研究を進展させ、研究者として自立できる能力を修得する。 在学中に修士論文を完成させることをめざし、指導教授を中心にして、社会学研究演習1から4に至るステップが設定されている。 第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析して、必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを行う。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、社会調査の企画とデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導を受ける。研究課題が絞られていく過程において、場合によっては、研究の方向性を修正する必要も生じることがある。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。</p>						
概要	1年次で完成させた研究計画をもとに、先行研究の批判的読解を深める。 この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。						
評価方法	授業への参加状況(20%), 2回の中間レポート(40%), 最終試験(プレゼンテーションおよびレポート 40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究演習1から社会学研究4は必修である。予習・準備を確実に行ってから授業に参加し、授業後の復習によって理解を徹底させること。						
自己学習	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:30 Tuesdays (in classroom)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 授業の概要の説明 2. 先行研究とは 3. 先行研究の検索 4. 先行研究の読解 5. 先行研究への批判的視座 6. 先行研究についての論考 7. 中間まとめ 8. 研究情報の収集 9. 研究情報の検索 10. 研究情報のファイリング 11. 資料の読解 12. 資料の解釈 13. 資料の比較検討 14. 資料に基づく考察 15. 総括討論 16. 最終試験	exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?					
教科書 1	How to Write a Master's Thesis 著者: Bui, Yvonne N. 出版社: Sage Inc. ISBN: 978-1452203515						
教科書 2							
参考書 1	How to Write a Research Proposal and Thesis 著者: Hamid, Mohamed E. 出版社: Createspace Independent Publishing Platform ISBN: 978-1482675054						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	山口 英峰					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究論文の完成にむけた研究成果を精査することをテーマとする。研究の枠組みや仮説に則って進めてきた、実験データ、調査活動や文献研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を到達目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。学生は、その他の受講生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけることができる。						
概要	研究が主として調査による場合は、その結果の検討から論文に反映できる内容の整理をし、また必要に応じて追跡調査の内容や実施を明確化していく。調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。実際には、調査の結果データをグラフや表の形態にまとめたり、文献からの検討や引用を自分なりの考察と絡めながら、言語化させて明記していく。この研究の取組の中で、関連するテーマは当然ながら、他の受講生の研究にも関心を高め、論文作成のためのロジックの整合性の習得のため、発表や質疑応答の経験を積んでいく。						
評価方法	どのような研究でも、受講生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢(調査手順の進め方)やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。						
自己学習	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。						
オフィスワ-	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスワ-の時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
01. 実験・調査結果分析から追跡実験・調査等の検討	演習	山口					
02. 研究計画内容、仮説の再検討	演習	山口					
03. 関係する文献からの検討(1) 研究結果と先行研究	演習	山口					
04. 関係する文献からの検討(2) 引用表現の工夫	演習	山口					
05. 関係する文献からの検討(3) 論点の議論	演習	山口					
06. 関係する文献からの検討(4) 引用文献の挿入	演習	山口					
07. 実験結果、調査結果の活用	演習	山口					
08. データ処理方法について(1) 質的研究	演習	山口					
09. データ処理方法について(2) 量的研究	演習	山口					
10. 報告・発表の準備(1) パワーポイントの作成方法	演習	山口					
11. 報告・発表の準備(2) 論文構成の課題	演習	山口					
12. 報告・発表の準備(3) 要旨のまとめ方	演習	山口					
13. 仮説と問いの組み方(1)	演習	山口					
14. 考察と結論の検討	演習	山口					
15. まとめ	演習	山口					
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1	適宜指示する						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	李 分一					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>本研究の演習は、「東アジアの中の日本」というテーマの中で、グローバルとリージョナル、そしてナショナルな視点に立った総合的な研究を行う。</p> <p>この演習の到達目標は、日本と東アジアの過去と現在、そして将来の姿を総合的に理解させるところにある。今後の日本は、グローバル化とリージョナル化の狭間で、どれだけの範囲で、どの程度までに東アジアにかかわってゆくのか。こうした問題意識の下で、近年における日本と東アジアの関わりを様々な領域や分野からアプローチして行く。</p> <p>なお、院生の学位論文(「修士」)についても、きめ細かく指導しつつ、完成を目指すことになる。</p>						
概要	<p>指導教授および副指導教授の指導のもとに、学位論文(「修士」)の作成を進める上で必要な指導を行う。各自の研究領域を確実に確保し、論文テーマを設定する。それについての専門的な文献を読みこなせ、論文作成を始める。こうした一連の作業目標は、学位論文の完成にある。</p> <p>ちなみに、この演習を受講すれば、教員の専修免許(中学社会・高校公民・高校地理歴史)が取得可能になる。</p>						
評価方法	定義試験(60%)とレポート(40%)によって評価する。レポートは授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>(1) 各自のテーマに真面目に、丁寧に、しっかり取り込んでいくこと。</p> <p>(2) 演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(3) 口頭試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>						
自己学習	<p>(1) 参加型演習であるために、事前課題を調べた上で参加すべきである。</p> <p>(2) 予習(30時間)と復習(30時間)のために、トピック別の宿題とレポートを課す。</p>						
オフィスアワー	水曜日4時限目(9304研究室)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.グローバル化とアジアの現実 3.現代のグローバリゼーション 4.世界化とアジアの地域化 5.世界化と国際関係の変容 6.世界化の中の東アジア 7.東アジア安全保障共同体 8.東アジアの投資論 9.東アジアの貿易論 10.東アジアの階層化 11.世界化と日本 12.世界化と中国 13.世界化と韓国 14.世界化とASEAN 15.まとめ 16.口頭試験		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李 李				
教科書 1	1週間前に文献および資料は示す。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:修士論文執筆 本演習のテーマは「修士論文の執筆」である。論文というものは一気に書けるものではない。小さなテーマに分けて、少しずつ書いてゆき、最後にそれらを組み合わせるとして一本の論文とする。それが初心者の論文執筆スタイルである。</p> <p>到達目標 この演習では毎週、院生が書いた論文を吟味し、それについて教員と議論しながら文章を修正してゆく。修士論文を完成を目標とするが、できれば同時に研究成果を学術論文集に投稿するのが望ましい。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p>						
概要	ゼミ学生のテーマに合わせて毎回執筆した論文の検討と指導をする。						
評価方法	試験(100%)によって評価する。小テストや小論文は採点して返却するので必ず復習すること。						
履修条件・注意事項	特にないが、場合によって夏休み期間中もゼミを行うことがある。						
自己学習	演習に参加するための準備をしてこること。毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)に研究室(9039)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 修論テーマの再確認 2. 論文執筆モデルのプレゼン 3. 論文の検討: 序論・目的・意義 4. 論文の検討: 背景・方法 5. 論文の検討: データの妥当性 6. 論文の検討: データ分析 7. 論文の検討: 仮説検証 8. 論文の検討: 結果と考察 9. 中間報告プレゼン 10. 論文の検討: 論理的整合性 11. 論文の推敲: 形式・用語 12. 論文の推敲: 総合考察 14. 論文投稿の検討 15. 審査会プレゼンの準備 16. 定期試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂
教科書 1	これから論文を書く若者のために 著者: 酒井 聡樹 出版社: 共立出版 ISBN: 978-4320005716						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	天岡 寛					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究論文の完成と研究課題の総括ー研究成果と課題ー</p> <p>到達目標:研究方法のルールに従い、論文をまとめあげることを通して、研究のオリジナリティと実証的な成果を明示することを目指す。論文作成にあたっては、各研究方法に基づく十分な検討を実施し、結論づけていく能力を向上させることが目標である。また、どのような研究も、探求においては困難さや課題点が伴うため、その研究の限界や、残された課題点についても議論を重ね、今後の研究活動の見通しを立てることができる。</p>						
概要	<p>受講学生の研究テーマに沿いながら、研究方法を検討し、その手法を学んでいく。また、研究テーマに即した領域の文献、先行研究の内容を理解しながら、着眼点を掘り下げ、議論していく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、研究実績のある者が担当する。研究活動の経験から、研究活動の進め方や課題、それを解決するためのに必要とされる知識や能力について講義し、理解を深める。</p>						
評価方法	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢(調査手順の進め方)やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
自己学習	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと(各2時間程度)。</p>						
オフィスワ-	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 研究結果の検討と論文作成(1) 目的・方法・仮説	演習	天岡					
2. 研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論	演習	天岡					
3. 研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ	演習	天岡					
4. 論文内容の考察に関する質疑応答(1) 考察のための論述	演習	天岡					
5. 論文内容の考察に関する質疑応答(2) 考察からのオリジナリティの検討	演習	天岡					
6. 論文内容の考察に関する質疑応答(3) 研究の限界と課題点	演習	天岡					
7. 論文の記述内容の修正と質疑応答(1) 論文内容の修正	演習	天岡					
8. 論文の記述内容の修正と質疑応答(2) 引用、注記の修正	演習	天岡					
9. 論文の記述内容の修正と質疑応答(3) データ類の表記の修正	演習	天岡					
10. 報告・発表などの準備(1) 要旨作成	演習	天岡					
11. 報告・発表などの準備(2) パワーポイントの作成	演習	天岡					
12. 報告・発表などの準備(3) プレ発表	演習	天岡					
13. 報告・発表などの準備(4) ポイントの検討	演習	天岡					
14. 研究全体の内容の見直し・修正(1) 質疑応答内容の活用	演習	天岡					
15. 研究全体の内容の見直し・修正(2) 誤字等文章全体の修正	演習	天岡					
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1	適宜指示する						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマは「研究テーマに則した論の進め方」について。半期だけを残す時期だが、修士論文の執筆とその完成が到達目標である。この意味で、これまでと同じように考えているだけでは限界がある。ここで必要なのは、論文の文章が結論に向かって、徐々に論理的な筋道となっていなければならない。それには、これまでやってきた作業をチェックしながら、修論執筆のスケジュールを明確化することである。そして、修論は「他人に読んでもらう文章」であることを自覚し、自分で読んで自己満足するのではなく、自己の見解や論理にも批判力を養い身に付けること。これまで、修論執筆のスケジュール→文献資料収集(実験、実地調査、アンケート調査など)→先行研究の調査など、これらは段階的に終了させてはいるが、論文執筆に向けて図式化・図解化なども含めて、これらに修正を加えながらレベルアップを図ることである。それにはレジメを作成しながら整理し、それを発表しつつ修論として論理的な文章が執筆できれば到達目標の修了となる。また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
概要	<p>修論は、自分の研究テーマに沿った内容を簡潔で論理的にまとめなければならないのであるから、諸君の問題意識にあわせ、テーマに沿って論理的な展開をする文章となる必要がある。この意味で修論は、一般的に、①研究の動機(問題意識)や意義・重要性、②テーマに関する先行研究や歴史、③分析(仮説を立て検証するステップの連鎖、時間の進行や地域・領域などによる推敲)、④結論、⑤参考文献・注釈から順に構成される必要がある。また、文章でもって関心を明確化するので、「～と思われる」「～であろう」のような推測を含んだ表現を多用しないことが必要となる。そして、主張の根拠を明確に示すこと。接続詞や修辞表現も多用しないこと。また実験や調査から得た事実と、それに関する考察や評価を明確に区別しておくこと。文献からの引用は出典を明らかにし、またその記載は決められたルールに従うことなど、これらを徐々に身に付けながら、実際に文章化を一緒にやり合い話し合いながら演習を進める。</p>						
評価方法	<p>修士論文は修士論文審査会で合格することが、評価の第一の要件である。それには、修士論文が主査だけではなく副査を含めて、論理的に説得する論文となっていなければならない。評価のために課した小テスト等はフィードバックするので、試験までに復習すること。この作業の進め方や、仲間の発表を聞き質問をすることを、総合して修士論文の完成で評価する。</p>						
履修条件・注意事項	<p>自分の研究テーマの論文執筆であることから、とかく演習仲間の研究に関心を向けることが少なくなる可能性がある。だが、仲間の研究の進め方は、大いに参考になるし、仲間との質疑応答は自分の研究にとって大変に役立つ。また、自分の論文を整理するために、その内容を整理し発表することが必要である。学生は相談や話し合い、そしてレジメを作成しながらの演習となる。</p>						
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、応答や質疑が可能のように、書籍や資料に目を通してノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを見たりして、それらの中で関心のあるものをノートに整理すること。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>						
オフィスワ-	火曜日 昼休みと2時限目(1258研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(報告と今後) 2. 修論構想に向けた準備発表 3. 参考文献や資料の整理 4. 先行研究の比較検討 5. キー概念の整理 6. 中間報告と討議・討論 7. 章立てに基づく文章化の準備 8. 註および参考文献のチェック 9. 論文構想の反省と検討 10. 文章化と表現のチェック 11. ビジュアル化とプレゼン 12. 論理と表現と整合性 13. 準備発表と質疑応答 14. 文章調整 15. 審査会に向けた発表 16. 質疑応答 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 修士論文の執筆・推敲 到達目標: 修士論文を完成させる。 それぞれのテーマについて研究を深め、修士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、社会学研究演習1から4に至るステップが設定されている。第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析して、研究課題の焦点を絞っていく。必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを試みる。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、社会調査の企画とデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導を受ける。研究課題が絞られていく過程において、場合によっては、研究方向をやや転換させる必要が生まれるかもしれない。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。研究の成果は、年度内に作業論文としてまとめ、1月下旬に予定されている大学院社会学研究科発表会において報告し、コメントを得て論文の確定版を確定させる。</p>						
概要	<p>研究文献の精読、批判的読解の演習を中心とする。 この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
評価方法	<p>授業参加での積極性(20%), 中間レポート(40%), 最終試験(レポートとプレゼンテーション 40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>社会学研究演習1から4は必修である。事前の予習をふまえて授業に参加し、事後は必ず復習し理解を徹底させること。</p>						
自己学習	<p>毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。</p>						
オフィスアワー	<p>12:45-13:30 Tuesdays (classroom)</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 学術論文の検索 3. 学術論文の収集 4. 学術論文の読解 5. 学術論文の解釈 6. 学術論文についての論考 7. 中間まとめ(中間レポート) 8. 学術論文のレビュー執筆に向けて 9. 学術論文のレビューの目的 10. 学術論文の批判的読解 11. 学術論文の筆者の視点を理解する 12. 学術論文のレビューの意義 13. 学術論文のレビューの役割 14. 学術論文の論文執筆での活用 15. 全体総括 16. 最終試験 			<p>exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test</p>	<p>Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?</p>
教科書 1	<p>How to Write a Master's Thesis 著者: Bui, Yvonne E. 出版社: Sage Inc. ISBN: 978-1452203515</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and Researchers 著者: Hamid, Mohamed E. 出版社: Createspace Independent Publishing Platform ISBN: 978-1482675054</p>						
参考書 2							

社会学研究科
博士（後期）課程

授業科目名	比較社会学特殊研究 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ 本年度の比較社会学特殊講義においては社会学理論に関する講義を行う。大学院であるので原典を参照しながら講義する。この講義は社会学の歴史を学び、かつ理論家たちがどのような問題をどのような方法で解明しようとしたかについて学ぶ。</p> <p>到達目標 学生は社会学の基礎理論の概要を理解することができるようになる。また何が社会学の研究対象であり、それをどのように分析するかがわかるようになる。</p>						
概要	<p>まず社会学という言葉を作ったオーギュスト・コント、その師であったサン＝シモンの産業主義からはじめ、共産主義の始祖カール・マルクス、そして資本主義社会の到来を別の視点から分析した社会科学の巨人マックス・ウェーバー、彼とならぶ社会学の巨人エミール・デュルケム、ミクロ社会学の礎を築いたゲオルク・ジンメル。マルクス・ウェーバーを継承してイデオロギー問題を知識社会学の分野として確立したカール・マンハイム、社会学にシステム分析を導入し、社会システム論の先駆けとなったヴィルフレッド・パレートについて講義する。次にウェーバー・デュルケム、パレートを再解釈し行為理論を完成し、やがて社会システム理論を展開したタルコット・パーソンズとロバート・マートン、パーソンズを批判し、ジンメルやハーバート・ミードを継承して象徴的相互作用主義を確立したハーバート・ブルーマー、行為の主観的意味を巡ってパーソンズと論争した現象学的社会学の始祖アルフレッド・シュッツ、会話分析の手法に基づくエスノメソドロジーという理論を構築したハロルド・ガーフィンケルについて講義する。最後に現代社会学理論の中心であるブルデュー・バウマン・ギデンスについて言及する。</p>						
評価方法	試験(100%)によって評価する。課題や小論文は評価して返却するので必ず復習すること。						
履修条件・注意事項	かなり抽象的で難解な講義である。順番に梗概を作成し、発表してもらおうので担当者はテキストを読み、レジュメを作成すること。						
自己学習	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限(15:10～16:40)に研究室(9309)にて実施する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.サン＝シモン(産業主義) 2.コント(社会再構築のプラン) 3.カール・マルクス(唯物論) 4.ウェーバー(観念史観) 5.デュルケム(社会学主義) 6.ジンメル(社会化の形式) 7.パレート(社会システム理論) 8.パーソンズ(構造-機能主義) 9.キング・マートン(機能分析) 10.G.H・ミード(役割と自己) 11.ブルーマ(象徴的相互作用) 12.シュッツ(現象学的社会学) 13.ガーフィンケル(会話分析) 14.バウマン(液化化する社会) 15.ブルデューとギデンス 16.定期試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂				
教科書 1	現代の社会学者 著者： 富永健一 出版社： 講談社学術文庫 ISBN： 978-4061453793						
教科書 2							
参考書 1	社会学の歴史 著者： 奥井智之 出版社： 東京大学出版会 ISBN： 978-4130520232						
参考書 2							

授業科目名	比較社会学特殊研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期	
担当者	赤坂 真人				NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態 講義
テーマと到達目標	<p>テーマ すべての学問は問題から始まる。この講義では適切な問題を設定するために必要不可欠な社会学の理論的準拠枠組みを学習する。</p> <p>到達目標 これまで社会学理論の学習はマックス・ウェーバー、エミール・デュルケーム、カール・マルクスから始めるのが常であった。本講義ではこれらの古典的巨人にもふれるが、主にその後の展開、タルコット・パーソンズ/R.K.マートン(機能主義)、H.ブルーマー(象徴的相互作用主義)、K.マンハイム(知識社会学)、N.ルーマン(社会システム論)に焦点を定め教授する。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p>					
概要	<p>社会学は市民社会が成立してから始まった。社会が神の定めた因果律によって成り立っていると考えられている間は、社会学は存在しない。主権者である市民が構成する市民社会があって、その市民社会が独立変数となって従属変数である構成員の行動が決定されるというアイデアのもと社会学は成立する。この講義ではそれぞれの社会学の巨人がどのような因果関係を想定し、その検証に従事したかを解明してゆく。</p>					
評価方法	試験(100%)によって評価する。課題や小論文は採点して返却するので必ず復習すること。					
履修条件・注意事項	かなり抽象的な文献を読み、議論することになるので、十分予習すること。					
自己学習	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。					
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)に研究室(9309)にて実施する。					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
			1.社会学の理論と方法 2.カール・マルクス 3.絶対的貧窮化の理論 4.マックス・ウェーバー 5.唯物史観と観念史観 6.支配の三類型と民主主義の陥穽 7.デュルケームと社会的事実 8.社会の統合と道徳・アミー 9.カールマンハイムと知識社会学 10.イデオロギーの相対化 11.タルコット・パーソンズ 12.行為理論 13.R.K.マートン・中範囲の理論 14.象徴的相互作用主義 15.ルーマンと社会システム理論 16.定期試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂	
教科書 1	社会学の方法 著者: 佐藤俊樹 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061242					
教科書 2						
参考書 1	社会的行為の構造 著者: タルコット・パーソンズ 出版社: 木鐸社 ISBN: 絶版					
参考書 2						

授業科目名	地域社会論特殊研究 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:現代のサービス社会経済システム 最近あちこちで、なぜか「サービス」を多く見聞きするようになったのだろうか、その原因や理由を講義する予定である。たとえば、情報サービス、支援サービス、介護サービス、医療サービス、福祉サービスなど、現代では「サービス」という言葉が使われても、一般に疑問を感じる人は少なくなったようだ。だが、かつて「サービス」という言葉が使われるならば、パーマ屋や床屋、スナックや居酒屋、あるいは商品に値段がつかない「おまけ」のような商売に使われて、利益の幅が大きい自動車やテレビ・洗濯機のようなたくさんのお金が動く産業のイメージではなかったからである。しかし、現在、「サービス」は社会経済のトップに躍り出てきたので、ビジネス活動する人にとっては必須である。この講義では、社会経済システムにとって欠かせない「サービス」を理解し、それを考えて今後の社会経済を構想する人になることを到達目標とする。</p>						
概要	<p>もの(財)が売れない訳ではない。ただ、現代のように工場内にある機械でものを超スピードで生産する時代では、人々が必要としている以上に、たくさんをものをたちまち生産してしまう。それだけ急激にたくさんもの(財)が生産されるならば、そのもの(財)は一般には値段が安くなる。これをわれわれは大歓迎した。なるほど、多くの人はずそう考えるけれども、実際には必ずしもそうではない。もの(財)を生産して売っている会社から見れば、もの(財)を大量に売って利益を稼がなければならず、それができなければ社員に給料さえ支払えない。ところが、人間が他の人を世話したり、生活を助けてやったりする「サービス」は、お金を支払わないどころか、最近は何んども料金が高くなっている。これは現在の社会経済が「サービス」へと移行してきたことの証である。ここではそうした動向を産業革命期から取り上げ、今や世界が「サービス」を大切にす社会経済になってきたことを論じる。</p>						
評価方法	<p>講義への意見や態度に10点、読書レポート(レジュメ)および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。なお、評価のために課した小テスト等はフィードバックするので、試験までに復習すること。</p>						
履修条件・注意事項	<p>受講する学生と相談の上、文献などを決定するので、それを読んで整理しレポート(レジュメ)を作成して、これを講義内で報告し仲間と議論すること。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもある。</p>						
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>						
オフィス	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーリング 2. 「サービス」否定の産業革命 3. 現代の社会経済システム 4. デジタル情報の産業革命 5. 市場経済のグローバル化 6. 市場経済と国内経済 7. 工業経済と市場経済 8. 世界市場と国内の社会経済 9. 世界市場と非市場経済 10. 非市場経済と社会経済 11. 「価値サービス」と非市場経済 12. 非市場経済とサービス経済 13. 生きがいと日本的サービス 14. 企業文化とフィランソロピー 15. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域社会論特殊研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	3.0	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:現代の社会経済システムと地域文化。現代の社会経済システムの限界を把握し、それを超克するには国家においても地域においても文化の理解が欠かせないものとなる。というのは、「サービス価値」を生み出すのは人間そのものの活動が生み出すからである。そこで、「人間とはどんな存在か」の背後ともいえる文化を東アジア(日本や中国)などの文化やそのもっている思想から把握しようと思う。日本を含めた東アジアの伝統文化が判ることが目標の一つだからである。というのも、文化には「人が人として目ざすべきもの」が組み込まれており、それこそが社会経済システムを形成する源泉でもあるからで、ここではとりわけ東アジアにおける地域社会がもつ伝統文化が、社会経済にどう反映しているのか、これを理解することが到達目標となる。</p>						
概要	<p>「人が人として目ざすべきもの」は、西欧キリスト教世界で問題にされた「人格」と同じ概念が東アジアにも存在したのだろうか。一般に取り上げられ、大学の教壇で論じられるのも欧米の概念である。だが、東アジア地域では欧米の思想基盤としての「人格」はない。それ故、経済発展のしなかった東アジアは未開として扱われた。だが経済発展を始めた日本や中国などは、「人格」の代わりに西洋近代の「個人」を歓迎して受け入れたが、しかし、それは東アジア人たちの文化的精神の空白を招くことになった。だが、近年の世界的な経済的な混迷、自然環境の悪化などの問題は、あらためて国や地域がもつ文化価値の問題を浮上させている。現代の社会経済システムの再建も、文化的精神の空白からではなく、やはりしっかりした文化を把握することで、独自の「サービス」をつくることからである。とりわけ東アジアは西欧とはまったく違った考え方を基礎に社会経済の形成してきた歴史がある。そこで、ここではそうした東アジアの伝統的な文化的精神と社会経済とのつながりを講義する。</p>						
評価方法	<p>講義において質問に答えたり思索してもらったりする日常的な参加態度に10点、課題テーマの小論文である「持ち帰り試験」に60点、そして期末の単位認定試験に30点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は講義の最終日に実施するが、「持ち帰り試験」(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ、単位の認定はしないことがあるので要注意のこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>受講する学生と相談の上、文献などを決定するので、それを読んで整理しレポート(レジメ)を作成して、これを講義内で報告し仲間と議論すること。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもある。</p>						
自己学習	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>						
オフィスワ-	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産土の文化と社会経済 3. 東アジアの風水社会と文化 4. 道教の社会と文化 5. 五行思想の文化社会 6. 易経の人間と社会経済 7. 東アジアの精神文化 8. 東アジアの文化と社会経済 9. 儒教的人間と社会組織 10. わが国の儒教と社会組織 11. 仏教の衆生と社会 12. 日本における仏教文化 13. 仏教における文化と社会 14. 「身体」と「衆生」の社会経済 15. 衆生救済の社会経済システム 16. 単位認定試験 	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋		
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域社会論特殊研究Ⅲ			履修期	2021年度 春学期			
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ: 国際関係論の理論研究 International Relations 1 到達目標: 博士課程レベルでの研究に必要な国際関係論の理論を修得する。 This course aims to enhance the understanding on the current development of theories and methodologies in International Relations. It will be expected that these theoretical frameworks could be of help for the social scientific studies at the doctoral level.</p>							
概要	<p>This course aims to provide practical and academic advice for each student. By paying respect to the individual research interest of each student, various approaches to global issues will be discussed in relation to the most recent development of theoretical frameworks in studies of International Relations. 受講生との双方向の討論を通じ、受講生の研究テーマに合致したテキストを選定し、その研究テーマが国際社会の動向とどのように関連しているかを考察・分析する。 Based on the interactive discussions, the instructor shall prepare for the assignments (both readings and writing assignments) so that the students' research will be advanced. The research themes of the students will be discussed and analysed in relation to developments of international community.</p>							
評価方法	<p>participation in class activities (30%), mid-term reports (35%), and final presentation (35%). *The instructor will explain the details on preparation of reports and presentation in class. 評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。</p>							
履修条件・注意事項	<p>The instruction will be given in English. (この授業は英語で実施する) 受講に際しては、必ず授業内容についての予習・復習に取り組み、疑問点は教員に確認すること。</p>							
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>							
オフィスアワー	Tuesday 12:45-13:30 (classroom).							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. Introduction to this course		exercises	Mervi?					
2. Methodology and methods		exercises	Mervi?					
3. Debates on methodology		exercises	Mervi?					
4. Methodology in your research		exercises	Mervi?					
5. Approaches to methodology		exercises	Mervi?					
6. Hermeneutics		exercises	Mervi?					
7. Applying hermeneutics		exercises	Mervi?					
8. Developing hermeneutics		exercises	Mervi?					
9. Hermeneutics in IR research		exercises	Mervi?					
10. Cultural interpretation in IR		exercises	Mervi?					
11. Subjectivity and objectivity		exercises	Mervi?					
12. Textual interpretations		exercises	Mervi?					
13. Framework of research		exercises	Mervi?					
14. Research presentation		exercises	Mervi?					
15. Concluding discussion		exercises	Mervi?					
16. Final test		test	Mervi?					
教科書 1	<p>International Relations Theories: Discipline and Diversity 著者: Dunne, Tim et al. (eds) 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0198707561</p>							
教科書 2								
参考書 1	<p>International Relations 著者: Lawson, Stephanie (ed) 出版社: Polity ISBN: 978-1509508563</p>							
参考書 2								

授業科目名	地域社会論特殊研究IV			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	Theme: Advanced course on International Relations Course goal: This course aims to enhance the understanding on the current development of theories and methodologies in International Relations. It will be expected that these theoretical frameworks could be of help for the social scientific studies at the doctoral level.						
概要	This course aims to provide practical and academic advice for each student. By paying respect to the individual research interest of each student, various approaches to global issues will be discussed in relation to the most recent development of theoretical frameworks in studies of International Relations. Based on the interactive discussions with students, the instructor shall prepare for the assignments (both readings and writing assignments) so that the students' research will well be advanced. The research themes of the students will be discussed and analysed in relation to developments of international community.						
評価方法	participation in class activities (30%), mid-term reports (35%), and final presentaiion (35%). *The instructor will explain the details on preparation of reports and presentation in class. なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	The instruction will be given in English. (この授業は英語で実施する)受講に際しては、必ず授業内容についての予習・復習に取り組み、疑問点は教員に確認すること。						
自己学習	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:00 Tuesdays (classroom).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. Reflections on research 2. How to improve thesis work 3. Basic criteria of evaluation 4. Research methodology 5. Explaining and understanding 6. Hermeneutics 7. Mid-term discussion 8. Presentation of thesis work 9. Originality in your thesis work 10. References 11. Improving the thesis work 12. Presentation of individual work 13. Commenting on others work 14. Commenting on thesis work 15. Concluding discussion 16. Final test	exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?		
教科書 1	International Relations Theories: Discipline and Diversity 著者:Dunne, Tim et al. (eds) 出版社:Oxford University Press ISBN:978-0198707561						
教科書 2							
参考書 1	International Relations 著者:Lawson, Stephanie (ed) 出版社:Polity ISBN:978-1509508563						
参考書 2							

授業科目名	産業社会論特殊研究 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	姜 明求					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「テーマは日本の経営の理解」である。到達目標は、単に、教科書をマスターするのではなく、自分なりの問題意識を持つとともにマネジメントの基本的な分析枠組みを理解することである。また、マネジメント及び経営理論、思想の変遷を体系的に理解するとともに、読解力の養成、文章のまとめる能力、コミュニケーション能力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。						
概要	<p>本授業は、日本の経営に焦点をあて、考察するものである。1950年代、1960年代の日本の会社を研究し、その経営上の特徴をまとめた人がアベクルンである。日本の経営はアベクルンの「日本の経営」において終身雇用、年功序列などが日本企業の経営上の特徴として指摘されて以来、様々なアプローチから研究が行われてきた。</p> <p>欧米経済の不況の中、日本経済は世界経済の牽引車の役割を果たし、日本の経営を世界の多くの企業が手本とし、海外の研究者にも評価されるようになった。日本企業が成功を収めた1980年代は、日本の経営の注目が集まった時代であった。でもその後、バブル経済の崩壊以降、これまでのような日本の経営はそのまま持ち続けることが難しくなった。</p> <p>長引く不況の中で、多くの日本企業は業績不振に直面し、国際競争力を喪失した。世界に誇ってきた日本の経営の成功体験が色あせ、多くの日本企業に変化が求められたのである。日本企業の経営に関する研究内容に新たな視点からの分析が求められている。</p> <p>授業の概要は、50年後の日本の経営、再設計の10年、社会の高齢化、日本の経営、空前の嵐に見舞われた企業財務、研究開発という必須の課題などである。この授業では、日本の経営・変化の基本的な論点を学ぶ。</p> <p>また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。テキストは変更可能である。</p>						
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.50年後の日本の経営 3.再設計の10年 4.社会の高齢化 5.ケースの研究 6.日本の経営 7.ケースの研究 8.空前の嵐に見舞われた企業財務 9.研究開発という必須の課題 10.企業統治 11.ケースの研究 12.対日直接投資はほんとうに少ないのか 13.変化する国際環境 14.変化する国際環境 15.総合復習 16.単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜					
教科書 1	新・日本の経営 著者:セームス・C・アベクルン著 出版社:日本経済新聞社						
教科書 2							
参考書 1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。						
参考書 2							

授業科目名	産業社会論特殊研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	山口 英峰					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	本講義のテーマは「労働と環境」である。労働条件や環境の違いが仕事効率や安全面に及ぼす影響を提示することにより、労働環境の重要性を理解することができる。労働者の環境のあり方について、様々な視点から考え、労働環境をより良くするための幅広い視野、考え方を身につけることを到達目標とする。							
概要	労働環境が産業効率化に及ぼす影響は計り知れない。様々な労働環境の現状を把握し、労働環境をより良くするための知識や改善方法について学ぶ。							
評価方法	講義中のレポート(70%)、討議への参加(30%)から総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。							
履修条件・注意事項	すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。教員はそれを最大限にサポートする。提出物の期限は厳守すること。							
自己学習	本講義は予習復習が2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。							
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
01. オリエンテーション 02. 現代社会と労働環境 03. 労働環境と仕事効率 04. 労働と環境:労働と道具 05. 労働と環境:労働と衣服 06. 労働と環境:高齢化 07. 労働と環境:暑熱環境 08. 労働と環境:寒冷環境 09. 労働と環境:空気汚染 10. 労働と環境:夜間勤務 11. ジェットラグと環境適応 12. 概日リズムと環境適応 13. 週休と生活リズム 14. 職業病 15. 労働環境支援システム		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口					
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)							
教科書 2								
参考書 1	適宜指示する							
参考書 2								

授業科目名	産業社会論特殊研究IV				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	山口 英峰					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	本講義のテーマは「労働と健康」である。労働と健康との関係性について理解し、労働者における理想的な健康のあり方について様々な視点から考える。労働環境の改善が身体的および精神的な健康をもたらすことを理解することができる。労働者がより良く健康に働けるための環境づくりに対する幅広い視野をもち、改善方法を身につけることを到達目標とする。							
概要	労働環境が産業効率化に及ぼす影響は計り知れない。その前提として労働者の健康が確保されていることは必須である。労働環境の悪化は労働者の健康を損なう。労働者の健康の現状を把握し、労働者の健康の保持増進の方法について学ぶ。							
評価方法	講義中のレポート(70%)、討議への参加(30%)から総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。							
履修条件・注意事項	主体的な取り組みが必須である。教員はそれを最大限にサポートする。							
自己学習	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。							
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			01. オリエンテーション 02. 健康のとらえ方 03. 労働者の健康観 04. 労働と疾病 05. 労働者の疾病について 06. 労働と健康:身体的疲労 07. 労働と健康:精神的疲労 08. 労働と健康:ストレス 09. 労働と健康:休養(睡眠) 10. 労働と健康:運動不足 11. 労働と健康:食事 12. 労働と健康:生活リズム 13. 夜勤労働と概日リズム 14. 労働者の体力, 健康づくり 15. 労働者健康支援システム			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口 山口	
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)							
教科書 2								
参考書 1	適宜指示する							
参考書 2								

授業科目名	社会学研究指導 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ 新しい社会学の概念図式 社会学には物理学のようなマイクロからマクロまで説明できる一般理論が存在しない。かつてタルコット・パーソンズが行為理論をもって社会学の一般理論を構築しようとしたが、一時的な大論争を引き起こしたものの、20世紀後半には終息してしまった。J.H.ターナーが行為では相互行為を基本とする一般理論を構築しようとしたが、その後継者は現れなかった。トマス・フアラロが数学的発想を持って社会学の分析的な一般理論を構築しようとしたが呈示にはいたっていない。研究演習1では「社会学の一般分析的理論」の構築可能性を考える。</p> <p>到達目標 教理社会学者の発想に依拠しつつ「社会学の一般分析的理論」の構造を理解する。次に相互行為理論・社会情報学理論に依拠して社会学の「準拠枠組みまたは概念図式」の構築を試みる。これにより学生は社会学の理論構造が理解できるようになる。</p>						
概要	J.H.ターナーのA Theory of Social Interactionをテキストにして、相互行為を最小の構造的単位とする分析的理論を考える。同時に社会学の理論的フレームを再考し、社会学の理論とは何かについて考える。						
評価方法	試験(100%)によって評価する。課題や小論文はすべて採点して返却するので復習すること。						
履修条件・注意事項	特にないが社会学理論・理論社会学・社会学史・社会思想史などの知識がないと履修は難しい。						
自己学習	指定されたテキストは必ず読んでくること。毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限(15:10～16:40)に、研究室(9309)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Social Interaction. 2..Micro Dynamics. 3..Early Models of Motivation. 4..Contemporary Model . 5..Synthetic Model of Motivation. 6..Mead model of Interaction. 7..Schultz's Models of Interaction. 8. Models of Interaction. 9. Synthetic Models of Interaction. 10. Interpersonal Structure. 11. Models of Interpersonal Struc. 12. Models of Structuring. 13. Interaction of Micro Dynamics. 14.Speculation. 15.Terminal Examination.	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂					
教科書 1	A Theory of Social Interaction. 著者: J.H.Turner. 出版社: Stanford University Press. ISBN: 0-8047-14797						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	姜 明求					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い博士論文の作成に取り組む。博士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
概要	それぞれの専攻分野において研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、研究指導 I から研究指導 VI に至るステップが設定されている。 第1年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析し、研究課題の焦点を絞っていく。必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを試みる。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、研究のデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導する。研究課題の焦点が絞られていく過程において、場合によっては、研究方向をやや転換させる必要が生まれるかもしれない。						
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、試験(40%)・研究の進捗度(20%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 3.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 4.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 5.資料の収集とまとめ方の指導 6.資料の収集とまとめ方の指導 7.研究テーマに合わせた文献の紹介 8.研究テーマに合わせた文献の紹介 9.文献の発表と討論 10.文献の発表と討論 11.文献の発表と討論 12.研究テーマに合わせた文献の紹介 13.文献の発表と討論 14.文献の発表と討論 15.総合学習 16 試験	演習	姜					
教科書 1	研究テーマに応じて、講義時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。						
教科書 2							
参考書 1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方 著者:新堀 聡 出版社:同文館						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	赤坂 真人					NO.		
配当学科	社会学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:新しい社会学の概念図式 社会学には物理学のようなミクロからマクロまで説明できる一般理論が存在しない。かつてタルコット・パーソンズが行為理論をもって社会学の一般理論を構築しようとしたが20世紀後半に失速した。その後、理論社会学は混乱を極めた。トマス・ファラロが数学的発想を持って社会学の分析的な一般理論を構築しようとしたが、いまだそれが社会学理論の主流とは認められていない。この授業では「社会学の一般分析的理論」の可能性を考える。</p> <p>到達目標:数理社会学者の発想に依拠しつつ「社会学の一般分析的理論」のロジックを理解する。次に数理社会学・社会情報学に依拠した「準拠枠組みまたは概念図式」の構築を試みる。学生は一般理論・概念図式に依拠する思考法を習得することができる。</p>							
概要	<p>Thomas FerraroのSocial Action Systemsを購読し、ミクロ社会理論とマクロ社会理論の統合について考える。今、社会学に理論が存在するかどうか論じられている。自然科学的理論は存在しないとしても、認識の準拠枠組みは学問として不可欠である。新たなフレームを呈示する。</p>							
評価方法	試験(100%)によって評価する。小テストや小論文は採点して返却するので必ず復習すること。							
履修条件・注意事項	社会学論、社会思想史、哲学などの基礎的知識があること。							
自己学習	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	火曜4限(15:10～16:40)に研究室(9039)にて実施する。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1.行為理論 2.マクロ理論戦略 3.初期の動機理論 4.現代の動機理論 5.相互行為家庭 6.構造化過程 7.理論的総合 8.行為システム 9.社会的相互行為システム 10.社会情学 11.情報-エネルギー図式 12.社会システムの数理モデル 13.社会学における理論とは 14.規範科学としての社会学 15.まとめ 16.定期試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂	
教科書 1	Social Action Systems. 著者: Thomas Fararro 出版社: Praeger Publishing ISBN: 978-0-027597362x							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	社会学研究指導Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 博士論文のための研究計画 到達目標: 研究計画の完成。 それぞれの専攻分野において研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心に、社会学研究指導1から社会学研究指導6に至るステップが設定されている。第1年次においては、研究とは何か改めて確認して、基礎的な理論と方法を学びなおし、自らの研究関心や問題意識と照合して、研究課題を暫定的に作り上げる。その暫定的な研究課題に即して、関連文献・資料を収集・整理・分析して、研究課題を次第に精緻化していく。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも努力する。研究の成果は、年度内に作業論文としてまとめ、1月下旬に予定されている大学院社会学研究科博士課程発表会において報告して、批判をうける。その上で、レフリー審査制の学術雑誌(専門学会誌など)に投稿することを期待する。</p>						
概要	研究計画のデザインと作成に取り組む。						
評価方法	授業への参加状況(20%)、中間レポート(40%)、最終試験(40%)によって評価する。 なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究指導1から社会学研究指導6(各2単位)に至る合計12単位は必修である。						
自己学習	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスワ-	12:45-13:00 Tuesdays (classroom)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 研究計画について 3. 研究計画の書き方 4. 研究計画の骨子 5. 研究計画の作成 6. 研究計画案への助言 7. 研究計画の口頭発表 8. 研究計画についての討論 9. 研究計画と全体の構成 10. 研究デザインと実際 11. 研究計画の推敲 12. 研究計画の完成 13. 研究計画の口頭説明 14. プレゼンテーション 15. 全体総括 16. 最終試験 			exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?
教科書 1	From Topic to Defense: Writing a Quality Social Science Dissertation in 18 Months or Less 著者: O'reilly, A. E. et al. 出版社: Helpful Little Books ISBN: 978-1499604139						
教科書 2							
参考書 1	Getting the Best of Your Dissertation: Practical Perspectives for Effective Research 著者: Harris, D. 出版社: Thought Clearing ISBN: 978-099645604						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導Ⅲ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:現代日本の教養教育 急速なAIの進化によって未来社会の予想が困難になりつつある。既存のテクニカルな知識は陳腐化し、時代遅れになる。AIに對抗できるのは芸術、美食、哲学、宗教といった「非合理的」な分野だけになるだろう。かつて哲学をはじめとする教養教育は「一般教養」として軽視されてきたが、再び存在感を増している。教養教育はいかなる形で役立つか。同時に「文科系科目」はいかなる意味で役に立つのかを明らかにする。 到達目標:教養教育または文科系科目の存在意義を1本の論文にまとめ研究雑誌に投稿する。</p>						
概要	<p>教養教育・文科系科目を学ぶ意義に関する論文・書籍を読み、①教養教育・人文系/社会科学系の学問の成り立ちを整理する。②それらの学問を学ぶことが、仕事と人生にどう役立つのかに関する考察を行う。③現代日本における教養教育の現状を把握する。④教養教育の問題点と改革すべき問題を検討する。</p>						
評価方法	試験によって評価する(100%)。課題や小論文は採点して返却するので、よく復習すること。						
履修条件・注意事項	与えられた文献は必ず読んで内容を整理しておくこと。						
自己学習	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)に、研究室(9039)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.ガイダンス 2.テキスト購読・批評 3.テキスト購読・批評 4.論文執筆部分の発表と批評 5.テキスト購読・批評 6.テキスト購読・批評 7.論文執筆部分の発表と批評 8.テキスト購読・批評 9.テキスト購読・批評 10.論文執筆部分の発表と批評 11.テキスト購読・批評 12.テキスト購読・批評 13.論文執筆部分の発表と批評 14.テキスト購読・批評 15..まとめ 16.定期試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂					
教科書 1	<p>文系大学教育は仕事の役に立つのか 著者: 本田由紀(編著) 出版社: ナカニシヤ ISBN: 978-4779513107</p>						
教科書 2	<p>大学の教育力 著者: 金子元久 出版社: ちくま新書 ISBN:978-4480063847</p>						
参考書 1	<p>シラバス論 著者: 芦田宏直 出版社: 晶文社 ISBN: 978-4794971623</p>						
参考書 2	<p>General Education Essentials 著者: Paul Hanstedt 出版社: Wiley ISBN: 978-118321850</p>						

授業科目名	社会学研究指導Ⅲ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 博士論文執筆のための研究手法 到達目標: それぞれのテーマで研究を進展させ、研究者として自立できる能力を修得する。 博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、社会学研究指導1から社会学研究指導6に至るステップが設定されている。第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析して、研究課題の焦点を絞っていく。必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを試みる。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、社会調査の企画とデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導をうける。研究課題が絞られていく過程において、場合によっては、研究方向をやや転換させる必要が生まれるかもしれない。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。研究の成果は、年度内に作業論文としてまとめ、1月下旬に予定されている大学院社会学研究科博士課程発表会において報告して、批判をうける。その上で、レフェリー査読付きの学術雑誌(専門学会誌など)に投稿することを期待する。博士課程在学中に、少なくとも論文1篇が採択・掲載されることを期待する。</p>						
概要	1年次で完成させた研究計画をもとに、先行研究の批判的読解を深める。						
評価方法	授業への参加状況・積極性(20%)、2回の中間レポート(40%)、最終試験(プレゼンテーションおよびレポート 40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究指導1から社会学研究指導6(各2単位)に至る合計12単位は必修である。						
自己学習	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:30 Tuesdays (in classroom)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 授業の概要の説明 2. 先行研究の意味 3. 先行研究の検索 4. 先行研究の読解 5. 先行研究への批判的視座 6. 先行研究についての論考 7. 中間まとめ 8. 研究情報の収集 9. 研究情報の検索 10. 研究情報の読解・要約 11. 研究情報のファイリング 12. 資料の解釈 13. 資料の比較検討 14. 資料に基づく考察 15. 考察から論述へ 16. 最終試験	exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?					
教科書 1	From Topic to Defense: Writing a Quality Social Science Dissertation in 18 Months or Less 著者: O'reilly, A. E. et al. 出版社: Helpful Little Books ISBN: 978-1499604139						
教科書 2							
参考書 1	Getting the Best of Your Dissertation: Practical Perspectives for Effective Research 著者: Harris, D. 出版社: Thought Clearing ISBN: 978-099645604						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導Ⅳ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:博士論文の執筆 博士課程の最終学年であるから、当然のことながら博士論文の執筆を指導のテーマとする。自然科学では仮説・実験・結果・考察というパターンがあるが、人文社会系では実験が不可能であるため、質的・量的調査と文献の購読が重要な研究方法となる。これまでの研究の蓄積の上に博士論文を完成させる。</p> <p>到達目標:博士論文の草稿完成 博士論文の全体像が明らかになるまで執筆指導を行う。論文の客観的評価のために学会発表ができるところまで進めたいが、学会発表は執筆後でもよい。秋学期では論文完成のための補足調査、推敲が中心になるので、今学期までに全体の草稿を完成させたい。</p>						
概要	博士課程の学生が、これまでの研究によって積み上げてきた研究実績に基づき、博士論文の草稿を執筆する。これについてその目的、意義、方法、データ、先行研究、論述、説得力、結果などについて詳細に指導する。						
評価方法	試験(50%)と執筆論文(50%)によって評価する。評価については公表し、なぜそのような評価になったのか説明するので納得がいかない場合は申し出ること。説明と話し合いに応じる。						
履修条件・注意事項	社会学の基礎理論だけでなく社会思想、政治哲学などの知識も身につけること。						
自己学習	毎学期中、論文の執筆には4時間以上を要する。実際には毎日4時間以上だろう。						
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)に、研究室(9309)にて実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.研究目的と意義の確認 2.研究方法の妥当性について 3.何がどこまで明らかに? 4.先行研究チェック 5.命題の適切性 6.データの適切性 7.検証の適切性 8.ミクロな整合性のチェック 9.マクロ整合性のチェック 10.第1回目プレゼンテーション 11.個別的修正 12.査読(1) 13.査読(2) 14.プレゼンテーション 15.論文投稿の指導 16.定期試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂
教科書 1	博士号のとり方 著者: E.M.フィリップス 出版社: 名古屋大学出版会 ISBN: 978-4815809232						
教科書 2	社会科学のリサーチデザイン 著者: G.キング・他 出版社: 勁草書房 ISBN: 978-4326301508						
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	姜 明求					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	2		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い博士論文の作成に取り組む。博士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
概要	それぞれの専攻分野において研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、研究指導Ⅰから研究指導Ⅵに至るステップが設定されている。 第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析し、研究課題の焦点を絞っていく。必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを試みる。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、研究のデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導する。研究課題の焦点が絞られていく過程において、場合によっては、研究方向をやや転換させる必要が生まれるかもしれない。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、研究の交流をはかることにも引き続いて努力する。						
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、研究の進捗度(60%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスワ-	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 3. 自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 4. 自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告 5.資料の収集とまとめ方の指導 6.資料の収集とまとめ方の指導の 7.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告 8.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告 9.文献の発表と討論 10.文献の発表と討論 11.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告 12.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告 13.文献の発表と討論 14.文献の発表と討論 15.文献の発表と討論 16.全体のまとめ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜		
教科書 1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。						
教科書 2							
参考書 1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方 著者:新堀 聡 出版社:同文館						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導Ⅳ			履修期	2021年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス				NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態 演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 博士論文の執筆 到達目標: 博士論文の執筆のための手法や文献レビューの技能を修得する。 それぞれの専攻分野において研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、社会学研究指導1から社会学研究指導6に至るステップが設定されている。第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析して、研究課題の焦点を絞っていく。必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを試みる。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、社会調査の企画とデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導をうける。研究課題が絞られていく過程において、場合によっては、研究方向をやや転換させる必要が生まれるかもしれない。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。研究の成果は、年度内に作業論文としてまとめ、1月下旬に予定されている大学院社会学研究科博士課程発表会において報告して、批判をうける。その上で、レフリー審査制をとる学術雑誌(専門学会誌など)に投稿することを期待する。博士課程在学中に、少なくとも論文1篇が採択・掲載されることを期待する。</p>					
概要	研究文献の精読、批判的読解の演習を中心とする。					
評価方法	授業への参加状況(20%), 中間レポート(40%), 最終試験(プレゼンテーションおよびレポート40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。					
履修条件・注意事項	社会学研究指導1から社会学研究指導6(各2単位)に至る合計12単位は必修である。					
自己学習	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。					
オフィスアワー	12:45-13:00 Tuesdays (classroom).					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
			1. 授業の概要説明 2. 学術論文の検索 3. 学術論文の収集 4. 学術論文の読解 5. 学術論文の解釈 6. 学術論文についての論考 7. 中間まとめ(中間レポート) 8. 学術論文のレビュー執筆に向けて 9. 学術論文のレビューの目的 10. 学術論文のレビュー: 批判的読解 11. 学術論文のレビュー: 筆者の視点 12. 学術論文のレビューの意義 13. 学術論文のレビューの役割 14. 学術論文のレビュー: 論文執筆 15. 全体総括 16. 最終試験	exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?	
教科書 1	From Topic to Defense: Writing a Quality Social Science Dissertation in 18 Months or Less 著者: O'reilly, A. E. et al. 出版社: Helpful Little Books ISBN: 978-1499604139					
教科書 2						
参考書 1	Getting the Best of Your Dissertation: Practical Perspectives for Effective Research 著者: Harris, D. 出版社: Thought Clearing					
参考書 2						

授業科目名	社会学研究指導Ⅴ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	赤坂 真人					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)				年次	3	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ 社会問題に関する実証的研究 さまざまな社会問題を実証的研究によって明らかにする。当該フィールドについて質的・量的調査を行う。具体的方法はフィールドワーク・統計調査法を用いる。</p> <p>到達目標 具体的テーマは博士後期課程の学生の研究テーマとする。年度末に学術論文執筆(1点)と学会での報告を目指す。</p>						
概要	学術論文の執筆を目指す。具体的には毎週、学生が論文の部分執筆し、それを教員とともに批判的に検討する。内容に納得できない場合は次回までに書き直しを命じる。						
評価方法	試験(100%)によって評価する。課題や小論文は採点して返却するので復習すること。						
履修条件・注意事項	社会調査に関する知識が必須である。統計学の知識があることが望ましい。学術論文をすでに1~2本書いていることが望ましい。						
自己学習	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	火曜4限(15:10~16:40)で、研究室(9309)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.論文の目的と意義、方法の確認 2.研究計画・進捗状況確認 3..先行研究のレビュー(1) 4..先行研究のレビュー(2) 5..執筆部分に関する批判的検討 6..執筆部分に関する批判的検討 7..中間発表(プレゼン) 8..論文の批判的検討(方法) 9..論文の批判的検討(データ) 10..論文の批判的研究(論理) 11..論文の批判的検討(整合性) 12..論文の批判的検討(結論) 13..形式についてのチェック 14..プレゼンテーション 15.まとめ 16.定期試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂					
教科書 1	<p>質的データ分析法 著者： 佐藤郁也 出版社： 新曜社 ISBN： 978-4788510951</p>						
教科書 2	<p>社会調査のためのテキスト計量分析 著者： 樋口耕一 出版社： ナカニシヤ出版 ISBN： 978-4779508035</p>						
参考書 1	<p>これから論文を書く若者のために 著者： 酒井 聡樹 出版社： 共立出版 ISBN： 974-4320005716</p>						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導V			履修期	2021年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 博士論文の執筆と発表 到達目標: 博士論文の完成。 それぞれのテーマでの研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心に、社会学研究指導1から社会学研究指導6に至るステップが設定されている。第3年次においては、ひたすら、博士學位論文の完成をめざす。それまでの作業論文、投稿論文、調査集計結果などを基礎として、指導教授および副指導教授の個人指導のもとに進められる。「博士學位論文作成要領」は『大学院要覧』に掲載されているとおりである。現実の論文作成過程は、「社会学研究法」や「學術論文の書き方」などに書かれているマニュアル通りに進められるとは限らず、この段階においても、研究の各ステップの往復を繰り返すことも稀ではない。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。課程博士論文の提出締切りは、例年1月中旬に設定されており、その時期までに提出できれば、2月中旬に予定されている大学院社会学研究科博士論文公聴会において報告し批判を受け、審査委員会による審査を経て、3月には博士課程修了となる。</p>						
概要	博士論文の執筆を実際に行いながら助言し論文作成をサポートする。						
評価方法	授業への参加状況(20%), 2回の中間レポート(40%)、最終試験(プレゼンテーションおよびレポート 40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究指導1から社会学研究指導6(各2単位)に至る合計12単位は必修である。						
自己学習	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスワ-	12:45-13:30 Tuesdays (in classroom)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 授業の概要説明 2. 章立てと構成の確認 3. 論文の構成 4. 論文の章立て 5. 論文執筆状況の発表報告 6. 中間まとめ 7. 結論の書き方に関する助言 8. 結論の執筆状況の報告 9. 結論のまとめ方 10. 文献リスト 11. 論文初稿の提出 12. タイトルの付け方 13. 引用の書き方 14. 論文構成への助言 15. 全体総括 16. 最終試験	exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi? Mervi?					
教科書 1	From Topic to Defense: Writing a Quality Social Science Dissertation in 18 Months or Less 著者: O'reilly, A. E. et al. 出版社: Helpful Little Books ISBN: 978-1499604139						
教科書 2							
参考書 1	Getting the Best of Your Dissertation: Practical Perspectives for Effective Research 著者: Harris, D. 出版社: Thought Clearing ISBN: 978-099645604						
参考書 2							

授業科目名	社会学研究指導VI			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	姜 明求					NO.	
配当学科	社会学研究科(博士後期)			年次	3		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い博士論文の作成に取り組む。博士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
概要	<p>それぞれの専攻分野において研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、博士課程在学中に博士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心に、研究指導Ⅰから研究指導Ⅵに至るステップが設定されている。</p> <p>第3年次においては、ひたすら、博士論文の完成をめざす。それまでの作業論文、投稿論文、調査集計結果などを基礎として、指導教授および副指導教授の個人指導のもとに進められる。「博士学位論文作成要領」は、『大学院要覧』に掲載されている。現実の研究過程は、社会学研究法に書かれているようなマニュアル通りに進められとは限らず、この段階においても、研究の各ステップの往復を繰り返すことも希ではない。</p> <p>過程博士論文の締め切りは、例年1月中旬に設定されており、その時期までに提出できれば、2月中旬に予定されている大学院社会学研究科博士論文審査会において報告して批判とともに審査をうける。審査委員会(3名)による審査を経て、3月には博士課程修了となる。</p>						
評価方法	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、論文の完成度(60%)によって総合的に評価。小テスト、課題などに対するフィードバックは授業中に行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
自己学習	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.論文の報告、討論、修正(各人) 3.論文の報告、討論、修正(各人) 4.論文の報告、討論、修正(各人) 5.論文の報告、討論、修正(各人) 6.論文の報告、討論、修正(各人) 7.論文執筆の1次完了、修正(各人) 8.論文執筆の1次完了、修正(各人) 9.論文の中間確認と修正(各人) 10.論文の中間確認と修正(各人) 11.論文の中間確認と修正(各人) 12.論文の中間確認と修正(各人) 13.論文の最終確認と編集(各人) 14.博士論文の完成と成果発表正(各人) 15.博士論文の完成と成果発表(各人) 16.全体のまとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜 姜
教科書 1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。						
教科書 2							
参考書 1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方 著者:新堀 聡 出版社:同文館						
参考書 2							

保健科学研究科
博士（前期）課程

授業科目名	保健科学特論 I				履修期	2021年度 春学期		
担当者	河村 顕治、齋藤 圭介、掛谷 益子、原田 和宏、田中 富子、森下 元賀、中瀬 克己、高橋 淳、寺岡 睦、森 芳史						NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。							
概要	保健科学研究科の研究指導教員がオムニバスでそれぞれのトピックスを講義する。 木曜日3限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。							
評価方法	紹介された文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。							
履修条件・注意事項	講義は、最もその分野に適した教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。							
自己学習	予習として、あらかじめ提示されたものがあれば予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1) 修士での研究の進め方 ① 2) 修士での研究の進め方 ② 3) 研究と倫理 4) 研究の基礎と考え方① 5) 研究の基礎と考え方② 6) 調査研究法① 7) 調査研究法② 8) 臨床研究法① 9) 臨床研究法② 10) 研究結果の信憑性 11) 調査系の研究モデルという考え方 12) 実験研究法① 13) 実験研究法② 14) 実験研究法③ 15) 研究発表の仕方 16) 論文執筆の際の注意点・口頭試問		1)講義 2)講義 3)講義 4)講義 5)講義 6)講義 7)講義 8)講義 9)講義 10)講義 11)講義 12)講義 13)講義 14)講義 15)講義 16)試験	河村顕治 高橋 淳 河村顕治 森 芳史 齋藤圭介 中瀬克己 中瀬克己 森下元賀 寺岡 睦 原田和宏 原田和宏 河村顕治 河村顕治 森 芳史 河村顕治 高橋 淳					
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	保健科学特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。保健科学特論Ⅱでは英語文献の読解力を高めることを目標とする。						
概要	秋学期は英語読解力を高めるために英語文献のjournal club(抄読会)を行う。木曜日4限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。						
評価方法	担当した英語文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢(50%)、質疑応答における発言状況(50%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。 発表を担当する学生は、前の週までに担当する英語文献を教員及び他の学生に配布しておくこととする。						
自己学習	予習として、あらかじめ配布された英語文献について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1) journal club(抄読会) 2) journal club(抄読会) 3) journal club(抄読会) 4) journal club(抄読会) 5) journal club(抄読会) 6) journal club(抄読会) 7) journal club(抄読会) 8) journal club(抄読会) 9) journal club(抄読会) 10) journal club(抄読会) 11) journal club(抄読会) 12) journal club(抄読会) 13) journal club(抄読会) 14) journal club(抄読会) 15) journal club(抄読会)			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治 河村 顕治
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論 I				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	河村 顕治、安福 真弓、齋藤 圭介、掛谷 益子、佐藤 三矢、原田 和宏、狩長 弘親、田中 富子、京極 真、中嶋 貴子、森下 元賀、井上 茂樹、寺崎 智行、中瀬 克己、高橋 淳、寺岡 睦、森 芳史、長町 榮子、中嶋 正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。</p> <p>② 自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。</p> <p>③ 自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。</p>						
概要	<p>保健科学研究科の研究指導教員がオムニバスでそれぞれのトピックスを講義する。木曜日3限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。</p> <p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	講義時における口頭試問(30%)、研究計画書の内容(30%)、研究計画発表のプレゼンテーション内容(40%)で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。						
自己学習	1)研究内容に関連する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるようにしておくこと。 2)論文は結果、考察以外は早くから作成できるように準備しておくこと。 毎回の指導内容について、予習復習としてそれぞれ2時間以上は要する。						
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 研究の意義と動向、研究者の責務 第2回 研究の基本的なプロセス 第3回 疫学研究法 調査方法とデータの収集 第4回 質的研究の方法とデータ収集法 第5回 疫学研究法 リスクの考え方、バイアスと交絡 第6回 Grounded TApproachによる分析方法 第7回 「関連」と「因果」 第8回 回帰について 第9回 記述統計と基本統計の概要 第10回 臨床データの有効活用 第11回 ノンパラメトリック検定法とパラメトリック検定法と、変数の関係 第12回 量的研究の方法とデータ収集法 第13回 MoplusとRによる構造方程式モデリング(回帰分析、因子分析、パス分析、項目反応理論) 第14回 MoplusとRによる構造方程式モデリング(混合モデル、マルチレベルモデル、ベイズ推定) 第15回 修士論文計画発表について 第16回 修士論文計画発表	1. 講義 2. 講義 3. 講義 4. 講義 5. 講義 6. 講義 7. 講義 8. 講義 9. 講義 10. 講義 11. 講義 12. 講義 13. 講義 14. 講義 15. 講義 16. AL	1. 河村顕治 2. 森 芳史 3. 中瀬克己 4. 寺岡 睦 5. 中瀬克己 6. 寺岡 睦 7. 齋藤圭介 8. 原田和宏 9. 齋藤圭介 10. 原田和宏 11. 原田和宏 12. 森下元賀 13. 京極 真 14. 京極 真 15. 高橋 淳 16. 高橋 淳		
教科書 1	医学的研究のデザイン 第4版 著者:木原雅子・木原正博訳 出版社:メデイカル・サイエンス・インターナショナル ISBN:978-4-89592-783-3						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ			履修期	2021年度 春学期			
担当者	長町 榮子					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>①研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。</p> <p>②自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。</p> <p>③自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンテーションできる。</p> <p>④研究計画書に基づき研究を進め、研究の中間成果をプレゼンテーションできる。</p>							
概要	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。</p>							
評価方法	講義時における口頭試問(30%)、研究計画書の内容(30%)、研究計画発表のプレゼンテーション内容(40%)で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。							
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は教員と調整を行うこと。							
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>							
オフィスワ-	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)にて							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1.データ収集1回目	AL	長町						
2.データ収集2回目	AL	長町						
3.データ収集3回目	AL	長町						
4.データ収集4回目	AL	長町						
5.データ収集5回目	AL	長町						
6.データ整理	AL	長町						
7.データ整理・分析	AL	長町						
8.データ分析	AL	長町						
9.結果の整理	AL	長町						
10.結果の整理・解釈	AL	長町						
11.結果の解釈に関するディスカッション	AL	長町						
12.結果の解釈	AL	長町						
13.修士論文作成:目的・方法	AL	長町						
14.修士論文作成:結果	AL	長町						
15.修士論文作成:考察	AL	長町						
16.修士論文発表	AL	長町						
教科書 1	必要時適宜提示する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	寺崎 智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>①研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。</p> <p>②自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。</p> <p>③自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンテーションできる。</p> <p>④研究計画書に基づき研究を進め、研究の中間成果をプレゼンテーションできる。</p>						
概要	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方や知識について学習するものである。</p>						
評価方法	講義時における口頭試問(30%)、研究計画書の内容(30%)、研究計画発表のプレゼンテーション内容(40%)で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は教員と調整を行うこと。						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	金曜日3限目、6号館4階寺崎研究室(6420号室)にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.データ収集1回目 2.データ収集2回目 3.データ収集3回目 4.データ収集4回目 5.データ収集5回目 6.データ整理 7.データ整理・分析 8.データ分析 9.結果の整理 10.結果の整理・解釈 11.結果の解釈に関するディスカッション 12.結果の解釈 13.修士論文作成:目的・方法 14.修士論文作成:結果 15.修士論文作成:考察 16.修士論文発表	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎					
教科書 1	必要時適宜提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を作成する過程においてまずしっかりした研究計画を立てることが重要である。研究計画を立てるために様々なバイオメカニクスの解析手法を学び、研究テーマを明確にした上で、実行可能な研究計画を立てることを到達目標とする。						
概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、研究計画調書の内容(80%)を総合的に評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	本講義を通して修士論文を完成させることが求められている。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回: 科学的情報収集法 第2回: 研究テーマ策定 第3回: 基礎知識の確認 第4回: 先行研究の調査① 第5回: 先行研究の調査② 第6回: 先行研究の調査③ 第7回: 先行研究の概要発表 第8回: 先行研究の概要発表の講評 第9回: 研究テーマの確定 第10回: 研究計画調書作成 第11回: バイオメカニクス研究指導① 第12回: バイオメカニクス研究指導② 第13回: バイオメカニクス研究指導③ 第14回: 研究計画調書の再検討と修正 第15回: 研究計画発表用資料の確認		講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治				
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>統計処理に代表される研究技術の修得をテーマに、保健科学研究法特論Ⅰに引き続き、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組み研究目的を達成するための、得られたデータの統計処理の仕方や個々の統計手法の理論的背景、結果の意義づけや解釈など文献的根拠に基づき考察する能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>① 基本的な統計手法の理論的背景を説明できる。 ② 研究目的達成のため、得られたデータを基に統計処理を実施することが出来る。 ③ 文献的根拠を基に結果の解釈を行い、考察としてまとめ上げる能力を身につける。</p>						
概要	<p>障害予防や生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも、適切な評価と科学的視座に立った支援方法の確立が求められている。臨床上の問題や疑問を研究課題として解くためには、研究計画を立て測定するだけでなく、得られたデータを目的達成のためにどのように統計処理をするのか、その結果を文献的根拠に基づき解釈する能力を身につける必要がある。本科目では、研究全般に共通して必要となる統計手法の理論と実施する能力、得られた結果を解釈し考察する能力を身につけるための学修を進める。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	講義時における口頭試問(60%)、統計処理課題・結果の解釈に関するプレゼンテーションの到達度(40%)で評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	本講義を受講をとおして修士論文作成を進めることより、積極的な姿勢で臨むこと。十分な知識と技術を身につけるために、予習と復習を行うこと。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. データを統計処理することの意義と考え方		AL	齋藤				
2. 関連と因果、効果をみるための統計手法の理解		AL	齋藤				
3. 統計手法の理解 基本統計1		AL	齋藤				
4. 統計手法の理解 基本統計2		AL	齋藤				
5. 統計手法の理解 多変量解析		AL	齋藤				
6. 統計手法の理解 予測		AL	齋藤				
7. 統計処理実習1 データシートの作り方		AL	齋藤				
8. 統計処理実習2 基本統計の実施		AL	齋藤				
9. 統計処理実習3 多変量解析の実施		AL	齋藤				
10. 実際のデータを基にした統計処理の実施		AL	齋藤				
11. 統計処理実施結果のプレゼンテーション		AL	齋藤				
12. 結果解釈の基本的考え方		AL	齋藤				
13. 結果解釈の実例検討 文献抄読1		AL	齋藤				
14. 結果解釈の実例検討 文献抄読2		AL	齋藤				
15. 考察のまとめ方、既出事項のまとめ		AL	齋藤				
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	原田 和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法について実践できる。</p> <p>② 新規の研究課題について文献検索を行い、文献レビューをこなせる。</p> <p>③ 新規の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。</p>						
概要	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。</p> <p>保健科学研究法Ⅱでは、保健科学分野の新規課題に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その考え方や知識について応用的に学習するものである。</p>						
評価方法	<p>講義時における口頭試問、研究計画書の内容、研究計画発表のプレゼンテーション内容で評価する。</p> <p>文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性を総合的に評価する(60%)。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務		講義	原田				
第2回 研究の基本的なプロセス		AL	原田				
第3回 疫学研究法1 調査方法とデータの収集		AL	原田				
第4回 疫学研究法2 リスクの考え方、バイアスと交絡		AL	原田				
第5回 質的研究の方法とデータ収集法		AL	原田				
第6回 Grounded Theory Approachによる分析方法		AL	原田				
第7回 「関連」と「因果」		AL	原田				
第8回 記述統計と基本統計の概要		AL	原田				
第9回 回帰について		AL	原田				
第10回 臨床データの有効活用		AL	原田				
第11回 Rコマンドを使用した統計の紹介(差の検定・分散分析)		AL	原田				
第12回 Rコマンドを使用した統計の紹介(重回帰分析・ロジスティック回帰分析)		AL	原田				
第13回 偏りのあるデータから妥当な推論を行う統計		AL	原田				
第14回 有意抽出による調査データの補正の具体例		AL	原田				
第15回 修士論文計画発表について		AL	原田				
16. 試験		試験	原田				
教科書 1	『医学的研究のデザイン 第4版』 著者:木原雅子・木原正博訳 出版社:メディカル・サイエンス・インターナショナル						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中角 祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ:手の外科の要点を再学習する。 学生が、ハンドセラピーの技能を高めることができる。						
概要	手の機能解剖を再学習する。 そして、手の外傷と疾病について、病態と診断法、治療法と一般的な予後を理解する。 陥りやすい盲点と対策を学ぶことから、作業療法の技能を高める。						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代に学習した運動学を再確認してくること。						
自己学習	予習復習に各1時間を要す						
オフィスワ-	水曜3限、6号館4階6411研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1;手の機能解剖1 2;手の機能解剖2 3;診断法 4;保存療法 5;外傷1 6;外傷2 7;外傷3 8;外傷4 9;外傷5 10;障がい1 11;障がい2 12;障がい3 13;リウマチ 14;腫瘍 15;先天異常 16;期末試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角				
教科書 1	手の外科の要点と盲点 著者:金谷文則 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2756-9						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	森 芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。保健科学特論Ⅱでは英語文献の読解力を高めることを目標とする。						
概要	英語文献のjournal club(抄読会)を行う。これにより英語読解力を高めることができる。木曜日4限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。						
評価方法	担当した英語文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢(50%)、質疑応答における発言状況(50%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。 発表を担当する学生は、前の週までに担当する英語文献を教員及び他の学生に配布しておくこととする。						
自己学習	予習として、あらかじめ配布された英語文献について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の森のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1) journal club(抄読会) 2) journal club(抄読会) 3) journal club(抄読会) 4) journal club(抄読会) 5) journal club(抄読会) 6) journal club(抄読会) 7) journal club(抄読会) 8) journal club(抄読会) 9) journal club(抄読会) 10) journal club(抄読会) 11) journal club(抄読会) 12) journal club(抄読会) 13) journal club(抄読会) 14) journal club(抄読会) 15) journal club(抄読会)			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史 森 芳史
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	安福 真弓					NO.	KM3113104x
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションできる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え、修士論文としてまとめることができる。						
概要	Evidence-based medicine (EBM) や Evidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリングなどの基本的な考え方や知識を活用し、小児看護のエビデンスの探求に関する研究に取り組む。 この科目は、看護師としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義時の質疑応答(20%)、文献講読の状況(30%)、研究の中間発表のプレゼンテーション内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は各教員と調整を行うこと。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるように整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。						
オフィスワ-	月曜2限(11:10～12:40)に個人研究室(6405)にて対応。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.研究課題と研究過程		AL	安福				
2.文献検討		AL	安福				
3.研究デザインとデータ収集		AL	安福				
4.データ整理		AL	安福				
5.データ分析方法について		AL	安福				
6.データ分析演習		AL	安福				
7.結果の整理		AL	安福				
8.結果の解釈に関するディスカッション		AL	安福				
9.修士論文作成:はじめに		AL	安福				
10.修士論文作成:目的・方法		AL	安福				
11.修士論文作成:結果		AL	安福				
12.図表の作成							
13.修士論文作成:考察		AL	安福				
14.プレ発表		AL	安福				
15.中間発表まとめ		AL	安福				
		AL	安福				
		AL	安福				
		AL	安福				
		AL	安福				
教科書 1	必要時適宜提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	掛谷 益子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	AL
テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションできる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え修士論文としてまとめることができる。						
概要	Evidence-based nursing (EBN) 重視のもと、科学的根拠に基づく看護援助が求められている。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等の基本的な考え方と知識を活用し、看護技術のエビデンスの探求に関する研究に取り組む。						
評価方法	講義時の質疑応答(20%)、文献講読の状況(30%)、研究の中間発表のプレゼンテーション内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるように整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。						
オフィスワ-	水曜日2時限目：6号館4階 6402研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.データ収集		AL	掛谷				
2.データ収集		AL	掛谷				
3.データ収集		AL	掛谷				
4.データ収集		AL	掛谷				
5.データ収集		AL	掛谷				
6.データ分析		AL	掛谷				
7.データ分析		AL	掛谷				
8.データ分析		AL	掛谷				
9.結果の整理		AL	掛谷				
10.結果の整理		AL	掛谷				
11.結果の解釈		AL	掛谷				
12.結果の解釈		AL	掛谷				
13.結果の解釈		AL	掛谷				
14.修士論文作成について		AL	掛谷				
15.修士論文発表について		AL	掛谷				
16.まとめ:プレゼンテーション		AL	掛谷				
教科書 1	必要時適宜提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	田中 富子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。</p> <p>② 自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。</p> <p>③ 自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。</p>						
概要	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。</p>						
評価方法	講義時における口頭試問(50%)、研究計画書の内容(20%)、研究計画発表のプレゼンテーション内容(30%)で評価する。評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと						
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。						
自己学習	自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。予習として事前に参考資料を読み、理解出来ない点をディスカッションで討議し理解を深める。復習として研究計画に則り資料やノートにまとめること。なお、予習・復習の時間は各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室において火曜日4次限とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	研究の意義・動向・倫理	AL	田中				
第2回	研究の基本的なプロセス	AL	田中				
第3回	研究疑問の吟味	AL	田中				
第4回	系統的文献検索(1)	AL	田中				
第5回	系統的文献検索(2)	AL	田中				
第6回	研究課題とデザイン(1)	AL	田中				
第7回	研究課題とデザイン(2)	AL	田中				
第8回	主な研究方法(1) 質的研究	AL	田中				
第9回	主な研究方法(2) 量的研究	AL	田中				
第10回	主な研究方法(3) 統計解析	AL	田中				
第11回	研究計画書の作成	AL	田中				
第12回	研究計画書の推敲技術	AL	田中				
第13回	研究計画書	AL	田中				
第14回	原著論文のまとめ方	AL	田中				
第15回	修士論文計画発表	AL	田中				
教科書 1	「医学的研究のデザイン 第3版」 著者:木原雅子・木原正博訳 出版社:メディカル・サイエンス・インターナショナル						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中嶋 正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>研究思考を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>① 研究論文を読み、その研究を始める動機になった背景について説明できる。</p> <p>② その研究が必要とされる理由を述べる事が出来る。</p> <p>③ さらに研究が必要とされるか否か、そしてその理由を説明できる。</p>						
概要	<p>研究をはじめ学術論文を作成出来るようになるためには、論理的思考を身につける必要がある。自らの研究テーマに関連した学術論文を用いて研究思考を身につける。</p> <p>研究発表の仕方(パワーポイントによる発表スライドの作成方法を含む)や学術論文の書き方について学ぶ。</p>						
評価方法	<p>文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢(30%)、文献の理解度(30%)、発表技法、学術論文の書き方の習得度(20%)、ついて総合的に評価する(40%)。</p> <p>なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	受け身の姿勢ではなく、積極的な取り組み姿勢で望んで下さい。						
自己学習	<p>文献収集には時間がかかるため早めの対応を心がけること。</p> <p>予習および復習には各2時間程度を有する。</p>						
オフィスアワー	水曜日3、4限、6号館3階中嶋研究室(6329)にて						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 研究の意義 2. 研究倫理 3. 研究の基本的プロセス 4. 文献抄読(1) 5. 文献抄読(2) 6. 研究課題(1) 7. 研究課題(2) 8. 研究デザイン(1) 9. 研究デザイン(2) 10. 原著論文の書き方(1) 11. 原著論文の書き方(2) 12. 研究計画書の作製(1) 13. 研究計画書の作製(2) 14. プレゼンテーションの方法、修士論文計画発表 15. プレゼンテーションの方法、修士論文計画発表		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明				
教科書 1	「アクセプトされる英語医学論文を書こう！」 著者:ネル・L・ケネディ 出版社:メジカルビュー社 ISBN:4-89553-969-5						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	京極 真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:大学院生は、実際の研究活動の手順について理解し、問題現象を明らかにする方法を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生は統計学の基本的知識が理解できる。 2. 大学院生は最新の統計解析の手法を理解できる。 3. 大学院生は質的研究の妥当性を高める手法を理解できる。 						
概要	この講義では、さまざまな研究法に関する理解を深められる。大学院生は自身の研究を遂行していく中で、高度な研究法を遂行できるチカラが養える。それにより保健科学研究の遂行に必要な技術を理解できる。						
評価方法	<p>研究指導全過程を通して評価する。</p> <p>評価の配分は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な研究態度・・・20% ・文献読解と研究課題の設定と研究法の理解・・・20% ・明確な質疑応答と論理的な考察・・・20% ・作成された論文の妥当性、信頼性、倫理的配慮・・・40% <p>なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	積極的な参加を求める。						
自己学習	<p>予習、復習には各2時間ほど必要である。</p> <p>自己学習のためのレポート課題を課す。</p> <p>それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。</p>						
オフィスアワー	<p>曜日:月曜5限目、金曜5限目</p> <p>場所:6号館4階6428号室</p>						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
<ol style="list-style-type: none"> 1. 測定誤差 2. 独立変数と従属変数の選び方 3. サンプルの選択 4. 記述研究 5. 観察データに基づく因果推論 6. 症例対照研究 7. 統計的推論 8. 研究成果の一般化可能性 9. バイアスや交絡因子 10. 研究の内部・外部妥当性 11. 構造方程式モデリング 12. マルチレベル分析 13. 質的データの妥当性 14. 理論的飽和率 15. 発表・まとめ 		AL	京極真				
教科書 1		適宜紹介					
教科書 2							
参考書 1		適宜紹介					
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	佐藤 三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ 「高齢者／介護予防／認知症／QOL」などをキーワードとした指導を展開する。 先行研究や原著を通じて文献検索や読解力を養い、思考能力を高めていく。</p> <p>到達目標 学生は、実行と実現が可能で、有益な研究の計画立案ができるようになることを到達目標とする。</p>						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ●質の高い研究計画を立案するために、まずは「文献レビュー」を十分に行わせる。 ●文献レビューを行なえるようになれば、「研究テーマ」を明確にさせる。 ●文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 ●最終的にデータの集積、分析、論文執筆などについて指導する。 						
評価方法	講義時の「質疑応答・文献講読の状況(20%)」、研究計画調書の内容(80%)などから総合的に評価する。講義中に評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	●本講義を通して修士論文を完成させることが求められている。						
自己学習	<p>【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。</p> <p>【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について質問をランダムに行う「質問会(15分間)」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習しておくこと。</p> <p>【留意事項】 予習と復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.科学的情報収集法 2.研究テーマ検討／策定 3.研究テーマに沿った基礎知識 4.先行研究の発表① 5.先行研究の発表② 6.先行研究の発表③ 7.先行研究の概要発表 8.先行研究の概要精査 9.研究テーマの確定 10.研究計画調書作成 11.介護予防研究手法の指導① 12.介護予防研究手法の指導② 13.介護予防研究手法の指導③ 14.研究計画調書の再検討と修正 15.研究計画発表用資料の確認	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤					
教科書 1	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中嶋 貴子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションができる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え修士論文をまとめてまることができる。						
概要	我が国においてうつ病、自殺、PTSD、発達障害など精神的な問題は大きく取り上げられ、医療計画に精神疾患が加わり、「五大疾患」となった。しかし、支援は不十分で、精神看護領域の専門家が取り組むべき課題は山積みしている。近年、Evidence-based nursing(EBN)重視のもと、科学的根拠に基づき看護援助が求められている。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等の基本的な考え方と知識を活用し、精神看護のエビデンスの探究に関する研究に取り組む。この科目は、看護師としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義時の質疑応答(20%)、文献購読の状況(30%)、研究の中間発表のプレゼンテーション内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、予習・復習を行い積極的に学習に臨むこと。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるよう整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必要であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。						
オフィスアワー	水曜日2時間目 : 6号館4階 6422研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.研究課題と研究過程	AL	中嶋					
2.文献検討	AL	中嶋					
3.研究デザインとデータ収集	AL	中嶋					
4.データ整理	AL	中嶋					
5.データ分析方法について	AL	中嶋					
6.データ分析演習	AL	中嶋					
7.結果の整理	AL	中嶋					
8.結果の解釈に関するディスカッション	AL	中嶋					
9.修士論文作成:はじめに	AL	中嶋					
10.修士論文作成:目的・方法	AL	中嶋					
11.修士論文作成:結果	AL	中嶋					
12.図表の作成	AL	中嶋					
13.修士論文作成:考察	AL	中嶋					
14.プレ発表	AL	中嶋					
15.中間発表まとめ	AL	中嶋					
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究データの収集、研究データの分析、口頭発表、論文原稿の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究結果の整理、解釈を作成し考察できる。 2. 自己の研究課題について口頭発表できる。 3. 自己の研究課題について論文原稿を作成する。 						
概要	自己の研究課題についてデータの収集、データの分析を行い、結果を整理し考察する。また、口頭発表の手法・準備を行い、研究課題に対してプレゼンができるようになる。そして、章立てによる論文原稿を作成し修士論文を完成させる。						
評価方法	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)、講義における口頭試問、修士論文の内容、修士論文発表のプレゼンテーション内容で評価する(60%)。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10～12:40)をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.データ収集① 2.データ収集② 3.データ収集③ 4.データ収集④ 5.データ収集⑤ 6.データ分析① 7.データ分析② 8.データ分析③ 9.結果の整理① 10.結果の整理② 11.結果の解釈① 12.結果の解釈② 13.修士論文作成について① 14.修士論文作成について② 15.修士論文作成について③		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹				
教科書 1	講義毎に文献や研究資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	狩長 弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法について実践できる。</p> <p>② 新規の研究課題について文献検索を行い、文献レビューをこなせる。</p> <p>③ 新規の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。</p>						
概要	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。</p> <p>保健科学研究法Ⅱでは、保健科学分野の新規課題に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その考え方と知識について応用的に学習するものである。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	口頭試問(30%)、研究計画書の内容(40%)、プレゼンテーション(30%)により総合的に評価する。 なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究テーマと進捗状況に応じて指導する						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	月曜日4限 6427研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション	AL	狩長					
2. 研究課題の選び方	AL	狩長					
3. 文献レビューの方法	AL	狩長					
4. 研究にける倫理	AL	狩長					
5. 研究デザインとデータ収集法	AL	狩長					
6. 信頼性と妥当性	AL	狩長					
7. 記述統計	AL	狩長					
8. 差の検定	AL	狩長					
9. 分散分析	AL	狩長					
10. 多変量解析	AL	狩長					
11. 分析結果の執筆法(はじめに)	AL	狩長					
12. 分析結果の執筆法(方法・結果)	AL	狩長					
13. 分析結果の執筆法(考察)	AL	狩長					
14. 図表の作成	AL	狩長					
15. 研究成果の報告	AL	狩長					
教科書 1	適宜、指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中瀬 克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	特定地域の住民や職域の労働者等を対象とした、公衆衛生的なアプローチが必要な研究に際して、対象者の選定や調査方法、データの集計・分析方法等を身につける。						
概要	疫学的調査論文の批判的吟味を通じて、調査研究の方法や実行方法・分析方法と、その問題点や限界等を理解し、自身の研究に生せるようにする。 とくに、バイアスや交絡、因果関係の考え方に重点を置きたい。 一方通行の講義ではなく、ディスカッションを通じて課題を解決できるように授業を進めたい。						
評価方法	課題の提出(50%)、ディスカッションを含めた講義への取り組み姿勢(50%)で総合的に評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので期末までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究遂行にあたっての疑問点や問題点を整理して授業に臨むことを期待する。						
自己学習	研究の実施・論文の作成と直結した内容であるため、研究テーマに即して行う予定である。 当然のことながら、自ら主体的に学習することが求められる。 毎回課題を出すので、必ず提出すること。課題達成にはかなりの時間を割くことになるはずである。 これらを含め、1回の授業あたり、予習復習には2時間ずつを要する。						
オフィスアワー	6号館4階6424研究室にて、毎週水曜2限(教授会がある時間帯を除く)をオフィスアワーとする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 疫学の基礎(1) 疫学指標の意義 2. 疫学の基礎(2) 暴露指標の意義 3. 疫学の基礎(3) 研究方法 4. 疫学の基礎(4) 母集団と標本 5. 誤差とバイアス 6. 交絡とその制御 7. 因果関係の考え方 8. 疫学における因果関係と実践への応用 9. 既存統計資料の利用 10. スクリーニングの考え方 11. スクリーニングの有効性の評価 12. 実践活動への応用(1) 現状把握・ニーズの分析 13. 実践活動への応用(2) 介入の方法 14. 実践活動への応用(3) 活動評価 15. まとめ		講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習	中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬				
教科書 1	使用しない						
教科書 2							
参考書 1	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 著者:木原雅子(翻訳),木原正博(翻訳),Stephen B Hulley, Steven R Cummings MD他著 出版社:メディカルサイエンスインターナショナル ISBN:ISBN-10 : 4895927830 ISBN-13 : 978-4895927833						
参考書 2							

授業科目名	内科学特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	服部 俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の3時限目を実施。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.内科学概論 2.心不全 3.高血圧 4.虚血性心疾患、不整脈 5.慢性腎臓病 6.腎不全 7.急性腎炎症候群 8.腫瘍性肺疾患 9.肺炎 10.アレルギー性肺疾患など 11.食道疾患、胃・十二指腸疾患 12.肝、胆、膵疾患 13.急性肝炎、慢性肝炎 14.肝硬変、肝腫瘍 15.感染症 16.課題についてのレポートを提出する。		1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.講義 16.レポート	1.服部 2.服部 3.服部 4.服部 5.服部 6.服部 7.服部 8.服部 9.服部 10.服部 11.服部 12.服部 13.服部 14.服部 15.服部 16.服部				
教科書 1	わかりやすい内科学 第4版 著者:井村裕夫 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2030-0						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	内科学特論 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	高橋 淳					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。								
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。								
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。								
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。								
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。								
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の3時限目に実施。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.内科学概論(第1回)[内科学と、その進歩、老化、加齢、疾病など] 2.循環器疾患の診断と治療(第2-4回)[心不全、高血圧、虚血性心疾患、不整脈など] 3.腎疾患の診断と治療(第5-7回)[慢性腎臓病、腎不全、急性腎炎症候群など] 4.呼吸器疾患の診断と治療(第8-10回)[腫瘍性肺疾患、胸膜の疾患、アレルギー性肺疾患など] 5.消化器疾患の診断と治療(第11-12回)[食道疾患、胃・十二指腸疾患など] 6.肝、胆、膵疾患の診断と治療(第13-15回)[急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝腫瘍など] 16回目に課題についてのレポートを提出する。			1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.講義 16.レポート	1.服部 2.服部 3.服部 4.服部 5.服部 6.服部 7.服部 8.服部 9.服部 10.服部 11.服部 12.服部 13.服部 14.服部 15.服部 16.服部					
教科書 1	わかりやすい内科学 第4版 著者:井村裕夫 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2030-0								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	内科学特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	服部 俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめ講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	木曜日の2時限目に実施。6号館 408号室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.血液、造血器疾患の診断と治療(第1-2回)[赤血球系の疾患、白血球系の疾患など] 2.代謝性疾患の診断と治療(第3-4回)[肥満症、やせ、糖尿病、脂質異常症、痛風、骨粗鬆症] 3.内分泌疾患の診断と治療(第5-6回)[間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患など] 4.感染症の診断と治療(第7-8回)[ウイルス感染症、細菌感染症、スピロヘータ感染症など] 5.膠原病アレルギーの診断と治療(第9-10回)[関節リウマチ、全身エリトマテデスなど] 6.「臨床と病理概論」(第11回)[臨床的事項を病理学的手法により理解する。] 7.実験病理学概論(第12回)「実験病理学的手法及び考え方」 8.消化器発癌予防に関する論文情報の活用(第13回)[論文収集に関する考え方] 9.発表例:活性型ビタミンD3による消化器発癌予防(第14回)[胃・大腸・肝臓発癌の抑制] 10.発表例:H.pyloriと消化器癌(第15回)[H.pylori感染に対するビタミンD3の作用] 16回目に課題についてのレポートを提出する。	1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.講義 16.レポート	1.服部 2.服部 3.服部 4.服部 5.服部 6.服部 7.服部 8.服部 9.服部 10.服部 11.服部 12.服部 13.服部 14.服部 15.服部 16.服部		
教科書 1	わかりやすい内科学 第4版 著者:井村裕夫 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2030-0						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	内科学特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高橋 淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では、学生が内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめ講義する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、内科臨床医としての実務経験を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書での予習、復習を前提にして授業を進める。教科書を必ず持参して授業を受けること。授業に対する取り組みの姿勢については厳しく指導する。						
自己学習	必ず予習、復習をおこなうこと。予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室(6414)にて、水曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 代謝性疾患(1)-糖尿病 2. 代謝性疾患(2)-脂質異常症、痛風、骨粗鬆症 3. 内分泌疾患(1)-症候、検査、治療、下垂体疾患 4. 内分泌疾患(2)-甲状腺・副甲状腺・副腎疾患 5. 腎・泌尿器疾患(1)-症候、検査、治療 6. 腎・泌尿器疾患(2)-慢性腎臓病、腎不全 7. 腎・泌尿器疾患(3)-糸球体腎炎 8. 腎・泌尿器疾患(4)-泌尿器科疾患 9. 血液疾患(1)-症候、検査、治療 10. 血液疾患(2)-貧血、白血病 11. 血液疾患(3)-悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患 12. 膠原病・アレルギー疾患(1)-症候、検査、治療、関節リウマチ 13. 膠原病・アレルギー疾患(2)-SLE、皮膚筋炎、強皮症、血管炎 14. 感染症(1)-症候、検査、治療、細菌性疾患 15. 感染症(2)-真菌性疾患、ウイルス性疾患 16. 試験	1. 講義 2. 講義 3. 講義 4. 講義 5. 講義 6. 講義 7. 講義 8. 講義 9. 講義 10. 講義 11. 講義 12. 講義 13. 講義 14. 講義 15. 講義 16. レポート	1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋 16. 高橋		
教科書 1	なるほどなっとく！内科学 第2版 著者：浅野嘉延(編集) 出版社：南山堂 ISBN：978-4-525-20722-9						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	小児科学特論 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	寺崎 智行					NO.			
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	小児科学の基礎、基本についての理解を深める。 小児の正常な成長・発達を十分に理解し、その上に立って小児期に良く見られる疾患の病態生理と発達障害とは何かを理解すると共に小児への関わりや支援をすることが出来る。								
概要	小児期の特質である発達現象を「生理」と「病理」に分けて系統的に講義する。 前者では臨床的、心理学的および神経生理学的側面から小児の発達の特性を明らかにするとともに、日常での評価基準について述べる。一般小児疾患についても年齢依存性を基礎として概略を講義する。具体的には、成長と発達、小児の栄養、小児保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、消化器、血液造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。 一方、後者については発達障害を中心にして病態、治療、看護の概略を学び、その疫学、社会的対策等についても講義する。これには脳性麻痺、多動性障害、自閉症、学習障害、重症心身障害を含めて概略を講義する。 これらの分野は小児看護学、小児保健学の根幹を成す重要なものであり、派生する諸問題を特論として取り上げ、研究方法の会得もはかる。								
評価方法	授業態度、質疑応答、レポートの提出状況などの内容から総合的に評価する。 講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。								
自己学習	学習した内容をその日の内に簡単にまとめる習慣にする。特に、疑問や解らなかつた点をチェックして、調べておくこと。 次回に質問すること。 予習、復習には各2時間を要する。								
オフィスアワー	6号館4階の寺崎研究室(6420)において、毎週火曜日の4限目をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 成長と発達総論 3. 成長と発達、評価方法 4. 脳および反射の発達変化と疾患 5. 運動発達と疾患 6. 心理学的発達と疾患 7. 循環器の発達と疾患 8. 呼吸器の発達と疾患 9. 消化器の発達と疾患 10. 腎・泌尿器の発達と疾患 11. 先天異常・先天奇形 12. 新生児の特性と疾患 13. 乳児の特性と疾患 14. 乳幼児健康診断と予防注射 15. 学童・思春期の特性と疾患 16. 小児科領域におけるトピック			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎					
教科書 1	特に指定しない。その都度資料を配付する。								
教科書 2									
参考書 1	主にプリント,スライドを使用する。参考書は適宜指示。								
参考書 2									

授業科目名	小児科学特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	寺崎 智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	小児科学の基礎、基本についての理解を深める。 小児の正常な成長・発達を十分に理解し、その上に立って小児期に良く見られる疾患の病態生理と発達障害とは何かを理解すると共に小児への関わりや支援をすることが出来る。						
概要	小児期の特質である発達現象を「生理」と「病理」に分けて系統的に講義する。 前者では臨床的、心理学的および神経生理学的側面から小児の発達の特性を明らかにするとともに、日常での評価基準について述べる。一般小児疾患についても年齢依存性を基礎として概略を講義する。具体的には、成長と発達、小児の栄養、小児保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、消化器、血液造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。 一方、後者については発達障害を中心にして病態、治療、看護の概略を学び、その疫学、社会的対策等についても講義する。これには脳性麻痺、多動性障害、自閉症、学習障害、重症心身障害を含めて概略を講義する。 これらの分野は小児看護学、小児保健学の根幹を成す重要なものであり、派生する諸問題を特論として取り上げ、研究方法の会得もはかる。						
評価方法	授業態度、質疑応答、レポートの提出状況などの内容から総合的に評価する。 講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。						
自己学習	学習した内容をその日の内に簡単にまとめる習慣にする。特に、疑問や解らなかつた点をチェックして、調べておくこと。 次回に質問すること。 予習、復習には各2時間を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の寺崎研究室(6420)において、毎週火曜日の4限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 成長と発達総論 3. 成長と発達、評価方法 4. 脳および反射の発達変化と疾患 5. 運動発達と疾患 6. 心理学的発達と疾患 7. 循環器の発達と疾患 8. 呼吸器の発達と疾患 9. 消化器の発達と疾患 10. 腎・泌尿器の発達と疾患 11. 先天異常・先天奇形 12. 新生児の特性と疾患 13. 乳児の特性と疾患 14. 乳幼児健康診断と予防注射 15. 学童・思春期の特性と疾患 16. 小児科領域におけるトピック		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎 寺崎				
教科書 1	特に指定しない。その都度資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	主にプリント,スライドを使用する。参考書は適宜指示。						
参考書 2							

授業科目名	感染予防特論 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	長町 榮子					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得できる。								
概要	新興感染症の出現、易感染性患者や薬剤耐性菌の増加、各種感経路の拡大などにより院内感染の危険性は増大しており、医療従事者にとって、感染及び感染予防に関する知識は不可欠である。さらに、院内感染において医療従事者を介する伝播が問題となっていることから、医療従事者は、ウイルス性疾患やMRSAなどの病原体の媒介者とならない注意と、そのための健康管理も重要である。そこで、本特論では、医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得させる。								
評価方法	議論の内容(30%)およびレポート等(70%)により総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	積極的に授業、課題等に取り組むことが重要である。								
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。								
オフィス-	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.初期の隔離法1 2.初期の隔離法2 3.CDC隔離システム1 4.CDC隔離システム2 5.普遍的予防策および標準予防策1 6.普遍的予防策および標準予防策2 7.病院の感染対策の原理1 8.病院の感染対策の原理2 9. 隔離予防策の原理1 10. 隔離予防策の原理2 11.感染経路別予防策1 12.感染経路別予防策2 13.空気、飛沫、接触感染予防策の経験的使用1 14.空気、飛沫、接触感染予防策の経験的使用2 15.管理上の対策			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町					
教科書 1			適宜指定する。						
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	感染予防特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	長町 榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得できる。						
概要	新興感染症の出現、易感染性患者や薬剤耐性菌の増加、各種感経路の拡大などにより院内感染の危険性は増大しており、医療従事者にとって、感染及び感染予防に関する知識は不可欠である。さらに、院内感染において医療従事者を介する伝播が問題となっていることから、医療従事者は、ウイルス性疾患やMRSAなどの病原体の媒介者とならない注意と、そのための健康管理も重要である。そこで、本特論では、医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得させる。						
評価方法	議論の内容(30%)およびレポート等(70%)により総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的に授業、課題等に取り組むことが重要である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィス-	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.管理上の対策1 2.管理上の対策2 3.標準予防策1 4.標準予防策2 5.空気予防策1 6.空気予防策2 7.飛沫予防策1 8.飛沫予防策2 9.接触予防策1 10.接触予防策2 11.感染症および病態別予防策1 12.感染症および病態別予防策2 13.感染症および病態別予防策3 14.職業上曝露および曝露後の対応1 15.職業上曝露および曝露後の対応2			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町 長町
教科書 1	適宜指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	細胞・組織学特論 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探究する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。</p>						
概要	<p>生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り返される場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。</p>						
評価方法	<p>講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。一人で実験を行い英語論文が書けるようになってきているかについても見極める。</p>						
履修条件・注意事項	<p>自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。</p>						
自己学習	<p>予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	火曜日2限目、6号館4階井上研究室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の構造 2. 遺伝子の複製 3. 遺伝子の発現(1)転写 4. 遺伝子の発現(2)翻訳 5. 蛋白質の働き 6. 細胞の構造(1)細胞膜 7. 細胞の構造(2)細胞小器官 8. 細胞の構造(3)細胞骨格 9. 細胞膜の透過性 10. 細胞内シグナル伝達機構1 11. 細胞内シグナル伝達機構2 12. 細胞内シグナル伝達機構3 13. 細胞内シグナル伝達機構4 14. 細胞骨格の機能 15. 細胞運動 	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹					
教科書 1	THE CELL 著者:Alberts et al. 出版社:Garland Science ISBN:0-8153-4072-9						
教科書 2							
参考書 1	ISBN:0-8153-4072-9						
参考書 2							

授業科目名	細胞・組織学特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探究する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。</p>						
概要	<p>生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り返される場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。</p>						
評価方法	<p>講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。(20%)さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。(20%)一人で実験を行い英語論文が書けるようになっていくかについても見極める。(60%)なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。</p>						
自己学習	<p>予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	火曜日2限目、6号館4階井上研究室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞間コミュニケーション 2. 細胞周期の機構 3. 細胞周期の分子機構 4. 細胞の増殖と分化1 5. 細胞の増殖と分化2 6. 細胞の老化1 7. 細胞の老化2 8. 細胞死 9. 組織形成 10. 器官形成 11. 実習:細胞培養 12. 実習:細胞と組織の染色 13. 実習:DNA, RNAの分析 14. 実習:遺伝子組み換え 15. 実習:蛋白質の分析 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実習 実習 実習 実習 実習	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	THE CELL 著者:Alberts et al. 出版社:Garland Science ISBN:0-8153-4072-9						
参考書 2							

授業科目名	生理機能特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	水谷 雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の機能のうち、より高度で複雑な生体の調節系について学び、研究のテーマの決定、研究の進め方を身につけることができる。						
概要	看護保健分野とリハビリテーション援助分野に共通な領域として、自律機能(循環・呼吸・消化など)と運動機能(筋・神経・感覚など)について、学部教育をより高度なものに発展させる。生体の機能を学ぶと同時に、生理機能研究法を身につけることができる。						
評価方法	授業態度、質疑応答状態による理解度を50点、期末試験の結果を50点として総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。また後半の英語論文抄読においては英語訳をしっかりと行ってくるのが必須条件である。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	非常勤講師室において、授業の前後で行う。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1.排便反射機構(排尿反射との相似性) 2.腸壁内神経系と腸内反射(蠕動反射)のメカニズム 3.筋収縮のメカニズム 4.骨格筋の収縮の分子機構 5.収縮エネルギー供給機構 6.脊髄反射機構と α - γ 連関 7.感覚器官(筋紡錘とゴルジ腱器官) 8.英語論文の抄読(Introduction) 9.英語論文の抄読(Method1) 10.英語論文の抄読(Method2) 11.英語論文の抄読(Results1) 12.英語論文の抄読(Results2) 13.英語論文の抄読(Discussion1) 14.英語論文の抄読(Discussion2) 15.英語論文の抄読(Reference) 16.試験		AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL 試験	水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷 水谷
教科書 1	標準生理学 第8版 著者:小澤滯司・福田康一郎【監修】 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-00301-8						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎保健看護学特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	長町 榮子、掛谷 益子、市村 美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	看護は実践の科学といわれる。ここでは「看護技術」に焦点をあて、看護技術の現状と看護技術研究の現状から今後の看護技術研究のあり方までを模索し、各自の興味ある看護技術の事象を明らかにできる。看護技術に関する文献検索を行い研究の背景が明らかにでき、文献レビューを作成できる。						
概要	「看護技術」に関して、基礎研究、実験研究、調査研究の3側面から文献検索し、研究の背景についてまとめ文献レビューを作成し、プレゼンテーションを行う。 各回、レポーターを定め、進捗状況を報告するとともにディスカッションを行なう。 レポーターに当たっていない者は、資料を事前に必ず読んで出席し、討議に参加する。						
評価方法	レポーターとしての取り組み姿勢(40%) 討議への参加度(20%) 文献レビューおよびプレゼンテーション(40%) なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	看護技術に関して興味・関心、問題意識をもっており、研究テーマに考えている。 研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	研究内容に関しての論文を検索し、いつでも利用できるように整理する。これらの文献の中から自己の研究課題に近い論文を読み込み、プレゼンテーションできるようにまとめる。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	水曜日2時限目 研究室(6号館4階)にて実施する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション		AL	長町・掛谷・市村				
2. 看護技術に関する基礎研究の文献検索		AL	長町				
3. 看護技術に関する基礎研究の文献検索		AL	長町				
4. 看護技術に関する基礎研究の背景		AL	長町				
5. 看護技術に関する基礎研究の文献レビュー		AL	長町				
6. 看護技術に関する基礎研究の背景のプレゼンテーション		AL	長町				
7. 看護技術に関する実験研究の文献検索		AL	市村				
8. 看護技術に関する実験研究の背景		AL	市村				
9. 看護技術に関する実験研究の文献レビュー		AL	市村				
10. 看護技術に関する実験研究の背景のプレゼンテーション		AL	市村				
11. 看護技術に関する調査研究の文献検索		AL	掛谷				
12. 看護技術に関する調査研究の背景		AL	掛谷				
13. 看護技術に関する調査研究の文献レビュー		AL	掛谷				
14. 看護技術に関する調査研究のプレゼンテーション		AL	掛谷				
15. 実験研究・調査研究のポイント		AL	掛谷				
教科書 1	必要時提示						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅰ 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	長町 榮子、掛谷 益子、市村 美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	作成した研究計画書を基に、データを収集、整理し、分析を行うことができる。						
概要	基礎研究、実験研究、調査研究について文献検索し、研究の背景についてまとめ、それらの文献から論文を選択して文献検討を行い、研究計画書を作成した。これらの基礎保健看護学特論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、ディスカッションを行いながら具体的な解析方法を学ぶ。						
評価方法	研究遂行姿勢及び研究指導に対する姿勢(40%)、プレゼンテーション(40%)、討議での発言状況などの参加度(20%)を総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	研究内容に関する論文を検索し整理する。それらの文献の中から自己の研究課題に近い論文から、データ収集・整理方法や分析方法などについてディスカッションするので、十分な理解が必要である。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	水曜日2時限目 研究室(6号館4階)にて実施する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. データ収集及びディスカッション(1)		AL	長町・掛谷・市村				
2. データ収集及びディスカッション(2)		AL	長町・掛谷・市村				
3. データ収集及びディスカッション(3)		AL	長町・掛谷・市村				
4. データ収集及びディスカッション(4)		AL	長町・掛谷・市村				
5. データ収集及びディスカッション(5)		AL	長町・掛谷・市村				
6. データ整理及びディスカッション(1)		AL	長町・掛谷・市村				
7. データ整理及びディスカッション(2)		AL	長町・掛谷・市村				
8. データ整理及びディスカッション(3)		AL	長町・掛谷・市村				
9. データ整理及びディスカッション(4)		AL	長町・掛谷・市村				
10. データ整理及びディスカッション(5)		AL	長町・掛谷・市村				
11. データ分析及びディスカッション(1)		AL	長町・掛谷・市村				
12. データ分析及びディスカッション(2)		AL	長町・掛谷・市村				
13. データ分析及びディスカッション(3)		AL	長町・掛谷・市村				
14. データ分析及びディスカッション(4)		AL	長町・掛谷・市村				
15. データ分析及びディスカッション(5)		AL	長町・掛谷・市村				
教科書 1	必要時指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	長町 榮子、掛谷 益子、市村 美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	基礎保健看護学特論Ⅰでの関連文献の検索をもとに、文献検討を実施することで、クリティークの視点を持つことができる。また、先行文献で何がどこまで解明されているかについて明らかにし、実現可能な研究計画書を作成することができる。						
概要	基礎保健看護学特論Ⅰで検索した文献の感染予防、臨床薬理学、看護技術それぞれの中から論文を選択し、文献検討を実施する。文献検討をじっくり行うことで、学生自身の研究テーマが明らかになり、そのテーマに関して何がどこまで解明されているかを明らかにする。また、さらなる文献はどういうものが必要かを討議する。						
評価方法	文献検討に取り組む姿勢20% 文献検討についてのプレゼンテーション内容および準備資料60% 研究計画書の作成状況20% なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	水曜日2限目 研究室(6号館4階)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.感染予防の基礎知識に関する文献検討(1) 2.感染予防の基礎知識に関する文献検討(2) 3.臨床薬理学に関する文献検討(1) 4.臨床薬理学に関する文献検討(2) 5.看護技術のエビデンスに関する文献検討(1) 6.看護技術のエビデンスに関する文献検討(2) 7.看護技術・実験研究に関する文献検討(1) 8.看護技術・実験研究に関する文献検討(2) 9.看護技術・調査研究に関する文献検討(1) 10.看護技術・調査研究に関する文献検討(2) 11.看護師が実施する感染対策に関する文献検討(1) 12.看護師が実施する感染対策に関する文献検討(2) 13.研究計画書(1) 14.研究計画書(2) 15.研究計画書(3) 16.まとめ	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	長町 長町 長町 長町 市村 市村 市村 市村 掛谷 掛谷 掛谷 掛谷 掛谷 長町 市村 掛谷 長町・掛谷・市村		
教科書 1	随時指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	長町 榮子、掛谷 益子、市村 美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	文献検索、プレゼンテーションの方法を学び、修士論文を作成することができる。						
概要	基礎研究、実験研究、調査研究について文献検索し、研究の背景についてまとめ、それらの文献から論文を選択して文献検討を行い、研究計画書を作成した。これらの基礎保健看護学特論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、ディスカッションを行いながら具体的な解析方法を学んだ。この基礎保健看護学特論Ⅰ演習に引き続き、考察、文献検索、抄録の作成方法、プレゼンテーション(パワーポイント作成、発表方法)について学び、論文を作成する。						
評価方法	研究遂行姿勢及び研究指導に対する姿勢(40%)、プレゼンテーション(40%)、討議での発言状況などの参加度(20%)を総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「看護技術」に関して興味・関心、問題意識をもっており、研究テーマについて考えている。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにすること。 研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	研究内容に関する論文を検索し整理する。それらの文献の中から自分の研究課題に近い論文を引用文献とするので、論文内容について十分に理解する。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	水曜日2時限目 研究室(6号館4階)にて実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 考察及び文献検索(1) 2. 考察及び文献検索(2) 3. 考察及び文献検索(3) 4. 考察及び文献検索(4) 5. 考察及び文献検索(5) 6. 論文作成(1) 7. 論文作成(2) 8. 論文作成(3) 9. 論文作成(4) 10. 論文作成(5) 11. プレゼンテーション(1) 12. プレゼンテーション(2) 13. プレゼンテーション(3) 14. プレゼンテーション(4) 15. 抄録作成 16. 論文確認			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	長町・掛谷・市村 " " " " " " " " " " " " " " " "
教科書 1	必要時指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	母性・小児保健看護学特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期		
担当者	寺崎 智行、安福 真弓、福岡 美和					NO.	KM3115206	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	現代社会に生きる子どもと家族の今日的な問題について考究し、母子看護の役割を説明できる。							
概要	少子・高齢社会の中で、子どもや家族の生活も多様化している。現代社会に生きる子どもと家族の今日的な問題について文献検討を行いながら、看護支援の在り方を探求する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。							
評価方法	レポート(50%)・プレゼンテーション(30%)、授業への取組み状況(20%)により総合的に評価する。なお、講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに直しておくこと。							
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないように、事前準備、ディスカッションなどを含め積極的な学習を望む。							
自己学習	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしなが、自分なりのノートを作成する。なお予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスアワー	月曜2限(11:10~12:40)に個人研究室(6405)にて対応。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション(導入と進行確認)		講義	寺崎・福岡・安福 福岡					
2. 母子保健・医療・福祉・看護の動向・多様化する家族		AL						
3. 子どもの身体変化と生活習慣		AL	安福					
4. メディア社会に生きる子どもと家族の健康		AL	安福					
5. 不登校		AL	寺崎・安福					
6. 子どものうつ病		AL	寺崎・安福					
7. 子どもや家族を取り巻く環境と育児不安		AL	寺崎・安福					
8. 児童虐待とDV		AL	寺崎・安福					
9. 子どもの不慮の事故		AL	寺崎					
10. 思春期の喫煙・飲酒・薬物		AL	寺崎					
11. 若者の性意識と性感染症		AL	福岡					
12. 子どもとアレルギー		AL	寺崎					
13. 現代社会と子どもの生・死		AL	寺崎・安福					
14. 子どもの発達障害と大人の発達障害		AL	寺崎					
15. ワクチンで防げる感染症(予防接種事情)		AL	寺崎					
教科書 1	適宜提示する							
教科書 2								
参考書 1	適時提示する							
参考書 2								

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	寺崎 智行、安福 真弓、福岡 美和					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 演習
テーマと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや家族を支える諸理論・概念について説明できる。 母子保健、医療、福祉、看護分野の現状について理解を深める。 子どものストレス反応や対処行動に関する考え方について理解を深める。 母子看護領域のチーム医療における看護の役割について理解を深める。 子どもの権利擁護の考え方を基盤に、小児看護の倫理的課題について説明できる。 						
概要	<p>人間は、胎生期の成長過程においては母体の心身の健康状態に強い影響を受け、人の基盤形成期である乳幼児期においてはその子どもを取り巻く家族や地域の環境の影響を受けながら、相互作用の中で成長・発達していく。母子を対象とする保健・医療・福祉分野においては、子どもと家族を一体ととらえて、その子の健やかな成長・発達の促進と家族の安心した生活が確保されるようなケアが求められる。母性・小児看護学特論Ⅰに引き続き、そのための基礎を習得する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。</p>						
評価方法	レポート(50%)・プレゼンテーション(30%)、授業への取組状況(20%)により総合的に評価する。なお、講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。						
自己学習	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしなが、自分なりのノートを作成する。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	月曜2限(11:10～12:40)に個人研究室(6405)にて対応。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(導入と進行確認) 2. 母性看護と医療制度 3. 小児看護と医療制度 4. 母子看護とストレスコーピング理論 5. 子どものストレスコーピング(文献検討) 6. 遊びの発達とプレパレーション(1) 7. 遊びの発達とプレパレーション(2)(文献検討) 8. 小児看護における倫理(1) 9. 小児看護における倫理(2)文献検討 10. 母性看護と看護理論(1) 11. 母性看護と看護理論(2)文献検討 12. 小児看護と看護理論(1) 13. 小児看護と看護理論(2)文献検討 14. 母性看護と多職種連携 15. 小児看護と多職種連携 				
教科書 1	適宜提示する。						
教科書 2							
参考書 1	適宜提示する。						
参考書 2							

授業科目名	成人・老年保健看護学特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	竹崎 和子、柘野 浩子、門倉 康恵					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習 AL
テーマと到達目標	成人期・老年期は人生の中で最も長い期間を占めており、様々な課題とともに健康問題が生じやすい。このため、家族も含めた人生の集大成に向けての歩みを支えることが求められる。この授業では、大学院生が臨床における実践や文献をもとに授業での討論を経て、成人期・老年期に求められる看護について考察を深めることができるようになる。						
概要	成人・老年保健看護学領域における課題に対する文献や著書、自分自身の経験をもとに論述する。 実務経験の教員による授業科目 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された課題レポートの内容について評価する(60%)。なお、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までには見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を抽出し、明確な質疑応答ができること。						
自己学習	自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しレポートに纏める。また講義の中でも自ら研究課題に関してまとめておくこと。また自己学習をもとに討議できるようにしておく。 自己学習時間は、予習、復習各最低2時間は確保すること。						
オフィスワ-	水曜2限、6号館4階 看護セミナー室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の検索 2.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の検索 3.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 4.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 5.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 6.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 7.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 8.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 9.成人・老年保健看護学領域に関する参考文献・著書の精読 10.院生のプレゼンテーションとディスカッション 11.院生のプレゼンテーションとディスカッション 12.院生のプレゼンテーションとディスカッション 13.院生のプレゼンテーションとディスカッション 14.院生のプレゼンテーションとディスカッション 15.まとめ		1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.AL 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.演習	1.竹崎・柘野・門倉 2.竹崎・柘野・門倉 3.竹崎・柘野・門倉 4.竹崎・柘野・門倉 5.竹崎・柘野・門倉 6.竹崎・柘野・門倉 7.竹崎・柘野・門倉 8.竹崎・柘野・門倉 9.竹崎・柘野・門倉 10.竹崎・柘野・門倉 11.竹崎・柘野・門倉 12.竹崎・柘野・門倉 13.竹崎・柘野・門倉 14.竹崎・柘野・門倉 15.竹崎・柘野・門倉				
教科書 1	資料及び参考論文は適宜配布する						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	成人・老年保健看護学特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	竹崎 和子、柘野 浩子、門倉 康恵					NO.	
配当学科	看護			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習 AL
テーマと到達目標	成人・老年保健看護学の視点から成人期・老年期の対象とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、各自興味のある成人・老年保健看護学の事象を明らかにできる。 成人・老年保健看護学に関する文献検索を行い、研究の背景が明らかにでき、文献レビューを作成できる。						
概要	成人・老年保健看護学領域に関して、基礎研究・実験研究・調査研究の側面から文献検索を行い、研究の背景についてまとめ、文献レビューを作成し、プレゼンテーションを行う。 実務経験の教員による授業科目 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する。						
評価方法	課題へ取り組む姿勢、発表態度、レポート等を組み合わせて評価(取組の姿勢・態度評価:50%、レポート評価50%)する。なお、評価のために実施した課題など授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献レビューをもとに自らの考察をしたうえで授業に出席すること。						
自己学習	予習:毎回の課題とする文献をクリティークし、レポートにまとめ授業に臨むこと。 文献抄読、レポート作成のために最低2時間は必要である。 復習:毎回の授業内容を確認し、自分なりにノートに纏めるため最低2時間は必要である。						
オフィスワ-	水曜2限、6号館4階 看護セミナー室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.成人・老年保健看護学に関する参考文献の検索(基礎研究) 2.成人・老年保健看護学に関する参考文献の検索(実験研究) 3.成人・老年保健看護学に関する参考文献の検索(調査研究) 4.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(基礎研究) 5.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(基礎研究) 6.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(実験研究) 7.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(実験研究) 8.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(調査研究) 9.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(調査研究) 10.成人・老年保健看護学に関する参考文献の精読(調査研究) 11.院生のプレゼンテーションとディスカッション 12.院生のプレゼンテーションとディスカッション 13.院生のプレゼンテーションとディスカッション 14.院生のプレゼンテーションとディスカッション 15.まとめ		1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.演習 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.演習	1.竹崎・柘野・門倉 2.竹崎・柘野・門倉 3.竹崎・柘野・門倉 4.竹崎・柘野・門倉 5.竹崎・柘野・門倉 6.竹崎・柘野・門倉 7.竹崎・柘野・門倉 8.竹崎・柘野・門倉 9.竹崎・柘野・門倉 10.竹崎・柘野・門倉 11.竹崎・柘野・門倉 12.竹崎・柘野・門倉 13.竹崎・柘野・門倉 14.竹崎・柘野・門倉 15.竹崎・柘野・門倉				
教科書 1	資料及び参考論文は適宜配布する						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期			
担当者	竹崎 和子、柘野 浩子、門倉 康恵					NO.			
配当学科	看護				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習 AL		
テーマと到達目標	成人・老年保健看護学特論Ⅰに引き続いて受講することを前提に、成人・老年看護学領域における研究課題を明確にし、関連する文献や著書を精読の上、看護実践への適用について探求する。 成人・老年保健看護学領域の研究課題に対して、自らの考えを論述することができる。								
概要	成人・老年保健看護学の視点から対象者とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、研究課題を絞り込むことができる。成人・老年期の看護に関連する研究的課題を概観するとともに、自らも看護的な側面から成人・老年期の人々が抱える課題に関心と興味を持つとともに、自らの研究課題をフォーカスする。 実務経験の教員による授業科目 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する。								
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された課題レポートの内容について評価する(60%)。尚、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までには見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	毎回、指示された課題に関してレポートとしてまとめ発表する。自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しレポートに纏める。また講義の中でも自ら研究発表ができるように研究課題に関して、まとめておくこと。								
自己学習	各講義について、指定文献の読み込みやレポート提出に向けて、予習、復習各最低2時間の自己学習時間を確保する。								
オフィスワ-	水曜日 昼休憩 6号館4階 看護セミナー室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年保健看護学に関する研究課題の絞り込み 2. キーワードの絞り込み 3. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の検索 4. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の検索 5. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の精読 6. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の精読 7. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の精読 8. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の精読 9. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の精読 10. 成人・老年保健看護学に関する参考文献(著書)の精読 11. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 12. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 13. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 14. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 15. まとめ 			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. 演習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 竹崎・柘野・門倉 2. 竹崎・柘野・門倉 3. 竹崎・柘野・門倉 4. 竹崎・柘野・門倉 5. 竹崎・柘野・門倉 6. 竹崎・柘野・門倉 7. 竹崎・柘野・門倉 8. 竹崎・柘野・門倉 9. 竹崎・柘野・門倉 10. 竹崎・柘野・門倉 11. 竹崎・柘野・門倉 12. 竹崎・柘野・門倉 13. 竹崎・柘野・門倉 14. 竹崎・柘野・門倉 15. 竹崎・柘野・門倉
教科書 1	資料及び参考文献は適宜配布する								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	竹崎 和子、柘野 浩子、門倉 康恵					NO.		
配当学科	看護				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習 AL	
テーマと到達目標	<p>成人・老年保健看護学の視点から対象者とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、看護実践するうえで基盤となる主要な概念・理論を踏まえ、実践への適用について探求する。</p> <p>成人・老年保健看護学において、自らが課題と考えるテーマについて文献検索を行い、文献レビューを作成することができる。</p>							
概要	<p>成人・老年保健看護学領域での研究の課題と新規性について講義すると共に自らが課題提示をする。テーマに応じた文献検索を行い、文献レビューを作成し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>実務経験の教員による授業科目 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する。</p>							
評価方法	<p>講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また最終提出された課題レポートの内容について評価する(60%)。尚、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までには見直しておくこと。</p>							
履修条件・注意事項	成人・老人保健看護学特論Ⅱの履修を条件とする。							
自己学習	自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しレポートに纏める。また講義の中でも自ら研究課題に関してまとめておくこと。また自己学習をもとに討議できるようにしておく。その準備に予習、復習各最低4時間の自己学習時間を確保すること。							
オフィスワ-	水曜日 昼休憩 6号館4階 看護セミナー室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年保健看護学領域に関する課題の明確化 2. キーワードの選定 3. 成人・老年保健看護学領域に関する文献検索 4. 成人・老年保健看護学領域に関する文献検索 5. 成人・老年保健看護学領域に関する文献の査読 6. 成人・老年保健看護学領域に関する文献の査読 7. 成人・老年保健看護学領域に関する文献の査読 8. 成人・老年保健看護学領域に関する文献の査読 9. 成人・老年保健看護学領域に関する文献の査読 10. 成人・老年保健看護学領域に関する文献の査読 11. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 12. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 13. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 14. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 15.まとめ 			<ol style="list-style-type: none"> 1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.演習 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.演習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 竹崎・柘野・門倉 2. 竹崎・柘野・門倉 3. 竹崎・柘野・門倉 4. 竹崎・柘野・門倉 5. 竹崎・柘野・門倉 6. 竹崎・柘野・門倉 7. 竹崎・柘野・門倉 8. 竹崎・柘野・門倉 9. 竹崎・柘野・門倉 10. 竹崎・柘野・門倉 11. 竹崎・柘野・門倉 12. 竹崎・柘野・門倉 13. 竹崎・柘野・門倉 14. 竹崎・柘野・門倉 15. 竹崎・柘野・門倉 	
教科書 1	資料及び参考論文は適宜配布する							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	広域保健看護学特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中瀬 克己、田中 富子、中嶋 貴子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	疫学入門:調査研究理論と方法 集団を対象とした保健活動を進めるにあたって、健康問題の把握・実践活動・評価の各段階で、疫学的な検討が欠かせない。一方、疫学はEBMの基礎理論でもあり、応用範囲は広がっている。 この授業により、自ら調査研究を行う場合はもちろん、他の文献を読み、吟味する際にも必要な基礎知識が身につく。						
概要	受講生の疫学に関する理解度・習熟度は入学までの経歴等によって様々なので、講義内容は受講生によって変わる可能性がある。また、受講者の研究計画なども考慮して、できるだけ柔軟に対応したい。大まかな内容としては、疫学的アプローチの方法、集めたデータの処理法、文献の批判的吟味などを考えている。 以下の授業計画は、保健師課程を履修していない全くの初心者想定している。						
評価方法	試験(80%)のみでなく、受講態度(10%)、レポートの内容(10%)で総合的に評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験(口頭試験)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、積極的な学習を望む。						
自己学習	疫学初心者にとっては取っつきにくいかも知れないので、予習復習を欠かさず、疑問点を持ち越さないこと。 毎回、予習復習を兼ねた課題を課すので、次回までに必ず仕上げ提出すること。 これらを含め、1回の授業あたり、予習復習には2時間ずつを要する。						
オフィスアワー	6号館4階6424研究室(変更があり得る)にて、毎週水曜2限(教授会がある日を除く)または木曜2限を、オフィスアワーとする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション、疫学とは 2. 調査理論(1) 母集団と標本 3. 調査理論(2) 質問紙の作成法 4. 疫学調査法(1) 疾病量の把握法 5. 疫学調査法(2) コホート調査と症例対照調査 6. 疫学調査法(3) 疫学指標 7. 疫学調査法(4) 介入調査 8. 疫学調査法(5) バイアスと交絡因子 9. 疫学調査法(6) 因果関係 10. 疫学に必要な統計(1) 既存統計の利用 11. 疫学に必要な統計(2) 記述統計 12. 疫学に必要な統計(3) 推定と検定の考え方と方法 13. 疫学に必要な統計(4) 推定と検定の実際 14. 疫学に必要な統計(5) 多変量解析入門 15. 臨床疫学入門 16. 試験(口頭試験)	講義 講義 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習 講義 講義 試験	中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬					
教科書 1	特に定めない。						
教科書 2							
参考書 1	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 その他授業時に紹介する。 著者:木原雅子(翻訳),木原正博(翻訳),Stephen B Hulley, Steven R Cummings MD他著 出版社:メディカルサイエンスインターナショナル ISBN:ISBN-10:4895927830 ISBN-13:978-4895927833						
参考書 2							

授業科目名	広域保健看護学特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	田中 富子、中嶋 貴子、中瀬 克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	疫学調査研究を計画し、実行し、収集したデータを処理して、結果を考察し、報告書や論文にまとめられる能力を身につける。あわせて、研究倫理についても身につける。						
概要	内容は、研究テーマや調査方法によって柔軟に対応したいが、これまでに蓄積された調査データを元に、個人が特定できないよう一部加工してあるものを中心に、実際にデータの分析等を試みる。						
評価方法	期末試験(50%)、提出課題の内容(40%)を重視するが、受講態度や授業中の発言などを含め(10%)、総合的に評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験(口頭試験)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	データの集計等では、当然のことながら、パソコンを使用する。自前のパソコンを用意しておくことが望ましい。						
自己学習	毎回課題を出すので、次回までにやっておくこと。それが予習・復習にもなり、毎回かなりの時間を割くことになるはずである。これらを含め、1回の授業あたり、予習復習には2時間ずつを要する。						
オフィスアワー	6号館4階6424研究室(変更があり得る)にて、毎週水曜2限(教授会がある日を除く)または木曜2限を、オフィスアワーとする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 調査計画(目的・対象・方法等)		演習	中瀬				
2. 調査にあたっての手続き・関係者との調整(倫理審査を含む)		演習	中瀬				
3. 調査の実施(回収法・回収率等の検討)		演習	中瀬				
4. データのチェックと入力(矛盾回答・無効回答などの扱い)		演習	中瀬				
5. データの集計(素集計と入力ミスのチェック)		演習	中瀬				
6. カテゴリ・データの扱い(クロス集計)		演習	中瀬				
7. カテゴリ・データの扱い(3次元以上のクロス集計)		演習	中瀬				
8. 数値データの扱い		演習	中瀬				
9. 順序データの扱い		演習	中瀬				
10. 集計結果についての検定と推定		演習	中瀬				
(1) カテゴリ・データ							
11. 集計結果についての検定と推定		演習	中瀬				
(2) 数値データ							
12. 集計結果についての検定と推定		演習	中瀬				
(3) 順序データ							
13. 多変量解析の意義		演習	中瀬				
14. 結果についての考察		演習	中瀬				
15. . . 試験(口頭試験)		試験	中瀬				
教科書 1	教科書の使用は考えていない。						
教科書 2							
参考書 1	その都度紹介する。						
参考書 2							

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	中瀬 克己、田中 富子、中嶋 貴子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	公衆衛生看護活動を提供する職場・地域・家庭・学校の様々な生活場面において、対象者を総合的に捉えライフサイクルに添った継続的・包括的な看護ケアに関する、文献レビューや現地調査・支援介入・アクションリサーチに関する方法論をとって研究的視点で学ぶ。職域や地域・学校等における公衆衛生看護に関する領域の文献により研究を進める上での基本的知識を身につける。また、各担当者毎にレポートや発言内容のフィードバックを行い、理解を深める。						
概要	地域看護活動の中の、職場・地域・家庭・学校のそれぞれの領域における先行研究や関係資料の探索や購読力を養う。また、ディスカッションを行う中で社会的背景や健康課題の理解を深め、研究的思考力を高めるようにする。授業担当者ごとに講義の最後の日には学んだことをプレゼンテーションで発表させ、参加者同士で質疑応答や意見交流をする中でプレゼンテーション能力、質問力も身につける。 この科目は、学校保健や行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし、地域看護学領域における健康課題や予防に関するテーマを中心とした授業・研究指導を行う。						
評価方法	認定試験(50%), 受講態度(10%), レポートの内容(20%), ディスカッションでの発言内容(20%)などによる総合的な評価とする。評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、予習・復習を行い積極的に学習に臨むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
自己学習	公衆衛生看護の中の職場・地域・家庭・学校の様々な生活場面における包括的看護ケアに関して、文献レビューや調査・介入に関連する領域の文献から基本的知識を身につけておくこと。なお、予習・復習にかかる時間は各2時間程度とする。						
オフィスワ-	各個人研究室(田中は6406号室、中嶋は6422号室、増本は6421号室)にて火曜日4次限で行う。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.公衆衛生看護活動の展開方法と対象 2.地域ケアシステムの育成と保健師の機能 3.ソーシャルキャピタル醸成と地域づくり 4.公衆衛生看護領域の文献レビューとクリティーク① 5.公衆衛生看護領域の文献レビューとクリティーク② 6.訪問看護・ACTに関する理論と実践 7.リエゾン精神看護に関する理論と実践 8.地域で生活している精神障害者に対する健康支援 9.地域精神看護領域の文献レビューとクリティーク 10.の拠点事業精神領域における多職種連携 11.ヘルスプロモーションとは 12.地域におけるヘルスプロモーション 13.健康課題と保健師の役割 14.地域保健領域の文献レビュー 15..地域保健領域の文献クリティーク	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	田中 田中 田中 田中 田中 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 田中 田中 田中 田中		
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探究する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性などを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探究する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、火曜日の4時限目を実施。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回:動作解析の方法論①		AL	河村顕治				
第2回:動作解析の方法論②		AL	河村顕治				
第3回:動作解析の方法論③		AL	河村顕治				
第4回:Closed Kinetic Chain①		AL	河村顕治				
第5回:Closed Kinetic Chain②		AL	河村顕治				
第6回:Closed Kinetic Chain③		AL	河村顕治				
第7回:立ち上がりの筋張力解析①		AL	河村顕治				
第8回:立ち上がりの筋張力解析②		AL	河村顕治				
第9回:歩行動作の筋張力解析①		AL	河村顕治				
第10回:歩行動作の筋張力解析②		AL	河村顕治				
第11回:CKCでの二関節筋の作用①		AL	河村顕治				
第12回:CKCでの二関節筋の作用②		AL	河村顕治				
第13回:CKCでの二関節筋の作用③		AL	河村顕治				
第14回:単関節筋と二関節筋の協調		AL	河村顕治				
第15回:単関節筋と二関節筋の協調		AL	河村顕治				
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本特論は、研究における進め方の基本を学ぶことに主眼を置く。その中で運動障がい者のリハビリテーションに関する研究課題や研究方法について理解を深め、自分の意見を表明できることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを紹介する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回、何らかのテーマを持っていくこと。欠席の場合は、前もって連絡のこと。時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10~12:40)をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. リハビリテーションと研究 2. リハビリテーション研究の概要 3. リハビリテーション研究の過程 4. リハビリテーション研究の範囲 5. リハビリテーション研究の流れ 6. リハビリテーションにおける今日の課題① 7. リハビリテーションにおける今日の課題② 8. リハビリテーションにおける今日の課題③ 9. 研究テーマの探し方① 10. 研究テーマの探し方② 11. 研究の展開と問題解決手順① 12. 研究の展開と問題解決手順② 13. 研究の流れと研究計画① 14. 研究の流れと研究計画② 15. 統計学的手法の選択		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹				
教科書 1	必要な資料等は適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	森下 元賀					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	「脳血管障害の理学療法介入」をテーマとして、脳血管障害の機能改善機序および同疾患のリハビリテーション介入に関する知見を学習し、エビデンスの高い理学療法介入に関して説明できることを目標とする。								
概要	脳血管障害のリハビリテーションにおいて、様々な治療的介入が存在する中で、臨床において標準的な介入が運動器疾患ほど浸透していない理由に関して考えていきたい。また、脳血管障害の機能回復機序を最新の知見をもとに考え、標準的かつ有効な介入方法を検討していく。特にガイドライン、研究発表で有効とされている内容と臨床の理学療法士が経験的に有効と確信していることとのギャップがなぜ生まれるのか、どのようにして解消するのかということにも焦点を当てていく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。								
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、レポート課題(60%)、プレゼンテーション課題(40%)として評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。								
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。								
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 脳血管障害の概要 2. 正常な脳機能の知見 3. 脳機能障害と回復の知見 4. 脳機能とリハビリテーション 5. 神経生理学、神経科学的解釈 6. 神経心理学的解釈 7. 運動学習理論 8. ガイドラインとエビデンス 9. 臨床における現状の問題点 10. 現在行われている治療法の批判的吟味 11. 適切なアウトカム指標 12. 推奨される治療的介入 13. 課題プレゼンテーション1 14. 課題プレゼンテーション2			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL AL	森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下					
教科書 1	適宜資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	運動機能障害援助特論 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	森 芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の成因と診断・治療」をテーマに講義する。関節の解剖・生理、関節障害の病態、痛みの発生機序や最新の診断法、治療法を学び、理学療法士としての基礎知識を身につけることを目標とする。						
概要	本講では関節障害の成因と診断・治療に主眼をおき講義する。まず、関節軟骨の基礎、軟骨障害の診断と再生治療を中心とした最新の軟骨修復について講義する。また、関節障害に起因する痛みの基礎を学び痛みへの対処法について探求する。さらに、関節障害の診断について、理学的検査から内視鏡を中心とした観血的診断法まで、最新の検査法や、理学療法士に必要な関節運動の生体力学的解析法について講義する。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%), 課題(70%) なお、評価のために実施した課題は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試験)までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.軟骨の基礎 2.軟骨障害の基礎 3.軟骨修復の基礎 4.軟骨修復の臨床 5.関節痛の構造的病態 6.関節痛の生理 7.関節痛の治療(薬物治療) 8.関節痛の治療(理学療法) 9.関節障害の診断(理学的検査) 10.関節障害の診断(血液生化学的検査) 11.関節障害の診断(画像的診断XP) 12.関節障害の診断(画像的診断MRI) 13.関節障害の診断(観血的診断) 14.関節障害の診断(関節音の解析) 15.まとめ(口頭試問)	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森					
教科書 1	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	骨と軟骨のバイオロジー ―基礎から臨床への展開 著者:藤井克之 井上一 出版社:金原出版社 ISBN:978-4-307-25117-4						
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探究する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性などを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探究する。本演習では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義し、実際にデータを計測する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況および演習の内容(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各演習計画および、前回講義で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて演習を受けること。 また、復習として、毎回の演習の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
第1回:動作解析の方法論①	AL	河村顕治					
第2回:動作解析の方法論②	AL	河村顕治					
第3回:動作解析の方法論③	AL	河村顕治					
第4回:Closed Kinetic Chain①	AL	河村顕治					
第5回:Closed Kinetic Chain②	AL	河村顕治					
第6回:Closed Kinetic Chain③	AL	河村顕治					
第7回:立ち上がりの筋張力解析①	AL	河村顕治					
第8回:立ち上がりの筋張力解析②	AL	河村顕治					
第9回:歩行動作の筋張力解析①	AL	河村顕治					
第10回:歩行動作の筋張力解析②	AL	河村顕治					
第11回:CKCでの二関節筋の作用①	AL	河村顕治					
第12回:CKCでの二関節筋の作用②	AL	河村顕治					
第13回:CKCでの二関節筋の作用③	AL	河村顕治					
第14回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治					
第15回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治					
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中嶋 正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 ここでは変形性膝関節症を取り上げ、変形性膝関節症に対する理学療法を学び、治療理論、機序を再考する。						
概要	運動機能障害に対する理学療法において、適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり、その上で運動学はもとより解剖学、生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では、実務経験を持つ担当教員が細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患について解説し、障害および症状に対する理学療法について文献抄読および実習を通して再考し問題点について論ずる力を獲得する。						
評価方法	文献収集等の取り組み姿勢(30%)、内容の理解や質疑応答における発言状況(30%)、および問題点について論理的に論ずる力(40%)を総合的に評価する。 なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	適宜、実習を行う。						
自己学習	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 予習および復習には各2時間程度を有する。						
オフィスワ-	水曜日3限, 6号館3階中嶋研究室(6329)にて						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.変形性膝関節症の痛み(評価1) 2.変形性膝関節症の痛み(評価2) 3.変形性膝関節症と膝関節アライメント 4. 膝関節アライメントと軟骨細胞のアポトーシス 5.変形性膝関節症と下肢筋力 6.大腿四頭筋筋力強化(OKC, CKC) 7.大腿四頭筋筋力強化(拮抗筋の同時収縮) 8.筋力強化(筋肥大の条件1) 9.筋力強化(筋肥大の条件2) 10.関節運動と抗炎症サイトカイン1 11.関節運動と抗炎症サイトカイン2 12.関節運動と軟骨細胞の新陳代謝1(強度) 13.関節運動と軟骨細胞の新陳代謝1(頻度) 14.変形性膝関節症の保存療法の実際1 15.変形性膝関節症の保存療法の実際2		講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL	中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明				
教科書 1	骨と軟骨のバイオロジー 著者:藤井 克之 他 出版社:金原出版 ISBN:978-4307251174						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本特論は、研究における進め方の基本を学ぶことに主眼を置く。その中で運動障がい者のリハビリテーションに関する研究課題や研究方法について理解を深め、自分の意見を表明できることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを探求する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	運動学を理解していることを前提とする。時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10~12:40)をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 動作解析方法論① 2. 動作解析方法論② 3. 動作解析方法論③ 4. 静的姿勢について① 5. 静的姿勢について② 6. 動的姿勢について① 7. 動的姿勢について② 8. 立位姿勢解析① 9. 立位姿勢解析② 10. 立位姿勢解析③ 11. 立位姿勢解析④ 12. 立位姿勢解析⑤ 13. 計測結果の分析① 14. 計測結果の分析② 15. 計測結果の分析③		講義 講義 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹				
教科書 1	必要な資料等は適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	森下 元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「脳血管障害に関する実験的研究の方法論」をテーマとして、各自の研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。動作および認知課題を複合した、より対象者の生活に反映できる評価手法、標準的理学療法介入に関して説明できるようになることを目標とする。						
概要	現状の脳血管障害の対象者が抱えている問題点に関して、身体的側面からだけでなく、心理的側面、認知課題、環境との相互作用などの複合的な側面から問題を捉える。そこから限定された環境の中での対象者の能力だけでなく、より生活に即した評価の方法、治療的介入に関して考えていく。標準的な介入の構築に加えて、個人の状態において何を考慮して実践していくべきなのか。エビデンスの使用方法和臨床実践に関しても探究していく。この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、各回の課題(30%)、まとめとしてのレポート課題(30%)、プレゼンテーション内容(40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 研究内容に関する最新の知見の講義		講義	森下				
2. 研究内容に関する文献の収集方法		演習	森下				
3. 研究内容に関する収集文献の発表1		AL	森下				
4. 研究内容に関する収集文献の発表2		AL	森下				
5. 教員による総括		演習	森下				
6. 研究方法論に関して(臨床疫学)		演習	森下				
7. 研究方法論に関して(データ収集)		演習	森下				
8. 研究方法論に関して(データ解析)		演習	森下				
9. 研究内容の発表の方法		演習	森下				
10. 研究内容の要旨の報告		演習	森下				
11. 研究内容のプレゼンテーション		演習	森下				
12. 研究内容のまとめ方		演習	森下				
13. 研究内容の報告書の作成		AL	森下				
14. 全体的総括		AL	森下				
教科書 1	適宜資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	森 芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害診断の実際」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI画像の読影、筋電計や重心動揺計を用いた動作解析、新しい診断法とである超音波や関節音診断の実際を学び、理学療法士として、研究者としての基礎知識や技能を身につけることを目標とする。						
概要	本講では関節障害の診断と動作解析に主眼をおき講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図を実際の症例について学ぶと共に新しい診断法となりうる超音波診断や関節音の分析について実技指導する。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%)、課題(70%) なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 関節障害の診断(理学的検査の現況)		講義	森				
2. 関節障害の診断(理学的検査の実技)		講義	森				
3. 関節障害の診断(X線・MRI画像診断の現況)		講義	森				
4. 関節障害の診断(X線・MRI画像読影の実技1)		講義	森				
5. 関節障害の診断(X線・MRI画像読影の実技2)		講義	森				
6. 関節障害の診断(超音波画像診断の現況)		講義	森				
7. 関節障害の診断(超音波画像診断の実技1)		講義	森				
8. 関節障害の診断(超音波画像診断の実技2)		講義	森				
9. 関節障害診断への筋電計利用の現況		講義	森				
10. 関節障害診断への筋電計応用の実際		講義	森				
11. 関節音診断の現況		講義	森				
12. 関節音の基礎		講義	森				
13. 関節音分析の実技1		講義	森				
14. 関節音分析の実技2		講義	森				
15. まとめ(口頭試問)		AL	森				
教科書 1	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。						
教科書 2							
参考書 1	関節のMRI 第2版 著者:福田国彦 上谷雅孝 杉本英治 江原茂 出版社:メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN:978-4-89592-732-1						
参考書 2	運動器の超音波 著者:木野達司 出版社:南山堂 ISBN:978-4-525-22631-2						

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探究する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性などを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探究する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目を実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回:動作解析の方法論① 第2回:動作解析の方法論② 第3回:動作解析の方法論③ 第4回:Closed Kinetic Chain① 第5回:Closed Kinetic Chain② 第6回:Closed Kinetic Chain③ 第7回:立ち上がりの筋張力解析① 第8回:立ち上がりの筋張力解析② 第9回:歩行動作の筋張力解析① 第10回:歩行動作の筋張力解析② 第11回:CKCでの二関節筋の作用① 第12回:CKCでの二関節筋の作用② 第13回:CKCでの二関節筋の作用③ 第14回:単関節筋と二関節筋の協調 第15回:単関節筋と二関節筋の協調	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治		
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	井上 茂樹					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	本特論は、リハビリテーションにおける問題発見能力や問題解決能力、さらにそれらを研究として探求する能力を身につける。その中で、運動障がい者のリハビリテーションに関する今日的課題について、文献を通して研究課題や研究方法について理解を深め、理論的・実践的思考を身につけることを目標とする。							
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを紹介する。							
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。							
履修条件・注意事項	毎回、何らかのテーマを持ってくること。欠席の場合は、前もって連絡のこと。時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。							
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10～12:40)をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. 文献の検索, 収集, 整理, レビュー1 2. 文献の検索, 収集, 整理, レビュー2 3. 文献の検索, 収集, 整理, レビュー3 4. 研究結果のまとめ方1 5. 研究結果のまとめ方2 6. 研究結果のまとめ方3 7. 研究発表の実際1 8. 研究発表の実際2 9. 研究発表の実際3 10. 論文の書き方1 11. 論文の書き方2 12. 論文の書き方3 13. 研究トピック1 14. 研究トピック2 15. 研究トピック3			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	
教科書 1	必要な資料等は適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	森下 元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「脳血管障害に関するトピックス」をテーマとして、脳血管障害の機能改善機序および同疾患のリハビリテーション介入に関する知見を実際の論文をレビューしながら学習する。神経心理学的研究、リハビリテーション研究、行動科学的研究の各方法に関して、研究デザインを説明できることを目標とする。						
概要	現状の脳科学、神経生理学、神経心理学の研究に関して、レビューを行い、それぞれの研究からの知見、批判的吟味を通しての問題点、限界、リハビリテーションへの応用などについて考えていく。将来、脳に関する研究はどのように進んでいくべきなのか、リハビリテーションの立場から見た現状の脳機能研究の問題点に関しても考えていく。この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、レポート課題(60%)、プレゼンテーション課題(40%)として評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 正常な脳機能に関する研究1 2. 正常な脳機能に関する研究2 3. 神経生理学的研究1 4. 神経生理学的研究2 5. 神経心理学的研究1 6. 神経心理学的研究2 7. 行動科学的研究1 8. 行動科学的研究2 9. 運動学、力学的研究1 10. 運動学、力学的研究2 11. リハビリテーションにおける実験的研究1 12. リハビリテーションにおける実験的研究2 13. リハビリテーションにおける実験的研究3 14. 課題プレゼンテーション1 15. 課題プレゼンテーション2			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 	森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下
教科書 1	適宜資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	森 芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の病態と診断,治療」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI、超音波の実際、新しい診断法となりうる関節音診断を学ぶと共に関節障害の治療について探求し、理学療法士として、研究者としての基礎知識や思考力を身につけることを目標とする。						
概要	本講では主たる関節である肩、股、膝、足関節の関節障害の診断と治療の現況と今後の課題について講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図検査の現況を文献を中心に学び、今後の課題について考えると共に、新しい診断法となりうる関節音の分析の基礎について講義する。さらにこれらの関節の治療方法を紹介すると共に新しい展開について考えていく。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%), 課題(70%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.肩関節障害の病態生理 2.肩関節障害に対する診断・治療の現況 3.肩関節障害に対する診断・治療の今後の展開 4.股関節障害の病態生理 5.股関節障害に対する診断・治療の現況1 6.股関節障害に対する診断・治療の現況2 7.股関節障害に対する診断・治療の今後の展開 8.膝関節障害の病態生理 9.膝関節障害に対する診断治療の現況1 10.膝関節障害に対する診断治療の現況2 11.膝関節障害に対する診断・治療の今後の展開 12.足関節障害の病態生理 13.足関節障害に対する診断治療の現況 14.足関節障害に対する診断・治療の今後の展開 15.まとめ(口頭試問)	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森		
教科書 1	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。						
教科書 2							
参考書 1	多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法 著者:井原秀俊 木藤伸宏 加藤浩 出版社:全日本病院出版会 ISBN:978-4-8817-040-3						
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ 演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探究する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性などを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探究する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義し、実際にデータを計測する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況および演習の内容(80%)について評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各演習計画および、前回講義で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて演習を受けること。また、復習として、毎回の演習の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			第1回:動作解析の方法論① 第2回:動作解析の方法論② 第3回:動作解析の方法論③ 第4回:Closed Kinetic Chain① 第5回:Closed Kinetic Chain② 第6回:Closed Kinetic Chain③ 第7回:立ち上がりの筋張力解析① 第8回:立ち上がりの筋張力解析② 第9回:歩行動作の筋張力解析① 第10回:歩行動作の筋張力解析② 第11回:CKCでの二関節筋の作用① 第12回:CKCでの二関節筋の作用② 第13回:CKCでの二関節筋の作用③ 第14回:単関節筋と二関節筋の協調 第15回:単関節筋と二関節筋の協調			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	秋山 純一					NO.		
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	リハビリテーション基礎医学の分野での組織細胞化学に関する研究の手技能力とその技術の研究テーマへの・計画とその研究成果を臨床適応させることができるようになる。							
概要	組織細胞学に関する各種実験を実際に行い、実験の手技を習得す。実験目的からの手技分野:褥創、廃用性筋萎縮や関節拘縮などでの皮膚、筋、骨、関節、神経、血管等について各種顕微鏡学的試験法や生化学的試験法(遺伝子、酵素等)についての技術を系統的に探求する。また同じく培養細胞モデルについても同様に系統的探求を行う。							
評価方法	演習時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なを、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。							
履修条件・注意事項	自身での積極的な学習姿勢が重要。							
自己学習	演習項目の事前の学習とデータの整理解析を行うこと。関連する基礎的な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	演習の空き時間を活用して実施する。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(1)	AL	秋山			
			2.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(2)	AL	秋山			
			3.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(3)	AL	秋山			
			4.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(4)	AL	秋山			
			5.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(5)	AL	秋山			
			6.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(1)	AL	秋山			
			7.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(2)	AL	秋山			
			8.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(3)	AL	秋山			
			9.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(4)	AL	秋山			
			10.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(5)	AL	秋山			
			11.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(1)	AL	秋山			
			12.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(2)	AL	秋山			
			13.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(3)	AL	秋山			
			14.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(4)	AL	秋山			
			15.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(5)	AL	秋山			
教科書 1	標準 組織学 総論 著者:藤田 尚男 他 出版社:医学書院 ISBN:9.78E+12							
教科書 2	サルコペニアの基礎と臨床 著者:鈴木隆雄/監修 島田裕之/編集 出版社:真興貿易(株)医書出版部 ISBN:978-4-880003-884-5							
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	中嶋 正明				NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 学生は各運動器疾患に対する理学療法を学び、治療理論、機序を説明できることを目標とする。						
概要	運動機能障害に対する理学療法において、適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり、その上で運動学はもとより解剖学、生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では、実務経験を有する指導教員が細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患について講義し、障害および症状に対する理学療法について文献抄読および実習を通して再考し問題点について論ずる力を獲得する。						
評価方法	文献収集等の取り組み姿勢(30%)、内容の理解や質疑応答における発言状況(30%)、および問題点について論理的に論ずる力(40%)を総合的に評価する。 なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。						
自己学習	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 2時間以上の予習復習を要する。						
オフィスアワー	水曜日3限, 6号館3階中嶋研究室(6329)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 下肢筋力強化法の実際(Quad setting, SLR) 2. 下肢筋力強化法の実際(Squat) 3. 下肢筋力強化法の実際(modified Quad setting) 4. 下肢筋力強化法の実際(スロートレーニング1) 5. 下肢筋力強化法の実際(スロートレーニング2) 6. 下肢筋力強化法の実際(求心性収縮, 遠心性収縮) 7. 筋リクルートメントパターン(肩インピンジメント) 8. 筋リクルートメントパターン(慢性腰痛) 9. 筋リクルートメントパターンと疼痛 10. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正(肩インピンジメント) 11. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正(慢性腰痛 bird-dog Ex) 12. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正(慢性腰痛 modified bird-dog Ex) 13. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正(慢性腰痛 背臥位で出来る多裂筋Ex) 14. 筋力強化と筋リクルートメントパターン 15. まとめ(口頭試問)	講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL 講義とAL	中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明 中嶋正明		
教科書 1	適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ 演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本特論は、リハビリテーションにおける問題発見能力や問題解決能力、さらにそれらを研究として探求する能力を身につける。その中で、運動障がい者のリハビリテーションに関する今日的課題について、文献を通して研究課題や研究方法について理解を深め、理論的・実践的思考を身につけることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを学習し探求する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。						
履修条件・注意事項	運動学を理解していることを前提とする。時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10～12:40)をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1. 動作解析方法論① 2. 動作解析方法論② 3. 動作解析方法論③ 4. 静的姿勢について① 5. 静的姿勢について② 6. 動的姿勢について① 7. 動的姿勢について② 8. 正常歩行解析① 9. 正常歩行解析② 10. 正常歩行解析③ 11. 応用歩行解析① 12. 応用歩行解析② 13. 歩行周期解析 14. 計測結果の分析① 15. 計測結果の分析②		講義 講義 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹
教科書 1	必要な資料等は適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	森下 元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「脳血管障害に関する実験的研究の方法論」をテーマとして、各自の研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。動作および認知課題を複合したより対象者の生活に反映できる評価手法、標準的理学療法介入の方法を列挙できることを目標とする。						
概要	現状の脳血管障害の対象者が抱えている問題点に関して、身体的側面からだけでなく、心理的側面、認知課題、環境との相互作用などの複合的な側面から問題を捉える。そこから限定された環境の中での対象者の能力だけでなく、より生活に即した評価の方法、治療的介入に関して考えていく。 標準的な介入の構築に加えて、個人の状態において何を考慮して実践していくべきなのか。エビデンスの使用方法和臨床実践に関しても探究していく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、各回の課題(30%)、まとめとしてのレポート課題(30%)、プレゼンテーション内容(40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義の中でも受講者に積極的に発言を求めていく。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。また、研究内容のプレゼンテーションの際には他人に伝えるということを意識して、分かりやすく行うことが重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室で適宜実施する						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 研究内容に関する最新の知見の講義 2. 研究内容に関する文献の収集方法 3. 研究内容に関する収集文献の発表1 4. 研究内容に関する収集文献の発表2 5. 教員による総括 6. 研究方法論に関して(臨床疫学) 7. 研究方法論に関して(データ収集) 8. 研究方法論に関して(データ解析) 9. 研究内容の発表の方法 10. 研究内容の要旨の報告 11. 研究内容のプレゼンテーション 12. 研究内容のまとめ方 13. 研究内容の報告書の作成 14. 研究報告と質疑応答 15. 全体的総括	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下		
教科書 1	適宜資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ 演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	森 芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の病態と診断,治療の実際」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI、超音波の実際、新しい診断法となりうる関節音診断を学ぶと共に関節障害の治療手技について探求し、理学療法士として、研究者としての基礎知識や技能、思考力を身につけることを目標とする。						
概要	本講では主たる関節である肩、股、膝、足関節の関節障害の診断と治療の実際について講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図検査を実際の症例について経験すると共に、今後の課題について考える。また、新しい診断法となりうる関節音の分析の実際について実技指導する。さらに、現在行われている治療について症例をあげながら解説指導する。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%), 課題(70%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試問)までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.肩関節障害の画像的診断の実際(x線写真、MRI) 2.肩関節障害の画像的診断の実際(超音波画像) 3.肩関節障害に対する関節音診断の実際 4.肩関節障害の治療の実際と今後の展開 5.股関節障害の画像的診断の実際(x線写真、MRI) 6.股関節障害の治療の実際と今後の展開 7.膝関節障害の画像的診断の実際(x線写真、MRI) 8.膝関節障害の画像的診断の実際(超音波画像) 9.膝関節障害に対する関節音診断の実際 10.膝関節障害の治療の実際と今後の展開 11.足関節障害の画像的診断の実際(x線写真、MRI) 12.足関節障害の画像的診断の実際(超音波画像) 13.足関節障害に対する関節音診断の実際 14.足関節障害の治療の実際と今後の展開 15.まとめ(口頭試問)	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森		
教科書 1	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。						
教科書 2							
参考書 1	関節のMRI 第2版 著者:福田国彦 上谷雅孝 杉本英治 江原茂 出版社:メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN:978-4-89592-732-1						
参考書 2	運動器の超音波 著者:木野達司 出版社:南山堂 ISBN:978-4-525-22631-2						

授業科目名	生活機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本特論では、生活機能障害の援助に資する基本的な研究方法論の修得をテーマに、その遂行に必要な研究的思考と知識技術を身につける。 リハビリテーション援助を、「QOL」や「生活」に影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え、当該領域の研究課題について適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。						
概要	近年「健康感」は疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることと考えられるようになった。健康に関する研究では、生活機能の自立性や生活の質(QOL)が重視され、適切な効果判定と科学的支援が求められている。本特論では、リハビリテーションをQOLに影響する健康増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的にはQOL等の評価と規定要因の解明、因果モデル構築に資する研究方法論を身につけるための学修を進める。その他、社会活動などのライフスタイルも取り上げる。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	事前課題に取り組むことや自らの研究を更に発展させるためにも、予習や復習に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、金曜日5時限目を実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 実証研究の進め方ー問題意識の明確化ー理論		AL	齋藤				
2. 実証研究の進め方ー問題意識の明確化ー応用		AL	齋藤				
3. 現象をとらえるー変数とその測定ー理論		AL	齋藤				
4. 現象をとらえるー変数とその測定ー応用		AL	齋藤				
5. 文献検索ー先行研究のレビューー理論		AL	齋藤				
6. 文献検索ー先行研究のレビューー応用		AL	齋藤				
7. 研究デザインの作成ーモデルと仮説の構築ー理論		AL	齋藤				
8. 研究デザインの作成ーモデルと仮説の構築ー応用		AL	齋藤				
9. 調査計画と進め方ー対象と方法の決定ー理論		AL	齋藤				
10. 調査計画と進め方ー対象と方法の決定ー応用		AL	齋藤				
11. 調査票の作成ー理論		AL	齋藤				
12. 調査票の作成ー応用		AL	齋藤				
13. データの収集と統計解析ー理論		AL	齋藤				
14. データの収集と統計解析ー応用		AL	齋藤				
15. 既出事項のまとめ		AL	齋藤				
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	原田 和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	調査研究の進め方の基本を学ぶ。健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。						
概要	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質(Quality of life; QOL)が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回、予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 実証研究の進め方 —問題意識の明確化—	講義	原田					
2. 現象をとらえる —変数とその測定—	AL	原田					
3. 文献検索 —先行研究のレビュー—	AL	原田					
4. 研究デザインの作成 —モデルと仮説の構築—	AL	原田					
5. 調査計画と進め方 —対象と方法の決定—	AL	原田					
6. 調査票の作成	AL	原田					
7. データの収集と統計解析	AL	原田					
8. 解析結果のまとめ方	AL	原田					
9. 研究結果の発表の仕方	AL	原田					
10. 論文の書き方	AL	原田					
11. 調査票の作成	AL	原田					
12. データの収集と統計解析	AL	原田					
13. 解析結果のまとめ方	AL	原田					
14. 研究結果の発表の仕方	AL	原田					
15. 論文の書き方	AL	原田					
16. 試験	AL 試験	原田 原田					
教科書 1	必要な資料等は適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	高橋 淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質(Quality of life; QOL)が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。</p> <p>本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え、当該領域の研究課題について適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。</p>						
概要	<p>調査研究の進め方の基本を学ぶ。健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。</p>						
評価方法	レポートの内容で評価する。評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	担当教員によるオムニバス方式で行う予定であるが、履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。十分な理解に到達するために、予習と復習を行うこと。						
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 実証研究の進め方 —問題意識の明確化— 2. 現象をとらえる —変数とその測定— 3. 文献検索 —先行研究のレビュー— 4. 研究デザインの作成 —モデルと仮説の構築— 5. 調査計画と進め方 —対象と方法の決定— 6. 調査票の作成 7. データの収集と統計解析 8. 解析結果のまとめ方 9. 研究結果の発表の仕方 10. 論文の書き方 11. 調査票の作成 12. データの収集と統計解析 13. 解析結果のまとめ方 14. 研究結果の発表の仕方 15. 論文の書き方 16. 試験	講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL レポート	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	佐藤 三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ 地域や介護保険施設における介入研究の進め方の基本を学ぶ。 健康寿命延伸や介護予防などといった現代社会のトレンドをふまえた実証研究の具体例を学ぶ。</p> <p>到達目標 学生は、本邦の地域社会におけるトレンドと研究とのつながりを理解することができるようになる。</p>						
概要	日本の国家予算における「社会保障」にカテゴライズされている「介護費」の削減は加速しており、このような背景をふまえると、高齢者の健康寿命延伸は必須の課題である。健康寿命延伸の実現のためには「Physical」と「Mental」の両側面が健康である必要がある。そのためには「生活機能の自立」や「生活の質(Quality of life; QOL)の維持/向上」が重要であり、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論の探求を実践が求められている。本特論では、地域や施設内の現場レベルにおける効果的で実践的な介入方法の探求について教授する。						
評価方法	レポート・課題発表等の内容で評価する(100%)。講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回、予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	<p>【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。</p> <p>【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会(15分間)」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。</p> <p>【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 研究の進め方 2. 現象のとらえ方 3. 文献検索(先行研究のレビュー) 4. 研究デザインの作成 5. 研究計画と進め方 6. エンドポイントの決め方 7. データの収集と統計解析 8. 解析結果のまとめ方 9. 研究結果の発表の仕方 10. 論文の書き方 11. 調査票や同意書などの作成 12. データの収集と統計解析 13. 解析結果のまとめ方 14. 研究結果の発表の仕方 15. 論文の書き方	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤					
教科書 1	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本特論では、生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに、研究を具体化させる上で必要な研究的思考と知識技術を身につける。 地域リハビリテーションの立場に立って、生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。						
概要	高齢社会の進展により要介護者や認知症者が急増し、健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハビリテーション専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ、能力低下や障害原因を探るとともに、将来を見据えた援助が必要である。この演習では地域リハビリテーションの立場に立って、身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論を身につけるための学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも、課題に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.キーワードの選定－方法論	AL	齋藤					
2.キーワードの選定－実際	AL	齋藤					
3.関連論文の抄読－方法論	AL	齋藤					
4.関連論文の抄読－実際	AL	齋藤					
5.社会的背景の議論－理論	AL	齋藤					
6.社会的背景の議論－実際	AL	齋藤					
7.研究背景の要約－理論	AL	齋藤					
8.研究背景の要約－実際	AL	齋藤					
9.実証研究の手続き－方法論	AL	齋藤					
10.実証研究の手続き－実際	AL	齋藤					
11.サンプリングの手法－方法論	AL	齋藤					
12.サンプリングの手法－実際	AL	齋藤					
13.統計解析の方法－理論	AL	齋藤					
14.統計解析の方法－実際	AL	齋藤					
15.既出事項のまとめ	AL	齋藤					
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期		
担当者	高橋 淳					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>我が国において国民の念願であった寿命の延伸は、平均寿命世界一という形で達成された。しかし、この事は、高齢化社会という新たな局面を生み出すとともに、生活習慣病の増加もあいまって、要介護者や認知症者が急増するなど新たな社会問題を生み出している。このような背景の下、健康増進に対する国民の意識は高まりを示すとともに、単に平均寿命を延伸するだけではなく、自立した質の高い長寿が国民の大きな関心事となっている。</p> <p>こうした社会的要請に応えるべく、保健科学研究においては、近年WHOが提唱した自立して健康に暮らせる期間である「健康寿命」の延伸が重要なテーマになっている。また、生活の質(Quality of Life;QOL)の理念の普及に伴い、医療や保健福祉の現場では、生活満足度や達成感がアウトカムとして重視されるようになってきている。こうした状況の下、リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。</p> <p>本特論では、生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。</p>							
概要	この演習では、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。							
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックする。							
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも、課題に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。							
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. キーワードの選定 2. 関連論文の抄読 3. 社会的背景の議論 4. 研究背景の要約 5. 実証研究の手続き 6. サンプリングの手法 7. 統計解析の方法 8. 研究計画書の作成 9. 調査票の作成 10. 調査の実施とデータの解析 11. データ解析の妥当性 12. 結果の解釈と意義 13. 研究結果の吟味 14. 研究成果のまとめ 学会発表 15. 研究成果のまとめ 論文作成 16. 試験		講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL 講義,AL レポート	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	佐藤 三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ 本科目は大学院修士課程2年次の配当科目であり、受講する大学院生は、研究活動を通じた修士論文の作成を志す者である自覚を根付かせる。</p> <p>到達目標 学生は、自身が取り組んでいる研究テーマについて発表し、哲学的水準での熟考力を習得できるようになる。</p>						
概要	<p>介護現場に携わる専門職には、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。</p> <p>本演習では、リハビリテーション援助特論Ⅴから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。</p>						
評価方法	レポートや発表の内容および研究成果等により評価する(100%)。講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回予習と復習を課す。						
自己学習	<p>【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。</p> <p>【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会(15分間)」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。</p> <p>【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 研究キーワード選定 2. 文献レビュー(抄読) 3. 社会的背景に関する討議 4. 研究背景要約 5. 研究手続きの検討 6. サンプルングの手法 7. 統計解析の方法 8. 研究計画書の作成 9. 調査票の作成 10. 調査の実施とデータの解析 11. データ解析の妥当性 12. 結果の解釈と意義 13. 研究結果の吟味 14. 研究成果のまとめ方 ー1 プレゼンテーション 15. 研究成果のまとめ方 ー2 論文作成	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤					
教科書 1	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き、生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに、研究を具体化させる上で必要な研究的思考とさらなる知識技術を身につける。地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め、当該領域で修士論文を作成する上での更なる科学的思考を身につける事を到達目標とする。						
概要	<p>高齢社会進展により要介護者や認知症者が急増し、健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハ専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ、能力低下や障害原因を探るとともに、将来予測に基づく援助が必要である。この演習では生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き、地域リハの立場から身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での研究方法論について更なる学修を進める。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直ししておくこと。						
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも、課題に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.研究計画書の作成－方法論 2.研究計画書の作成－実際 3.調査票の作成－方法論 4.調査票の作成－実際 5.調査の実施とデータの解析－方法論 6.調査の実施とデータの解析－実際 7.データ解析の妥当性－理論 8.データ解析の妥当性－実際 9.結果の解釈と意義－理論 10.結果の解釈と意義－実際 11.研究結果の吟味－方法論 12.研究結果の吟味－実際 13.研究成果のまとめ方－学会発表－ 14.研究成果のまとめ方－論文作成－ 15.既出事項のまとめ			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	佐藤 三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ 地域や介護保険施設における介入研究の進め方の基本を学ぶ。また、健康寿命延伸や介護予防などといった現代社会のトレンドをふまえた実証研究の具体例、教員が取り組んでいる地域での研究活動などを題材にして解説し、社会のトレンドと研究とのつながりの理解を深める。</p> <p>到達目標 学生は、自身の研究課題と社会のトレンドとの関連性や自身の研究における社会的意義を明確に理解できるようになる。</p>						
概要	日本の国家予算における「社会保障」にカテゴライズされている「介護費」の削減は加速しており、このような背景をふまえると、高齢者の健康寿命延伸は必須の課題である。健康寿命延伸の実現のためには「Physical」と「Mental」の両側面が健康である必要となる。そのためには「生活機能の自立」や「生活の質(QOL)の維持/向上」が求められ、本科目では、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論を探究していくとともに、地域や施設内の現場レベルにおける効果的で実践的な介入方法の探究について教授する。						
評価方法	レポート・課題発表等の内容で評価する(100%)。講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回の予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	<p>【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。</p> <p>【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会(15分間)」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。</p> <p>【留意事項】 予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.解析結果のまとめ方①(理論) 2.解析結果のまとめ方②(応用) 3.研究結果の発表の仕方①(理論) 4.研究結果の発表の仕方②(応用) 5.論文の書き方①(理論) 6.論文の書き方②(応用) 7.研究トピック①(介護予防とQOL) 8.研究トピック②(自立支援) 9.研究トピック③(障害予防) 10.研究トピック④(測定指標の開発) 11.研究トピック⑤(測定指標の開発とその応用) 12.研究トピック⑥(記述研究) 13.研究トピック⑦(分析研究:関連) 14.研究トピック⑧(分析研究:因果) 15.まとめ	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤		
教科書 1	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き、生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに、研究を具体化させる上で必要な研究的思考とさらなる知識技術を身につける。地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め、当該領域で修士論文を作成する上で更なる科学的思考を身につける事を到達目標とする。						
概要	<p>高齢社会進展により要介護者や認知症者が急増し、健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハ専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ、能力低下や障害原因を探るとともに、将来予測に基づく援助が必要である。この演習では生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き、地域リハの立場から身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上で研究方法論について更なる学修を進める。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直ししておくこと。						
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも、課題に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.研究計画書の作成－方法論 2.研究計画書の作成－実際 3.調査票の作成－方法論 4.調査票の作成－実際 5.調査の実施とデータの解析－方法論 6.調査の実施とデータの解析－実際 7.データ解析の妥当性－理論 8.データ解析の妥当性－実際 9.結果の解釈と意義－理論 10.結果の解釈と意義－実際 11.研究結果の吟味－方法論 12.研究結果の吟味－実際 13.研究成果のまとめ方－学会発表－ 14.研究成果のまとめ方－論文作成－ 15.既出事項のまとめ	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤		
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	原田 和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。各自が取り組んでいる研究テーマについて発表し、積極的なディスカッションの力を身につける。						
概要	リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Ⅵから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回、予習と復習を課す。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 研究モデル指導 — 1 関連性 2. 研究モデル指導 — 2 アウトカム 3. 研究モデル指導 — 3 説明変数 4. 研究モデル指導 — 4 交絡変数 5. 研究モデル指導 — 5 6. 研究デザイン指導 — 6 内部妥当性 7. 研究デザイン指導 — 7 データ要約 8. 研究デザイン指導 — 8 9. 研究デザイン指導 — 9 10. 修論プレゼンテーション指導 — 1 パワポ 11. 修論プレゼンテーション指導 — 2 絵コンテ 12. 修論プレゼンテーション指導 — 3 13. 修論プレゼンテーション指導 — 4 14. 修論プレゼンテーション指導 — 5 15. 研究テーマの背景と必然性指導(まとめ) 16. 試験	講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL 試験	原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田		
教科書 1	学生の発表を加え、必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高橋 淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>我が国において国民の念願であった寿命の延伸は、平均寿命世界一という形で達成された。しかし、この事は、高齢化社会という新たな局面を生み出すとともに、生活習慣病の増加もあいまって、要介護者や認知症者が急増するなど新たな社会問題を生み出している。このような背景の下、健康増進に対する国民の意識は高まりを示すとともに、単に平均寿命を延伸するだけではなく、自立した質の高い長寿が国民の大きな関心事となっている。</p> <p>こうした社会的要請に応えるべく、保健科学研究においては、近年WHOが提唱した自立して健康に暮らせる期間である「健康寿命」の延伸が重要なテーマになっている。また、生活の質(Quality of Life;QOL)の理念の普及に伴い、医療や保健福祉の現場では、生活満足度や達成感がアウトカムとして重視されるようになってきている。こうした状況の下、リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。</p> <p>本特論では、生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。</p>						
概要	この演習では、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも、課題に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。						
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.研究計画書の作成－方法論 2.研究計画書の作成－実際 3.調査票の作成－方法論 4.調査票の作成－実際 5.調査の実施とデータの解析－方法論 6.調査の実施とデータの解析－実際 7.データ解析の妥当性－理論 8.データ解析の妥当性－実際 9.結果の解釈と意義－理論 10.結果の解釈と意義－実際 11.研究結果の吟味－方法論 12.研究結果の吟味－実際 13.研究成果のまとめ方－学会発表－ 14.研究成果のまとめ方－論文作成－ 15.まとめ 16.試験			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	必要に応じて資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	佐藤 三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ 学生が取り組んでいる研究テーマについて発表し合い、討論を実施する。</p> <p>到達目標 積極的かつ意義の高いディスカッションや検討を展開できる力を身につける。</p>						
概要	<p>この演習では、リハビリテーション援助特論Ⅵから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要であることを教授する。</p>						
評価方法	レポートや発表の内容および研究成果等により評価する(100%)。講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回予習と復習を課す。						
自己学習	<p>【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。</p> <p>【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容についての質問をランダムに行う「質問会(15分間)」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。</p> <p>【留意事項】 予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.研究計画書の作成(方法論) 2.研究計画書の作成(実際) 3.調査票の作成(方法論) 4.調査票の作成(実際) 5.調査の実施とデータの解析(方法) 6.調査の実施とデータの解析(実際) 7.データ解析の妥当性(理論) 8.データ解析の妥当性(実際) 9.結果の解釈と意義(理論) 10.結果の解釈と意義(実際) 11.研究結果の吟味(方法論) 12.研究結果の吟味(実際) 13.研究成果のまとめ方(プレゼンテーション) 14.研究成果のまとめ方(論文作成) 15.まとめ	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤		
教科書 1	特に指定せず、講義の中で適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	狩長 弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:本特論では、リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学ぶ。 到達目標:注意・記憶・半側空間無視を中心に、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方について理解を深めることを目的とする。</p>						
概要	<p>高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦では平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業(平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業)の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20% なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨むこと。						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスアワー	月曜日4限 6427研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.高次脳機能障害リハビリテーションの歴史		AL	狩長				
2.高次脳機能障害の特殊性		AL	狩長				
3.高次脳機能障害の回復の基盤		AL	狩長				
4.注意の障害		AL	狩長				
5.注意障害の評価		AL	狩長				
6.注意障害の治療的訓練		AL	狩長				
7.記憶の障害		AL	狩長				
8.記憶障害の評価		AL	狩長				
9.記憶障害の治療的訓練		AL	狩長				
10.半側無視とは		AL	狩長				
11.半側無視の評価		AL	狩長				
12.半側無視の治療的訓練		AL	狩長				
13.視覚性認知の障害		AL	狩長				
14.視覚性認知の障害の評価		AL	狩長				
15.視覚性認知の障害の治療的訓練		AL	狩長				
教科書 1	<p>高次脳機能障害の作業療法 著者:鎌倉矩子, 本多留美 出版社:三輪書店 ISBN:978-4-89590-359-2</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>Neurobehavioural Disability and Social Handicap Following Traumatic Brain Injury 著者:Rodger LI.Wood, Tom M.McMillan 出版社:Psychology Press ISBN:0-86377-890-9</p>						
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	三宅 優紀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマは「作業機能障害」である。作業機能障害とは、生活行為を適切にやり遂げられない状態をいい、それにより健康状態が悪化したり、QOLが低下するといわれている。疾病や障害の予防の重要性が強調されている現在、作業機能障害の実態を明らかにする意義は非常に大きい。</p> <p>目標は以下である。</p> <p>1) 学生は作業機能障害について知識を深めることができる</p> <p>2) 学生は疫学研究の方法論について理解することができる</p>						
概要	<p>以下の講義の計画に沿って、進めていく。作業療法学は個人を対象にする学問であるが、疫学は集団を対象とするポピュレーションアプローチである。作業療法分野での大規模疫学研究はほとんどないが、これから予防医学、産業分野で作業療法士が活躍していくためには、必要なことである。そのため文献レビューを行い、研究の動向を知りながら研究テーマをしぼっていく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>1. 演習の理解度(50%)</p> <p>2. 発表内容(50%)で評価する</p> <p>総合的に評価する</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究テーマにより内容の変更あり。</p> <p>与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、質疑応答ができるようにすること。</p> <p>課題のフィードバックは演習中に行う。</p>						
自己学習	<p>予習として、1時間各授業計画に記載されている部分について教科書を読み、理解できない点をまとめておき、講義内でディスカッションする。また文献レビューをすすめておく。</p> <p>復習として、1時間程度文献整理、レビューを行う。</p>						
オフィスアワー	6号館3階研究室において毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
第1回 オリエンテーション	講義	三宅					
第2回 作業機能障害の文献抄読(国内)	AL	三宅					
第3回 作業機能障害の文献抄読(海外)	AL	三宅					
第4回 作業機能障害の文献抄読(国内 海外)	AL	三宅					
第5回 作業機能障害の文献まとめ	AL	三宅					
第6回 作業機能障害の文献まとめ・発表	AL	三宅					
第7回 予防的作業療法研究の文献抄読(国内)	AL	三宅					
第8回 予防的作業療法研究の文献抄読(海外)	AL	三宅					
第9回 予防的作業療法研究の文献抄読(国内 海外)	AL	三宅					
第10回 産業作業療法	AL	三宅					
第11回 産業作業療法における作業療法士の役割	AL	三宅					
第12回 文献のまとめ1	AL	三宅					
第13回 文献のまとめ2	AL	三宅					
第14回 疫学	AL	三宅					
第15回 作業療法 まとめ	AL	三宅					
第16回 試験	口頭試験	三宅					
教科書 1	必要に応じて指示します						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	京極 真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 大学院生は、国内外の先行研究のレビューを行い、多様な研究方法を理解して、洗練された研究計画を作成することができる。</p> <p>到達目標: 大学院生は、先行研究のレビューが行え、量的・質的な研究方法を理解でき、研究計画を立案できる。</p>						
概要	この演習では、修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究方法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。						
評価方法	課題(50%)と発表(50%)で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	予習と復習を求める。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
オフィスワ-	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 研究テーマの焦点化 3. 先行研究の収集 4. レビューマトリクス 5. レビューマトリクスの発表会 6. 量的研究と質的研究の特徴 7. RCTとコホート研究 8. 調査研究と相関研究 9. 尺度開発 10. GTAとKJ法 11. 事例コードマトリクス 12. TEM 13. 研究計画の立案1はじめに 14. 研究計画の立案2方法 15. 研究経過発表会/まとめ	講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真					
教科書 1	適宜紹介						
教科書 2							
参考書 1	適宜紹介						
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	岩田 美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	講義のテーマは、「自己の関心のある作業療法と作業機能障害の知識を学ぶ」とする。修士論文を作成する過程において、先ず研究計画、研究方針を策定する第二の科目である。先行研究より、作業療法教育の現状と作業機能障害について知識を深め、研究テーマを明確にした上で、研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することを到達目標とする。						
概要	授業では、自己の関心の高い作業療法の指導者に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得する。同時に、修士論文テーマの設定、研究計画書の策定、実施方法などを具体的に指導する。リハビリテーション援助特論と平行して、作業療法教育の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告する。						
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	毎週1回の講義終了時に、研究の進行に合わせて、課題を提示する。予習・復習を2時間以上行うこと。また、必ず、毎回レポートを作成し報告すること。レポートや課題については、提出した翌週の講義内にフィードバックを行う。						
自己学習	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下、予習・復習はもとより、教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。週1回の講義終了時に、研究の進行に合わせて、課題を提示する。その予習・復習を十分に行うこと。また、必ず、毎回レポートを作成し報告すること。						
オフィスアワー	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする(岩田)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.作業療法と作業機能障害の概要 2.研究テーマの策定 3.作業療法の基礎知識の確認 4.作業療法の先行研究の調査 5.作業療法の先行研究の概要発表 6.作業療法の概要発表の講評 7.研究テーマと先行研究の比較 8.研究テーマの確定 9.中間フォロー 10.作業機能障害の基礎知識の確認 11.作業機能障害の先行研究の調査 12.作業機能障害の先行研究の発表 13.作業機能障害の概要発表の講評 14.研究テーマと先行研究の比較 15.研究計画書発表用資料の完成 16.研究発表		AL AL AL AL 発表 AL AL AL AL 口頭試問 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL 口頭試問	岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田				
教科書 1	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:執筆:友利 幸之介/京極 真/竹林 崇? 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	狩長 弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:高次脳機能障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。</p> <p>到達目標:研究実施やデータ分析のための方法について理解し、文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。</p>						
概要	<p>本演習では国内外の文献検索方法と結果の評価等を吟味する方法を学習し、実際に興味テーマについて要約する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20%</p> <p>なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨むこと。						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	月曜日4限 6427研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. キーワード選定の方法		AL	狩長				
2. キーワード選定の実際		AL	狩長				
3. 文献検索の方法		AL	狩長				
4. 文献検索の実際		AL	狩長				
5. 文献レビューの方法		AL	狩長				
6. 文献レビューの実際		AL	狩長				
7. 量的研究と質的研究		AL	狩長				
8. 量的研究の手法ーランダム化比較試験		AL	狩長				
9. 量的研究の手法ーコホート研究		AL	狩長				
10. 量的研究の手法ー横断研究		AL	狩長				
11. 量的研究の手法ーシングルシステムデザイン		AL	狩長				
12. 信頼性と妥当性		AL	狩長				
13. 統計解析の方法		AL	狩長				
14. 統計解析の実際		AL	狩長				
15. 研究デザインの総括とまとめ		AL	狩長				
教科書 1	講義の他に適宜学生の発表を加え、必要に応じて資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	三宅 優紀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生は身体障害領域の作業療法に必要な知識や技術の習得を目標とする。 自身の関心テーマに応じて以下の課題に取り組む。研究方法論について、随時提示する参考書を利用しながら理解を深める。						
概要	下記計画にしたがい、学生の研究テーマを考慮した内容を教授する。具体的には、キーワードに関連する文献の輪読やレビューを行い、それらの内容と各自の修士論文テーマをふまえた発表を通して演習内容の理解を深めるものとする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	演習の理解度(50%)、発表(50%)で総合的に評価						
履修条件・注意事項	研究テーマにより演習内容の変更あり 授業内容を参考に、予習復習には各2時間程度要する。課題にフィードバックは、演習内で行う。						
自己学習	文献整理、計画書作成を随時行う						
オフィスワ-	6号館3階研究室 毎週水曜日3限						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	オリエンテーション	講義	三宅				
第2回	医学研究	AL	三宅				
第3回	研究テーマについて	AL	三宅				
第4回	研究対象者の選定	AL	三宅				
第5回	測定方法の計画1	AL	三宅				
第6回	測定方法の計画2	AL	三宅				
第7回	サンプルサイズ	AL	三宅				
第8回	研究デザイン コホート研究	AL	三宅				
第9回	研究デザイン ケースコントロール研究	AL	三宅				
第10回	観察研究	AL	三宅				
第11回	ランダム化臨床試験	AL	三宅				
第12回	その他のデザイン1	AL	三宅				
第13回	その他のデザイン2	AL	三宅				
第14回	研究計画作成1	AL	三宅				
第15回	研究計画作成2	AL	三宅				
第16回	試験	口頭発表	三宅				
教科書 1	必要に応じて指定						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	京極 真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究計画書の立案ができる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生は、研究テーマの設定ができる。 2. 大学院生は、研究テーマに関連した文献検討ができる。 3. 大学院生は、予備研究ができる。 4. 大学院生は、研究計画書の立案ができる。 						
概要	<p>作業機脳障害研究を行うためには、適切な研究計画の立案が欠かせない。本科目では、作業機脳障害研究の計画立案に求められる基礎知識を学び、自ら理解し、実際に計画の立案を行い、理解を深め、実行力を養うことができる。</p>						
評価方法	<p>出席(20%)・レポート(40%)・発表(40%)で総合評価する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>本科目は、作業機能障害援助特論Ⅱ演習とあわせて必ず履修すること。予習と復習、積極的な発言が求められる。</p>						
自己学習	<p>予習、復習には各2時間ほど必要である。</p> <p>自己学習のためのレポート課題を課す。</p> <p>それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。</p>						
オフィスアワー	<p>曜日:月曜5限目、金曜5限目</p> <p>場所:6号館4階6428号室</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業機能障害研究概要 2. 研究テーマの設定 3. 研究テーマにそった研究基礎論 4. 文献検索 5. 文献検索結果の発表 6. 研究テーマの吟味と設定 7. 研究計画と研究倫理 8. 研究計画書の執筆 9. 研究計画書の吟味 10. 予備研究の準備 11. 予備研究の実施 12. 予備研究の結果の分析とまとめ 13. 研究計画書の洗練 14. 研究計画書の発表 15. 研究計画書の完成 	講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真		
教科書 1	適宜紹介						
教科書 2							
参考書 1	適宜紹介						
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期	
担当者	狩長 弘親				NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態 講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学ぶ。 到達目標:身体意識・運動/行為・遂行機能障害を中心に、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方について理解を深めることを目的とする。</p>					
概要	<p>高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦では平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業(平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業)の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>					
評価方法	<p>レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20% なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。</p>					
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨むこと。					
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>					
オフィスワ-	月曜日4限 6427研究室					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
			1.空間認知の障害とは 2.空間認知の障害の評価 3.空間認知の障害の治療的訓練 4.読字・書字・計算の障害とは 5.読字・書字・計算の障害の評価 6.読字・書字・計算の障害の治療的訓練 7.身体意識の障害とは 8.身体意識の障害の評価 9.身体意識の障害の治療的対応 10.運動/動作の高次障害とは 11.運動/動作の高次障害の評価 12.運動/動作の高次障害の治療的訓練 13.遂行機能障害とは 14.遂行機能所具合の評価 15.遂行機能障害の治療的訓練と支援	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長	
教科書 1	高次脳機能障害の作業療法 著者:鎌倉矩子・本多留美 出版社:三輪書店 ISBN:978-4-89590-359-2					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ 演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	京極 真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究基礎論を学ぶことができる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生は、研究の過程を理解できる。 2. 大学院生は、作業機能障害に関連した研究テーマの設定ができる。 3. 大学院生は、作業機能障害研究に必要な主だった研究法を理解できる。 4. 大学院生は、研究を遂行し、論文にまとめ、発表ができる。 						
概要	作業機能障害研究に関連した研究を実際に行い、修士学位論文の執筆と発表を行う。						
評価方法	発表(20%), 口頭試問(30%), 論文(50%)で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論Ⅰに続く科目である。院生は予習と復習、研究の遂行が求められる。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
オフィスアワー	曜日: 月曜5限目、金曜5限目 場所: 6号館4階6428号室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理 2. 研究の基本的な過程 3. 研究テーマの吟味 4. 文献検討 5. 研究テーマの設定 6. 研究法の設定 7. 予備研究 8. 本研究のデータ収集 9. データの整理 10. データ解析 11. 結果の整理 12. 学位論文執筆(方法と結果) 13. 学位論文執筆(考察) 14. 学位論文執筆(はじめに) 15. 発表 	講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真 京極真		
教科書 1	適宜紹介						
教科書 2							
参考書 1	適宜紹介						
参考書 2							

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	狩長 弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:高次脳機能障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。</p> <p>到達目標:研究実施やデータ分析のための方法について理解し、文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。</p>						
概要	<p>本演習では国内外の文献検索方法と結果の評価等を吟味する方法を学習し、実際に関心テーマについて要約する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20%</p> <p>なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に、積極的な姿勢で臨むこと。						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	月曜日4限 6427研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.実験・調査方法の検討 2.実験・調査方法の確定 3.実験・調査の実施 4.実験・調査結果の収集 5.実験・調査結果の整理 6.研究進捗状況報告書の概要説明 7.研究進捗状況報告書の作成 8.研究進捗状況報告書の内容確認と講評 9.研究進捗状況報告書の提出と研究の推進 10.実験・調査方法の見直し 11.実験・調査の再実施 12.実験・調査結果の再収集 13.実験・調査結果の分析 14.分析結果のまとめ方 15.研究成果の報告	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長 狩長		
教科書 1	講義の他に適宜学生の発表を加え、必要に応じて資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中角 祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ;ロコモティブ症候群という概念を理解する。 到達目標;学生が、介護予防につなげることができるようになる						
概要	高齢化社会となり、運動器の障害から要介護状態となる方が増えている。 原因となる疾病を理解し、特にその予防法について学習する。 以上の課程の中で、臨床家としての技能を高める。						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に学習した整形外科の教科書を見直すこと。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す。						
オフィスワ-	水曜3限、6号館4階6411研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1;ロコモティブ症候群の背景 2;ロコモティブ症候群の定義 3;ロコモティブ症候群の葉重症度 4;日本の高齢化社会 5;平均寿命と健康寿命 6;要介護・要支援の経年推移 7;要介護の原因 8;ロコモティブ症候群の疫学 9;変形性膝関節症 10;変形性股関節症 11;変形性脊椎症 12;骨粗しょう症 13;転倒による脆弱性骨折 14;大腿骨近位部骨折 15;脊椎圧迫骨折 16;期末試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角				
教科書 1	ロコモティブ症候群診療ガイド 著者:日本整形外科学会 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2763-7						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	山本 倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	学生が、病いに関する本質について文献を詳読しながらを考察し討議を行なうことで医療人としての介入・援助の方法の理解を深めることができる。						
概要	学生がこれまでの自身の生活経験や、自身の臨床経験を振り返り対象者の状態を分析し、どのような関わりができたかを討論する。文献の詳読も取り入れる。また、毎回の授業のテーマのレポート課題に取り組む。 学生は、精神障害作業療法の実務経験を有し、精神障害リハビリテーション研究の実践経験を有する教員の助言・指導を受け学習を深めていく。						
評価方法	授業への参加度50%、レポート課題の内容50% 提出課題は、授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	各講義テーマの内容をもとに討論形式で授業を進めます。そのためには教科書の該当部分(1回目の授業でオリエンテーション)を詳読しておくことが必要です(予習)。討論の内容で理解が深まったこと、新たな課題などをノートにまとめる(復習)。						
自己学習	予習として、各授業計画について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	月曜日3時限目に、6号館4階6417研究室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション、症状と障害の意味 2.病の個人的な意味と社会的意味 3.痛みの脆弱性と脆弱性の痛み 4.生きることの痛み 5.慢性の痛み 6.神経衰弱症 7.慢性の病をもつ患者のケアにおける相反する説明モデル 8.大いなる願望と勝利 9.死に至る病 10.病のスティグマと羞恥心 11.慢性であることの社会的文脈 12.疾患を作り出すこと 13.治療者たち 14.慢性の病を持つ患者をケアするための1つの方法 15.医学教育と医療実践のための、意味を中心としたモデルのチャレンジ	1.講義/AL 2.講義/AL 3.講義/AL 4.講義/AL 5.講義/AL 6.講義/AL 7.講義/AL 8.講義/AL 9.講義/AL 10.講義/AL 11.講義/AL 12.講義/AL 13.講義/AL 14.講義/AL 15.講義/AL	1.山本 2.山本 3.山本 4.山本 5.山本 6.山本 7.山本 8.山本 9.山本 10.山本 11.山本 12.山本 13.山本 14.山本 15.山本					
教科書 1	病いの語り 著者:アーサー・クラインマン 著 江口重幸/五木田紳/上野豪志 訳 出版社:誠信書房 ISBN:4-414-42910-2						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論 I 演習				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中角 祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ;ロコモティブ症候群という概念を理解する。 到達目標;学生が、介護予防につなげることができるようになる。						
概要	高齢化社会となり、運動器の障害から要介護状態となる方が増えている。 原因となる疾病を理解し、特にその予防法について学習する。 以上の課程の中で、臨床家としての技能を高める。						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代に学習した整形外科の教科書を見直すこと						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
オフィスワ-	水曜3限、6号館4階6411研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1;バランス機能の低下 2;筋力低下 3;ロコモティブ症候群の早期発見 4;ロコモティブ症候群のトレーニング 5;ロコモティブ症候群のトレーニング 6;ロコモティブ症候群のトレーニング 7;ロコモティブ症候群のトレーニング 8;ロコモティブ症候群のトレーニング 9;ロコモティブ症候群のトレーニング 10;ロコモティブ症候群トレーニング 11;ロコモティブ症候群トレーニング 12;ロコモティブ症候群トレーニング 13;ロコモティブ症候群トレーニング 14;変形性膝関節症に対する治療体操 15;腰痛に対する治療体操 16:期末試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角				
教科書 1	ロコモティブ症候群診療ガイド 著者:日本整形外科学会 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2763-7						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論 I 演習			履修期	2021年度 春学期		
担当者	山本 倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ: 傾聴するとは、どうということかという問いについて議論し対象者への支援方法を探求していく</p> <p>目標: 院生は、精神機能障害の支援について考察を深め、支援方法を探求していくことができる。</p>						
概要	心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では、傾聴する、対話するとはどうということか、という問いに着目し、学習します。また、学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求し、授業回ごとにレポート課題を作成しながら学習を深めていきます。院生は、精神障害リハビリテーション研究の実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めます。						
評価方法	授業出席態度50%、レポート課題の内容50%で、総合評価とする。 レポートは授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	各自、授業テーマに関する知識を主体的に身につける努力をすること						
自己学習	授業時間前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。予習、復習には該当講義に関する教科書範囲を読むこと。						
オフィスワ-	月曜3時限目、6号館4階6417研究室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.傾聴とオープンダイアログ 3.有効なネットワークについて 4.専門職が陥りがちなこと 5.感情の共有について 6.クライシスについて 7.対話の分かりやすさについて 8.水平と垂直の対話について 9.いま・この可能性について 10.「ともに」のありようについて 11.専門職における対話について 12.事例検討1(母子関係) 13.事例検討2(地域支援) 14.学習発表準備 15.学習発表会			1. 講義/AL 2. 講義/AL 3. 講義/AL 4. 講義/AL 5. 講義/AL 6. 講義/AL 7. 講義/AL 8. 講義/AL 9. 講義/AL 10. 講義/AL 11. 講義/AL 12. 講義/AL 13. 講義/AL 14. 講義/AL 15. 講義/AL	1. 山本 2. 山本 3. 山本 4. 山本 5. 山本 6. 山本 7. 山本 8. 山本 9. 山本 10. 山本 11. 山本 12. 山本 13. 山本 14. 山本 15. 山本
教科書 1	オープンダイアログを实践する 出版社: 日本評論社 ISBN: 978-4-535-9844-3-1						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	中角 祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ;神経生理検査を理解する。 到達目標;学生が、臨床的に神経生理検査を応用できるようになる。						
概要	<p>脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。</p> <p>まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。</p> <p>次に、神経筋の構造と機能を再学習する。</p> <p>そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。</p> <p>その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。</p> <p>最後に、症例が提示されるので、実際の臨床応用のありかたも感じてもらいたい。</p>						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
オフィスワ-	水曜3限、6号館4階6411研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1;臨床神経生理学の歴史 2;神経生理の基礎 3;末梢神経の構造と機能 4;神経筋接合部の構造と機能 5;筋線維と運動単位 6;検査装置と器具 7;神経伝導検査の基本原則 8;遅発電位とその臨床的意義 9;H反射について 10;F波について 11;神経伝導検査の実際 12;神経筋接合部の検査法 13;脳幹部反射 14;磁気刺激による運動誘発電位 15;体性感覚誘発電位 16;期末試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角					
教科書 1	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 著者:木村淳、幸原伸夫 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	山本 倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ: ひとの心がどのようにしてつくられるか、という問いについて知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し学習する。</p> <p>目標: 院生は、精神機能障害の支援について考察を深め、支援方法を探求していくことができる。</p>						
概要	心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では、人の心がどのようにつくられるのかという問いに対して知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し、学習します。また、学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していきます。院生は、精神障害リハビリテーション研究の実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めます。						
評価方法	科目修了試験50%、提出課題内容50%で、総合評価とする。 提出課題は授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	各自、授業テーマに関する知識を主体的に身につける努力をすること						
自己学習	授業時間前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。予習、復習には該当講義に関する教科書範囲を読むこと。						
オフィスワ-	月曜3時限目、6号館4階6417研究室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.知覚について 3.記憶について 4.思考について 5.情動について 6.想像について 7.意思について 8.知覚、記憶、思考の関連について 9.情動、想像、意思の関連について 10.こころがつくられるについて 11.精神機能障害との関連について 12.作業療法支援とこころについて 13.事例検討1(こども、成人) 14.学習発表会 15.単位認定試験(筆記試験)			1. 講義 2. 講義 3. 講義 4. 講義 5. 講義 6. 講義 7. 講義 8. 講義 9. 講義 10. 講義 11. 講義 12. 講義 13. 講義 14. 講義 15. 筆記試験	1. 山本 2. 山本 3. 山本 4. 山本 5. 山本 6. 山本 7. 山本 8. 山本 9. 山本 10. 山本 11. 山本 12. 山本 13. 山本 14. 山本 15. 山本
教科書 1	子どもの心はつくられる ヴィゴツキーの心理学講座 普及版 著者:ヴィゴツキー 著 / 菅田洋一郎 監訳 / 広瀬信雄 訳 出版社:新読書社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ 演習			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	中角 祐治				NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ;神経生理検査を理解する。 到達目標;学生が、臨床的に神経生理検査を応用できるようになる。</p>						
概要	<p>脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。次に、神経筋の構造と機能を再学習する。そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じてもらいたい。</p>						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
オフィスワ-	水曜3限、6号館4階6411研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1;針筋電図の概要 2;刺入時電位と安静時電位 3;運動単位電位 4;単一筋線維筋電図 5;症例1 6;症例2 7;症例3 8;症例4 9;症例5 10;症例6 11;神経筋の解剖 12;局所診断 13;生体信号の測定原理 14;筋電図用語 15;記録波形の実際 16;期末試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角		
教科書 1	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 著者:木村淳、幸原伸夫 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	山本 倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 感情の働きに着目し学習する。 精神機能障害の支援について考察を深め、支援方法を探求していく。 <p>目標:院生は、感情の働きについて探求、学習し、精神機能障害の支援について考察を深め探求していくことができる。</p>						
概要	<p>心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では、情動に着目し、進化史に触れながら、気分操作の技法や機械と情動について学習します。また、学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していきます。</p> <p>院生は、精神障害リハビリテーション研究について実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めていきます。</p>						
評価方法	<p>提出課題50%と学習発表会の内容50%により総合評価 提出課題は授業でフィードバックを行う。</p>						
履修条件・注意事項	各自、積極的に授業に参加し、授業テーマに関する知識を主体的に身につけるよう、努力すること。						
自己学習	授業開始前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。予習、復習には該当講義の教科書範囲を読むこと。						
オフィスワ-	月曜3時限目、6号館4階6417研究室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.第1章輪読 3.第1章と精神機能障害の検討 4.第2章輪読 5.第2章と精神機能障害支援について検討 6.第3章輪読 7.第3章と臨床実践について検討 8.第4章輪読 9.第4章と臨床実践について検討 10.第5章輪読 11.第5章と臨床実践について検討 12.事例検討1(こども) 13.事例検討2(成人) 14.事例検討3(老年期) 15.発表会			1.講義 2.講義 3.AL 4.講義 5.AL 6.講義 7.AL 8.講義 9.AL 10.講義 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.発表	1.山本 2.山本 3.山本 4.山本 5.山本 6.山本 7.山本 8.山本 9.山本 10.山本 11.山本 12.山本 13.山本 14.山本 15.山本
教科書 1	感情 著者:訳・解説 遠藤利彦 出版社:岩波書社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究 I			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高橋 淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生が腫瘍生物学研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を発表できることを目標とする。						
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍生物学の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 研究発表の方法を学ぶ。 						
評価方法	講義後の提出レポートで、知識を評価する(30%)。実験において、態度を評価する(30%)。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する(40%)。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。						
自己学習	腫瘍学に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。						
オフィスワ-	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍生物学総論 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験(9) 12. 実験(10) 13. 実験(11) 14. 実験(12) 15. 実験(13) 16. 実験(14) 17. 実験(15) 18. 実験(16) 19. 実験(17) 20. 実験(18) 21. 実験(19) 22. 実験(20) 23. 実験(21) 24. 実験(22) 25. 実験(23) 26. 実験(24) 27. 実験(25) 28. 実験結果検討会 29. 研究計画書作成 30. 研究計画発表の予行演習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. AL 16. AL 17. AL 18. AL 19. AL 20. AL 21. AL 22. AL 23. AL 24. AL 25. AL 26. AL 27. AL 28. AL 29. AL 30. AL 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋 16. 高橋 17. 高橋 18. 高橋 19. 高橋 20. 高橋 21. 高橋 22. 高橋 23. 高橋 24. 高橋 25. 高橋 26. 高橋 27. 高橋 28. 高橋 29. 高橋 30. 高橋 		
教科書 1	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	ワインバーグ がんの生物学(原書第2版) 著者: ロバート・A. ワインバーグ (著), 武藤 誠 (翻訳), 青木 正博 (翻訳) 出版社: 南江堂 ISBN: 978-4524265817						
参考書 2	がん-4000年の歴史- 上、下 (ハヤカワ文庫NF) 著者: シッダールタ ムカジー (著), Siddhartha Mukherjee (その他), 田中文 (翻訳) 出版社: 早川書房 ISBN: 978-4150504670 978-4150504687						

教科書 1	医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 出版社: メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN: 978-4-89592-583-9
教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

教科書 2	
参考書 1	授業で具体的に指示する。
参考書 2	

授業科目名	特別研究 I			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	(テーマ)自己の持つ理学療法領域の疑問を研究疑問にする。 (到達目標)理学療法の研究領域にはどのような研究があるのかを把握し、自己の疑問がどの領域にあるのかを明らかにする。						
概要	理学療法領域における研究法にはどのようなものがあるのかを調べ、各々の研究方法についてその特徴、利点や限界について学ぶ。理学療法領域における研究法にはどのようなものがあるのかを調べ、各々の研究方法についてその特徴、利点や限界について学ぶ。						
評価方法	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10~12:40)をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 研究を行ううえでの基本姿勢① 2. 研究を行ううえでの基本姿勢② 3. 研究の過程・範囲・流れ① 4. 研究の過程・範囲・流れ② 5. 研究テーマの探し方① 6. 研究テーマの探し方② 7. 研究の展開と問題解決手順① 8. 研究の展開と問題解決手順② 9. 研究テーマの策定① 10. 研究テーマの策定② 11. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法① 12. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法② 13. 研究テーマに関する先行研究の調査① 14. 研究テーマに関する先行研究の調査② 15. 研究テーマに関する先行研究の調査③ 16. 研究テーマに関する先行研究の調査④ 17. 研究テーマの概要の確と定研究計画の概要作成① 18. 研究テーマの概要の確と定研究計画の概要作成② 19. 研究計画のための先行研究の発表① 20. 研究計画のための先行研究の発表② 21. 研究における倫理① 22. 研究における倫理② 23. 研究計画書の原案と指導① 24. 研究計画書の原案と指導② 25. 研究計画書の完成 26. 研究計画発表用資料作成と指導① 27. 研究計画発表用資料作成と指導② 28. 研究計画発表用資料作成と指導③ 29. 研究計画発表の予行演習① 30. 研究計画発表の予行演習②				
教科書 1	必要に応じて文献や研究資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ			履修期	2021年度 春学期	
担当者	長町 榮子				NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態 演習
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。					
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までが概要となる。					
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。					
履修条件・注意事項	研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する。					
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。					
オフィスワ-	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
1.実験に関するディスカッション1	AL	長町				
2.実験に関するディスカッション2	AL	長町				
3.実験に関するディスカッション3	AL	長町				
4.実験に関するディスカッション4	AL	長町				
5.実験に関するディスカッション5	AL	長町				
6.データの収集1	AL	長町				
7.データの収集2	AL	長町				
8.データの収集3	AL	長町				
9.データの収集4	AL	長町				
10.データの収集5	AL	長町				
11.データの解析1	AL	長町				
12.データの解析2	AL	長町				
13.データの解析3	AL	長町				
14.データの解析4	AL	長町				
15.データの解析5	AL	長町				
16.実験結果の考察1	AL	長町				
17.実験結果の考察2	AL	長町				
18.実験結果の考察3	AL	長町				
19.実験結果の考察4	AL	長町				
20.実験結果の考察5	AL	長町				
21.研究論文作成1	AL	長町				
22.研究論文作成2	AL	長町				
23.研究論文作成3	AL	長町				
24.研究論文作成4	AL	長町				
25.研究論文作成5	AL	長町				
26.プレゼンテーションとディスカッション1	AL	長町				
27.プレゼンテーションとディスカッション1	AL	長町				
28.プレゼンテーションとディスカッション2	AL	長町				
29.プレゼンテーションとディスカッション3	AL	長町				
30.プレゼンテーションとディスカッション4	AL	長町				
教科書 1	適宜必要な文献・資料等を提示する。					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	中瀬 克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までが概要となる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階6424研究室にて、毎週水曜2限(教授会がある日を除く)または木曜2限を、オフィスアワーとする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.研究に関するディスカッション1		AL	中瀬				
2.研究に関するディスカッション2		AL	中瀬				
3.研究に関するディスカッション3		AL	中瀬				
4.研究に関するディスカッション4		AL	中瀬				
5.研究に関するディスカッション5		AL	中瀬				
6.データの収集1		AL	中瀬				
7.データの収集2		AL	中瀬				
8.データの収集3		AL	中瀬				
9.データの収集4		AL	中瀬				
10.データの収集5		AL	中瀬				
11.データの解析1		AL	中瀬				
12.データの解析2		AL	中瀬				
13.データの解析3		AL	中瀬				
14.データの解析4		AL	中瀬				
15.データの解析5		AL	中瀬				
16.研究結果の考察1		AL	中瀬				
17.研究結果の考察2		AL	中瀬				
18.研究結果の考察3		AL	中瀬				
19.研究結果の考察4		AL	中瀬				
20.研究結果の考察5		AL	中瀬				
21.研究論文作成1		AL	中瀬				
22.研究論文作成2		AL	中瀬				
23.研究論文作成3		AL	中瀬				
24.研究論文作成4		AL	中瀬				
25.研究論文作成5		AL	中瀬				
26.プレゼンテーションとディスカッション1		AL	中瀬				
27.プレゼンテーションとディスカッション2		AL	中瀬				
28.プレゼンテーションとディスカッション3		AL	中瀬				
29.プレゼンテーションとディスカッション4		AL	中瀬				
30.プレゼンテーションとディスカッション5		AL	中瀬				
教科書 1	適宜必要な文献・資料等を提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	高橋 淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生が腫瘍生物学研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を論文(日本語)としてまとめ、発表できることを目標とする。						
概要	<p>1. 腫瘍生物学の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 研究発表の方法、論文執筆法を学ぶ。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 内科医としての実務経験と血液学・細胞生物学・腫瘍生物学の研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	講義後の提出レポートで、知識を評価する(10%)。実験において、態度を評価する(20%)。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する(30%)。修士論文の内容で方法への理解、思考法を評価する(20%)。修士論文発表会の際の口頭試問で、研究内容への理解を評価する(20%)。講義中評価のために出した課題・レポートは、授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。						
自己学習	腫瘍学に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室(6414)にて、水曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 研究計画の再吟味 2. 実験(1) 3. 実験(2) 4. 実験(3) 5. 実験(4) 6. 実験(5) 7. 実験(6) 8. 実験(7) 9. 実験(8) 10. 実験(9) 11. 実験(10) 12. 実験(11) 13. 実験(12) 14. 中間発表準備 15. 実験(13) 16. 実験(14) 17. 実験(15) 18. 実験(16) 19. 実験(17) 20. 実験(18) 21. 実験(19) 22. 実験結果検討会 23. 修士論文執筆(1) 24. 修士論文執筆(2) 25. 修士論文執筆(3) 26. 修士論文執筆(4) 27. 第1次修士論文発表会準備 28. 修士論文執筆(5) 29. 修士論文執筆(6) 30. 第2次修士論文発表会準備	1. AL 2. AL 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. AL 16. AL 17. AL 18. AL 19. AL 20. AL 21. AL 22. AL 23. AL 24. AL 25. AL 26. AL 27. AL 28. AL 29. AL 30. AL	1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋 16. 高橋 17. 高橋 18. 高橋 19. 高橋 20. 高橋 21. 高橋 22. 高橋 23. 高橋 24. 高橋 25. 高橋 26. 高橋 27. 高橋 28. 高橋 29. 高橋 30. 高橋					
教科書 1	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	ワインバーグ がんの生物学(原書第2版) 著者: ロバート・A. ワインバーグ(著), 武藤 誠(翻訳), 青木 正博(翻訳) 出版社: 南江堂 ISBN: 978-4524265817						
参考書 2	がん-4000年の歴史- 上、下 (ハヤカワ文庫NF) 著者: シッダールタ ムカジー(著), Siddhartha Mukherjee(その他), 田中文(翻訳) 出版社: 早川書房 ISBN: 978-4150504670/978-4150504687						

授業科目名	特別研究Ⅱ			履修期	2021年度 春学期		
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	特別研究Ⅰで立てた研究計画を実行に移し、実験研究の結果得られたデータを解析する。その結果を実験中間報告書にまとめ研究中間報告を行えることを到達目標とする。						
概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された研究中間報告書について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	本講義を通して実験研究を実施し、修士論文研究中間報告を行うことが求められている。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回:研究計画の再確認①		AL	河村顕治				
第2回:研究計画の再確認②		AL	河村顕治				
第3回:先行研究調査①		AL	河村顕治				
第4回:先行研究調査②		AL	河村顕治				
第5回:実験研究の準備①		AL	河村顕治				
第6回:実験研究の準備②		AL	河村顕治				
第7回:実験研究の実施①		AL	河村顕治				
第8回:実験研究の実施②		AL	河村顕治				
第9回:実験研究の実施③		AL	河村顕治				
第10回:実験研究の実施④		AL	河村顕治				
第11回:実験研究の実施⑤		AL	河村顕治				
第12回:実験研究の実施⑥		AL	河村顕治				
第13回:実験研究の実施⑦		AL	河村顕治				
第14回:実験研究の実施⑧		AL	河村顕治				
第15回:実験研究の実施⑨		AL	河村顕治				
第16回:実験研究の実施⑩		AL	河村顕治				
第17回:実験データの分析①		AL	河村顕治				
第18回:実験データの分析②		AL	河村顕治				
第19回:実験データの分析③		AL	河村顕治				
第20回:実験データの分析④		AL	河村顕治				
第21回:研究中間報告書の作成①		AL	河村顕治				
第22回:研究中間報告書の作成②		AL	河村顕治				
第23回:研究中間報告書の作成③		AL	河村顕治				
第24回:研究中間報告書の作成④		AL	河村顕治				
第25回:研究中間報告書の作成⑤		AL	河村顕治				
第26回:研究中間報告書の作成⑥		AL	河村顕治				
第27回:研究中間報告資料の作成①		AL	河村顕治				
第28回:研究中間報告資料の作成②		AL	河村顕治				
第29回:研究中間報告発表資料確認		AL	河村顕治				
第30回:研究中間報告発表資料確認		AL	河村顕治				
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	齋藤 圭介					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	研究を行なうのに必要な手続き、態度および方法を身につけ、研究成果を論文としてまとめることが出来る事を到達目標とする。								
概要	<p>1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。</p> <p>2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。</p> <p>3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	課題の取り組み状況(40%)、研究課題の進捗状況(20%)、研究成果の達成度(30%)から評価する。研究成果については、知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなす。なお、評価のために実施した各種課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。								
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下、予習・復習はもとより、教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。								
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し研究の具体化を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。								
オフィスワ-	個人研究室にて、春学期は金曜日5時限目、秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 第1回	研究計画の再吟味	AL	齋藤						
2. 第2回	データ収集の再吟味	AL	齋藤						
3. 第3回	社会的背景の再吟味	AL	齋藤						
4. 第4回	研究レビューの再吟味	AL	齋藤						
5. 第5回	データ整理方法再吟味	AL	齋藤						
6. 第6回	集計対象の属性分析	AL	齋藤						
7. 第7回	データの特徴把握	AL	齋藤						
8. 第8回	変数の特徴把握	AL	齋藤						
9. 第9回	研究目的に向けた解析	AL	齋藤						
10. 第10回	解析結果の解釈	AL	齋藤						
11. 第11回	解析のアウトライン	AL	齋藤						
12. 第12回	解析の方法論	AL	齋藤						
13. 第13回	解析の実施	AL	齋藤						
14. 第14回	解析結果の再吟味	AL	齋藤						
15. 第15回	解析提示内容の確定1	AL	齋藤						
16. 第16回	解析提示内容の確定2	AL	齋藤						
17. 第17回	論文構成の検討1	AL	齋藤						
18. 第18回	論文構成の検討2	AL	齋藤						
19. 第19回	緒言の執筆1	AL	齋藤						
20. 第20回	緒言の執筆2	AL	齋藤						
21. 第21回	方法・結果の執筆1	AL	齋藤						
22. 第22回	方法・結果の執筆2	AL	齋藤						
23. 第23回	考察の執筆1	AL	齋藤						
24. 第24回	考察の執筆2	AL	齋藤						
25. 第25回	中間発表の全体構成	AL	齋藤						
26. 第26回	中間発表 背景・目的	AL	齋藤						
27. 第27回	中間発表 結果提示	AL	齋藤						
28. 第28回	中間発表 考察	AL	齋藤						
29. 第29回	プレゼンテーションの仕方1	AL	齋藤						
30. 第30回	プレゼンテーションの仕方2	AL	齋藤						
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	服部 俊夫					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	研究を実施し、論文にまとめることができるようになるための、第二段階となる科目である。研究を実施しながら、データの整理、表現法などを身につける。また、平行して論文作成や口頭発表のための方法を身につける。								
概要	データの集積や研究成果をまとめ検討するのに必要な方法について指導する。								
評価方法	研究指導全般を通して態度及び研究発表に必要な能力などを総合的に評価する。毎回の講義において口頭試問を行う(30%)。また宿題としてレポートを課す(30%)。および、最終提出の研究概要の内容(40%)で評価を行う。なお、毎回最初に前回のフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	関連論文、研究計画書、データ解析結果、プレゼン資料、論文草稿などの準備をして授業に臨むこと。								
自己学習	関連論文、研究計画書、データ解析結果、プレゼン資料、論文草稿などの準備をして授業に臨むこと。また、復習として、その回の内容をノートにまとめておくこと。なお、予習と復習にはそれぞれ二時間以上を要する。								
オフィスアワー	6号館408研究室にて、毎週木曜日11:00～12:00 をオフィスアワーとする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
①研究実施、またそれに伴う問題点の検討 ②研究実施、またそれに伴う問題点の検討 ③研究推進と研究テーマに沿った基礎知識の確認 ④研究推進と基礎知識の確認 ⑤研究推進と内容に関連した文献の再検索 ⑥研究推進及び収集文献抄読 ⑦研究推進及び収集文献抄読 ⑧研究進行に伴う問題点の検討 ⑨研究進行に伴う問題点の改善 ⑩研究推進と平行してデータの整理 ⑪研究推進と平行して引き続きデータの整理 ⑫データの整理と統計処理 ⑬データの整理 ⑭研究結果の初段階考察 ⑮研究結果の考察続き ⑯研究結果の考察まとめ ⑰研究論文のイントロの検討 ⑱研究論文のイントロの検討 ⑲研究論文の材料方法のまとめ検討 ⑳研究論文の材料方法のまとめ ?研究論文の結果まとめ検討 ?研究論文の結果まとめ ?研究論文の考察検討 ?研究論文の考察発展 ?研究論文の文献整理 ?研究論文の文献整理 ?口頭発表の検討と資料作成 ?続口頭発表の検討と資料作成 ?口頭発表リハーサル1回目 ?口頭発表リハーサル2回目			毎回AL	毎回 服部俊夫					
教科書 1	特に指定せず								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	掛谷 益子					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	AL		
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究結果の分析及び考察を深めたいと、研究成果を論文としてまとめる。								
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までを行う。								
評価方法	完成論文の内容(50%)と研究発表会における研究内容及び質疑応答の内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。								
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ収集、分析、考察を行うなど、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。								
自己学習	研究内容に関する最新の論文を読み、理解を深めることが重要である。外国の論文を理解するには、かなりの時間を要するが、内容を整理することで論文の作成につながる。予習として、論文の概要を把握しておき、復習として、授業中検討した論文の内容の意味を深く理解する。予習復習には各2時間程度は必要である。								
オフィスワ-	木曜日昼休憩、研究室(6402)にて実施する。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 研究テーマの再検討			AL	掛谷					
2. 研究計画内容、仮説の再検討			AL	掛谷					
3. 研究テーマに沿った文献の再検討(分析方法について)			AL	掛谷					
4. 研究テーマに沿った文献の再検討(調査結果と先行研究との比較)			AL	掛谷					
5. 研究テーマに沿った文献の再検討(図・表等の表現について)			AL	掛谷					
6. 研究テーマに沿った文献検討(まとめ)			AL	掛谷					
7. 研究テーマの確定									
8. データ収集			AL	掛谷					
9. データ入力			AL	掛谷					
10. データ整理			AL	掛谷					
11. データ分析1			AL	掛谷					
12. データ分析2			AL	掛谷					
13. データ分析結果の検討			AL	掛谷					
14. プレゼンテーション技術(スライド構成について)			AL	掛谷					
15. プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について)			AL	掛谷					
16. 中間発表とディスカッション									
17. 中間発表の問題点の整理			AL	掛谷					
18. 結果に対する考察の検討1			AL	掛谷					
19. 結果に対する考察の検討2			AL	掛谷					
20. 結果に対する考察の検討3			AL	掛谷					
21. 研究論文作成1(目的)			AL	掛谷					
22. 研究論文作成2(意義)			AL	掛谷					
23. 研究論文作成3(方法)			AL	掛谷					
24. 研究論文作成4(結果)			AL	掛谷					
25. 研究論文作成5(考察)			AL	掛谷					
26. 研究論文作成6(結論)			AL	掛谷					
27. 研究論文作成7(文献)			AL	掛谷					
28. 研究論文作成8(資料)			AL	掛谷					
29. 結論の検討			AL	掛谷					
30. 看護への活用			AL	掛谷					
教科書 1	適宜必要な文献・資料等を提示する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	京極 真					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	<p>テーマ:大学院生は、自身の研究実施プロセスを理解できることである。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 大学院生は自身の研究に必要な予備実験ができる。</p> <p>2. 大学院生は自身の研究の本実験ができる。</p> <p>3. 大学院生は自身の研究をまとめ、発表ができる。</p>								
概要	この演習では、自身の立てた研究計画にそって研究を遂行しながら研究を完遂するテクニックを学ぶ。研究の意義と独創性、実証的成果を明らかにしながら、研究の限界について検討していく。								
評価方法	課題(50%)、発表(50%)で行う。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。								
履修条件・注意事項	積極的にかつ自律的に参加すること。								
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。								
オフィスアワー	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 対象のリクルートの方法			AL	京極					
2. 対象のリクルートの課題			AL	京極					
3. 研究における利点の議論			AL	京極					
4. 研究における問題点の議論			AL	京極					
5. プレ研究の方法			AL	京極					
6. プレ研究における利点の検討			AL	京極					
7. プレ研究における問題点の検討			AL	京極					
8. 研究法の概要(質的研究)			AL	京極					
9. 研究法の概要(量的研究)			AL	京極					
10. 研究法の概要(混合研究)			AL	京極					
11. 各研究法の利点			AL	京極					
12. 各研究法の欠点			AL	京極					
13. 研究法の吟味			AL	京極					
14. 研究法の最終確定			AL	京極					
15. 本研究と利点の議論			AL	京極					
16. 本研究と問題点の議論			AL	京極					
17. 本研究の修正の議論			AL	京極					
18. 本研究結果の中間報告			AL	京極					
19. 中間報告の結果を踏まえた議論			AL	京極					
20. 社会的背景の整理			AL	京極					
21. 社会的背景の確認			AL	京極					
22. 本研究方法の整理			AL	京極					
23. 本研究方法の確認			AL	京極					
24. 研究結果の整理			AL	京極					
25. 研究結果の確認			AL	京極					
26. 研究結果に対する考察			AL	京極					
27. 研究結果に対する限界			AL	京極					
28. 論文作成1			AL	京極					
29. 作成論文の発表と議論			AL	京極					
30. 論文作成・発表(試験)			AL	京極					
教科書 1	適宜紹介								
教科書 2									
参考書 1	適宜紹介								
参考書 2									

教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	岩田 美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究テーマに沿った考察の進展と論文作成 到達目標:研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。</p>						
概要	<p>1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、研究に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下、予習・復習はもとより、教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。</p>						
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	月曜日2限 6429研究室(岩田)とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 研究計画内容、仮説の再検討1	AL	岩田					
2. 研究計画内容、仮説の再検討2	AL	岩田					
3. データ収集の再検討1	AL	岩田					
4. データ収集の再検討2	AL	岩田					
5. 関連文献からの検討(1)調査結果	AL	岩田					
6. 関連文献からの検討(1)先行研究	AL	岩田					
7. 関連文献からの検討(2)引用表現1	AL	岩田					
8. 関連文献からの検討(2)引用表現2	AL	岩田					
9. 関連文献からの検討(3)論点1	AL	岩田					
10. 関連文献からの検討(3)論点2	AL	岩田					
11. 引用文献の挿入1	AL	岩田					
12. 引用文献の挿入2	AL	岩田					
13. データの全体的特徴の把握1	AL	岩田					
14. データの全体的特徴の把握2	AL	岩田					
15. データ処理方法	AL	岩田					
16. 研究目的達成に向けた解析	AL	岩田					
17. 解析結果の解釈1	AL	岩田					
18. 解析結果の解釈2	AL	岩田					
19. 中間発表の準備 1 全体の構成1	AL	岩田					
20. 中間発表の準備 1 全体の構成2	AL	岩田					
21. 中間発表の準備2 論文構成の課題1	AL	岩田					
22. 中間発表の準備2 論文構成の課題2	AL	岩田					
23. 中間発表の準備3 要旨のまとめ方1	AL	岩田					
24. 中間発表の準備3 要旨のまとめ方1	AL 試験	岩田					
25. 中間発表の準備4 結果の提示1							
26. 中間発表の準備4 結果の提示2							
27. 中間発表の準備5 考察と検討							
28. 中間発表の準備5 結論の検討							
29. プレゼンテーションの実施の仕方							
30. 最終試験 最終レポート							
教科書 1	<p>作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:友利 幸之介/京極 真/竹林 崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7</p>						

教科書 2	
参考書 1	授業で具体的に指示する。
参考書 2	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	狩長 弘親					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:研究テーマに沿った考察の進展と論文作成 到達目標:研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。</p>							
概要	<p>1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>							
評価方法	<p>文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。</p>							
履修条件・注意事項	<p>主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下、予習・復習はもとより、教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。</p>							
自己学習	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>							
オフィスワ-	月曜日4限 6427研究室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
1. 研究計画内容、仮説の再検討1	AL	狩長						
2. 研究計画内容、仮説の再検討2	AL	狩長						
3. データ収集の再検討1	AL	狩長						
4. データ収集の再検討2	AL	狩長						
5. 関係する文献からの検討(1)調査結果と先行研究1	AL	狩長						
6. 関係する文献からの検討(1)調査結果と先行研究2	AL	狩長						
7. 関係する文献からの検討(2)引用表現の工夫1	AL	狩長						
8. 関係する文献からの検討(2)引用表現の工夫2	AL	狩長						
9. 関係する文献からの検討(3)論点の議論1	AL	狩長						
10. 関係する文献からの検討(3)論点の議論2	AL	狩長						
11. 関係する文献からの検討(4)引用文献の挿入1	AL	狩長						
12. 関係する文献からの検討(4)引用文献の挿入2	AL	狩長						
13. データの全体的特徴の把握1	AL	狩長						
14. データの全体的特徴の把握2	AL	狩長						
15. データ処理方法について1 研究目的達成に向けた解析1	AL	狩長						
16. データ処理方法について1 研究目的達成に向けた解析2	AL	狩長						
17. データ処理方法について2 解析結果の解釈1	AL	狩長						
18. データ処理方法について2 解析結果の解釈1	AL	狩長						
19. 中間発表の準備1 全体の構成1	AL	狩長						
20. 中間発表の準備1 全体の構成2	AL	狩長						
21. 中間発表の準備2 論文構成の課題1	AL	狩長						
22. 中間発表の準備2 論文構成の課題2	AL	狩長						
23. 中間発表の準備3 要旨のまとめ方1	AL	狩長						
24. 中間発表の準備3 要旨のまとめ方1	AL	狩長						
25. 中間発表の準備4 結果の提示の仕方1	AL	狩長						
26. 中間発表の準備4 結果の提示の仕方2	AL	狩長						
27. 中間発表の準備5 考察と結論の検討1	AL	狩長						
28. 中間発表の準備5 考察と結論の	AL	狩長						

検討2 29. プレゼンテーションの実施の仕 方1 30. 全体総括	AL AL	狩長 狩長		
教科書 1	授業で具体的に指示する。			
教科書 2				
参考書 1	授業で具体的に指示する。			
参考書 2				

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	寺岡 睦					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:大学院生は、研究実施プロセスを一通り理解できる 到達目標:大学院生は、自身の研究に必要な知識を収集できる。 大学院生は、自身の研究の実施が出来る。 大学院生は、自身の研究を適切にまとめ、発表ができる</p>							
概要	<p>研究計画に沿って研究を遂行しながら、研究をやり遂げるテクニックを学ぶ。 その中で研究の意義と独創性、実証的成果を明らかにしながら研究の限界について検討する。</p>							
評価方法	<p>課題50%、発表50%で行う 評価のために実施した課題等は講義内でフィードバックを行う。</p>							
履修条件・注意事項	<p>講義前後で研究を遂行していくこと 講義内での議論や検討に積極的に参加すること</p>							
自己学習	<p>研究遂行のための予習・復習には各2時間行う必要がある。 毎回の講義終了時には次回の研究報告を円滑に行うために課題を課す。 それを遂行することによって次回講義への円滑な参加が行える。</p>							
オフィスワ-	木曜4限, 6430教室で行う。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 研究法概要	AL	寺岡						
2. 研究における利点の議論	AL	寺岡						
3. 研究における問題点の議論	AL	寺岡						
4. 対象のリクルート方法	AL	寺岡						
5. 対象のリクルートによる課題	AL	寺岡						
6. プレ研究の方法	AL	寺岡						
7. プレ研究における利点の検討	AL	寺岡						
8. プレ研究における問題点の検討	AL	寺岡						
9. 質的研究の概要	AL	寺岡						
10. 量的研究の概要	AL	寺岡						
11. 各研究法の利点と欠点	AL	寺岡						
12. 研究法の吟味	AL	寺岡						
13. 研究法の最終確定	AL	寺岡						
14. 本研究と利点の議論	AL	寺岡						
15. 本研究と問題点の議論	AL	寺岡						
16. 本研究の修正の議論	AL	寺岡						
17. 本研究結果の中間報告	AL	寺岡						
18. 中間報告の結果を踏まえた議論	AL	寺岡						
19. 社会的背景の整理	AL	寺岡						
20. 社会的背景の確認	AL	寺岡						
21. 本研究の方法の整理	AL	寺岡						
22. 本研究の方法の確認	AL	寺岡						
23. 研究結果の整理	AL	寺岡						
24. 研究結果の確認	AL	寺岡						
25. 研究結果に対する考察	AL	寺岡						
26. 研究結果に対する限界の検討	AL	寺岡						
27. 論文作成1	AL	寺岡						
28. 作成論文の発表と議論	AL	寺岡						
29. 論文作成・発表	AL	寺岡						
30. まとめ	AL	寺岡						
教科書 1	適宜紹介							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

保健科学研究科
博士（後期）課程

授業科目名	分子生物学特講				履修期	2021年度 春学期	
担当者	森 芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	運動器疾患の分子メカニズムをテーマとする。分子生物学的な知識・視点を身につけることで、運動器疾患をより多面的に理解できるようにすることを目標とする。						
概要	本科目では、現代医学のあらゆる分野で病態の理解に必須である分子生物学を学修する。前半では教科書に沿って基礎的な知識を習得する。後半では、具体的に骨・関節・腱・靭帯といった運動器の各要素について、最新の研究成果も含めた講義を行う。さらに、自ら新しい知見の含まれる論文を読み込む訓練も行う。これら一連の学修を通し、分子メカニズムから運動器の発生・維持機構を理解することを試みる。						
評価方法	講義時における口頭試問(30%)と提出レポート(70%)により、分子生物学的な知識や思考法が身についたかを評価する。						
履修条件・注意事項	多くの英語論文を読む必要があり、相応の英語力があることを前提に講義と課題を構成する。必ず教科書を用意すること。時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	前半の授業については、教科書を十分に読み込み、必要に応じて更に文献や他の教科書などで疑問点を整理・解決することで、予習と復習を行う。後半の授業の予習は、次回授業で扱う英語論文を提示するので、それらを十分に読み込み、内容を自分でまとめ、疑問点を整理することで行う。後半の授業の復習は、授業時のノートや論文を読み直し、さらにレポート課題をまとめることで行う。予習・復習はそれぞれ2時間程度を要する。						
オフィスワ-	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.分子生物学基礎① (生物の構造と機能)	講義	森					
2.分子生物学基礎② (生物を理解するための化学)	講義	森					
3.分子生物学基礎③ (生物を構成する化学成分)	講義	森					
4.分子生物学基礎④ (DNAの複製・修復・組換え)	講義	森					
5.分子生物学基礎⑤ (DNA、RNA、タンパク質)	講義	森					
6.分子生物学基礎⑥ (タンパク質の構造と機能)	講義	森					
7.分子生物学基礎⑦ (細胞間のシグナル伝達)	講義	森					
8.分子生物学基礎⑧ (細胞内のシグナル伝達)	講義	森					
9.分子生物学基礎⑨ (細胞、組織、器官)	講義	森					
10.骨の分子生物学① (骨形成)	講義	森					
11.骨の分子生物学② (骨吸収)	講義	森					
12.軟骨の分子生物学① (成長板)	講義	森					
13.軟骨の分子生物学② (関節軟骨の発生機構)	講義	森					
14.軟骨の分子生物学③ (関節軟骨の維持機構)	講義	森					
15.腱・靭帯の分子生物学	講義	森					
教科書 1	Essential細胞生物学(原書第4版)(日本語) 著者:翻訳:中村 桂子、松原 謙一 出版社:南江堂 ISBN:978-4524261994						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	細胞組織学特講				履修期	2021年度 春学期	
担当者	井上 茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	細胞組織学特講では、リハビリテーション医療に応用される各種の物理的刺激に対する生体反応や治療メカニズムを細胞レベルで明らかにすることが重要な基礎研究になっていることから、理学療法や作業療法で有効な刺激量を培養細胞により検討する。特に物理療法は人体に物理的刺激を加えることにより、生体が本来備えている自然治癒力を促し機能の回復を高めるものである。その治療効果のメカニズムや最適量についての統一見解はなく、治療効果を高めるための最適な刺激量については不明な点が多いことに院生は目を向けることができる。						
概要	細胞組織学特講ⅠⅡでは、培養線維芽細胞を用い三次元様増殖をパラメータとして各種物理療法の最適条件に関する研究を行う。物理刺激の種類、強度、時間、頻度などを変化させ、三次元様増殖形成や分化に必要な閾値や致死量を解明し、物理療法における最適な刺激量の基礎とする。これまでに温熱刺激を含むいろいろな物理刺激の効果を培養細胞と人工骨(ハイドロキシアパタイト、以下HA)を用いて迅速に調べる方法を開発してきた。すなわち、マウス由来のC3H10T1/2培養細胞を用い、機械的刺激やレーザー照射を与え、あるいは電磁場刺激や超音波刺激を与えHAと混合培養するとその周り200 μ m以上の幅で周りを囲んだ細胞群が出現し三次元様増殖が形成されるのである。本特講では、これまでマウス線維芽細胞のHAを媒体とした、三次元様増殖形成に物理刺激が効果的に働き出す至適刺激量を明らかにした研究成果を踏まえ、臨床理学療法と細胞組織学の接点についての講義を行う。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	研究の進捗状況および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度(40%)、確認小テスト(40%)、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	1年次は1～8、2年次では8～15、3年次では論文作成を目標として履修を進めたい。なお、本特講の履修にあたっては分子生物学特講をあわせて履修することが望ましい。特に8～10などは加納教授の指導により、また11～14などは秋山准教授の指導により実験法を習得することになる。						
自己学習	・自らの課題について、調べてきたことや実験したことなどを元にして「自ら学ぶ」「実験から学ぶ」実践型の学習が必須である。 ・必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室において毎週火曜日2限目をオフィスアワーの時間とするが随時対応可能。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 細胞組織学関連分野からの検討 2. 臨床理学療法学との関連性 3. 使用細胞と培養 4. 人工媒体の選定 5. 物理的刺激の条件設定 6. 機械的刺激の処理方法 7. 三次元様増殖の形態観察 8. 三次元様増殖形成率 9. ウェスタンブロット法 10. ストレス蛋白の誘導と測定 11. 細胞内外マトリックスの染色 12. 細胞・組織の免疫染色 13. 細胞ダメージの定量的検討 14. 三次元様増殖と理学療法 15. 単位認定試験	AL AL AL AL AL AL AL 実験 実験 実験 実験 実験 AL レポート試験	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	1. 細胞組織学関連分野からの検討 2. 臨床理学療法学との関連性 3. 使用細胞と培養 4. 人工媒体の選定 5. 物理的刺激の条件設定 6. 機械的刺激の処理方法 7. 三次元様増殖の形態観察 8. 三次元様増殖形成率 9. ウェスタンブロット法 10. ストレス蛋白の誘導と測定 11. 細胞内外マトリックスの染色 12. 細胞・組織の免疫染色 13. 細胞ダメージの定量的検討 14. 三次元様増殖と理学療法 15. 単位認定試験	AL AL AL AL AL AL AL 実験 実験 実験 実験 実験 AL レポート試験	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹		
教科書 1	「顕微鏡写真で見る細胞組織学」を教科書とし 適宜必要な文献および資料などを提示する。 著者:坂井 建雄・石村 和敬(翻訳) 出版社:メディカルサイエンスインターナショナル ISBN:ISBNコード:9784895924399						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生理機能学特講				履修期	2021年度 春学期～秋学期	
担当者	水谷 雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の生理機能のうち、消化管運動機能における最新研究のレビューを読み、研究テーマの決定、研究の進め方、論文の書き方などを学ぶ。と同時により高度で複雑な生体の調節系について学ぶ。これらの学修により、研究者としての一步を踏み出すことが出来る。						
概要	消化管を構成している口から肛門までの各臓器における平滑筋および壁内神経系について、その解剖・組織学的知識、および生理学的知識を学び、各臓器毎の機能と形態の特徴についても学ぶ。その上で各臓器における消化管運動を調節している壁内神経機能、またそれをさらに調節している自律神経機構について学ぶ。また自律神経機構をコントロールしている中枢の働き、および消化管運動に影響を及ぼす反射のメカニズムについて学ぶ。ホルモンによる調節系についても学ぶ。これらの生理機能とその臨床との関連性をも講義する。これらの知識を踏まえた上で欧文論文を抄読し、実際の論文の書き方などを学ぶ。						
評価方法	授業態度、質疑応答の状態を50点、各学期末に行うテストの結果を50点として総合的に評価する。なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	英語のテキストを用いて行うので家庭での十分な予習と復習が必要です。とくに英語訳をしっかり行ってくるのが必須条件である。時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に英語訳をしっかり行ってくるのが必須条件である。その上で、参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	非常勤講師室において、授業の前後で行う。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Transcription and Epigenetic Regulation		AL	水谷	1. Brain Processing of Gastrointestinal Sensory Signaling		AL	水谷
2. Gastrointestinal Hormones		AL	水谷	2. Extrinsic Sensory Afferent Nerves Innervating the Gastrointestinal Tract in Health and Disease		AL	水谷
3. Growth Factors in the Intestinal Tract		AL	水谷	3. Neuroimaging of Brain-Gut Interactions in Functional Gastrointestinal Disorders		AL	水谷
4. Hedgehog Signaling in Gastrointestinal Morphogenesis		AL	水谷	4. Enteric Neural Regulation of mucosal Secretion		AL	水谷
5. The Role of Hippo Signaling in Intestinal Homeostasis		AL	水谷	5. Neuromuscular Function in the Biliary Tract		AL	水谷
6. Notch Pathway Regulation of Intestinal Cell Fate		AL	水谷	6. Physiology of Gastric Motility Patterns		AL	水谷
7. WNT Signaling in the Intestine: Development, homeostasis, Disease		AL	水谷	7. Clinical and Translational Aspects of Normal and Abnormal Motility in the Esophagus, Small Intestine and Colon		AL	水谷
8. The Cell Cycle		AL	水谷	8. Neurophysiologic Mechanisms of Human Large Intestinal Motility		AL	水谷
9. Cell Death		AL	水谷	9. Neuromuscular Physiology of the Pelvic Floor		AL	水谷
10. Molecular Physiology of Gastrointestinal Function During Development		AL	水谷	10. Tight Junctions and the Intestinal Barrier		AL	水谷
11. Development of the Enteric Nervous System		AL	水谷	11. Gut Barrier: Adaptive Immunity		AL	水谷
12. Enteric Neurogenesis		AL	水谷	12. Gut Barrier: Innate Immunity		AL	水谷
13. The Physiology and Pathophysiology of Interstitial Cells of Cajal: Pacemaking, innervation and Stretch Sensation		AL	水谷	13. Chemosensing in the Colon		AL	水谷
14. Enteric Nervous System Structure and Neurochemistry Related to Function and Neuropathology		AL	水谷	14. Mucosal Restitution and Repair		AL	水谷
15. Enteric Nervous System: Brain-in-the-Gut		AL	水谷	15. Luminal Chemosensing and Mucosal Defenses in the Upper GI Tract		AL	水谷
16. Test		試験	水谷	16. Test		試験	水谷
教科書 1	Physiology of the Gastrointestinal Tract. Volume 1 Sixth Edition 著者: Ed. by Hamid M. Said 出版社: Elsevier Academic Press ISBN: 978-0-12-815901-9						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	運動機能学特講				履修期	2021年度 春学期		
担当者	河村 顕治					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義	
テーマと到達目標	身体機能を回復させるリハビリテーションの基礎として、身体運動に関する特講を行う。動作解析のデータに基づくコンピュータシミュレーションの技術と知識を身につける。							
概要	骨・筋肉の解剖学、生理学、物理学を基礎とした運動機能を専門的に講義した後、ヒトの関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探究する。さらにコンピュータシミュレーションの技法を用いて、計測不可能な筋張力、筋パワーなどを求める理論について研究する。運動機能に関する研究には、歴史的な背景として筋力強化を単関節運動による筋肥大のみを目的とした時代から、多関節機能、パフォーマンスを重視する方向へと変化する流れが存在する。そのような流れの中でclosed kinetic chain exercise が注目されてきている。身体運動をopen kinetic chainとclosed kinetic chainに分類し、両者の筋出力特性の相違を詳細に検討し、特に二関節筋の果たす重要な役割について探究する。まとめとして人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピュータシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。							
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。							
履修条件・注意事項	人体解剖、力学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。							
自己学習	事前に「筋骨格系のキネシオロジー」を用いて予習が必須である。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
1. 身体運動学について 2. 関節の基本構造 3. 力源としての筋肉 4. 生体力学の基本 5. 上肢(肩) 6. 上肢(肘・前腕) 7. 上肢(手根) 8. 上肢(手) 9. 体軸骨格(頭頸部) 10. 体軸骨格(胸部) 11. 体軸骨格(腰部) 12. 下肢(股関節) 13. 下肢(膝関節) 14. 下肢(足関節・足部) 15. まとめ	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治	16. OKCとCKC 17. OKCとCKC 18. 二関節筋の特性 19. 二関節筋の特性 20. コンピューターシミュレーション 21. コンピューターシミュレーション 22. コンピューターシミュレーション 23. コンピューターシミュレーション 24. 歩行 25. 歩行 26. 立ち上がり動作 27. 立ち上がり動作 28. スクワット 29. スクワット 30. まとめ	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治			
教科書 1	筋骨格系のキネシオロジー 著者:Donald A.Neumann 出版社:医歯薬出版 ISBN:978-4-263-21287-5							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	運動機能学特講			履修期	2021年度 春学期	
担当者	中嶋 正明				NO.	K3D0512012
配当学科	保健科学研究科(博士後期)			年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態 講義
テーマと到達目標	身体機能障害に対する理学療法の基礎として、身体機能障害について特講を行う。各身体機能障害の症状とその発生機序を説明できることをめざす。					
概要	身体機能障害について解剖学、生理学、運動学を基にその障害の発生機序について論理的に探求する。既存の考え方について再考し、論理的飛躍がある所を明らかにする。筋電図、重心動揺計、近赤外線分光器などを用い検証しながら検討する。そしてより効果的なアプローチを探求していく。本講義では理学療法士として実務経験を持つ担当教員が腰痛、膝痛などの整形外科的障害に対するアプローチおよび筋力強化方法を中心に解説する。					
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。					
履修条件・注意事項	解剖学、生理学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。					
自己学習	事前に文献等を配布するので読んで理解しておくこと。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。					
オフィスワ-	6号館3階個人研究室6983にて、水曜日3-5限目に実施。					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
1. 身体機能障害について 2. 腰痛 3. 腰痛と多裂筋 4. 腰痛と疼痛性反射抑制 5. 腰痛とローカル筋・グローバル筋 6. 腰痛と疼痛性抑制反射 7. 腰痛予防エクササイズ 8. 変形性膝関節症 9. 変形性膝関節症と痛み 10. 痛みと固有受容器 11. ブラジキニン、プロスタグランジン 12. 血流改善(前毛細血管括約筋) 13. 血管平滑筋と炭酸ガス 14. 膝痛に対する理学療法1 15. 膝痛に対する理学療法2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋	16. 廃用性筋萎縮 17. サルコペニア 18. サルコペニア 19. スクワットエクササイズ 20. スクワットエクササイズ 21. OKCとCKC 22. 二関節筋の特性 23. スロートレーニング 24. 痛みと筋緊張1 25. 痛みと筋緊張2 26. 痛みと筋血流 27. 痛みと筋血流(前毛細血管括約筋) 28. 筋血流とマイオカイン 29. 筋収縮とマイオカイン 30. まとめ	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋	
教科書 1	「生理学」 著者:真島英信 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-0201-6					
教科書 2						
参考書 1	適宜、配布する。					
参考書 2						

授業科目名	障害評価学特講				履修期	2021年度 春学期	
担当者	河村 顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	多くの疾患や症候群(症状)から起因する障害像の把握を目指して、障害構造分析の視点を量的なものから質的なものまで幅を拡げて評価方法を検証する。同時に、得られた評価結果を対象者へフィードバック情報として提供することを念頭に置き、効果判定の提示法について模索する。表面筋電図を用いた動作解析の知識と技術を身につける。						
概要	<p>障害像を把握する上で、どのような機器を用いて、いかにわかりやすい指標を提示するのか？ということが課題となる。とりわけ身体運動・活動に影響をもたらす関節運動や筋活動をどのような視点で捉えて評価するのか重要である。さらには、立位姿勢や歩行動作といった身体運動を統合する平衡機能の評価も障害像を捉える上では大切である。そしてこれらの運動器系や平衡機能系が統合されて身体運動や活動・行動につながっている。このようなことから、さまざまな疾患や症候群の特性を把握する上では、それぞれの機能を評価すると同時に“動作分析”を行うことによって、障害像を捉えていくことが臨床上でも適切であると考えられる。</p> <p>近年では、機能・身体構造レベルにおける症候分析と、活動・参加レベルにおける障害分析の視点から動作を観察していく症候障害学的な統合と解釈の必要性が提唱されている。症候障害学とは、「健康状態および環境の変化によって引き起こされる現象としての動作の観察を基軸として、機能不全の要因とともに活動の適応を究明する」と定義づけられている。この概念は、臨床思考過程を実践していく上で重要となる。</p> <p>症候障害学的な統合と解釈を行う上で、実際の“動作分析”を行うことによって機能・身体構造レベルにおける問題点を推敲し、さらにこの機能レベルを評価・測定することによって確証を得るという一連の行程を辿る必要がある。</p> <p>障害評価学特講では、より客観性・信頼性の高い評価・測定方法の習得を目指して、さまざまな身体機能・活動を評価できる方法論について検証する。さらには得られた結果を症候障害学的な統合と解釈に結びつけて、フィードバック情報として提供できる手段の構築を目指す。</p>						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(80%)について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	人体解剖、力学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。						
自己学習	事前に資料を用いて予習が必須である。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.障害評価学総論 2.表面筋電図(1) 3.表面筋電図(2) 4.表面筋電図(3) 5.筋力測定(1) 6.筋力測定(2) 7.筋力測定(3) 8.平衡機能評価(1) 9.平衡機能評価(2) 10.平衡機能評価(3) 11.動作解析(1) 12.動作解析(2) 13.動作解析(3) 14.動作解析(4) 15.まとめ	講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治	16. OKCとCKC 17. OKCとCKC 18. 二関節筋の特性 19. 二関節筋の特性 20. コンピューターシミュレーション 21. コンピューターシミュレーション 22. コンピューターシミュレーション 23. コンピューターシミュレーション 24. 歩行 25. 歩行 26. 立ち上がり動作 27. 立ち上がり動作 28. スクワット 29. スクワット 30. まとめ	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治 河村顕治		
教科書 1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	リハビリテーション援助学特講				履修期	2021年度 春学期	
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	リハビリテーション領域における地域を舞台とした研究方法論の修得をテーマに、その遂行に必要な思考と知識技術を身につける。 本授業では、リハ専門職の積極的な参画が期待されている障害者・要介護高齢者に対する地域支援に焦点を当て、研究トピック、ならびに研究方法論について解説しながら、研究課題を見極め適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。						
概要	リハの理念は「全人的復権」であり社会生活の自立と共生が本来の姿である。入院リハと共に慢性期支援や健康増進など地域を舞台とする支援が重視する今日の状況は、本来の理念を具現化するものである。EBMの潮流の下で、経験則重視から科学的支援への転換が図られ研究課題は山積しており、研究課題を見極め研究デザインに結びつける知識や思考の修得が必要である。本特講では、地域を舞台とした支援に焦点を当て、リハ専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピックや研究方法論を解説し、研究的思考を身につける。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。 なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究遂行能力と研究的思考を身につけ、優れた研究成果を上げるためにも、能動的な学修態度を留意すること。なおリハビリテーション援助学特講は1・2・3年次開講で2単位。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し研究の具体化を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、春学期は金曜日5時限目、秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.保健医療対策の効果－理論		AL	齋藤	1.リハビリテーション援助の現状		AL	齋藤
2.保健医療対策の効果－応用		AL	齋藤	2.リハビリテーション援助に関する討論		AL	齋藤
3.余命と健康寿命の延伸－理論		AL	齋藤	3.現象をとらえる研究デザイン論－理論		AL	齋藤
4.余命と健康寿命の延伸－応用		AL	齋藤	4.現象をとらえる研究デザイン論－応用		AL	齋藤
5.アウトカムに関する現状の理解		AL	齋藤	5.研究目的と尺度の連関－理論		AL	齋藤
6.アウトカムに関する討論		AL	齋藤	6.研究目的と尺度の連関－応用		AL	齋藤
7.ヒトを実験的単位とした比較研究－理論		AL	齋藤	7.結論のシナリオ－理論		AL	齋藤
8.ヒトを実験的単位とした比較研究－応用		AL	齋藤	8.結論のシナリオ－応用		AL	齋藤
9.ランダム化比較試験－理論		AL	齋藤	9.Relevance－理論		AL	齋藤
10.ランダム化比較試験－応用		AL	齋藤	10.Relevance－応用		AL	齋藤
11.無作為化割り当てについて		AL	齋藤	11.ポピュレーション・アプローチ－理論		AL	齋藤
12.無作為化割り当てに関する討論		AL	齋藤	12.ポピュレーション・アプローチ－応用		AL	齋藤
13.脳卒中対象のリハビリテーション援助		AL	齋藤	13.全人的復権:現状の理解		AL	齋藤
14.高齢者対象のリハビリテーション援助－理論		AL	齋藤	14.全人的復権:討論		AL	齋藤
15.高齢者対象のリハビリテーション援助－応用		AL	齋藤	15.既出事項のまとめと討論		AL	齋藤
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	リハビリテーション援助学特講				履修期	2021年度 春学期	
担当者	佐藤 三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ 本講義では、リハビリテーション専門職の積極的な参画が期待されている障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当てた講義を展開する。</p> <p>到達目標 学生は、自身の研究課題に関連する「研究トピック」ならびに「先行研究における研究方法」を通じて、自身の研究課題を見極めて適切な研究デザインを設定するための科学的思考を習得する。</p>						
概要	<p>リハビリテーションの理念は「全人間的復権」であり、社会生活の自立と共生の実現に向けた援助を行うことが本来の姿である。入院による医学的リハビリテーションはもちろんだが、慢性期の支援や健康寿命延伸に向けた健康増進といった障害予防の取り組みなど地域を舞台とした支援が重視されてきている今日の状況は本来の理念を具現化するものといえよう。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下で、リハビリテーションは経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が試みられている。こうした状況にあって、リハビリテーション専門職が取り組むべき課題は山積しており、社会的要請の多様化や専門分化が進む今日の動向を見据えつつ解明すべき研究課題を見極め、それを解くための確固たる研究デザインに結びつける知識や思考を涵養する必要がある。本科目では、障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当て、リハビリテーション専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピック、ならびに研究方法論について解説し、前記の到達目標にて示した科学的思考の涵養を図るものとする。</p>						
評価方法	<p>授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなして評価する。</p> <p>なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>積極的な姿勢で臨むこと(リハビリテーション援助学特講は1・2・3年次開講で2単位)。</p> <p>十分な理解に到達するために、予習と復習を行うこと。</p>						
自己学習	<p>【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。</p> <p>【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容についての質問をランダムに行う「質問会(15分間)」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。</p> <p>【留意事項】 予習と復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.保健医療対策の効果－理論 2.保健医療対策の効果－応用 3.余命と健康寿命の延伸－理論 4.余命と健康寿命の延伸－応用 5.アウトカムに関する現状の理解 6.アウトカムに関する討論 7.ヒトを対象とした比較研究－理論 8.ヒトを対象とした比較研究－応用 9.ランダム化比較試験－理論 10.ランダム化比較試験－応用 11.無作為化割り当てについて 12.無作為化割り当てに関する討論 13.脳卒中のリハビリ援助 14.高齢者のリハビリ援助－理論 15.高齢者のリハビリ援助－応用		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤	1.リハビリテーション援助の現状 2.リハビリ援助に関する討論 3.現象を捉える研究デザイン－理論 4.現象を捉える研究デザイン－応用 5.研究目的と尺度の連関－理論 6.研究目的と尺度の連関－応用 7.結論のシナリオ－理論 8.結論のシナリオ－応用 9.Relevance－理論 10.Relevance－応用 11.ポピュレーション・アプローチ－理論 12.ポピュレーション・アプローチ－応用 13.全人間的復権:現状の理解 14.全人間的復権:討論 15.既出事項のまとめと討論		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤
教科書 1	適宜必要な文献および資料等を提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	障害構造学特講			履修期	2021年度 春学期		
担当者	齋藤 圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	本特講では、障害構造の解明のための研究方法論の修得をテーマに、その遂行に必要な研究的思考と知識技術を身につける。本授業では、障害構造に関する様々な理論に基づき推定した仮説モデルを実証的に検証するための考え方や基本的知識と方法論を身につける事を到達目標とする。						
概要	<p>本特講では、ICF (WHO国際生活機能分類)といった種々の理論モデルを援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく態様が異なる障害構造やその変動傾向について実証的に解明することを教授課題とする。</p> <p>具体的には、障害構造や付随する社会的事象について、理論を基にモデルを推定し検証している実証研究を紹介する。また概念を測る様々なスケールが開発されており、疾患特異性を考慮した開発方法と信頼性や妥当性の検証について理解を深める。以上より障害構造を解くための研究技術を身につける。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)、ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は最初の授業時に説明する。 なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究遂行能力と研究的思考を身につけ、優れた研究成果を上げるためにも、能動的な学修態度を留意すること。なお障害構造学特講は1・2・3年次開講で2単位。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し研究の具体化を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	個人研究室にて、春学期は金曜日5時限目、秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.臨床経験等からの問題認識の明確化と絞込み		AL	齋藤	1.予備調査票の作成		AL	齋藤
2.臨床経験等からの問題認識の絞込み		AL	齋藤	2.フィールドおよび対象者の選定		AL	齋藤
3.関連領域の研究背景と先行研究レビュー・方法論		AL	齋藤	3.データ集計と分析結果の一般化I		AL	齋藤
4.関連領域の研究背景と先行研究レビュー・実際		AL	齋藤	4.データ集計と分析結果の一般化II		AL	齋藤
5.研究目的と研究仮説の設定		AL	齋藤	5.本調査の作成と実施計画I		AL	齋藤
6.研究モデルの構築		AL	齋藤	6.本調査の作成と実施計画II		AL	齋藤
7.研究デザインの創案		AL	齋藤	7.データ収集		AL	齋藤
8.実証的研究の進め方(研究計画書の作成)・方法論		AL	齋藤	8.統計解析への展開		AL	齋藤
9.実証的研究の進め方(研究計画書の作成)・実際		AL	齋藤	9.結果の解釈I		AL	齋藤
10.予備調査の計画		AL	齋藤	10.結果の解釈II		AL	齋藤
11.予備調査の進め方		AL	齋藤	11.研究報告書の作成・学会発表I		AL	齋藤
12.観測変数の選択		AL	齋藤	12.研究報告書の作成・学会発表II		AL	齋藤
13.観測変数のアイテムプール		AL	齋藤	13.学外の学術誌(和文)への論文投稿		AL	齋藤
14.独立変数(原因)と従属変数(結果)の設定		AL	齋藤	14.レフリー付き雑誌(英文を含む)へ論文投稿		AL	齋藤
15.独立変数(原因)と従属変数(結果)の数量化		AL	齋藤	15.既出事項のまとめ		AL	齋藤
教科書 1	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	自立支援学特講				履修期	2021年度 春学期			
担当者	中角 祐治					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義		
テーマと到達目標	テーマ;人の筋肉の走行を再学習する。 到達目標;学生が、人の働きを機能解剖に沿って考えることができる。								
概要	身体障がいにおける自立支援を考える上で、基本となる全身の筋肉の起始・停止、作用、支配神経を再学習する。特に、二関節筋において、一方の関節の肢位により、他方の関節に及ぼす筋の働きの変化を学習する。この過程で、筋力強化や身体運動の再構築についての考え方を深めて行く。								
評価方法	期末試験(100%)、試験結果について文章でフィードバックします。								
履修条件・注意事項	学部の学生時代に学習した運動学を再確認してくること。								
自己学習	予習復習に各2時間を要します。								
オフィスワ-	水曜3限、6号館4階6411研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1;基本的原則1 2;基本的原則2 3;関節運動1 4;関節運動2 5;筋長テストとストレッチ1 6;筋長テストとストレッチ2 7;姿勢1 8;姿勢2 9;姿勢3 10;アライメントと筋バランス 11;側弯症1 12;側弯症2 13;体幹筋1 14;体幹筋2 15;体幹筋3 16;期末試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角	1;下肢筋1 2;下肢筋2 3;下肢筋3 4;下肢筋4 5;下肢筋5 6;上肢筋1 7;上肢筋2 8;上肢筋3 9;上肢筋4 10;上肢筋5 11;顔面筋1 12;顔面筋2 13;頸部、嚥下、呼吸筋 14;頸部・上肢の痛み 15;腰痛・下肢痛み 16;期末試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角
教科書 1	筋:機能とテスト 著者:ケンダル (栢森良二 監訳) 出版社:西村書店 ISBN:4-89013-338-0								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	自立支援学特講				履修期	2021年度 春学期	
担当者	京極 真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:大学院生は、博士課程の研究遂行に必要な基本的な研究論を学ぶ。</p> <p>到達目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生は、研究の意義, 研究倫理, 研究過程と主たる方法を説明できる。 2. 大学院生は、自身の研究課題に関する文献を検索し, レビューを作成できる。 3. 大学院生は、自身の研究課題に関するデータを収集し, 分析し, 発表できる。 						
概要	我が国における保健科学の関心は、科学的根拠に基づく支援へと向い、より良質な科学的知見の創出が求められる。本科目では、保健科学で求められる人材を育てるために、博士課程の研究に必要な研究基礎論を学び、研究計画を立案し、研究計画の発表ができるようになる。研究計画が立案できると計画に沿った研究の遂行が行えるようになる。						
評価方法	課題(50%)、発表(50%) で行う。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究遂行に必要な知識と技術の予習と復習について真剣に取り組むこと。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 予習では、理解できない点をまとめる、必要な文献を読むことが求められる。 復習では、自分なりに研究ノートにまとめて理解を深める必要がある。						
オフィスワ-	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 自立支援とは		講義	京極真	16. 自立支援と量的研究		AL	京極真
2. 自立支援の輪読1(IL)		AL	京極真	17. 自立支援と混合研究		AL	京極真
3. 自立支援の輪読2(MOHO)		AL	京極真	18. 研究倫理		AL	京極真
4. 自立支援の輪読3(CMOPE)		AL	京極真	19. 研究テーマの検討1		AL	京極真
5. 自立支援の輪読4(OTIPM)		AL	京極真	20. 研究テーマの検討2		AL	京極真
6. 自立支援の輪読5(ICF)		AL	京極真	21. 研究テーマと方法の整理1		AL	京極真
7. 自立支援の輪読6(DAB)		AL	京極真	22. 研究テーマと方法の整理2		AL	京極真
8. 自立支援の輪読7(OBP2.0)		AL	京極真	23. 方法の問題点の検討1		AL	京極真
9. 輪読内容の発表		AL	京極真	24. 方法の問題点の検討2		AL	京極真
10. 自立支援と倫理		AL	京極真	25. 文献調査の方法		AL	京極真
11. 自立支援と社会的背景		AL	京極真	26. 研究テーマと文献調査1		AL	京極真
12. 自立支援と研究テーマ1		AL	京極真	27. 研究テーマと文献調査2		AL	京極真
13. 自立支援と研究テーマ2		AL	京極真	28. 文献の整理		AL	京極真
14. 自立支援と理論的研究		AL	京極真	29. 文献の発表		AL	京極真
15. 自立支援と質的研究		AL	京極真	30. まとめ		AL	京極真
教科書 1	適宜指定						
教科書 2							
参考書 1	適宜指定						
参考書 2							

授業科目名	保健看護科学特講			履修期	2021年度 春学期		
担当者	中瀬 克己、寺崎 智行、長町 榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 保健看護学分野で、博士論文の作成に取り組む上での、基本的な考え方や知識を学ぶ。</p> <p>到達目標: 我が国における保健看護領域における実践や研究の関心は、臨床での看護問題を中心として、慢性疾患や急性疾患をもつクライアントへの看護介入が多く取り上げられてきた。また、ターミナルケアや障害を持つクライアントへの予防的視点に立った支援や人間の成長発達の見点から、生命の誕生から、終末期にいたるまでの支援、地域住民の健康増進や健康予防、介護予防の視点など、保健看護学の取り組みは多様化する一方で、専門分化が進んでいる。同時に、Evidence-based medicine(EBM)、Evidence-based health care(EBH)重視の潮流のもと、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況のもと、看護学もまた、看護上の問題や疑問を解いていく科学的探究心が求められている。</p> <p>このような保健看護学領域の特徴を踏まえ、保健看護学分野の研究全般に共通する論文の検討、研究デザイン的设计、サンプリング等についての基本的な考え方や研究方法論について説明できる。</p>						
概要	博士論文に取り組むための保健看護学分野の研究に関する基本的考え方や研究方法について理解する。 オムニバス方式で担当する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	できれば、1年次に履修し、博士論文のテーマを絞り込む。 博士課程の学生であることを自覚し、自ら学習や研究に取り組む。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 看護研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務	講義・演習	長町			
2. 研究の基本的プロセス(1)	講義・演習	寺崎			
3. 研究の基本的プロセス(2)	講義・演習	寺崎			
4. リサーチクエスチョンを立てる、絞り込む(1)	講義・演習	中瀬			
5. リサーチクエスチョンを立てる、絞り込む(2)	講義・演習	長町			
6. 研究課題と研究デザイン(1)	講義・演習	長町			
7. 研究課題と研究デザイン(2)	講義・演習	長町			
8. 介入的・実験的研究方法(1)	講義・演習	長町			
9. 介入的・実験的研究方法(2)	講義・演習	中瀬			
10. 系統的文献検索(1)	講義・演習	中瀬			
11. 系統的文献検索(2)	講義・演習	中瀬			
12. 系統的文献検索(3)	講義・演習	寺崎			
13. 系統的文献検索(4)	講義・演習	寺崎			
14. 研究課題と研究デザイン(1)	講義・演習	寺崎			
15. 研究課題と研究デザイン(2)	講義・演習	中瀬			
16. 研究課題と研究方法	講義・演習	中瀬			
17. 質的研究方法(1)	講義・演習	長町			
18. 質的研究方法(2)	講義・演習	長町			
19. 量的研究方法(1)	講義・演習	中瀬			
20. 量的研究方法(2)	講義・演習	中瀬			
21. 介入研究と実験研究(1)	講義・演習	寺崎			
22. 介入研究と実験研究(2)	講義・演習	寺崎			
23. 量的研究と統計的解析	講義・演習	中瀬			
24. 量的研究とデータ解析	講義・演習	中瀬			
25. 研究計画書の作成(1)	講義・演習	寺崎			
26. 研究計画書の作成(2)	講義・演習	寺崎			
27. 研究計画書と研究方法(1)	講義・演習	長町			
28. 研究計画書と研究方法(2)	講義・演習	寺崎			
29. 原著論文の纏め方	講義・演習	長町			
30. 学会発表の方法・まとめ	講義・演習	寺崎			

教科書 1	看護研究の進め方・論文の書き方 著者:早川和生編著 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-01683-4
教科書 2	
参考書 1	

5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	長町	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2		
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	長町	3年次	講義	長町
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	長町	1. 博士論文作成の概要	AL	長町
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	長町	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	長町
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	長町	3. 研究方法・実験方法の整理と確認	AL	長町
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	長町	4. 実験結果の統計処理の整理と確認	AL	長町
11. 実験結果の収集、整理1	AL	長町	1	AL	長町
12. 実験結果の収集整理2	AL	長町	5. 実験結果の統計処理の整理と確認	AL	長町
13. 実験結果の統計処理1	AL	長町	2	AL	長町
14. 実験結果の統計処理2	AL	長町	6. 実験結果に対する考察1	AL	長町
15. 院生による実験結果報告とディスカッション	AL	長町	7. 実験結果に対する考察2	AL	長町
			8. 実験結果に対する考察3	AL	長町
			9. 論文作成1	AL	長町
			10. 論文作成2	AL	長町
			11. 論文作成3	AL	長町
			12. 論文作成4	AL	長町
			13. 院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	長町
			14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	長町
			15. 論文作成・発表	AL	長町
教科書 1	適宜必要な文献・資料等を提示する。				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

8. 本実験と問題点のディスカッション (検者内信頼性の検討)	8.AL	中瀬	カッション 3年次	3年次	
9. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討方法)	9.AL	中瀬	1. 博士論文作成の概要 2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	1. 講義 2.AL	中瀬 中瀬
10. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討)	10.AL	中瀬	3. 研究方法・実験方法の整理と確認	3.AL	中瀬
11. 実験結果の収集	11.AL	中瀬	4. 実験結果の統計処理の整理	4.AL	中瀬
12. 実験結果の収集整理	12.AL	中瀬	5. 実験結果の統計処理の確認	5.AL	中瀬
13. 実験結果の統計処理方法の検討	13.AL	中瀬	6. 実験結果に対する考察整理	6.AL	中瀬
14. 実験結果の統計処理	14.AL	中瀬	7. 実験結果に対する考察問題点の抽出	7.AL	中瀬
15. 院生による実験結果報告とディス カッション	15.AL	中瀬	8. 実験結果に対する考察まとめ 9. 論文作成(緒論) 10. 論文作成(方法) 11. 論文作成(考察) 12. 論文作成(まとめ) 13. 院生による作成論文の発表スライド 作成 14. 院生による作成論文の発表とディ スカッション 15. 論文作成・発表(試験)	8.AL 9.AL 10.AL 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.AL	中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬
教科書 1	教科書は特に指定しないが必要に応じて資料を配付する。				
教科書 2					
参考書 1	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 Designing Clinical Research 著者: 木原雅子(翻訳), 木原正博(翻訳) Stephen B Hulley, Steven R Cummings MD他 出版社: メディカルサイエンスインターナショナル ISBN: ISBN-10 : 4895927830 ISBN-13 : 978-4895927833				
参考書 2					

5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	河村顕治	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2	AL	河村顕治
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	河村顕治	3年次	講義	河村顕治
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	河村顕治	1. 博士論文作成の概要	AL	河村顕治
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	河村顕治	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	河村顕治
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	河村顕治	3. 研究方法・実験方法の整理と確認	AL	河村顕治
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	河村顕治	4. 実験結果の統計処理の整理と確認	AL	河村顕治
11. 実験結果の収集、整理1	AL	河村顕治	1	AL	河村顕治
12. 実験結果の収集整理2	AL	河村顕治	2	AL	河村顕治
13. 実験結果の統計処理1	AL	河村顕治	6. 実験結果に対する考察1	AL	河村顕治
14. 実験結果の統計処理2	AL	河村顕治	7. 実験結果に対する考察2	AL	河村顕治
15. 院生による実験結果報告とディスカッション	AL	河村顕治	8. 実験結果に対する考察3	AL	河村顕治
			9. 論文作成1	AL	河村顕治
			10. 論文作成2	AL	河村顕治
			11. 論文作成3	AL	河村顕治
			12. 論文作成4	AL	河村顕治
			13. 院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	河村顕治
			14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	河村顕治
			15. 論文作成・発表(試験)	AL	河村顕治
教科書 1	医学的研究のデザイン 第4版 - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 著者: Stephen B. Hulley他(木原雅子・木原正博訳) 出版社: メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN: 978-4-89592-783-3				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	高橋 淳					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習	
テーマと到達目標	バイオ研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を論文(英語)としてまとめ発表することを目標とする。							
概要	<p>1. バイオ研究の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 抄読会で英語論文を読み、英語表現、英語での討論に慣れる。 5. 英語論文執筆法を学び、英語論文投稿から受理までの過程を経験する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 内科医としての実務経験と血液学・細胞生物学・腫瘍生物学の研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>							
評価方法	講義後の提出レポートで、知識を評価する(10%)。実験において、態度を評価する(10%)。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する(20%)。抄読会で英語力を評価する(10%)。博士論文の内容で知識、方法への理解、思考法を評価する(40%)。博士論文発表会の際の口頭試問で、研究内容への理解を評価する(10%)。講義中評価のために出した課題・レポートは、授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。							
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。							
自己学習	バイオ研究に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。講義を聞きながら、あるいは実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。英語の文献に親しみ、英語で論文を書ける実力を身につけてほしい。予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	個人研究室(6414)にて、水曜日の4時限目に実施。							

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験(9) 12. 実験(10) 13. 実験結果検討会 14. 抄読会 15. 英語論文執筆法	1年次 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. 講義	1年次 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋	1年次 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験(9) 12. 実験(10) 13. 実験結果検討会 14. 抄読会 15. 英語論文執筆法	1年次 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. 講義	1年次 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋
2年次 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験(9) 12. 実験(10) 13. 実験結果検討会 14. 抄読会 15. 英語論文執筆法	2年次 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. 講義	2年次 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋	2年次 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験(9) 12. 実験(10) 13. 実験結果検討会 14. 抄読会 15. 英語論文執筆法	2年次 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. 講義	2年次 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋 14. 高橋 15. 高橋
3年次 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験(9) 12. 実験結果検討会 13. 抄読会	3年次 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. AL	3年次 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋	3年次 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験(1) 4. 実験(2) 5. 実験(3) 6. 実験(4) 7. 実験(5) 8. 実験(6) 9. 実験(7) 10. 実験(8) 11. 実験結果検討会 12. 抄読会 13. 英語論文執筆法	3年次 1. 講義 2. 講義 3. AL 4. AL 5. AL 6. AL 7. AL 8. AL 9. AL 10. AL 11. AL 12. AL 13. 講義	3年次 1. 高橋 2. 高橋 3. 高橋 4. 高橋 5. 高橋 6. 高橋 7. 高橋 8. 高橋 9. 高橋 10. 高橋 11. 高橋 12. 高橋 13. 高橋

14.英語論文執筆法 15.英語論文執筆	14.講義 15.AL	14.高橋 15.高橋	14. 英語論文執筆 15. 論文発表会	14.AL 15.AL	14.高橋 15.高橋
教科書 1	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。				
教科書 2					
参考書 1	Essential Cell Biology (英語) 著者: Bruce Alberts (著), Karen Hopkin (著), Alexander D. Johnson (著), David Morgan (著), Martin Raff (著) 出版社: W W Norton & Co Inc ISBN: 978-0393680379				
参考書 2	細胞の分子生物学 第6版 著者: ALBERTS (著), JOHNSON (著), LEWIS (著), MORGAN (著), RAFF (著), ROBERTS (著), WALTER (著), 中村桂子 (翻訳), 松原謙一 (翻訳), 青山聖子 (翻訳), 斉藤英裕 (翻訳), 滋賀陽子 (翻訳), 田口マミ子 (翻訳), 滝田郁子 (翻訳), 中塚公子 (翻訳), 羽田裕子 (翻訳), 船田晶子 (翻訳), 宮下悦子 (翻訳) 出版社: ニュートンプレス ISBN: 978-4315520620				

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	齋藤 圭介					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習	
テーマと到達目標	臨床や研究上の疑問から研究課題をみつけたし、博士論文の研究を?うのに必要な?続き、知識、技能、論理的思考?、表現?等を学び、その成果を論?としてまとめることができる。?							
概要	<p>1. 先?研究や原著について指導し、文献の検索や読解?を養い、思考能?を?める。</p> <p>2. 文献の講読を?いながら研究仮説を?案し、リサーチを?う院?には実験あるいは調査の計画を?案させる。また、文献研究を?う院?にはその構想を?案させる。</p> <p>3. 新規性のあるデータの集積、分析、論?執筆などについて指導する。</p> <p>4. 学会発表、論?投稿について博?論文作成のタイムスケジュールを考慮して、指導する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。??</p>							
評価方法	?献など研究論?の内容理解への努?や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発?状況(20%)について評価すると共に、作成された論?について、研究テーマの妥当性、研究?法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(?頭試問)までにみなおしておくこと。?							
履修条件・注意事項	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終?までに?直しておくこと。?							
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、?分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	個?研究室にて、木曜?の3時限目を実施。?							

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.保健科学研究領域の概要	講義	齋藤	(1年次)		
2.研究テーマの策定	AL	齋藤	1.研究計画の策定	講義	齋藤
3.研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	齋藤	2.参考?献の調査	AL	齋藤
4.研究テーマに関する先?研究の調査	AL	齋藤	3.参考?献の精読	AL	齋藤
5.研究テーマに関する先?研究の概要発表	AL	齋藤	4.調査?法の検討	AL	齋藤
6.概要発表の講評	AL	齋藤	5.調査?法の確定	AL	齋藤
7.研究テーマと先?研究の?較	AL	齋藤	6.調査の実施	AL	齋藤
8.研究テーマの確定	AL	齋藤	7.調査結果の収集	AL	齋藤
9.中間フォロー	AL	齋藤	8.調査結果の整理	AL	齋藤
10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成	AL	齋藤	9.研究進捗状況報告書の概要説明	AL	齋藤
11.研究計画調書の確認および講評	AL	齋藤	10.研究進捗状況報告書の作成	AL	齋藤
12.研究計画調書の完成	AL	齋藤	11.研究進捗状況報告書の内容確認と講評	AL	齋藤
13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成	AL	齋藤	12.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗	AL	齋藤
14.研究計画調書発表資料の確認及び講評	AL	齋藤	13.調査?法の?直し	AL	齋藤
15.研究計画調書発表資料の完成(2年次)	AL	齋藤	14.調査の再実施	AL	齋藤
1.研究対象者に対する倫理的配慮			15.調査結果の再集計、他まとめ	AL	齋藤
2.実験における問題点のディスカッション1	講義	齋藤	1.本実験と問題点のディスカッション5	講義	齋藤
3.実験における問題点のディスカッション2	AL	齋藤	2.本実験と問題点のディスカッション6	AL	齋藤
4.プレ実験1	AL	齋藤	3.本実験と問題点のディスカッション7	AL	齋藤
5.プレ実験2	AL	齋藤	4.本実験と問題点のディスカッション8	AL	齋藤
6.プレ実験における問題点の検討1	AL	齋藤	5.実験結果の中間収集、整理1	AL	原?
7.プレ実験3	AL	齋藤	6.実験結果の中間収集、整理2	AL	原?
8.プレ実験4	AL	齋藤	7.院?による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	原?
9.プレ実験における問題点の検討2	AL	齋藤	8.中間発表の問題点の整理	AL	原?
10.実験?法の最終確定	AL	齋藤	9.本実験と問題点のディスカッション9	AL	原?
11.本実験と問題点のディスカッション1	AL	齋藤	10.本実験と問題点のディスカッション10	AL	原?
12.本実験と問題点のディスカッション2	AL	齋藤	11.本実験と問題点のディスカッション11	AL	原?
13.本実験と問題点のディスカッション3	AL	齋藤	12.本実験と問題点のディスカッション12	AL	原?
14.本実験と問題点のディスカッション4	AL	齋藤	13.本実験と問題点のディスカッション13	AL	原?
15.本実験結果の中間報告とディスカッション1(3年次)	AL	齋藤	14.本実験と問題点のディスカッション14	AL	原?
1.本実験と問題点のディスカッション14	AL	齋藤	15.本実験結果の中間報告とディスカッション2(3年次)	AL	原?
2.本実験と問題点のディスカッション15	AL	齋藤	1.博?論?作成の概要	AL	原?
			2.研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	原?

3. 本実験と問題点のディスカッション16	AL	齋藤	3. 研究?法・実験?法の整理と確認	AL	原?
4. 本実験と問題点のディスカッション17	AL	齋藤	4. 実験結果の統計処理の整理と確認1	AL	原?
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	齋藤	5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	AL	原?
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	齋藤	6. 実験結果に対する考察1	AL	原?
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	齋藤	7. 実験結果に対する考察2	AL	原?
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	齋藤	8. 実験結果に対する考察3	AL	原?
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	齋藤	9. 論?作成1	AL	原?
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	齋藤	10. 論?作成2	AL	原?
11. 実験結果の収集、整理1	AL	齋藤	11. 論?作成3	AL	原?
12. 実験結果の収集整理2	AL	齋藤	12. 論?作成4	AL	原?
13. 実験結果の統計処理1	AL	齋藤	13. 院?による作成論?の発表とディスカッション1	AL	原?
14. 実験結果の統計処理2	AL	齋藤	14. 院?による作成論?の発表とディスカッション2	AL	原?
15. 院?による実験結果報告とディスカッション?	AL	齋藤	15. 論?作成・発表(試験)?	AL	原?
教科書 1	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版? 出版社:メディカル・サイエンス・インターナショナル? ISBN:ISBN 978-4895927833				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

13.データ収集12 14.データ収集13 15.データ収集14 ?. まとめ	実習 実習 実習 実習	中角 中角 中角	12. 院生のプレゼンテーションとディス カッション 13. 院生のプレゼンテーションとディス カッション 14. 院生のプレゼンテーションとディス カッション 15. まとめ(最終評価)	講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角
教科書 1	Electrodiagnosis in diseases of nerve and muscle 著者:Jun Kimura 出版社:F.A. Davis ISBN:0-8036-5341-7				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

16						
4. 本実験と問題点のディスカッション	AL	原田	4. 実験結果の統計処理の整理と確認	AL	原田	
17			1			
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	原田	5. 実験結果の統計処理の整理と確認	AL	原田	
6. 本実験と問題点のディスカッション	AL	原田	2			
18			6. 実験結果に対する考察1	AL	原田	
7. 本実験と問題点のディスカッション	AL	原田	7. 実験結果に対する考察2	AL	原田	
19			8. 実験結果に対する考察3	AL	原田	
8. 本実験と問題点のディスカッション	AL	原田	9. 論文作成1	AL	原田	
20			10. 論文作成2	AL	原田	
9. 本実験と問題点のディスカッション	AL	原田	11. 論文作成3	AL	原田	
21			12. 論文作成4	AL	原田	
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	原田	13. 院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	原田	
11. 実験結果の収集、整理1	AL	原田	14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	原田	
12. 実験結果の収集整理2	AL	原田	15. 論文作成・発表(試験)	AL	原田	
13. 実験結果の統計処理1	AL	原田				
14. 実験結果の統計処理2	AL	原田				
15. 院生による実験結果報告とディスカッション	AL	原田				
教科書 1	医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 出版社: メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN: ISBN 978-4-89592-583-9					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	服部 俊夫					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	骨から由来するオステオポンチンなどの蛋白の感染・免疫に及ぼす影響							
概要	オステオポンチンの組織での局在を細胞株、組織で解析し、感染・免疫疾患において、どのような役割をするかを研究する。同時に同じマトセルラー蛋白であるgalectin-9についても検討し、比較する。							
評価方法	実験データや、それに関する研究現況の把握。 レポートの提出後はその内容に関してフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。							
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスワ-	毎週木曜日午前11時から12時 6号館 408							

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	AL	服部	1年次	AL	服部
1. 博士課程における研究の概要	AL	服部	1. 研究テーマの検討と策定	AL	服部
2. 臨床疑問、研究疑問の発表	AL	服部	2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	服部
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理	AL	服部	3. 研究テーマに沿った先行研究の調査・国内	AL	服部
4. 研究と倫理(臨床研究)	AL	服部	4. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外	AL	服部
5. 研究と倫理(実験研究)	AL	服部	5. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外文献の精査	AL	服部
6. 参考文献の調査	AL	服部	6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	服部
7. 研究テーマの作成	AL	服部	7. 研究テーマの確定	AL	服部
8. 研究対象者の選択	AL	服部	8. 研究テーマにおける従属変数の選定	AL	服部
9. 測定方法の計画(臨床研究)	AL	服部	9. 研究テーマにおける独立変数の選定	AL	服部
10. 測定方法の計画(実験研究)	AL	服部	10. 研究テーマに沿った測定方法の計画案策定	AL	服部
11. サンプルサイズの推定	AL	服部	11. 研究テーマに沿った測定方法の計画案の検討	AL	服部
12. サンプルサイズの推定・実技	AL	服部	12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	服部
13. 研究デザイン(コホート研究)	AL	服部	13. 研究計画書の作成	AL	服部
14. 研究デザイン(横断研究とケースコントロール研究)	AL	服部	14. 研究計画書の作成作成案の検討	AL	服部
15. 研究デザイン(観察研究における交絡と交互作用)	AL	服部	15. 研究計画書の決定	AL	服部
2年次	AL	服部	2年次	AL	服部
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	AL	服部	1. 本実験と問題点のディスカッション(対象の選定)	AL	服部
2. 実験における問題点の発表	AL	服部	2. 本実験と問題点のディスカッション(実験手順の問題)	AL	服部
3. 実験における問題点のディスカッション	AL	服部	3. 本実験と問題点のディスカッション(実験精度の問題)	AL	服部
4. プレ実験概要説明	AL	服部	4. 本実験と問題点のディスカッション(まとめ)	AL	服部
5. プレ実験試行	AL	服部	5. 実験結果の中間収集、整理	AL	服部
6. プレ実験における問題点の検討	AL	服部	6. 実験結果の中間報告書作成	AL	服部
7. 改善プレ実験の概要説明	AL	服部	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	服部
8. 改善プレ実験試行	AL	服部	8. 中間発表の問題点の整理	AL	服部
9. プレ実験における問題点の検討	AL	服部	9. 本実験と問題点のディスカッション(実験手順の確認)	AL	服部
10. 実験方法の最終確定	AL	服部	10. 本実験と問題点のディスカッション(実験手技の確認)	AL	服部
11. 本実験と問題点のまとめ	AL	服部	11. 本実験と問題点のディスカッション(実験器具の確認)	AL	服部
12. 本実験と問題点の報告	AL	服部	12. 本実験と問題点のディスカッション(実験精度の確認)	AL	服部
13. 本実験と問題点のディスカッション	AL	服部	13. 本実験と問題点の整理	AL	服部
14. 本実験と問題点のディスカッションのまとめ	AL	服部	14. 本実験全般における問題点のディスカッション	AL	服部
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	服部	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	服部
3年次	AL	服部	3年次	AL	服部
1. 本実験と問題点のディスカッション(実験手順の再確認)	AL	服部	1. 博士論文作成の概要		
2. 本実験と問題点のディスカッション(実験方法の再確認)	AL	服部			
3. 本実験と問題点のディスカッション(実験器具の再確認)	AL	服部			
4. 本実験と問題点の整理					
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション					
6. 本実験と問題点のディスカッション(実験における正確性の再確認)					
7. 本実験と問題点のディスカッション(検者内信頼性の検討方法)					
8. 本実験と問題点のディスカッション(検者内信頼性の検討)					
9. 本実験と問題点のディスカッション					

<p>(検者間信頼性の検討方法) 10. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討) 11. 実験結果の収集 12. 実験結果の収集整理 13. 実験結果の統計処理方法の検討 14. 実験結果の統計処理 15. 院生による実験結果報告とディス カッション</p>		<p>2. 研究テーマの社会的背景の整理と 確認 3. 研究方法・実験方法の整理と確認 4. 実験結果の統計処理の整理 5. 実験結果の統計処理の確認 6. 実験結果に対する考察整理 7. 実験結果に対する考察問題点の抽 出 8. 実験結果に対する考察まとめ 9. 論文作成(緒論) 10. 論文作成(方法) 11. 論文作成(考察) 12. 論文作成(まとめ) 13. 院生による作成論文の発表スライド 作成 14. 院生による作成論文の発表とディ スカッション 15. 論文作成・発表(試験)</p>		
<p>教科書 1</p>	<p>Janeway's immunobiology 9th ed. Garland Science ISBN: 978-0-8153-4551-0</p>			
<p>教科書 2</p>				
<p>参考書 1</p>				
<p>参考書 2</p>				

教科書 1	適宜紹介
教科書 2	
参考書 1	適宜紹介
参考書 2	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期			
担当者	森 芳史					NO.			
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習		
テーマと到達目標	運動器疾患の臨床における課題について、分子生物学的な視点から理解し、研究計画を立案し、実験を行い、データを解析し、論文として発表することを目標とする。								
概要	自ら研究課題を設定する。その後、先行する知見を関連する先行論文を検索して読み込むことで把握する。作業仮説を設定し、研究計画を立案し、実際に研究を遂行し、データを解析する。学会発表を行い、最終的には論文としてまとめる。この一連のプロセスを適宜指導を受けながら主体的に遂行する。								
評価方法	研究に取り組む姿勢や熱意(20%)、研究計画立案の妥当性・研究遂行時の正確性(20%)、作成された論文の質(60%)で評価する。								
履修条件・注意事項	分子生物学的実験は時間がかかり、必ずしもうまくいくものでもない。最後までやり遂げる強い精神力が必要となる。								
自己学習	予習は、次回授業に関わる参考資料を読み、疑問点を整理することで行う。 復習は、毎回の授業で用いた資料を読み、さらに関連する文献を読み込むことで行う。 予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。								
オフィスワ-									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1年次 1. 分子生物学的研究の概要 2. アカデミアとは 3. 研究テーマの設定① 4. 研究テーマの設定② 5. 文献の検索方法 6. 先行研究の考察① 7. 先行研究の考察② 8. 先行研究の考察③ 9. 先行研究の考察④ 10. 先行研究の考察⑤ 11. 作業仮説の設定① 12. 作業仮説の設定② 13. in vitro実験に関わる知識① 14. in vitro実験に関わる知識② 15. in vitro実験に関わる知識③			講義 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森	1年次 1. in vitro実験に関わる知識④ 2. in vitro実験に関わる知識⑤ 3. in vivo実験に関わる知識① 4. in vivo実験に関わる知識② 5. in vivo実験に関わる知識③ 6. in vivo実験に関わる知識④ 7. in vivo実験に関わる知識⑤ 8. 研究計画① 9. 研究計画② 10. 研究計画③ 11. 研究計画④ 12. 研究計画⑤ 13. 研究計画① 14. in vivo実験① 15. in vitro実験①			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森
2年次 1. in vivo実験② 2. in vitro実験② 3. in vivo実験③ 4. in vitro実験③ 5. in vivo実験④ 6. in vitro実験④ 7. in vivo実験⑤ 8. in vitro実験⑤ 9. in vivo実験⑥ 10. in vitro実験⑥ 11. データ解析① 12. データ解析② 13. データ解析③ 14. データ解析④ 15. データ解析⑤			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森	2年次 1. 論文作成の概要 2. 実験結果の考察① 3. 実験結果の考察② 4. 実験結果の考察③ 5. 実験結果の考察④ 6. 実験結果の考察⑤ 7. 実験結果のまとめ 8. 論文作成① 9. 論文作成① 10. 論文作成① 11. 論文作成① 12. 論文作成① 13. プレゼンテーション① 14. プレゼンテーション② 15. 論文の発表			講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森
教科書 1	Essential細胞生物学原書第4版 著者: 中村桂子/松原謙一 出版社: 南江堂 ISBN: 978-4-524-26199-4								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	井上 茂樹					NO.		
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習	
テーマと到達目標	臨床や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。							
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。							
評価方法	研究指導全般を通して知識や態度、考察力、表現力等を評価する。なお、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。一方、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックする。							
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。							
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。							
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10～12:40)をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者	
1年次 1. 博士課程における研究の概要 2. 臨床・研究疑問の整理 3. 社会的背景の整理 4. 研究と倫理1 5. 研究と倫理2 6. 参考文献の調査 7. 研究テーマの作成 8. 研究対象者の選択 9. 測定方法の計画1 10. 測定方法の計画2 11. サンプルサイズの推定1 12. サンプルサイズの推定2 13. 研究デザインの探究1 14. 研究デザインの探究2 15. 研究デザインの探究3		講義 AL AL 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	1年次 1. 研究テーマの検討と策定 2. 研究テーマの基礎知識の確認 3. 研究テーマの先行研究の調査1 4. 研究テーマの先行研究の調査2 5. 研究テーマの先行研究の調査3 6. 研究テーマの先行研究のまとめ 7. 研究テーマの確定 8. 研究テーマの独立変数の選定 9. 研究テーマの従属変数の選定 10. 研究テーマの測定方法の計画1 11. 研究テーマの測定方法の計画2 12. 研究テーマのサンプル数の決定 13. 研究計画書の作成1 14. 研究計画書の作成2 15. 研究計画書の決定		AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	
2年次 1. 研究対象者に対する倫理的配慮 2. 実験における問題点の討議1 3. 実験における問題点の討議2 4. 予備実験1 5. 予備実験2 6. 予備実験における問題点の検討1 7. 予備実験3 8. 予備実験4 9. 予備実験における問題点の検討2 10. 実験方法の最終確定 11. 本実験と問題点の討議1 12. 本実験と問題点の討議2 13. 本実験と問題点の討議3 14. 本実験と問題点の討議4 15. 本実験結果の中間報告と討議1		AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	2年次 1. 本実験と問題点の討議5 2. 本実験と問題点の討議6 3. 本実験と問題点の討議7 4. 本実験と問題点の討議8 5. 実験結果の中間収集、整理1 6. 実験結果の中間収集、整理2 7. 実験結果の中間発表と討議 8. 中間発表の問題点の整理 9. 本実験と問題点の討議9 10. 本実験と問題点の討議10 11. 本実験と問題点の討議11 12. 本実験と問題点の討議12 13. 本実験と問題点の討議14 14. 本実験と問題点の討議15 15. 本実験結果の中間報告と討議2		AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	
3年次 1. 本実験と問題点の討議14 2. 本実験と問題点の討議15 3. 本実験と問題点の討議16 4. 本実験と問題点の討議17 5. 本実験結果の中間報告と討議3 6. 本実験と問題点の討議18 7. 本実験と問題点の討議19 8. 本実験と問題点の討議20 9. 本実験と問題点の討議21 10. 本実験と問題点の討議22 11. 実験結果の収集、整理1 12. 実験結果の収集整理2 13. 実験結果の統計処理1 14. 実験結果の統計処理2 15. 院生による実験結果報告と討議		AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	3年次 1. 博士論文作成の概要 2. 研究の社会的背景の整理と確認 3. 研究方法・実験方法の整理と確認 4. 実験結果の統計処理の整理 5. 実験結果の統計処理の確認 6. 実験結果に対する考察1 7. 実験結果に対する考察2 8. 実験結果に対する考察3 9. 論文作成1 10. 論文作成2 11. 論文作成3 12. 論文作成4 13. 院生による論文の発表と討議1 14. 院生による論文の発表と討議2 15. 論文作成・発表(試験)		講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹 井上茂樹	
教科書 1	資料・文献は適宜配布する。							

教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

7. 本実験と問題点のディスカッション (検者内信頼性の検討方法)	AL	中嶋	15. 本実験結果の中間報告とディス カッション	AL	中嶋
8. 本実験と問題点のディスカッション (検者内信頼性の検討)	AL	中嶋	3年次 1. 博士論文作成の概要	3年次 講義	3年次 中嶋
9. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討方法)	AL	中嶋	2. 研究テーマの社会的背景の整理と 確認	AL	中嶋
10. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討)	AL	中嶋	3. 研究方法・実験方法の整理と確認	AL	中嶋
11. 実験結果の収集	AL	中嶋	4. 実験結果の統計処理の整理	AL	中嶋
12. 実験結果の収集整理	AL	中嶋	5. 実験結果の統計処理の確認	AL	中嶋
13. 実験結果の統計処理方法の検討	AL	中嶋	6. 実験結果に対する考察整理	AL	中嶋
14. 院生による実験結果報告とディス カッション	AL	中嶋	7. 実験結果に対する考察問題点の抽 出	AL	中嶋
			8. 実験結果に対する考察まとめ	AL	中嶋
			9. 論文作成(緒論)	AL	中嶋
			10. 論文作成(方法)	AL	中嶋
			11. 論文作成(考察)	AL	中嶋
			12. 論文作成(まとめ)	AL	中嶋
			13. 院生による作成論文の発表スライド 作成	AL	中嶋
			14. 院生による作成論文の発表とディ スカッション	AL	中嶋
			15. 論文作成・発表(試験)	AL	中嶋
教科書 1	「アクセプトされる英語医学論文を書こう！」 著者:ネル・L・ケネディ 出版社:メジカルビュー社 ISBN:4-89553-969-5				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

16						
4. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下		8. 実験結果に対する考察3	AL	森下
17				9. 論文作成1		
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	森下		10. 論文作成2	AL	森下
6. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下		11. 論文作成3		
18				12. 論文作成4	AL	森下
7. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下		13. 院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	森下
19				14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	森下
8. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下		15. 論文作成・発表(試験)	AL	森下
20					AL	森下
9. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下			AL	森下
21						
10. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下			AL	森下
22						
11. 実験結果の収集、整理1	AL	森下			AL	森下
12. 実験結果の収集整理2						
13. 実験結果の統計処理1	AL	森下				
14. 実験結果の統計処理2	AL	森下				
15. 院生による実験結果報告とディスカッション	AL	森下				
	AL	森下				
教科書 1	臨床研究first stage 著者: 網本和、高倉保幸編 出版社: 医学書院 ISBN: 978-4-260-03227-8					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

心理学研究科

博士（前期）課程

授業科目名	心理学研究法特論			履修期	2021年度 春学期		
担当者	三宅 俊治					NO.	
配当学科	心理学専攻(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	心理学研究を実際に行う際の理念・概念の明確化に至る思考、研究過程における問題の解決がテーマである。先行研究の概観と問題点の発見、その問題に見合ったデータ収集、方法の立案、結果の記述、データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。到達目標は、観察・実験・調査等々の具体的理解によって、修士論文の研究計画が考案できる水準に達することである。						
概要	研究を進めていく際の、問題の所在・目的・方法・結果・考察などの一連の論理性や整合性に注意を払ってテキストを読み解く。具体的には、意識や行動を分析する際、実験、調査、観察、検査などの狭義の方法論について、その特徴や問題点を客観的な視点から、受講者相互間で議論する。						
評価方法	授業期間中のレポート課題40点、筆記試験60点、合計100点。なお、レポート課題については、受講者相互がその内容について議論することをもって、フィードバックとする。なお、レポート課題評価の一環として小テストを数回行い、その得点をレポート課題40点の中に組み込む。						
履修条件・注意事項	授業参加者は、割り当てられた担当部分をレポートし、説明する。テキストに記されている事項以外の関連領域の所見を積極的に紹介し、主体的に授業にかかわる義務を負う。						
自己学習	予習・復習(各々約2時間程度、計約4時間程度)については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること(提出されたレポートについてはチェックして返却する)。						
オフィスワ-	日時:毎週火曜日の3限目(13:30-15:00)。場所:個人研究室(10号館2階10209)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
①オリエンテーション ②科学としての心理学 ③心理学研究法の分類 ④観察法 ⑤観察法を用いた研究の進め方 ⑥観察法の研究例 ⑦観察データの信頼性と妥当性 ⑧調査法 ⑨相関・共変・因果関係 ⑩調査項目の作成 ⑪心理尺度 ⑫心理実験とは ⑬実際の実験例 ⑭実験変数について ⑮要因デザイン ⑯定期試験	説明 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 講義と演習 筆記試験	三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治					
教科書 1	Progress & Application 心理学研究法 著者:村井潤一郎(編著) 出版社:サイエンス社 ISBN:ISBN4-13--012035-2 C-3011						
教科書 2							
参考書 1	心理学研究法(公認心理師スタンダードテキストシリーズ4) 著者:三浦麻子・小島康生・平井 啓(編著) 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:ISBN978-4-623-08614-6 C3311						
参考書 2							

授業科目名	特別研究 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	森信 繁					NO.	
配当学科	心理学研究科(博士課程前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・課題学習・発表
テーマと到達目標	<p>テーマ:精神障害の診断と症状評価 到達目標:学生が、精神科医療機関を訪れた患者さんの問診時に、適切な精神症状の評価に基づく精神医学的診断が出来るようになることを目標とする。</p>						
概要	<p>精神障害の診断に世界的に使用されているDSM-V或はICD-10に基づいた、適正な診断が出来るようになるために必要な精神医学的知識を学ぶ。多くの精神疾患には、それぞれの病状の重症度を評価するための症状評価尺度が開発されており、代表的な症状評価尺度が適正に使えるよう精神症状論を学ぶ。</p> <p>*実務経験のある教員による授業科目 この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>ケースカンファレンスでの提出レポート(80%)、課題学習の発表態度(20%) レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。</p>						
自己学習	<p>日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジュメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。</p>						
オフィスワ-	木曜日2限目、6号館4F6401研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 精神医学の歴史・精神科の診断基準 2. 精神医学総論(症状評価) 3. 精神医学総論(治療法) 4. 精神医学に必要な検査(脳構造と脳機能の検査) 5. 精神医学に必要な検査(心理検査) 6. 精神発達 7. 治療者-患者関係 8. 統合失調症(症状評価と診断) 9. 統合失調症(治療法) 10. うつ病 11. 双極性障害 12. パニック障害 13. 強迫性障害 14. 外傷後ストレス障害 15. 認知症	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 発表 講義 発表 講義 講義 講義	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森					
教科書 1	講義スライドを、適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1	<p>標準精神医学</p> <p>著者:尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編</p> <p>出版社:医学書院</p> <p>ISBN:ISBN978-4-260-02041-1 </p>						
参考書 2							

授業科目名	特別研究 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	津川 秀夫					NO.	
配当学科	臨床心理学専攻(修士)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:修士論文作成にむけて、研究テーマを設定する 到達目標: 1. 先行研究について情報収集し、何がどこまで明らかにされているか把握できる 2. 研究テーマが設定できる						
概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているかを把握する。春学期の終わりまでに研究テーマを設定することを目指す。						
評価方法	発表内容(80%)と討議への参加態度(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	主体な参加を望む						
自己学習	テーマに直接・間接的にかかわる文献をよく読み込むこと。日に1時間以上の自己学修を確保してほしい。						
オフィスワ-	水曜3時限、個人研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 論文指導:情報収集の仕方 3. 論文指導:先行研究のまとめ 4. 論文指導:報告 5. 論文指導:データの収集 6. 論文指導:尺度の選択 7. 論文指導:報告 8. 論文指導:データの分析 9. 論文指導:統計 10. 論文指導:報告 11. 論文指導:先行研究の収集 12. 論文指導:先行研究の課題 13. 論文指導:報告 14. 論文指導:先行研究の概観 15. 論文指導:テーマの設定		AL	津川				
教科書 1		教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版 著者:平井明代 出版社:東京書籍 ISBN: 448902262X					
教科書 2		ポジティブなこころの科学 著者:堀毛一也 出版社:サイエンス社 ISBN:4781914589					
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	藤吉 晴美					NO.			
配当学科	心理学専攻博士(前期)課程				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	AL		
テーマと到達目標	臨床心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶ。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。								
概要	関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の最新知見を把握するために関連文献資料を受講生は通読する。さらに受講生はそれらを簡潔にまとめ、発表し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。これらがブラッシュアップされるよう適宜、コメントを実施する。また次回の課題についても具体的に指導していく。								
評価方法	研究への①文献収集と内容理解への努力(40%)、②前回出された課題への取り組み(30%)、③研究の進捗状況の報告と次回までに取り組むべき課題の明確化(30%)から、総合的に評価する。なお、学修の進展を図るため、評価結果をフィードバックするので参考にすること。								
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。								
自己学習	1) 自分の課題に十分取り組むため、毎回4時間以上の事前学習を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学習内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学習)が必要である。								
オフィスワ-	水曜日3時限・個人研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 研究計画についての理解			AL	藤吉					
第2回 研究計画内容の検討			AL	藤吉					
第3回 文献研究の方法について			AL	藤吉					
第4回 文献に関する検討(1)先行研究の紹介			AL	藤吉					
第5回 文献に関する検討(2)先行研究のまとめ			AL	藤吉					
第6回 文献に関する検討(3)ディスカッション			AL	藤吉					
第7回 研究方法論に関する考察(1)研究倫理			AL	藤吉					
第8回 研究方法論に関する考察(2)データの収集法			AL	藤吉					
第9回 研究方法論に関する考察(3)データの扱い方			AL	藤吉					
第10回 研究方法論に関する考察(4)分析の進め方			AL	藤吉					
第11回 研究方法論に関する考察(5)考察の進め方			AL	藤吉					
第12回 発表の方法(1)研究概要について			AL	藤吉					
第13回 発表の方法(2)プレゼンテーション技法			AL	藤吉					
第14回 発表の方法(3)プレゼンテーションの実際			AL	藤吉					
第15回 課題の整理と展望			AL	藤吉					
			AL						
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1			大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 著者:吉田健正 出版社:ナカニシヤ出版 ISBN:4-88848-868-1						
参考書 2									

授業科目名	特別研究 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者	森井 康幸					NO.			
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込みができることである。								
概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していく。								
評価方法	受講態度(50%)と修論テーマの絞り込み程度による(50%)。各自の発表に基づいて、フィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。								
自己学習	修士課程のゼミらしく、自分で調べて、それでもわからないところは質問する。発表の準備に2時間以上、復習・課題の整理に2時間は要する。								
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 今後の研究計画について 4. 文献検索(キーワードの検討) 5. 中心的関連文献(図書)の精読 6. 周辺の関連文献(図書)の探索 7. 実験計画法(剰余変数の扱い) 8. 実験計画法(要因計画) 9. 記述統計の重要性 10. カイ二乗検定 11. 実験計画と分散分析 12. 雑誌論文紹介(レビュー) 13. 雑誌論文紹介(方法・結果) 14. 研究テーマの発表 15. まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井					
教科書 1	教科書は使用しない。								
教科書 2									
参考書 1	適宜、指示する。								
参考書 2									

授業科目名	特別研究 I				履修期	2021年度 春学期		
担当者	栗田 喜勝					NO.		
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。 本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。							
概要	関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。							
評価方法	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。なお、②③については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。							
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。 なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。							
自己学習	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。							
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 研究計画についての理解		演習	栗田					
第2回 研究計画内容の検討		演習	栗田					
第3回 文献研究の方法について		演習	栗田					
第4回 文献に関する検討(1)先行研究の紹介		演習	栗田					
第5回 文献に関する検討(2)先行研究のまとめ		演習	栗田					
第6回 文献に関する検討(3)ディスカッション		演習	栗田					
第7回 研究方法論に関する考察(1)研究倫理		演習	栗田					
第8回 研究方法論に関する考察(2)データの収集法		演習	栗田					
第9回 研究方法論に関する考察(3)データの扱い方		演習	栗田					
第10回 研究方法論に関する考察(4)分析の進め方		演習	栗田					
第11回 研究方法論に関する考察(5)考察の進め方		演習	栗田					
第12回 発表の方法(1)研究概要について		演習	栗田					
第13回 発表の方法(2)プレゼンテーション技法		演習	栗田					
第14回 課題の整理と展望		演習	栗田					
第15回 まとめ		演習	栗田					
教科書 1	初回授業時に資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1	大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 著者:吉田健正 出版社:ナカニシヤ出版 ISBN:4-88848-868-1							
参考書 2								

授業科目名	特別研究 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	宇都宮 真輝					NO.	
配当学科	心理学研究科			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。</p> <p>到達目標:関連する文献の検索・レビューを通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。</p>						
概要	<p>研究に関して、以下の指導を行う。</p> <p>①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。</p> <p>②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。</p> <p>③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。</p>						
評価方法	<p>①文献講読、その内容理解への努力、また研究指導に対する姿勢(60%)</p> <p>②課題の提出やプレゼン(20%)</p> <p>③研究計画の立案、倫理的配慮等(20%)</p> <p>以上を、総合的に評価する。</p> <p>なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次回の授業に備えること。						
自己学習	<p>研究を進めるためには、授業時間外の自己学修や、指導教員が実施する実践への参加が必要である。</p> <p>自己学修としては、</p> <p>①自身の研究に関する、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。</p> <p>②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。</p>						
オフィスワ-							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. これまでの研究活動の発表 3. 研究テーマの検討 4. 文献に関する検討(1) 先行研究の紹介 5. 文献に関する検討(2) 先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討(3) ディスカッション 7. 研究方法指導(1) 研究倫理 8. 研究方法指導(2) データの収集方法 9. 研究方法指導(3) データの分析方法 10. 研究方法指導(4) 実践研究の進め方 11. 研究方法指導(5) 実践研究の準備 12. 研究テーマ決定 13. 研究計画の立案 14. 研究計画の発表 15. まとめ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮					
教科書 1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究 I				履修期	2021年度 春学期	
担当者	土居 正人					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標:文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。</p>						
概要	<p>先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。</p>						
評価方法	<p>規定の出席のあることを前提として、演習課題への取組(60%)と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度(40%)で総合的に評価する。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>ゼミでは要約課題を出す。修士論文に必要な文献を調べてくること。</p>						
自己学習	<p>予習復習に用いる教材プリントは授業内で配布する。演習時間外の課題を、予習2時間・復習2時間として各演習時に提示するので、必ず行うこと。</p>						
オフィスアワー	<p>月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している(土居研究室にて)、活用すること。</p>						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.修論作成について 3.これまでのゼミでの研究 4.修論の方向性について 5.修論のテーマについて 6.修論テーマの決め方 7.修論の目的の書き方 8.修論の方法の考え方 9.修論の方法の手続き 10.修論の倫理的観点 11.修論の結果の書き方 12.修論の考察の書き方 13.修論のテーマを考える 14.修論のテーマを決める 15.まとめ		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居				
教科書 1	修士研究に関する、プリント配布を行う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	森信 繁					NO.	
配当学科	心理学研究科(博士課程前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・課題学習・発表
テーマと到達目標	<p>テーマ:精神障害の診断と症状評価 到達目標:学生が、精神科医療機関を訪れた患者さんの問診時に、適切な精神症状の評価に基づく精神医学的診断が出来るようになることを目標とする。</p>						
概要	<p>精神障害の診断に世界的に使用されているDSM-V或はICD-10に基づいた、適正な診断が出来るようになるために必要な精神医学的知識を学ぶ。多くの精神疾患には、それぞれの病状の重症度を評価するための症状評価尺度が開発されており、代表的な症状評価尺度が適正に使えるよう精神症状論を学ぶ。</p> <p>*実務経験のある教員による授業科目 この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>ケースカンファレンスでの提出レポート(80%)、課題学習の発表態度(20%) レポート及び発表に対しては、コメントを行いフィードバックを試みる。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。</p>						
自己学習	<p>日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジュメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。</p>						
オフィスワ-	火曜3限、6号館4階6401研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 転換性障害・解離性障害 2. 身体症状症 3. パーソナリティー障害 4. 摂食障害 5. ケースカンファレンス 6. 睡眠-覚醒障害 7. 物質依存症 8. 器質性・症状性精神障害 9. 認知症(症状評価と診断) 10. 認知症(治療法・ケア法) 11. 自閉性障害 12. ADHDなど 13. リエゾン精神医学 14. てんかん 15. ケースカンファレンス	講義 講義 講義 講義 発表 講義 講義 講義 講義 講義 発表 講義 講義 講義 発表	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信		
教科書 1	スライド原稿を資料として配布する。						
教科書 2							
参考書 1	<p>標準精神医学 著者:尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編 出版社:医学書院 ISBN:ISBN978-4-260-03246-9 </p>						
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	津川 秀夫					NO.		
配当学科	臨床心理学専攻(修士)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	テーマ:修士論文作成に向けて、研究テーマを設定し、研究計画をたてる 到達目標: 1. 先行研究について概観し、何がどこまで明らかにされているかを知る 2. 研究テーマを設定できる 3. 研究計画をたてることできる							
概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。先行研究を概観し報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、今後の課題は何か、を把握する。秋学期の終わりまでに研究計画を立てることを目指す。							
評価方法	毎回の報告内容(80%)と授業態度(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む							
自己学習	テーマに直接・間接的にかかわる文献を読み込むこと							
オフィスアワー	水曜日3時限、個人研究室							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				1. オリエンテーション 2. 論文指導:文献収集 3. 論文指導:研究計画の立て方 4. 論文指導:報告 5. 論文指導:研究計画と使用尺度 6. 論文指導:尺度の検討 7. 論文指導:報告 8. 論文指導:データのまとめ方 9. 論文指導:統計 10. 論文指導:報告 11. 論文指導:予備研究 12. 論文指導:予備研究のまとめ 13. 論文指導:報告 14. 論文指導:計画・手続の検討 15. 論文指導:まとめ			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川
教科書 1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 出版社:東京書籍							
教科書 2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 出版社:東京書籍							
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期			
担当者	森井 康幸					NO.			
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込み、および第1研究(予備的研究)を開始することである。								
概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していくとともに、予備的な実験の開始につなげる。								
評価方法	受講態度(50%)と修論テーマの絞り込み程度による(50%)。各自の発表に基づいてフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。								
自己学習	修論のテーマにそった論文を検索し、精読すること。いつでも発表できるように準備しておくこと。								
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. オリエンテーション・経過報告 2. 最重要論文の紹介と討議(1) 3. 最重要論文の紹介と討議(2) 4. 先行研究の紹介とテーマの発表 5. 研究計画の作成と討議 6. 実験課題の選択と作成 7. 実験プログラムの作成 8. 実験実施にあたっての注意 9. 表計算ソフトの活用 10. 記述統計(度数分布・期待値) 11. 記述統計(標準偏差・標準誤差) 12. 記述統計(相関) 13. 実験結果の発表 14. 実験の問題点等についての討議 15. まとめ・研究計画の報告			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井
教科書 1	テキストは使用しない。適宜、プリント等を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	栗田 喜勝					NO.	
配当学科	心理学専攻(博士前期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに研究計画の検討を行い、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。						
概要	特別研究Ⅰに引き続き、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
評価方法	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。なお、②③については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考になること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
自己学習	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスワ-	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 研究方法論に関する知見の確認 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 文献の整理と内容分析 第5回 文献の整理と内容の理解 第6回 文献に基づくディスカッション 第7回 研究内容に関する考察(1) 先行文献の吟味 第8回 研究内容に関する考察(2) 先行文献の活用 第9回 研究内容に関する考察(3) 仮説の設定 第10回 研究内容に関する考察(4) 仮説の妥当性検討 第11回 研究計画の作成(1) 研究方法の確立 第12回 研究計画の作成(2) 研究方法の妥当性 第13回 研究計画の作成(3) 研究方法に関する検討 第14回 研究計画の作成(4) 計画の実施方法の検討 第15回 まとめ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田		
教科書 1	初回講義時に授業資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	心理学研究法5「社会」 著者:岡 隆 編著 出版社:誠信書房 ISBN:987-4-414-30185-4						
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	藤原 直子					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。</p> <p>到達目標:自身の研究計画を立てて研究準備をするとともに、複数の先行研究をまとめることができる。</p>						
概要	<p>主に実践研究の指導を行う。</p> <p>①先行研究や実践研究論文について、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。</p> <p>②文献の講読を行いながら臨床的意義や研究仮説を検討し、研究の計画を立案させる。</p> <p>③実践方法、データの集積、分析、論文執筆について指導する。</p>						
評価方法	<p>①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢(30%)</p> <p>②理解促進ために提出する課題の内容やプレゼン(30%)</p> <p>③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等(40%)</p> <p>以上を、総合的に評価する。</p> <p>なお、課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。</p>						
自己学習	<p>研究を遂行するため、授業時間外の自己学修や、指導教員が行う臨床実践や研究への参加が必要である。</p> <p>自己学修としては、</p> <p>①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の自己学修や授業準備(予習を含む)を行うこと。</p> <p>②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修や復習を行うこと。</p>						
オフィスワ-	毎週月曜日2限(研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 研究テーマの報告・検討 4. 文献に関する検討(1) 先行研究の紹介 5. 文献に関する検討(2) 先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討(3) 先行研究のレビュー発表 7. 研究計画指導(1) 計画立案 8. 研究計画指導(2) データの収集・質問紙検討 9. 研究計画指導(3) データの分析方法 10. 研究計画指導(4) 仮説・考察 11. 研究準備(1) 実践対象者の決定・依頼 12. 研究準備(2) 倫理審査委員会の書類作成・提出 13. 研究準備(3) 対象者の募集・内容説明 14. 中間発表の資料作成・プレゼン 15. 中間発表・まとめ	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原		
教科書 1	教科書は指定しない。適宜、参考書籍や資料を提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	橋本 翠					NO.		
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。</p>							
概要	<p>認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法論等について,個々に指導,または,ゼミにおける発表等を行う。</p>							
評価方法	<p>大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは,次の講義の最初およびteamsを用いて行う。</p>							
履修条件・注意事項	<p>学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。</p>							
自己学習	<p>毎回,予習,復習に各2時間をかけ,学習すること。</p>							
オフィスアワー	<p>月曜5限:個人研究室</p>							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後の研究計画の発表 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか?) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか?) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. ポスター発表(学会発表に向けての予行練習) 			発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表 発表	橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本	
教科書 1	<p>研究内容、研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。</p>							
教科書 2								
参考書 1	<p>脳波解析入門 著者:開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著) 出版社:東京大学出版会 ISBN:978-4-13-012111-8</p>							
参考書 2	<p>心理学のための事象関連電位ガイドブック 著者:入野野宏(著) 出版社:北大路書房 ISBN:4-7628-2462-3</p>							

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	宇都宮 真輝					NO.		
配当学科	心理学研究科				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標:関連する文献の検索・レビューを通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。</p>							
概要	<p>研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆、研究倫理について指導する。</p>							
評価方法	<p>①文献講読、その内容理解への努力、また研究指導に対する姿勢(60%) ②課題の提出やプレゼン(20%) ③研究計画の立案、倫理的配慮等(20%) 以上を、総合的に評価する。 なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。</p>							
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次回の授業に備えること。							
自己学習	<p>研究を進めるためには、授業時間外の自己学修や、指導教員が実施する実践への参加が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。</p>							
オフィスワ-								
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 研究テーマの報告・検討 4. 文献に関する検討(1) 先行研究の紹介 5. 文献に関する検討(2) 先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討(3) ディスカッション 7. 研究計画指導(1) 研究倫理 8. 研究計画指導(2) データの収集・質問紙作成 9. 研究計画指導(3) データの分析方法 10. 研究計画指導(4) 仮説の検討 11. 研究準備(1) 調査対象者の決定・依頼 12. 研究準備(2) 倫理審査の書類作成 13. 研究準備(3) 対象者への研究内容説明 14. 中間発表の資料作成・プレゼン 15. 中間発表・まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮	
教科書 1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	特別研究Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	土居 正人					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標:文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。</p>						
概要	<p>先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。</p>						
評価方法	<p>規定の出席のあることを前提として、演習課題への取組(60%)と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度(40%)で総合的に評価する。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>ゼミでは要約課題を出す。修士論文に必要な文献を調べてくること。</p>						
自己学習	<p>予習復習に用いる教材プリントは授業内で配布する。演習時間外の課題を、予習2時間・復習2時間として各演習時に提示するので、必ず行うこと。</p>						
オフィスアワー	<p>月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している(土居研究室にて)、活用すること。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.第1研究のテーマの決定 3.研究計画の考案 4.研究計画の作成 5.調査用紙の考案 6.調査用紙の作成 7.調査の手配 8.調査実施 9.データ打ちこみ 10.データの整理 11.統計的解析 12.合成得点の算出 13.基礎データの算出 14.信頼性係数の算出 15.まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居
教科書 1	修士研究に関する、プリント配布を行う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	三宅 俊治					NO.			
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	テーマは、修士論文を作成するために、研究計画の見直しと洗練、それにデータ収集の準備をすることである。到達評目標は、受講者のテーマに沿って、問題、目的、方法に基づいてデータを収集し、ある程度分析を進める段階に達していること。								
概要	修士論文を作成する過程において、授業参加者が関心を持つ基礎心理学領域のテーマに内在する問題点を過去の研究との関連から明確に位置づける。その上で、その問題点が、どのような仮説の設定により検証可能となるのか、また、方法や測定的具体的進め方はどのどのような研究計画によって明らかにされるのか、以上の観点からデータをどのようにして収集するのか、得られたデータをどのように分析していくのかについて検討する。								
評価方法	毎回の授業時の発表レポートを各5点分とし(5点×15=75)、残り25点分は研究に対する態度、構えで評価する。								
履修条件・注意事項	欠席は絶対にしないこと。								
自己学習	一週間毎に、自己学習の成果をレポートとして提出。文献検索、研究方法、収集したデータの分析、考察など、予習・復習(各々約2時間程度、計約4時間程度)を常に実行すること。								
オフィスワ-	日時:毎週火曜日の3限目(13:30-15:00)。場所:個人研究室(10号館2階10209)。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
(1)オリエンテーション			説明	三宅俊治					
(2)修論のテーマに対する再吟味			演習	三宅俊治					
(3)先行・当該研究の方法の検討									
(4)先行・当該研究のデータの検討			演習	三宅俊治					
(5)先行・当該研究における結果の比較・検討			演習	三宅俊治					
(6)先行・当該研究の考察に関する問題の指摘			演習	三宅俊治					
(7)先行・当該研究の結果に対する疑問点の比較と検討			演習	三宅俊治					
(8)先行・当該研究の考察についての問題点の提出			演習	三宅俊治					
(9)先行研究を踏まえた修論のテーマの設定に関する再吟味			演習	三宅俊治					
(10)先行研究・当該研究の意義・新奇性の比較・検討			演習	三宅俊治					
(11)先行・当該研究の目的の検討			演習	三宅俊治					
(12)先行・当該研究における法論の比較と検討			演習	三宅俊治					
(13)先行・当該研究のデータ分析方法に関する検討			演習	三宅俊治					
(14)先行研究の結果に対する検討の視点と当該研究のその吟味			演習	三宅俊治					
(15)先行研究の考察に対する検討の視点と当該研究のその吟味			演習	三宅俊治					
			演習	三宅俊治					
			演習	三宅俊治					
教科書 1	使用しない。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	森信 繁					NO.			
配当学科	心理学研究科(博士課程前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・課題学習・発表		
テーマと到達目標	<p>テーマ:精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発 到達目標:学生は、分子精神薬理学及び脳画像学を用いた精神障害の病態解明についての研究を学び、このような研究を用いた精神障害の診断・治療バイオマーカーの評価が出来るようになる。</p>								
概要	<p>分子精神薬理学及び脳画像学を用いた病態解明の進んでいる、気分障害(うつ病・双極性障害)・統合失調症・不安障害などを取り上げ、最先端の病態研究の結果を学ぶ。その上でこれらの病態研究の結果から導き出された診断や治療反応性予測のためのバイオマーカーについて、薬物治療・認知行動療法・Device-based Treatmentによるバイオマーカーの変動を学び、実際の治療場面での活用や評価が出来るよう習熟する。 ＊実務経験のある教員による授業科目 この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	<p>課題に対する提出レポート内容の評価(80%)・レポート内容の発表態度(20%) レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。</p>								
履修条件・注意事項	<p>講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。</p>								
自己学習	<p>日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジュメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。</p>								
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 精神薬理学・脳画像学			講義	森信					
2. うつ病の病態(そのI)			講義	森信					
3. うつ病の病態(そのII)			講義	森信					
4. 薬物治療とうつ病バイオマーカー			講義	森信					
5. 認知行動療法とうつ病バイオマーカー			講義	森信					
6. Device-based Treatmentとうつ病バイオマーカー			講義	森信					
7. 双極性障害の病態(そのI)			講義	森信					
8. 双極性障害(そのII)			講義	森信					
9. 双極性障害のバイオマーカー			講義	森信					
10. 統合失調症の病態(そのI)			発表	森信					
11. 統合失調症の病態(そのII)			講義	森信					
12. 薬物治療と統合失調症バイオマーカー			講義	森信					
13. 認知行動療法と統合失調症バイオマーカー			講義	森信					
14. Device-based Treatmentと統合失調症バイオマーカー			講義	森信					
15. バイオマーカー研究の将来展望			講義	森信					
教科書 1	講義スライドを、適宜配布する。								
教科書 2									
参考書 1	<p>標準精神医学 著者:尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編 出版社:医学書院 ISBN:ISBN978-4-260-02041-1</p>								
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	津川 秀夫					NO.			
配当学科	臨床心理学専攻(修士)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	テーマ:修士論文作成に向けて、調査や実験を実施し、結果を分析する 到達目標: 1. 研究計画に基づき、調査や実験をおこなう 2. 結果を定められた手法に基づき分析できる								
概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。先行研究を概観し報告することを通して、何がどこまで明らかにされているかを把握する。								
評価方法	7回以上の発表を行うとともに、修士論文の中間報告を一定の水準で行った者に対して単位を与える。発表の内容と水準(80%)および取り組み姿勢(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む								
自己学習	テーマに直接・間接的にかかわる文献を大量に読み込むこと。日に1時間以上の自己学修を確保したい。								
オフィスワ-	水曜日3時限、個人研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション			AL	津川					
2. テーマの検討			AL	津川					
3. 先行研究まとめ			AL	津川					
4. 先行研究の課題			AL	津川					
5. テーマの再検討			AL	津川					
6. 研究計画1:変数			AL	津川					
7. 研究計画2:対象者			AL	津川					
8. 研究計画3:手続き			AL	津川					
9. 研究計画4:結果のまとめ			AL	津川					
10. 研究計画5:統計処理			AL	津川					
11. 研究倫理			AL	津川					
12. 実施依頼			AL	津川					
13. 調査・実験の実施			AL	津川					
14. 調査・実験の経過報告			AL	津川					
15. まとめ			AL	津川					
教科書 1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 出版社:東京書籍 ISBN:448902262X								
教科書 2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版 出版社:東京書籍 ISBN:448902262X								
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	藤吉 晴美					NO.	
配当学科	心理学専攻博士(前期)課程				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	AL
テーマと到達目標	臨床心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶ。本演習の受講により、自己の関心領域の研究知見をふまえた研究計画の検討を重ね、修士論文の研究テーマを決定し、研究に着手することができる。						
概要	特別研究Ⅱに引き続き、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案を行い、研究を実施する。						
評価方法	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(40%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③課題への取り組み(30%)から、総合的に評価する。なお、学習の進展を図るため、評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてまとめて、次回の授業に備えること(復習)。						
自己学習	1) 毎回の指導で課せられた課題に取り組むため、毎回ため4時間以上の事前学習を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学習内容を確認し、研究指導について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学習)が必要である。						
オフィスワ-	水曜3限 於:個人研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 研究方法論に関する知見の確認		AL	藤吉				
第2回 関連文献の追加収集(和文献)		AL	藤吉				
第3回 関連文献の追加収集(欧文献)		AL	藤吉				
第4回 文献の整理と内容分析		AL	藤吉				
第5回 文献の整理と内容の理解		AL	藤吉				
第6回 文献に基づくディスカッション		AL	藤吉				
第7回 研究内容に関する考察(1) 先行文献の吟味		AL	藤吉				
第8回 研究内容に関する考察(2) 先行文献の活用		AL	藤吉				
第9回 研究内容に関する考察(3) 仮説の設定		AL	藤吉				
第10回 研究内容に関する考察(4) 仮説の妥当性検討		AL	藤吉				
第11回 研究計画の作成(1) 研究方法の確立							
第12回 研究計画の作成(2) 研究方法の妥当性							
第13回 研究計画の作成(3) 研究方法に関する検討							
第14回 研究計画の作成(4) 計画の実施方法の検討							
第15回 研究計画全体の見直し							
教科書 1	特に指定しない。						
教科書 2							
参考書 1	適宜、指示する。						
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	森井 康幸						NO.		
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	テーマは、修論作成に向けてのデータの吟味と分析法の検討・実施であり、到達目標は研究データの分析と結果の整理ができることである。								
概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向とデータ分析方法等を確認しながら、自身の研究目的・方法・結果の整理・考察へと進めていく。								
評価方法	受講態度(50%)と関連文献の理解度(30%)、発表(20%)から、総合的に評価する。各自の発表に基づき、フィードバックする。								
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。								
自己学習	修士課程のゼミらしく、とにかく徹底的に自分で調べて、それでもわからないところは質問する。事前・事後学習のために、各2時間以上をかけること。								
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 修論研究途中発表 3. 文献の追加収集と紹介(1) 4. 文献の追加収集と紹介(2) 5. 実験計画の発表・検討 6. 実験目的の再検討 7. 方法・手続きの再検討 8. 結果の分析法の再検討 9. 結果の分析と問題点の検討 10. 追加実験の計画作成と発表 11. 追加実験計画の検討 12. 追加実験の方法の精緻化 13. 実験の実施と問題点の修正 14. データ分析結果の発表 15. まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井					
教科書 1	教科書は使用しない。								
教科書 2									
参考書 1	適宜、指示する。								
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	栗田 喜勝					NO.			
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができるように、論文を作成することが出来る。								
概要	修士論文作成に向けて、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。								
評価方法	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。なお、②③については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にする事。								
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。								
自己学習	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。								
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 研究方法論に関する知見の整理・確認			演習	栗田					
第2回 関連文献の追加収集(和文献)			演習	栗田					
第3回 関連文献の追加収集(欧文献)			演習	栗田					
第4回 修士論文のテーマの検討			演習	栗田					
第5回 修士論文の内容構成の検討			演習	栗田					
第6回 研究計画の作成(1)研究方法の確立			演習	栗田					
第7回 研究計画の作成(2)研究方法の妥当性			演習	栗田					
第8回 研究計画の作成(3)研究方法に関する検討			演習	栗田					
第9回 研究計画の作成(4)計画の実施方法の検討			演習	栗田					
第10回 修士論文の内容に関する考察(1)先行文献の吟味			演習	栗田					
第11回 修士論文の内容に関する考察(2)先行文献の活用			演習	栗田					
第12回 修士論文の内容に関する考察(3)仮説の設定			演習	栗田					
第13回 修士論文の内容に関する考察(4)仮説の妥当性検討			演習	栗田					
第14回 修士論文の全体構成に関するディスカッション			演習	栗田					
第15回 まとめ			演習	栗田					
教科書 1	初回授業時に資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1	心理学理論ガイドブック 著者:夏堀睦他編著 出版社:ナカニシヤ出版 ISBN:978-4-7795-0161-6								
参考書 2									

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期	
担当者	藤原 直子					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	AL
テーマと到達目標	<p>テーマ:臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践を行う。</p> <p>到達目標:自身の研究テーマについて文献研究を行うとともに、現場において心理臨床実践を行うことができる。</p>						
概要	<p>学生自身が心理臨床に関する実践研究を行う。</p> <p>①先行研究や実践研究論文についてまとめ、文章で表現し考察する力を高める。</p> <p>②研究の計画に基づいて実践を行い、効果検証を行う。</p> <p>③結果を分析し、研究意義や課題について考察しながら、修士論文を執筆する。</p>						
評価方法	<p>①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢(20%)</p> <p>②理解促進ために提出する課題の内容やプレゼン(30%)</p> <p>③研究テーマに関する研究計画、実践に向けての準備、実践力、倫理的配慮等(50%)</p> <p>以上を、総合的に評価する。</p> <p>なお、課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。</p>						
自己学習	<p>研究を遂行するため、授業時間外の自己学修や実践研究の準備および練習、指導教員が行う臨床実践や研究への参加が必要である。</p> <p>自己学修としては、</p> <p>①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や準備を行うこと。</p> <p>②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。</p>						
オフィスワ-	毎週月曜日2限(研究室)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 先行研究の発表 3. 研究計画の発表・検討 4. 実践に関する検討(1) 目的と方法 5. 実践に関する検討(2) 実践内容 6. 実践に関する検討(3) 効果測定 7. 研究実践(地域における心理教育) 8. 研究実践指導(1) 実践内容の検討 9. 研究実践指導(2) 効果測定の分析 10. 研究実践指導(3) 社会的妥当性の検討 11. 研究実践指導(4) 今後の課題の検討 12. 論文執筆計画の作成 13. 論文の構成 14. 序論執筆・発表 15. まとめと今後の計画		AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原				
教科書 1	教科書は指定しない。適宜、参考書籍や資料を提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	橋本 翠					NO.			
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	<p>テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。</p>								
概要	<p>認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法 論等について,個々に指導または,ゼミにおける発表等を行う。</p>								
評価方法	<p>大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは, 次の講義の最初およびteamsを用いて行う。</p>								
履修条件・注意事項	<p>学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。</p>								
自己学習	<p>本講は, 授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い, 教員が行う研究に積極的に参加することで, 学修効果も上がり, より実践的に学ぶことが可能となる。また, 興味のあるテーマについて, 積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで, 討議への参加度の増大にもつながる。</p>								
オフィスワ-	月曜5限:個人研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション			演習・実習	橋本					
2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献)			演習・実習	橋本					
3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献)			演習・実習	橋本					
4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献)			演習・実習	橋本					
5. 実験計画発表(テーマに沿った実験計画か?)			演習・実習	橋本					
6. 実験計画発表(その実験計画は可能か?)			演習・実習	橋本					
7. 実験計画発表(学会発表に向けての実験計画)			演習・実習	橋本					
8. 実験の途中経過(方法)発表			演習・実習	橋本					
9. 実験の途中経過(結果)発表			演習・実習	橋本					
10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか)			演習・実習	橋本					
11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか)			演習・実習	橋本					
12. 実験データの発表(結果)			演習・実習	橋本					
13. 実験データの発表(考察)			演習・実習	橋本					
14. ポスター発表準備			演習・実習	橋本					
15. 総括			演習・実習	橋本					
教科書 1	研究の内容, 研究の進捗状況に応じて, 適宜支持する。								
教科書 2									
参考書 1	<p>脳波解析入門 著者:開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著) 出版社:東京大学出版会 ISBN:978-4-13-012111-8</p>								
参考書 2	<p>心理学のための事象関連電位ガイドブック 著者:入野宏(著) 出版社:北大路書房 ISBN:4-7628-2462-3</p>								

授業科目名	特別研究Ⅲ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	土居 正人					NO.		
配当学科	心理学研究科心理学専攻				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標:文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。</p>							
概要	<p>先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。</p>							
評価方法	<p>規定の出席のあることを前提として、演習課題への取組(60%)と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度(40%)で総合的に評価する。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。</p>							
履修条件・注意事項	<p>ゼミでは要約課題を出す。修士論文に必要な文献を調べてくること。</p>							
自己学習	<p>予習復習に用いる教材プリントは授業内で配布する。演習時間外の課題を、予習2時間・復習2時間として各演習時に提示するので、必ず行うこと。</p>							
オフィスアワー	<p>月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している(土居研究室にて)、活用すること。</p>							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.第2研究のテーマの決定 3.研究計画の考案 4.研究計画の作成 5.調査用紙の考案 6.調査用紙の作成 7.調査の手配 8.調査実施 9.データ打ちこみ 10.データの整理 11.統計的解析 12.合成得点の算出 13.基礎データの算出 14.信頼性係数の算出 15.まとめ		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居					
教科書 1	修士研究に関する、プリント配布を行う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	特別研究IV				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	森信 繁					NO.		
配当学科	心理学研究科(博士課程前期)				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・課題学習・発表	
テーマと到達目標	<p>テーマ:精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発 到達目標:学生は、分子精神薬理学及び脳画像学を用いた精神障害の病態解明についての研究を学び、このような研究を用いた精神障害の診断・治療バイオマーカーの評価が出来るようになる。</p>							
概要	<p>分子精神薬理学及び脳画像学を用いた病態解明の進んでいる、気分障害(うつ病・双極性障害)・統合失調症・不安障害などを取り上げ、最先端の病態研究の結果を学ぶ。その上でこれらの病態研究の結果から導き出された診断や治療反応性予測のためのバイオマーカーについて、薬物治療・認知行動療法・Device-based Treatmentによるバイオマーカーの変動を学び、実際の治療場面での活用や評価が出来るよう習熟する。 *実務経験のある教員による授業科目 この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>							
評価方法	<p>課題に対する提出レポート内容の評価(80%)・レポート内容の発表態度(20%) レポート及び発表に、コメントしてフィードバックを行う。</p>							
履修条件・注意事項	<p>講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。</p>							
自己学習	<p>日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジュメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。</p>							
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 不安障害の病態 2. 薬物治療と不安障害バイオマーカー 3. 認知行動療法と不安障害バイオマーカー 4. 強迫性障害(OCD)の病態 5. 薬物治療とOCDバイオマーカー 6. 認知行動療法とOCDバイオマーカー 7. 外傷後ストレス障害(PTSD)の病態(そのI) 8. PTSD(そのII) 9. PTSD(そのIII) 10. 薬物治療とPTSDバイオマーカー 11. 認知行動療法とPTSDバイオマーカー 12. 認知症の病態 13. エピジェネティクス総論 14. エピジェネティックバイオマーカー 15. まとめ 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 発表 講義 講義 講義 講義 講義 講義	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信	
教科書 1	スライド原稿を資料として配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	特別研究IV				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	津川 秀夫					NO.		
配当学科	臨床心理学専攻(修士)				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	テーマ:修士論文作成を作成する 到達目標: 1. 研究計画に基づき、調査や実験をおこなう 2. 結果を定められた手法に基づき分析できる 3. 問題、方法、結果、考察という構成にしたがい、論文を作成できる							
概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。問題、方法、結果、考察という構成にしたがい、抄録および論文を作成できることを目指す。							
評価方法	毎回の報告内容(80%)と授業態度(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む							
自己学習	論文作成のために、日に2時間以上の自己学修を期待する。							
オフィスアワー	水曜日3時限、個人研究室							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				1. オリエンテーション 2. 計画 3. 実施 4. 結果の集計 5. 統計 6. 統計結果の読み取り 7. 結果と考察 8. 抄録の作成 9. 抄録の修正 10. 序論の作成 11. 序論の修正 12. 考察の作成 13. 考察の修正 14. 全体の見直し 15. まとめ			AL	津川
教科書 1		心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 出版社:東京書籍						
教科書 2		教育・心理系研究のためのデータ分析入門 出版社:東京書籍						
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	特別研究IV				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	森井 康幸					NO.	
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマは、修論作成に向けてのデータの吟味と分析法および考察の検討であり、到達目標は修士論文の草稿作成である。						
概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、実験データ分析方法・結果等を確認しながら、自身の研究を修士論文へとまとめていく。						
評価方法	受講態度(50%)と関連文献の理解度(30%)、発表(20%)から、総合的に評価する。演習中のディスカッションの中で、適宜、コメント(フィードバック)を行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
自己学習	修士課程のゼミらしく、とにかく徹底的に自分で調べて、それでもわからないところは質問する。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. オリエンテーション 2. 修論研究途中発表 3. 文献の追加収集と紹介(要旨) 4. 文献の追加収集と紹介(詳細) 5. 最終実験の検討 6. 実験方法の検討・確認 7. 実験実施と問題点の検討 8. 結果の分析と考察の検討 9. 論文の作成:問題 10. 論文の作成:方法 11. 論文の作成:結果 12. 論文の作成:図表の作成 13. 論文の作成:全体考察 14. 論文抄録の作成 15. まとめ:発表会に向けて			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井
教科書 1	教科書は使用しない。						
教科書 2							
参考書 1	心理学研究法入門 著者:南風原・市川・下山 出版社:東京大学出版会 ISBN:4-13-012035-2						
参考書 2							

授業科目名	特別研究IV			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	栗田 喜勝					NO.	
配当学科	心理学専攻(修士)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができるとともに、論文を作成することが出来る。						
概要	修士論文作成に向けて、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
評価方法	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。なお、②③については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にする事。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
自己学習	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスワ-	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 研究方法論に関する知見の整理・確認 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 修士論文の内容構成の検討 第5回 修士論文のエビデンスに関する集計分析 第6回 修士論文のエビデンスに関わる図表作成案の検討 第7回 修士論文の作成(1)研究目的に関する整理 第8回 修士論文の作成(2)研究目的の作成 第9回 修士論文の作成(3)研究方法に関する検討 第10回 修士論文の作成(4)研究方法の作成 第11回 修士論文の作成(5)研究内容の結果に関するまとめ 第12回 修士論文の作成(6)研究内容の結果に関する考察 第13回 修士論文の作成(7)研究内容の全体的考察 第14回 修士論文の作成(8)引用参考文献の整理 第15回 まとめ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田		
教科書 1	初回授業時に資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	評価される博士・修士論文の書き方考え方 著者:新堀聰著 出版社:同文館出版 ISBN:4-495-86511-0						
参考書 2							

授業科目名	特別研究IV			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	藤原 直子					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	AL
テーマと到達目標	<p>テーマ:臨床心理学における自己の関心領域に関する実践研究を行い、修士論文を執筆する。 到達目標:研究計画に基づいて実践し、論文としてまとめることができる。</p>						
概要	<p>主に実践研究について論文執筆の指導を行う。 ①先行研究や実践研究論文についてまとめ、自身の研究と関連付けてまとめる思考力や文章力を高める。 ②実践した内容についてまとめ、方法、データの分析、結果、考察について指導し論文を完成させる。 ③論文の概要を抄録にまとめるとともに、口頭にて発表する。</p>						
評価方法	<p>①文献など研究論文の内容理解への努力や、実践に取り組む研究態度、及び研究指導に対する姿勢(20%) ②論文執筆ために提出する課題の内容やプレゼン(30%) ③研究の意義、研究方法の妥当性、論文の完成度、発表等(50%) 以上を、総合的に評価する。 なお、最終的な論文審査は、指導教員を含む3名の教員によって行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。</p>						
自己学習	<p>研究を遂行するため、授業時間外の自己学修や、指導教員が行う臨床実践や研究への参加が必要である。 自己学修としては、 ①自分の研究や論文執筆に取り組むため、週4時間以上の学修や発表準備を行うこと。 ②執筆中に生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも4時間以上の事後学修を行うこと。</p>						
オフィスワ-	毎週月曜日2限(研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 先行研究のまとめ、発表 4. 実践の報告 5. 実践の結果分析、結果の検討 6. 今後の課題と執筆計画の発表 7. 論文執筆(1) 序論 8. 論文執筆(2) 研究方法 9. 経過発表・検討(序論～方法) 10. 論文執筆(3) 結果・考察 11. 経過発表・検討(結果～考察) 12. 論文の仕上げ(表紙～文献まで) 13. 発表準備(資料作成、発表練習) 14. 修士論文発表(ポスター発表) 15. 修士論文・口頭試問 <p>*論文執筆は授業時間外に計画的に行い、随時指導する。</p>				藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原
教科書 1	教科書は指定しない。適宜、参考書籍や資料を提示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	特別研究IV			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	橋本 翠					NO.	
配当学科	心理学専攻(博士前期)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。</p>						
概要	<p>認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法 論等について,個々に指導または,ゼミにおける発表等を行う。</p>						
評価方法	<p>大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは,次の講義の最初およびteamsを用いて行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。</p>						
自己学習	<p>毎回,予習,復習に各1時間30分をかけ,学習すること。</p>						
オフィスアワー	<p>月曜5限:個人研究室</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後の研究計画の発表 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. ポスター発表(学会発表に向けての予行練習) 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本
教科書 1	<p>研究内容、研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>脳波解析入門 著者:開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著) 出版社:東京大学出版会 ISBN:978-4-13-012111-8</p>						
参考書 2	<p>心理学のための事象関連電位ガイドブック 著者:入野野宏(著) 出版社:北大路書房 ISBN:4-7628-2462-3</p>						

授業科目名	特別研究Ⅳ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	宇都宮 真輝					NO.		
配当学科	心理学研究科				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標:研究テーマに沿った、先行研究のレビュー、データの収集と分析、考察を通じ、修士論文を完成させることができる。</p>							
概要	<p>研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。</p>							
評価方法	研究に関する取り組み姿勢(60%)、発表態度(20%)、研究の遂行状況(20%)等を総合的に評価する。なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。							
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次回の授業に備えること。							
自己学習	<p>研究を進めるためには、授業時間外の自己学修が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の自己学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。</p>							
オフィスワ-	火曜4限:個人研究室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. オリエンテーション 2. 研究の進行状況の報告 3. 研究方法(発表と検討) 4. 研究結果(発表と検討) 5. 研究結果(発表と検討) 6. 研究結果の考察(発表と検討) 7. 研究結果の考察(発表と検討) 8. 序論(発表と検討) 9. 序論(発表と検討) 10. 研究抄録(発表と検討) 11. 研究抄録(発表と検討) 12. ポスター発表の準備 13. ポスター発表(発表と検討) 14. ポスター発表(発表と検討) 15. まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮	
教科書 1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	特別研究IV			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	土居 正人					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標:文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。</p>						
概要	<p>先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。</p>						
評価方法	<p>規定の出席のあることを前提として、演習課題への取組(60%)と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度(40%)で総合的に評価する。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>ゼミでは要約課題を出す。修士論文に必要な文献を調べてくること。</p>						
自己学習	<p>予習復習に用いる教材プリントは授業内で配布する。演習時間外の課題を、予習2時間・復習2時間として各演習時に提示するので、必ず行うこと。</p>						
オフィスアワー	<p>月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している(土居研究室にて)、活用すること。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.データの解析 3.因子分析 4.t検定 5.相関 6.分散分析 7.重回帰分析 8.結果の検討 9.結果執筆 10.考察の検討 11.考察執筆 12.修論完成 13.修論抄録の作成 14.修論発表の資料作成 15.発表練習			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居
教科書 1	修士研究に関する、プリント配布を行う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	教育分野に関する理論と支援の展開				履修期	2021年度 春学期		
担当者	森井 康幸					NO.		
配当学科	公認心理師コース			年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・学生発表	
テーマと到達目標	テーマ:教育心理学の学術論文の読解を通して学ぶ理論と支援と研究法 到達目標:論文の精読を通して、①教育心理学の研究法・データの分析法についての理解を深める、②批判的に読むことができる、③支援方法について考えることができる、の3点を到達目標とする。							
概要	「いじめ」の問題を扱った教育心理学的な研究論文の精読・解説を中心におこなう。理解が深まった時点で、当該研究論について批判的に優れた点、問題点、改善点等を出し合い、さらにその応用と支援のあり方などについて討議する。							
評価方法	受講態度(40%)、発表内容・姿勢(40%)、および授業中に2回ほど行う小テスト(20%)により評価する。発表内容、小テストについては、そのつどフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	心理統計についての理解が不足している人は、それなりの努力を有する。							
自己学習	論文を読んで、不明箇所は、必ず調べておくこと。(2時間以上) 授業内容を振り返るとともに、課題に取り組むこと。(2時間以上)							
オフィスアワー	月曜日4限、教員研究室。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション いじめとは 2. 論文1 中高生のいじめ認識(概要紹介) 3. 論文1 " (研究法・応用性の検討) 4. 論文2 関係者の心理的ストレス(概要紹介) 5. 論文2 " (研究法・応用性の検討) 6. 論文3 いじめ防止プログラム(概要紹介) 7. 論文3 " (研究法・応用性の検討) 8. 論文4 加害者への対応(概要紹介) 9. 論文4 " (研究法・応用性の検討) 10. 論文5 学級の集団規範(概要紹介) 11. 論文5 " (研究法・応用性の検討) 12. 論文6 自尊感情、有能感との関係(概要紹介) 13. 論文6 " (研究法・応用性の検討) 14. 統計の基礎的おはなし 15. まとめ(研究と実践)		講義 学生発表 討論 学生発表 討論 学生発表 討論 学生発表 討論 学生発表 討論 学生発表 討論 学生発表 討論 学生発表 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井					
教科書 1	使用しない。							
教科書 2								
参考書 1	いじめ指導24の鉄則—うまくいかない指導には「わけ」がある 著者:吉田 順 出版社:学事出版 ISBN:ISBN-13: 978-4761921651							
参考書 2	いじめとは何か—教室の問題、社会の問題 著者:森田 洋司 出版社:中公新書							

授業科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	藤原 直子					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>司法・犯罪分野におけるさまざまな社会的問題や心理的支援について学習する。そして、犯罪被害者・加害者および家族や支援者に対する心理的支援の理論と実践的技術の理解を深める。</p> <p>具体的には、①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件に関する法規および基本知識を学ぶ。②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関するアセスメントや支援技法方法を学び、実践に生かすことができる。③保護・矯正施設において実施されている各種矯正プログラムについて学び、実施に必要な知識と技術を習得する。</p> <p>以上の3点を到達目標とする。</p>						
概要	<p>犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援、について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。</p> <p>演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、習得した理論や技法を犯罪被害者・加害者に適用する方法も学び、演習を行い、実践力を身につける。</p> <p>さらに、司法・犯罪分野における心理職の実際を学ぶため、法務技官や科学捜査研究所(科捜研)職員の講義聴講も行う。</p>						
評価方法	<p>授業への取り組み、発表資料(提出)・プレゼン、レポートを総合的に評価する。</p> <p>到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。</p> <p>評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、発表資料・プレゼン50%、レポート等30%とする。発表については、その都度フィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>原則として毎回出席すること。</p> <p>正規の授業時間以外に、外部機関における見学・演習やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、それも必ず出席すること。</p>						
自己学習	<p>予習・復習として、司法・犯罪に関するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。</p> <p>関連する学術論文や専門雑誌の検索・熟読、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。</p>						
オフィスワ-	月曜日2限(研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 司法・犯罪分野の制度・法律 司法・犯罪分野における職種 司法・犯罪分野での活動の倫理 各機関における活動:警察、裁判所、鑑別所 各機関における活動:少年院、刑務所、保護施設など 犯罪・非行への心理的支援 犯罪被害への心理的支援 犯罪捜査や犯罪者心理の基本 科学捜査研究所における心理職の役割(外部講師) 司法・犯罪分野における心理アセスメントの種類 司法・犯罪分野における心理アセスメントの実際 司法・犯罪分野における心理的支援:処遇プログラム 司法・犯罪分野における心理的支援:認知行動療法 犯罪防止・予防のプログラム まとめ 	講義 講義 講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義 講義・演習 講義・演習 講義 講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義 講義 講義 講義	藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原		
教科書 1	公認心理師分野別テキスト ④司法・犯罪分野 著者:生島 浩 編著 出版社:創元社 ISBN:978-4-422-11694-5						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	家族関係集団地域社会における心理支援に関する理論と			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	津川 秀夫、宇都宮 真輝					NO.	
配当学科	臨床心理学専攻(修士)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	対人関係および集団における人の意識や行動について、また家族の機能や家族内の関係が及ぼす影響について理解し、どのように関わっていくかについて、基礎知識の修得と関わり方の基本を身につけることを目標とする。						
概要	対人関係および集団における人の意識や行動、また家族の機能や家族内の関係が及ぼす影響について、基本的な知識を修得した上で、実際の関わり方を学ぶ。また、受講者の興味に応じて、実際のスキル・トレーニングを取り入れたり視覚教材を用いたりする。						
評価方法	担当箇所の発表(30%)、授業への参加態度(50%)、レポート(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	心理的支援につながる知識と具体的スキルに焦点をあてた授業のため、心理的支援に関心のある者の受講を希望する。						
自己学習	指定テキストをあらかじめ読んで授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスワ-	津川:水曜3限(個人研究室) 宇都宮:火曜2限(個人研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. オリエンテーション 2. 家族療法とブリーフセラピー 3. 合わせとずらし 4. リソース、例外 5. 解決像 6. スケーリング・クエスチョン 7. 事例(妄想) 8. 事例(DV) 9. 事例(指示されて来た場合) 10. ブリーフセラピーまとめ 11. 集団・組織の特徴 12. 集団に働きかけるコミュニケーション 13. SGEとは 14. SGEの計画 15. SGEの実践	演習 AL AL AL AL AL AL AL AL AL 演習 演習 演習・AL 演習・AL 演習・AL	全員 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 津川 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮 宇都宮		
教科書 1	認知行動療法とブリーフセラピーの接点 著者:津川秀夫・大野裕史 出版社:日本評論社						
教科書 2	エンカウンター—心とこころのふれあい 著者:國分 康孝 出版社:誠信書房 ISBN:978-4414403091						
参考書 1	ブリーフセラピー入門:柔軟で効果的なアプローチ 著者:日本ブリーフサイコセラピー学会 出版社:遠見書房						
参考書 2							

授業科目名	心の健康教育に関する理論と実践				履修期	2021年度 春学期	
担当者	藤原 直子					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>認知行動療法は、クライアントの不適応状態に関連する行動・情動・認知の問題に対して、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて介入を行う心理療法で、現代社会における「こころの健康教育」の中心的手法である。本講義では、「こころの健康教育」を実践するために必要な行動療法および認知行動療法の基礎となる理論や技法、心理的支援場面への適応方法を学ぶ。</p> <p>具体的には、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>①行動療法および認知行動療法の基本原理・主な技法、介入のすすめ方を理解できる</p> <p>②さまざまな対象や領域への「こころの健康教育」の理論と技法について学び、実際の現場において活用できるようになる。</p> <p>③特に、児童・生徒への心理教育(ストレスマネジメント)、発達障害児の保護者へのペアレント・トレーニング、うつ病患者への認知行動療法を実施できる実践力を習得する。</p>						
概要	背景となる理論、具体的なアセスメントおよび介入技法等について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、理論や技法を活用する方法を学んだ後、実際に心理教育プログラムを実施して実践力を身につける。						
評価方法	授業への取り組み、演習・発表を総合的に評価する。到達目標①～③を全て評価し、①および②については理解度をみる。②③については、演習や心理教育実施場面における参加意欲・態度により評価する。評価の割合は、授業への参加態度20%、発表資料20%とし、演習・発表・心理教育実施60%とする。発表資料・発表についてはその都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	原則として毎回出席すること。正規の授業時間以外に、心理教育プログラムやそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、それも必ず出席すること。						
自己学習	予習・復習として、テキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。認知行動療法や心理教育に関連する書籍や学術論文の検索・熟読、関連法規の閲覧、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	月曜日2限(研究室)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 心の健康教育の対象と領域 3. 認知行動療法を用いた心理教育の理論:行動理論 4. 認知行動療法を用いた心理教育の理論:応用行動分析 5. 認知行動療法を用いた心理教育の理論:認知再構成法 6. 保護者に対する「ペアレント・トレーニング」 7. ペアレント・トレーニングの理論と技法 8. ペアレント・トレーニングの実践 9. 児童・生徒に対する心理教育 10. 心理教育(ストレスマネジメント)に用いる理論と技法 11. 心理教育(ストレスマネジメント)の実践 12. 防煙教育・禁煙支援 13. 禁煙支援プログラムの実践 14. うつ病に対する認知行動療法 15. うつ病に対する治療プログラム 16. まとめ		講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 講義	藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原				
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	新行動療法入門 著者:宮下照子・免田賢 出版社:ナカニシヤ出版 ISBN:978-4-7795-0216-3						
参考書 2	認知療法・認知行動療法カウンセリング 初級ワークショップ 著者:伊藤絵美 出版社:星和書店 ISBN:978-4-7911-0589-2						

授業科目名	心理実践実習 I			履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	藤吉 晴美、津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝					NO.	
配当学科	心理学研究科 公認心理師コース			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習
テーマと到達目標	<p>【公認心理師必修科目】</p> <p>本実習は、福祉分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。</p> <p>(1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等</p> <p>(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。</p> <p>(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。</p> <p>(4) 多職種連携及び地域連携の実際を体験的に学ぶ。</p> <p>(5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。</p>						
概要	福祉分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。						
評価方法	実習日誌の記録・実習報告・課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習指導担当者からの評価(70%)による総合的評価をおこなう。大学における実習指導・実習報告・課題へのフィードバックは授業時間内に行う。						
履修条件・注意事項	学外実習(90時間以上)の参加を原則とする。 臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、クライアントやその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。 各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。						
自己学習	実習先や実習分野、支援対象者について事前に学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導担当者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は毎回1-2時間程度を要する。						
オフィスワ-	津川(水曜日3限) 藤原(月曜日2限) 藤吉(水曜日1限) 土居(月曜日2限) 宇都宮(水曜日3限) 村上(水曜日1限)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション	演習	全員					
2. 実習施設の概要(福祉分野)	演習・AL	全員					
3. 福祉分野における心理師の役割	演習・AL	全員					
4. 実習の心得、実習記録の書き方	演習・AL	全員					
5. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
6. 福祉分野における実習と実習指導							
7. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
8. 福祉分野における実習と実習指導							
9. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
10. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
11. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
12. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
13. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
14. 福祉分野における実習と実習指導	AL	全員					
15. 実習の振り返り・実習報告会	AL	全員					
16. 総括	AL	全員					
*実習施設は、日程や回数が変更になる場合がある	AL	全員					
	演習・AL	全員					
教科書 1	特に指定しない						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心理実践実習Ⅱ			履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	藤原 直子、津川 秀夫、土居 正人、藤吉 晴美、村上 勝典、宇都宮 真輝					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)公認心理師コース			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習
テーマと到達目標	<p>【公認心理師必修科目】 本実習は、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の4分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。 (1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等 (2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。 (3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。 (4) 多職種連携及び地域連携の実際を体験的に学ぶ。 (5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。</p>						
概要	福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。						
評価方法	実習の事前学習・発表、実習報告、課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習記録・実習指導担当者からの評価(70%)による総合的評価をおこなう。大学における実習指導・実習報告・課題へのフィードバックは授業時間外に行う場合もある。						
履修条件・注意事項	学外実習の参加を必須とする。特別な事情により、学外実習施設における実習が困難な場合は、学内において実習および代替授業を行う場合もある。 4分野の中から実習担当教員の指導のもとで選択・決定し、少なくとも2分野以上、目安として合計90時間以上の実習を行うこと。主に、春学期(夏季休業を含む)に福祉、産業・労働分野、秋学期に教育、司法・犯罪、福祉分野の実習を行う予定である。臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、クライアントやその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。						
自己学習	実習先や実習分野、支援対象者について事前に学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導担当者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は毎回1-2時間程度を要する。						
オフィスワ-	藤原(月曜日2限) 津川(水曜日3限) 藤吉(水曜日1限) 宇都宮(水曜日3限) 土居(月曜日2限) 村上(水曜日1限)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 実習施設の概要(4分野) 3. 産業・労働、教育、司法・犯罪分野における心理師の役割 4. 産業・労働、教育・司法・犯罪分野における実習内容 5. 実習施設の決定 6. 実習の心得、実習記録の書き方 7. 事前学習・発表方法の指導 8. 実習分野・実習施設に関する法規 9. 実習施設に関する調査・情報収集 10. 実習先の訪問・事前指導 11. 実習事前指導・事前学習(産業・労働分野) 12. 実習事前学習発表(産業・労働分野) 13. 実習事前指導・事前学習(教育分野) 14. 実習事前学習発表(教育分野) 15. 春学期実習総括		全て演習・実習 事前学習から事後発表まで、全て実習に該当する	全員で担当する 実習施設に関する実習指導は、各施設の担当教員が中心に行う。	1. オリエンテーション 2. 実習事後指導(産業・労働分野) 3. 実習報告・発表(産業・労働分野) 4. 実習施設の概要(司法・犯罪、福祉分野) 5. 実習事前指導・事前学習(司法・犯罪分野) 6. 実習事前学習発表(司法・犯罪分野) 7. 実習中指導(教育、司法・犯罪分野) 8. 実習事後指導(司法・犯罪分野、少年鑑別所) 9. 実習報告・発表(司法・犯罪分野、少年鑑別所) 10. 実習事後指導(教育分野) 11. 実習報告・発表(教育分野) 12. 実習事後指導(司法・犯罪分野、少年院) 13. 実習報告・発表(司法・犯罪分野、少年院) 14. 実習記録・実習時間の報告 15. まとめ、次年度の実習予定		全員で担当する 実習施設に関する実習指導は、各施設の担当教員が中心に行う。	全員で担当する
教科書 1	教科書は指定しないが、公認心理師および各実習分野の関係書籍を読んでおくこと						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心理実践実習Ⅲ			履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	藤吉 晴美、津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝					NO.	
配当学科	臨床心理学専攻(修士)			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習
テーマと到達目標	<p>【公認心理師必修科目】</p> <p>本実習は、医療分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。</p> <p>(1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等</p> <p>(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。</p> <p>(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。</p> <p>(4) 多職種連携及び地域連携の実際を体験的に学ぶ。</p> <p>(5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。</p>						
概要	医療分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。						
評価方法	実習日誌の記録・実習報告・課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習指導担当者からの評価(70%)による総合的評価をおこなう。大学における実習指導・実習報告・課題へのフィードバックは授業時間内に行う。						
履修条件・注意事項	<p>学外実習(90時間)の参加を原則とする。</p> <p>臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。</p> <p>ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、クライアントやその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。</p> <p>各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。</p>						
自己学習	学外実習先や実習分野、支援対象者について事前学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は1-2時間程度を要する。						
アドバイザー	藤吉(水曜日1限) 津川(水曜日3限) 藤原(月曜日2限) 宇都宮(水曜日3限) 土居(月曜日2限) 村上(水曜日1限)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション	演習	全員					
2. 医療における心理援助	演習・AL	全員					
3. 医療分野における公認心理師	演習・AL	全員					
4. 実習の心得、実習記録の書き方	演習・AL	全員					
5. 施設実習と実習指導(1日目)	実習	全員					
6. 施設実習と実習指導(2日目)	実習	全員					
7. 施設実習と実習指導(3日目)	実習	全員					
8. 施設実習と実習指導(4日目)	実習	全員					
9. 施設実習と実習指導(5日目)	実習	全員					
10. 施設実習と実習指導(6日目)	実習	全員					
11. 施設実習と実習指導(7日目)	実習	全員					
12. 施設実習と実習指導(8日目)	実習	全員					
13. 施設実習と実習指導(9日目)	実習	全員					
14. 施設実習と実習指導(10日目)	実習	全員					
15. まとめ	AL	全員					
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心理実践実習Ⅳ			履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、藤吉 晴美、村上 勝典、宇都宮 真輝					NO.	
配当学科	心理学研究科 公認心理師コース			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	90	授業形態	実習・AL
テーマと到達目標	地域において心理支援にかかわる心理師の役割、心理支援の実践について実習を通して体験的に理解する。地域における心理支援の現場に見学や実習を通して参加し、公認心理師に必要な知識・技能を修得することを到達目標とする。						
概要	<p>学内心理相談室ならびに地域の機関において、心理支援の基礎を体験的に学ぶ。 具体的には、以下の内容を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理相談室の運営会議、事例検討会への参加 2. 心理相談室において心理相談員が行う面接への参加(心理検査、集団療法を含む) 3. 地域の小学校における心理検査ならびに支援 4. 実習担当教員が実施または指導する公的機関における心理発達相談、心理検査、巡回相談・コンサルテーション・心理教育、高齢者支援等への参加 5. 心理支援に必要な基本的な知識・技法の習得(面接・実習記録、インテイク面接など) <p>なお、実習は、①事前指導、②実習、③実習の記録・報告・事後指導の3つの要素から構成される。 実習日はオリエンテーションにおいて年間予定を提示する他、機関の依頼により随時提示する。実習日以外に、事前指導および事後指導(カンファレンス)を行う。</p>						
評価方法	<p>単位認定は、事前・事後指導への取り組み(20%)、実習への取り組み(50%)、実習記録および報告(30%)を総合して評価する。 全ての実習について、事前事後指導の中でフィードバックを行うので、次の実習に反映させること。</p> <p>実習(面接、検査)については、実習簿に記録し、実習担当教員の指導受けたうえで捺印を得ることが必要である。 修了までに、定められた回数あるいは時間の実習を行う必要がある。</p>						
履修条件・注意事項	<p>面接・検査・その他全ての心理支援への参加については、事前事後指導も含め、遅刻・欠席することなく参加できることを条件とする。 学内・学外に関わらず、関与できる実習に積極的に参加すること。 社会人としての基本的な礼儀・礼節を重んじることはもちろん、心理支援の場であることを十二分に認識し、真摯かつ謙虚な態度で臨むこと。</p>						
自己学習	<p>発達段階や心理および教育的支援の基礎知識、さまざまな精神疾患や発達障害についての基礎知識、基本的な面接技法、心理療法、心理検査について学んでおく。 事前学習の他、実習記録・報告書の作成や事後学習に4-5時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	<p>藤原:月曜2限(研究室) 津川:水曜3限(研究室) 藤吉:水曜1限(研究室) 宇都宮:水曜3限(研究室) 土居:月曜2限(研究室) 村上:水曜1限(研究室)</p>						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理相談室運営会議、実習予定説明 2. 実習の心得:実習簿と実習記録、報告書の書き方 3. 心理相談室運営会議、事例検討 4. 実習事前指導、感染症対応における心理的支援 5. 心理相談室運営会議、事例検討 6. 研究中間発表 7. 心理相談室運営会議、事例検討 8. 小学校における読み検査・支援の概要 9. 心理相談室運営会議、事例検討 10. 読み検査実習・模擬検査 11. 心理相談室運営会議、事例検討 12. インテイク面接:手順、記録 13. 心理相談室運営会議、事例検討 14. 模擬面接の進め方 15. 逐語録の作成、振り返り <p>※学外実習への参加時期・参加者は、学期始めおよび随時決定する。 ※実習機関や時期が実習生によって異なるため、授業内容も前後する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 討議 2. 実習 3. 実習・討議 4. 講義・AL 5. 実習・討議 6. 報告・討議 7. 実習・討議 8. 実習 9. 実習・討議 10. 実習 11. 演習・討議 12. 実習 13. 実習・討議 14. 実習・AL 15. 実習・AL 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員 2. 全員 3. 全員 4. 全員 5. 全員 6. 全員 7. 全員 8. 全員 9. 全員 10. 全員 11. 全員 12. 全員 13. 全員 14. 全員 15. 全員 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理相談室運営会議、実習予定説明 2. 面接の基本:模擬面接の逐語録提出・報告 3. 心理相談室運営会議、事例検討、実習事前指導 4. 模擬面接の報告、指導 5. 心理相談室運営会議、事例検討、実習指導(福祉) 6. 学外実習施設見学実習:岡山少年院 7. 心理相談室運営会議、事例検討、実習事前指導(教育) 8. 学外実習報告(産業、福祉) 9. 心理相談室運営会議、事例検討、実習指導(産業) 10. 実習報告(地域支援、産業、福祉) 11. 心理相談室運営会議、事例検討、実習指導(産業、教育) 12. 学外実習報告 13. 心理相談室運営会議、事例検討、実習指導 14. 学外実習総括、実習簿・実習時間指導 15. 心理相談室運営会議、事例検討、振り返り <p>※学外実習への参加時期・参加者は、学期始めおよび随時決定する。 ※実習機関や時期が実習生によって異なるため、授業内容も前後する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習・討議 2. 実習・AL 3. 実習・討議 4. 実習・AL 5. 実習・討議 6. 実習 7. 実習・討議 8. 実習・AL 9. 実習・討議 10. 実習 11. 実習・討議 12. 演習・AL 13. 実習・討議 14. 実習・AL 15. 実習・討議 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員 2. 全員 3. 全員 4. 全員 5. 全員 6. 全員 7. 全員 8. 全員 9. 全員 10. 全員 11. 全員 12. 全員 13. 全員 14. 全員 15. 全員
教科書 1					

教科書 2	
参考書 1	特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン わかりやすい診断手順と支援の実際 著者:特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム 稲垣真澄(編) 出版社:診断と治療社 ISBN:978-4787817815
参考書 2	

授業科目名	心理実践実習Ⅴ				履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、藤吉 晴美、村上 勝典、宇都宮 真輝					NO.		
配当学科	臨床心理学専攻(修士)				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	90	授業形態	実習・講義	
テーマと到達目標	地域において心理支援にかかわる心理師の役割、心理支援の実践について実習を通して体験的に理解する。地域における心理支援の現場に見学や実習を通して参加し、公認心理師および臨床心理士に必要な知識・技能を修得することを到達目標とする。							
概要	<p>学内心理相談室ならびに地域の機関において、心理支援の基礎を体験的に学ぶ。 具体的には、以下の内容を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理相談室の運営会議、事例検討会への参加 2. 心理相談室において心理相談員が行う面接への参加(主に担当、心理検査) 3. 地域の小学校における心理検査ならびに支援 4. 実習担当教員が実施または指導する公的機関における心理発達相談、心理検査、学校における巡回相談・コンサルテーション・心理教育、高齢者支援等への参加 <p>なお、実習は、①事前指導、②実習、③実習の報告・事後指導の3つの要素から構成される。 実習日はオリエンテーションにおいて年間予定を提示する他、機関の依頼により随時提示する。実習日以外に、事前指導および事後指導(カンファレンス)を行う。</p>							
評価方法	<p>単位認定は、事前指導への取り組み(20%)、学外実習への取り組み(50%)、実習報告(30%)を総合して評価する。</p> <p>実習については、実習簿に記録し、実習担当教員の指導受けたうえで捺印を得ることが必要である。 修了までに、定められた回数あるいは時間の実習を行う必要がある。</p>							
履修条件・注意事項	<p>地域における心理支援への参加については、事前事後指導も含め、遅刻・欠席することなく参加できることを条件とする。 関与できる実習に積極的に参加すること。 社会人としての基本的な礼儀・礼節を重んじることはもちろん、心理支援の場であることを十二分に認識し、真摯かつ謙虚な態度で臨むこと。</p>							
自己学習	<p>発達段階や心理および教育的支援の基礎知識、さまざまな精神疾患や発達障害についての基礎知識、基本的な面接技法、心理療法、心理検査について学んでおく。 事前学習の他、実習・陪席報告書の作成や事後学習に4-5時間程度を要する。</p>							
オフィスワ-	<p>津川:水曜3限(研究室) 藤吉:水曜1限(研究室) 藤原:月曜2限(研究室) 宇都宮:水曜3限(研究室) 土居:月曜2限(研究室) 村上:水曜1限(研究室)</p>							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理相談室運営会議、実習予定説明 2. 心理相談室の役割、面接担当の留意点、報告書の書き方 3. 心理相談室運営会議、事例検討 4. 地域における心理師の役割、地域支援の実践 5. 心理相談室運営会議、事例検討 6. 学校における心理支援、心理検査(読み検査) 7. 心理相談室運営会議、事例検討 8. 読み検査の概要、実施演習 9. 心理相談室運営会議、事例検討 10. 読み検査の実施(小学校)、結果分析 11. 心理相談室運営会議、事例検討 12. 読み検査の報告、支援計画の立案 13. 心理相談室運営会議、事例検討 14. 個別読み支援の実施、報告 15. 心理相談室運営会議、事例検討、振り返り <p>※学外実習への参加時期・参加者は、学期始めおよび随時決定する。 ※実習機関や時期が実習生によって異なるため、授業内容も前後する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 討議 2. 実習 3. 実習・討議 4. 実習 5. 実習・討議 6. 実習 7. 実習・討議 8. 実習 9. 実習・討議 10. 実習 11. 実習・討議 12. 演習・討議 13. 実習・討議 14. 発表・討議 15. 実習・討議 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員 2. 全員 3. 全員 4. 全員 5. 全員 6. 全員 7. 全員 8. 全員 9. 全員 10. 全員 11. 全員 12. 全員 13. 全員 14. 全員 15. 全員 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理相談室運営会議、実習予定説明 2. 面接担当の報告・検討、実習簿の確認 3. 心理相談室運営会議、事例検討 4. 面接担当の報告・検討 5. 心理相談室運営会議、事例検討 6. 地域支援参加(学校、公的機関など)の事前指導 7. 心理相談室運営会議、事例検討 8. 地域支援への参加 9. 心理相談室運営会議、事例検討 10. 地域支援の報告・検討 11. 心理相談室運営会議、事例検討 12. 学内実習のまとめ・報告 13. 心理相談室運営会議、事例検討 14. 地域支援実習のまとめ・報告 15. 心理相談室運営会議、事例検討、振り返り <p>※学外実習への参加時期・参加者は、学期始めおよび随時決定する。 ※実習機関や時期が実習生によって異なるため、授業内容も前後する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 討議 2. 実習・討議 3. 実習・討議 4. 実習・討議 5. 実習・討議 6. 実習 7. 実習・討議 8. 実習 9. 実習・討議 10. 実習 11. 実習・討議 12. 発表・討議 13. 実習・討議 14. 発表・討議 15. 実習・討議 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員 2. 全員 3. 全員 4. 全員 5. 全員 6. 全員 7. 全員 8. 全員 9. 全員 10. 全員 11. 全員 12. 全員 13. 全員 14. 全員 15. 全員 			
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	<p>特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン わかりやすい診断手順と支援の実践 著者:特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム 稲垣真澄(編) 出版社:診断と治療社</p>							

ISBN:978-4787817815

参考書 2

授業科目名	実験心理学特論				履修期	2021年度 春学期	
担当者	橋本 翠、三宅 俊治、森井 康幸、栗田 喜勝					NO.	PS-PS-2-201
配当学科	心理			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 心的活動を客観的に捉える実験的方法を修得することができる。</p> <p>到達目標: 実験計画(変数の設定, 条件操作の方法等)の立て方, および実験器具の操作法について, これまでの先行研究を概観し議論しながら自身で遂行できるようになる。</p>						
概要	<p>ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために, これまでの先行研究を概観し, 基礎から応用までの幅広く心理学実験の概要を理解する。</p>						
評価方法	<p>レポート(70%), 受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポート(再提出も含む)を全て提出しなければ, その期の単位は認定不可とする。レポートに不備がある場合は返却し, フィードバックを行う。そして, 再提出をすること。</p>						
履修条件・注意事項	<p>無断で欠席をした場合は, 当該課題は不可となることがあるので十分気を付けること。病気などで欠席をする際は, 欠席願・診断書等を必ず提出すること。</p>						
自己学習	<p>各課題の内容をしっかりと把握する意味でも予習・復習・レポート作成(合計4時間以上)をしっかりと行うこと。</p>						
オフィスアワー	<p>各実験担当の教員に聞くこと。 橋本: 月曜5限: 研究室</p>						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 視覚認知をどのようにとらえるか 3. 視覚認知の基礎過程 4. パターン認知の諸問題 5. 対象の視覚表現 6. シーンの認知 7. 他の認知過程との関連 8. 意味記憶 9. 文章理解 10. 画像記憶 11. 日常生活の中の記憶 12. 注意と情報処理 13. 大脳半球機能差と認知 14. イメージの精神生理学 15. まとめ 16. 単位認定試験		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 橋本				
教科書 1	適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	<p>認知心理学重要研究集1 著者: 齋藤勇 監修: 行場次郎 編 出版社: 誠心書房 ISBN: 4-414-32393-2</p>						
参考書 2	<p>認知心理学重要研究集2 著者: 齋藤勇 監修: 箱田裕司 編 出版社: 誠心書房 ISBN: 4-414-32394-0</p>						

授業科目名	認知心理学特論				履修期	2021年度 春学期		
担当者	橋本 翠					NO.		
配当学科	臨床心理学専攻(修士)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	【テーマ】人間が環境に適応するための認知情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について理解する。 【到達目標】認知心理学領域における最新の研究テーマを概観しながら、情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について修得する。							
概要	本講では、認知心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。							
評価方法	学修態度(減点法)、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40%、定期試験の得点60%の合計点により総合的に評価する。 なお、欠席については総合点より回数分減点します。							
履修条件・注意事項	修士課程の講義に値する積極的な取組みを期待する。発表担当者は、レジュメを作成し発表に臨むこと。半期の講義内で当該領域の興味がある内容についての実験を1つ行う。 遅刻は禁じます。							
自己学習	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。minutes paperについては授業開始前に返却しフィードバックを行う。							
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			(1)OR/認知心理学とは-誕生 (2)認知心理学-変貌 (3)知覚の基礎-知覚の世界 (4)知覚の基礎-ミッドレベル・ビジョン (5)高次の知覚と注意-2次元の認知 (6)高次の知覚と注意-3次元の認知 (7)表象-アナログ表象 (8)表象-スキーマ (9)記憶-記憶の基礎 (10)記憶-記憶研究の新展開 (11)言語-言語体系の機能と構造 (12)言語-脳と言語処理 (13)問題解決と推論-問題解決 (14)問題解決と推論-推論 (15)問題解決と推論-思考 (16)筆記試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本	
教科書 1	認知心理学 知のアーキテクチャを探る 著者:道又・北崎・大久保・今井・山川・黒沢(著) 出版社:有斐閣アルマ ISBN:4-641-12167-2							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	心理統計法特論				履修期	2021年度 春学期	
担当者	土居 正人					NO.	
配当学科	心理学研究科博士(前期)課程				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	【テーマ】心理学実験や調査において不可欠である要因計画法を修得するとともに、統計的分析手法の基本を学ぶ。 【到達目標】要因計画を実際に行うことができるとともに、統計的分析法の基礎として測定値を適切に取り扱うことができる。						
概要	【概要】心理学における調査研究において用いる研究デザインの立て方を述べるとともに、実際に1本の論文を作成することにより、研究目的、調査方法、データ解析、考察の組み立て方、書き方を学修する。それにより統計的分析方法を学ぶ。						
評価方法	レポート試験(50%)および講義中の質疑応答、受講態度や各授業における課題(50%)から評価する。課題は次の授業にてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業ごとに小レポート、あるいは小テストを行う。実際に計算等を行うので、簡単な電卓(加減乗除、ルート計算が出来るもの)を持参のこと。						
自己学習	教科書やプリントの当該箇所を予習しておくこと。講義後には、小レポートや小テストの結果を見ながら復習をし、理解出来なかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間行うこと。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している(土居研究室にて)、活用すること。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.t分布を用いた検定 3.相関係数の検定 4.カイ2乗検定:適合度の検定 5.カイ2乗検定:独立性の検定 6.対応のないt検定 7.対応のあるt検定 8.一要因分散分析 9.二要因分散分析 10.多重比較 11.信頼性係数 12.重回帰分析 13.因子分析 14.パス解析 15.媒介分析 レポート試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート	土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居					
教科書 1	よくわかる心理統計 著者:山田剛史, 村井潤一郎 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-03999-4						
教科書 2							
参考書 1	研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析 著者:小塩真司 出版社:東京図書 ISBN:978-4489021312						
参考書 2							

授業科目名	感情心理学特論				履修期	2021年度 春学期			
担当者	村上 勝典						NO.		
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動と認知に及ぼす影響、感情障害とその支援について理解できることをテーマとする。 感情の理論および感情障害とその支援を説明できることを到達目標とする。								
概要	情動末梢起源説、二要因説などの古典的理論や現代の理論についてのレジュメ作成、感情が行動に及ぼす影響や感情障害とその支援についてのレジュメを作成し、その発表や演習をおこなう。								
評価方法	授業内の発表に対する取り組み(50%)と試験(50%)を合計して総合評価する。 発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。								
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。								
自己学習	予習(2時間程度)として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習(2時間程度)として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。								
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週水曜日1時限目をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 感情の生起の概要 3. 感情の生起に関する理論 4. 基本的感情説 5. 次元説 6. 感情と脳の仕組み 7. 感情と行動 8. 感情と認知 9. 感情障害の概要 10. うつ病 11. アレキシサイミア 12. 自閉スペクトラム 13. 感情障害に関する心理学的理論 14. 感情障害に対する支援 15. まとめ 16. 定期試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 筆記試験	村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上 村上					
教科書 1	感情とはそもそも何なのか—現代科学で読み解く感情のしくみと障害— 著者:乾敏郎 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-08372-5								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	社会心理学特論				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	栗田 喜勝					NO.	
配当学科	心理学専攻(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	社会心理学は、人間と社会の相互作用を通じて、双方に様々な影響を与える「社会的行動」を研究対象とし、その基底に存在する法則性を解明することを目的としている。本論の受講により、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、人間の「社会的行動」を科学的に理解する様々な研究アプローチについて学び、人の心と社会との関係をダイナミックに理解することができる。						
概要	本特論では、社会の変遷とともに「社会的行動」の法則性がどのように理解されてきたのか、史的レビューを行うとともに、それらの知見が今日の現実の社会問題の解決や人々の幸福達成にいかに関与しているかについて論じる。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
評価方法	事前学習と発表課題へ取り組む態度(50%)、発表後のまとめとレポート(50%)とし、総合的に評価する。なお、発表後のまとめとレポートについては、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	毎回文献通読課題を出すので、次回までに熟読し、内容の紹介と考察ができるよう準備しておくこと。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
自己学習	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスワ-	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 社会心理学の成立 2. 社会心理学の成立と展開 3. 社会心理学研究における基本概念(個人) 4. 社会心理学研究における基本概念(集団) 5. 社会心理学における重要研究レビュー(基礎) 6. 社会心理学における重要研究レビュー(個人) 7. 社会心理学における重要研究レビュー(集団) 8. 社会心理学における重要研究レビュー(応用) 9. 社会心理学の今日的テーマと研究アプローチ(個人) 10. 社会心理学の今日的テーマと研究アプローチ(集団) 11. 社会心理学の今日的テーマと基礎的研究アプローチ 12. 社会心理学の今日的テーマと応用的研究アプローチ 13. 社会心理学研究における学際的アプローチ(社会学) 14. 社会心理学研究における学際的アプローチ(文化人類学) 15. 社会心理学研究の課題	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田 栗田		
教科書 1	初回講義時に授業用資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	社会心理学研究案内 著者:三井宏隆他 出版社:ナカニシヤ出版 ISBN:4-88848-702-2						
参考書 2							

授業科目名	人格心理学特論			履修期	2021年度 春学期			
担当者	土居 正人					NO.		
配当学科	心理学研究科博士(前期)課程			年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	【テーマ】性格(人格)心理学の研究上の疑問から研究課題を見つけ出すこと。 【到達目標】研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理思考力、表現力等を学び、研究論文としてまとめることのできる力を身につけることができる。							
概要	【概要】本講義では、論文を講読することにより、様々な観点(臨床心理学的側面、文化的側面、発達の側面など)から「性格(人格)」を捉え、現在どのようなことがわかっているのか、いないのかを解説していく。また、心理検査を用いて、人格について学びを深めていく。							
評価方法	レポート試験(50%)で評価する。講義中の課題(小レポート)の取り組み状況により加点を行う(50%)。小レポートに対するフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	論文を調べて、レジュメを作成し、フィードバックしていく予定である。							
自己学習	予習復習に用いる教材プリントは授業内で配布する。プリント・ノートの当該箇所を予習しておくこと。講義後には、ノートを見ながら復習(合計4時間)をし、理解出来なかった内容を自分で調べて確認しておくこと。							
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している(土居研究室にて)、活用すること。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.性格(人格)とは 3.類型論について 4.特性論について 5.パーソナリティの尺度化 6.尺度構成法:信頼性 7.尺度構成法:基準関連妥当性 8.尺度構成法:構成概念妥当性 9.境界性パーソナリティ障害 10.強迫性パーソナリティ障害 11.感情調節障害 12.人格検査(歴史) 13.人格検査(実施) 14.人格検査(分析) 15.人格検査(解釈) レポート試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート	土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居					
教科書 1	必要に応じてプリント配布、板書を行う。							
教科書 2								
参考書 1	心理学 新版 著者:無藤隆、森敏昭 出版社:有斐閣 ISBN:ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861							
参考書 2								

授業科目名	異常心理学特論			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	藤原 直子					NO.	
配当学科	心理学研究科心理学専攻(博士前期課程)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>非行・犯罪行動といった正常から著しく異なる行動の背景にある心理的な状態や環境要因、異常な状態と関連する精神障害について学習する。また、非行・犯罪に関する法規やさまざまな社会的問題、科学的捜査や心理的支援についても学び、理解を深める。</p> <p>具体的には、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>①非行・犯罪といった異常な行動の心理状態に関する基礎的な知識や法規を習得する。</p> <p>②人格障害や行動障害の概念・特徴・病理・診断・処遇について理解する。</p> <p>③矯正施設や科学捜査研究所等の心理職について、職務内容や基礎的な知識を理解する。</p>						
概要	<p>犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識、司法・犯罪分野に関する法規や科学的捜査について、テキスト・文献を用いて学び、事例に関する演習やディスカッションも行う。</p> <p>さらに、司法・犯罪分野における心理に関する職務の実際を学ぶため、少年院法務技官や科学捜査研究所(科捜研)研究員の講義聴講も行う。</p>						
評価方法	<p>授業への取り組み、発表資料(提出)、プレゼン、授業内レポート等を総合的に評価する。</p> <p>到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。</p> <p>評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、発表資料・プレゼン50%、レポート30%とする。発表については、その都度フィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>原則として毎回出席すること。</p> <p>正規の授業時間以外に、外部機関における見学・演習やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、それも必ず出席すること。</p>						
自己学習	<p>予習・復習として、司法・犯罪に関するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。</p> <p>関連する学術論文や専門雑誌の検索・熟読、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。</p>						
オフィスアワー	月曜日2限(研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異常行動と心理 3. 非行・犯罪のタイプと背景 4. 非行・犯罪に関連する法規 5. 非行・犯罪に関する施設や職務:警察、裁判所、鑑別所など 6. 非行・犯罪に関する施設や職務:少年院、刑務所、保護施設など 7. 異常行動と関連する精神障害 8. 精神障害の特徴・処遇 9. 科学捜査に生かす心理学 10. 科学捜査研究所における心理職の役割(外部講師) 11. 異常行動と関連する人格障害 12. 人格障害の特徴・処遇 13. 異常行動と関連する行動障害 14. 行動障害の特徴・処遇 15. 異常行動の防止・予防 			講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義	藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原
教科書 1	必要に応じて指定する						
教科書 2							
参考書 1	テキスト 司法・犯罪心理学 著者:越智啓太・桐生正幸 編著 出版社:北大路書房 ISBN:978-4-7628-2975-8						
参考書 2							

授業科目名	高次脳機能特論			履修期	2021年度 春学期		
担当者	田尻 直輝					NO.	
配当学科	心理学専攻(博士前期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	学位授与方針(1)に関連し、教育過程の編成・実施方針に記載されている医学関連科目である。高次脳機能という言葉に厳密な定義はないが、大脳皮質における各種感覚情報の認知・感情の発現、思考・判断を経て運動(行動)に至る過程がそれに当たると考えられている。その基礎に意識、記憶、知能などがあるが、これらの過程が障害されてしまうと、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害が出現し、日常生活や社会生活が制限されてしまう。この講義では、脳・神経系の解剖学と生理学を基盤とし、脳神経の仕組みや機能、その障害について解説を行っていく。到達目標は、脳・神経系機能の包括的な理解と応用である。その中で研究方法論の習得も目指す。						
概要	臨床・研究・教育現場で、約17年以上、解剖生理学、脳神経科学、高次脳機能障害学、リハビリテーション科学に特化した実務経験を持っている。その経験をもとに、精力的に学生指導に当たる。脳とこころは、非常に密接な関係があり、そこから付随する疾患は多岐にわたる。こころの理解を深めていくためには、まず脳の構造や機能を十分に理解する必要がある。まずはじめに、脳・神経系の解剖学と生理学の概略を説明する。その後、大脳皮質の機能を中心とした講義を行い、その上で種々の高次脳機能及びその障害を必要に応じて最新の論文をもとに検討する。						
評価方法	成績評価は、講義毎に行う口頭試問による理解度、論文抄読の内容やレポート課題による試験と受講態度を総合して行う。本講義では、参加型学習を主体としているため、積極的な発言や応答を求める。評価方法については、討論への参加状況や応答及び対話における理解度を参考にする。また課題や論文に対する知識力・理解力・考察力も重視するので、そのつもりで講義に臨むこと。詳細な評価方法は、最初のオリエンテーション時に説明する。						
履修条件・注意事項	必要プリントは、あらかじめ講義毎に予習・復習ができるように配布する。本講義では、脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識が必要である。まずはじめに、高次脳機能を理解するために必要な解剖学と生理学の基本的な概略を説明する。専門用語などが数多く出てくるので、講義期間内でしっかりと自己学習をし、不明な点があれば、随時積極的に質問してほしい。						
自己学習	上記に記載した履修条件・注意事項を参考にする。講義で配布したプリントや参考書を参考にして、必ず予習・復習をしておくこと。予習・復習には各2時間程度を要する。						
オフィスワ-	講義の合間・終了後に実施する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 脳・神経の仕組み(概略Ⅰ) 3. 脳・神経の仕組み(概略Ⅱ) 4. 脳・神経の仕組み(概略Ⅲ) 5. 運動制御(Ⅰ) 6. 運動制御(Ⅱ) 7. 運動制御(Ⅲ) 8. 高次脳機能総論 9. 意識とその障害 10. 記憶とその障害 11. 知能とその障害 12. 言語とその障害 13. 失読と失書・失行と失認 14. 高次脳機能障害の生活実態 15. 高次脳機能障害の生活支援 16. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 課題試験	田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻					
教科書 1	使用しない(講義毎にプリントを配布する)。配布資料の中で、参考になっている教科書を下記に記載しておく。						
教科書 2							
参考書 1	神経科学－脳の探求－ 著者:加藤宏司 出版社:西村書店 ISBN:978-4-89013-356-7						
参考書 2	全部見える スーパービジュアル 脳・神経疾患 著者:服部光男 出版社:成美堂出版 ISBN:978-4-415-31849-3						

心理学研究科
博士（後期）課程

授業科目名	高次脳機能研究				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	田尻 直輝					NO.		
配当学科	心理学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>学位授与方針(1)に関連し、教育過程の編成・実施方針に記載されている医学関連科目である。外部からの感覚刺激(「五感」=体性感覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚)を認知し、それによって引き起こされる感情・思考・判断に応じて、筋肉を収縮させて運動(行動)を起こす。その基礎に、意識・記憶・知能などがあり、外部からの入力情報を処理し、内部で決定された出力情報を伝達し、統御するのが神経系の基本的な働きである。だが、これらの過程の障害により、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害が出現し、日常生活や社会生活が制限される。本講義では、前半で脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識を再確認するための講義を行い、後半では論文(日本語・英語)を元に、最新の知識の習得と研究方法論の体得を到達目標とする。</p>							
概要	<p>臨床・研究・教育現場で、約17年以上、解剖生理学、脳神経科学、高次脳機能障害学、リハビリテーション科学に特化した実務経験を持っている。その経験をもとに、精力的に学生指導に当たる。脳とこころは、非常に密接な関係があり、そこから付随する疾患は多岐にわたる。こころの理解を深めていくためには、まず脳の構造や機能を十分に理解する必要がある。まずはじめに、脳・神経系の解剖学と生理学の概略を説明する。その後、運動制御のメカニズム、高次脳機能の概論、各種感覚の認知、意識、記憶、知能の捉え方やそれらの障害に関する講義をする。また、最新の論文(日本語・英語)を収集して、検討・討論を行う。</p>							
評価方法	<p>成績評価は、論文抄読(日本語・英語)やレポート課題などによる討論を行い、その対応(80%)で評価する。最終評価は、口頭試問(20%)で行う。本講義では、参加型学習を主体としているため、積極的な発言や応答を求める。評価方法については、討論への参加状況や応答及び対話における理解度などを参考にする。また論文や課題に対する知識力・理解力・考察力も重視するので、そのつもりで講義に臨むこと。詳細な評価方法は、最初のオリエンテーション時に説明する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>必要プリントは、あらかじめ講義毎に予習・復習ができるように配布する。本講義では、脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識が必要である。まずはじめに、高次脳機能を理解するために必要な解剖学と生理学の基本的な概略を説明する。専門用語などが数多く出てくるので、講義期間内でしっかりと自己学修をしてほしい。後半では、最新の論文(日本語・英語)を読解し、知識力・理解力・考察力を深めていってほしい。不明な点があれば、随時積極的に質問してほしい。</p>							
自己学習	<p>上記に記載した履修条件・注意事項を参考にすること。講義で配布したプリントや参考書を参考にして、必ず予習・復習をしておくこと。予習・復習には各2時間程度を要する。</p>							
オフィスワ-	講義の合間・終了後に実施する。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 脳・神経の仕組み(概略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 運動制御(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 高次脳機能総論 意識とその障害 記憶とその障害 知能とその障害 言語とその障害 失読と失書・失行と失認 <p>※ここまでは講義形式で行う。後半は上記に関連した論文(日本語・英語)を抄読し、討論を行う。論文については、その時点で入手できる最新のものとす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 論文抄読会 論文抄読会 論文抄読会 論文抄読会 論文抄読会 論文抄読会 単位認定試験 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL AL AL AL AL AL 口頭試問	田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻 田尻	
教科書 1	使用しない(講義毎にプリントを配布する)。配布資料の中で、参考にしていない教科書を下記に記載しておく。							
教科書 2								
参考書 1	高次脳機能障害学(第2版) 著者:石合純夫 出版社:医歯薬出版株式会社 ISBN:978-4-263-21396-4							
参考書 2	神経科学—脳の探求— 著者:加藤宏司 出版社:西村書店 ISBN:978-4-89013-356-7							

授業科目名	認知生理心理学研究				履修期	2021年度 春学期			
担当者	橋本 翠					NO.			
配当学科	心理学専攻博士(後期)課程				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	【テーマ】人間が環境に適応するための認知情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について理解する。 【到達目標】認知心理学領域における最新の研究テーマを概観しながら、情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について修得する。								
概要	本講では、認知心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。								
評価方法	学修態度(減点法)、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40%、定期試験の得点60%の合計点により総合的に評価する。								
履修条件・注意事項	博士(後期)課程の学修に相応しい積極的な取組みを期待する。発表担当者は、レジュメを作成し発表に臨むこと。								
自己学習	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。minutes paperについては授業開始前に返却しフィードバックを行う。								
オフィスワ-	月曜5限：個人研究室								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
(1)OR/主観的輪郭図形における明るさの補完			演習	橋本					
(2)言語音の知覚			演習	橋本					
(3)文字の能動的触運動知覚			演習	橋本					
(4)時間の知覚			演習	橋本					
(5)顔の認知			演習	橋本					
(6)ハーモニーの認知			演習	橋本					
(7)認知をささえる脳のしくみ			演習	橋本					
(8)発達初期における非言語的情報処理の脳基盤			演習	橋本					
(9)視覚的対象認知の神経心理学			演習	橋本					
(10)言語認知の脳過程			演習	橋本					
(11)意思決定と前頭葉			演習	橋本					
(12)認知リハビリテーション			演習	橋本					
(13)重度失語症者のコミュニケーション支援			演習	橋本					
(14)顔認知とコミュニケーション			演習	橋本					
(15)認知カウンセリング			演習	橋本					
(16)定期試験			筆記試験	橋本					
教科書 1	配布資料								
教科書 2									
参考書 1	認知・学習心理学 心理学研究の新世紀1 著者:深田博己(監修) 宮谷真人・中條和光(編著) 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-06233-1								
参考書 2									

授業科目名	生涯発達適応心理学研究			履修期	2021年度 春学期	
担当者	三宅 俊治				NO.	
配当学科	心理学研究科(博士後期)			年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態 講義
テーマと到達目標	生涯にわたる心理的成長・発達の理論について検討するのがテーマである。生涯発達過程における不安が、対人関係、身体認知、自己評価、自我発達などに関連し、心理社会的適応過程の鍵となっていることを、文献講読を通して把握する。7割以上の理解を達成目標とする。					
概要	生涯を通して人生の節目や重要なライフイベントには不安が喚起される。誰もが経験するこの健全不安は一般に、意識・行動の抑制に関わっているが、その一方で不安状況を克服し、建設的解決を図る動機づけを促す。耐性の獲得や自我発達はそのような過程を通して励起される。生涯発達過程における不安の変化について、時間的展望を縦糸として、対人関係、身体認知、自己評価などを横糸として織りなされる適応の心理過程や自我発達と関連づけて検討する。					
評価方法	レポート課題による。					
履修条件・注意事項	核となる文献は、丹念に、繰り返し、読んでいく。					
自己学習	予習・復習の証左として、毎回、指定箇所についてレポートを提出すること(提出されたレポートについては返却する)。					
オフィスアワー	日時:毎週月曜日の3限目(13:30-15:00)。場所:個人研究室(10号館2階10209)。					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
①生涯発達心理学とは ②生涯発達の理論 ③ユング心理学 ④ユング理論の無意識 ⑤ユングの個性化 ⑥動機から生涯発達を捉える ⑦諸々の動機の連関 ⑧マズロウの階層構造説 ⑨マズロウと人間の成長 ⑩自己実現とは ⑪自我の発達 ⑫漸成理論の展開 ⑬漸成理論の吟味 ⑭人間としての成長 ⑮人間の完成 ⑯定期試験	発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論 発表と議論	三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治 三宅俊治				
教科書 1	エピソードでつかむ生涯発達心理学 著者:岡本祐子・深瀬裕子(編著) 出版社:ミネルヴァ書房					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	認知行動心理学研究			履修期	2021年度 春学期		
担当者	森井 康幸					NO.	
配当学科	心理学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・AL
テーマと到達目標	<p>テーマ:無意図的な心的な活動について、特に記憶研究を中心に検討する。</p> <p>到達目標:記憶の不思議さ・重要さについて理解を深めるとともに、特に、無意図的な想起に関する研究方法・実験的研究のあり方を修得する。</p>						
概要	<p>私たちの日常における記憶の想起には、思い出そうとして思い出す場合だけでなく、ふと心に浮かぶ、突然思い出されるというように、想起しようという意図が伴わない場合も多い。あるいは思い出したという意識がないままに、記憶が情報処理に影響を及ぼしていることも多い。</p> <p>本講義では、日常の記憶の様々な現象をもとに、意図的・無意図的な記憶の認知活動が行動に及ぼす影響について基本事項を概説し、そこで用いられた研究方法・実験方法の詳細を学生が調べて発表するという形式で行う。</p>						
評価方法	授業内で行う小テスト(ミニ・レポート)40%と課題の提出・発表40%、そして最終レポート20%で評価する。小テスト等はコメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	必要に応じて記憶に関する学術論文(英文を含む)を読み、その内容紹介が求められる。						
自己学習	テキストの精読は当然であるが、テキスト内で引用されている論文も積極的に読み込み、理解を深めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 自伝的記憶 3. 自伝的記憶の無意図的想起 4. 自伝的記憶に関する論文紹介 5. ブルースト現象 6. ブルースト現象の論文紹介 7. 展望的記憶の無意図的想起 8. 展望記憶に関する論文紹介 9. ひらめきと問題解決 10. マインドワンダリング 11. マインドワンダリングの論文紹介 12. 思考抑制の意図せざる影響 13. 記憶とPTSD 14. まとめ		講義 講義 講義 演習・AL 講義 演習・AL 講義 演習・AL 講義 演習・AL 講義 演習・AL 講義 演習・AL 講義 講義 講義	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井				
教科書 1	『ふと浮かぶ記憶と思考の心理学』 著者:関口・森田・雨宮(編著) 出版社:北大路書房 ISBN:978-4-7628-2849-2						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	心理療法学研究			履修期	2021年度 春学期		
担当者	津川 秀夫					NO.	
配当学科	心理学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	AL
テーマと到達目標	今期は、第3世代CBTの中心的役割を担うマインドフルネスをテーマとする。 マインドフルネスについての原典や研究成果を把握すること、マインドフルネスを体験的に知ることを到達目標とする。						
概要	第3世代の認知行動療法において、マインドフルネスは中心的な役割を担っている。しかし、マインドフルネスはCBTにおける学習理論や情報処理理論によるものではなく、初期仏教にその起源がある。本科目では、瞑想修行に用いられるマインドフルネスと、心理療法において用いられるマインドフルネスの相違点について理解を深める。また、類似点が指摘されることの多いエリクソニア・アプローチとの比較も行う。これらに加え、マインドフルネスを実際に実習し、受講者各自がマインドフルネス体験を積む機会を提供する。						
評価方法	取組み姿勢、発表、レポートにより評価する。						
履修条件・注意事項	マインドフルネスの実習も行うため、坐りやすい服(ジャージなど)を用意すること。						
自己学習	マインドフルネスは知的な理解だけでは身につくものではない。わずかな時間でもよいから日々の実習を期待する。						
オフィスワ-	水曜日3時限、個人研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション	AL	津川					
2. マインドフルネスとは	AL	津川					
3. 反すう	AL	津川					
4. 脱中心化	AL	津川					
5. 「今ここ」の観察1	AL	津川					
6. 「今ここ」の観察2	AL	津川					
7. 「今ここ」の観察3	AL	津川					
8. マインドフルネス認知療法	AL	津川					
9. ACT	AL	津川					
10. 弁証法的行動療法	AL	津川					
11. 無常、苦、無我	AL	津川					
12. 12因縁	AL	津川					
13. バッドトランスと催眠現象	AL	津川					
14. 解催眠とマインドフルネス	AL	津川					
15. まとめ	AL	津川					
16. レポート	レポート	津川					
教科書 1	マインドフルネス:基礎と実践 著者:貝谷久宣・熊野宏昭・越川 房子 出版社:日本評論社 ISBN:4535984247						
教科書 2	大念処経 著者:スマナサーラ 出版社:サンガ ISBN:4865640363						
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	発達障害学研究			履修期	2021年度 春学期		
担当者	日上 耕司					NO.	
配当学科	心理学研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>知的能力障害、限局性学習症、自閉スペクトラム症、および注意欠如・多動症についての基礎的知識と当事者およびその周辺の人々への支援について知る。</p> <p>到達目標は、以下の4点である。</p> <p>知的能力障害、限局性学習症、自閉スペクトラム症、および注意欠如・多動症について、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その定義や診断基準を説明することができる 2. そのアセスメント方法を説明することができる 3. その共通点と相違点を説明することができる 4. その当事者と周辺の人々への支援方法を説明することができる 						
概要	教科書や研究論文の購読と発表を中心として、知的能力障害、限局性学習症や自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症についての基礎的な知識を学ぶとともに、当事者や周囲の人々が直面する困難、それへの支援方法について学ぶ。特に、支援方法については、その理論的基盤となる応用行動分析に基づく支援事例を重点的に学ぶ。						
評価方法	講義中の質疑応答(30%)、プレゼンテーションあるいはレポート(30%)、試験(40%)						
履修条件・注意事項	講義は、隔週で2コマ連続で実施する。日程は変更もありうるので注意すること。欠席は認められない。						
自己学習	自ら問題を設定し、関連論文を入手・精読し、その内容を科学的かつ真理を見極めようとする批判的(懐疑的)な立場から検討し、その内容を効果的に発表するスキルを修得してください。						
オフィスワ-	質問は授業の際に教室にて受ける。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
<p>第1回(4/9予定): ガイダンス…講義のスケジュール、単位の認定方法、評価の仕方について説明する。</p> <p>第2回(4/9予定): 限局性学習障害児・者の心理…限局性学習障害のある児童生徒の知覚・認知・心理の特性について学ぶ。</p> <p>第3回(4/23予定) 限局性学習障害の診断とアセスメント…学習障害の診断の基準や方法、アセスメントの仕方について学ぶ。</p> <p>第4回(4/23予定): 限局性学習障害児・者への一般的な支援の在り方について学ぶ。</p> <p>第5回(5/14予定): 具体的な事例から、限局性学習障害児・者への支援の在り方について学ぶ。</p> <p>第6回(5/14予定): 自閉症スペクトラム障害児・者の知覚・認知・心理の特性について学ぶ。</p> <p>第7回(5/28予定): 自閉症スペクトラム障害児・者の診断の基準や方法、アセスメントの仕方について学ぶ。</p> <p>第8回(5/28予定): 自閉症スペクトラム障害児・者への支援の在り方やについて学ぶ。</p> <p>第9回(6/11予定): 具体的な事例から、カナリータイプの自閉症スペクトラム障害児・者への支援のあり方について学ぶ。</p> <p>第10回(6/11予定): 具体的な事例から、アスペルガータイプの自閉症スペクトラム障害児・者への支援のあり方について学ぶ。</p> <p>第11回(6/25予定): 注意欠如・多動障害児・者の知覚・認知・心理の特性について学ぶ。</p> <p>第12回(6/25予定): 注意欠如・多動障害の診断の基準や方法、アセスメントの仕方について学ぶ。</p> <p>第13回(7/9予定): 具体的な事例から、注意欠如・多動性障害児・者への支援のあり方について学ぶ。</p> <p>第14回(7/9予定): 具体的な事例から、注意欠如・多動障害児・者への支援教育の在り方について学ぶ。</p> <p>第15回(7/23予定): まとめ…これまでの講義内容を振り返り、質疑応答し、試験の実施要領を説明する。</p> <p>第16回(日程未定): 定期試験</p> <p>各回とも、予め教科書の該当箇所を目を通し疑問点を整理しておき、授業後はしっかりと復習しておくこと。</p>	講義および発表と討論	日上耕司			

教科書 1	そだちの科学 2019年4月号:特集 発達障害の30年 著者:滝川一廣・杉山登志郎・田中康雄・村上伸治・土屋賢治(編) 出版社:日本評論社 ISBN:978-4-535-90732-4
教科書 2	ケースで学ぶ行動分析学による問題解決 著者:日本行動分析学会(編)山本淳一・武藤崇・鎌倉やよい(責任編集) 出版社:金剛出版 ISBN:978-4-7724-1448-7
参考書 1	神経発達障害のすべて DSM-5対応 著者:連合大学院小児発達学研究所 森則夫・杉山登志郎(編) 出版社:日本評論社 ISBN:978-4-535-90431-6
参考書 2	

授業科目名	心理学研究指導				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	森井 康幸					NO.		
配当学科	心理学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習	
テーマと到達目標	認知心理学・学習心理学を基盤にした博士の学位請求論文の完成							
概要	各自の研究テーマに沿って、先行研究の概観、問題の提示、目的、方法、結果、考察等を検討し、自らの研究・実験の実施、論文作成へ繋げる。							
評価方法	博士論文の完成に向けた取組、査読論文の作成・完成をもって評価する。							
履修条件・注意事項	精神的に健康であること。自主的な学修態度を有すること。							
自己学習	自学自習を怠らず、自己の研究テーマだけでなく幅広い領域に関心を持って、それらを相互に関連づけるよう努力すること。							
オフィスワ-	月曜3限、研究室。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1年次 春学期 ①オリエンテーション ②博論テーマの発表 ③博論における理論的背景 ④関連研究の紹介と批判 ⑤関連研究と博論の関係の吟味 ⑥関連文献の精読① ⑦関連文献の精読② ⑧関連文献の精読③ ⑨先行研究の方法上の問題点 ⑩先行研究の分析上の問題点 ⑪先行研究の結果の整理上の問題 ⑫先行研究群の問題の総括 ⑬関連他領域文献の収集 ⑭関連他領域文献の紹介・吟味 ⑮博論研究テーマ再考	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	1年次 秋学期 ①オリエンテーション ②博論全般の計画 ③博論の構想の新奇性 ④博論における研究計画 ⑤第1研究の実施計画の検討 ⑥第1研究の準備(実験材料) ⑦第1研究の準備(プログラム) ⑧第1研究の実施とデータ収集 ⑨第1研究の中間データの分析 ⑩第1研究の手続き等の微調整 ⑪第1研究の最終データの分析 ⑫第1研究の結果の整理 ⑬第1研究の考察と展望 ⑭学会発表・論文作成の準備 ⑮博論構想の再検討			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
2年次 春学期 ①オリエンテーション ②第1研究の問題点 ③博論の目的・新規性 ④博論の研究手法の吟味 ⑤第2研究の実施計画の検討 ⑥第2研究の準備(材料の検討) ⑦第2研究の準備(手続き確認) ⑧第2研究の実施とデータ収集 ⑨第2研究の中間データの分析 ⑩第2研究の手続き等の調整 ⑪第2研究のデータ収集と分析 ⑫第2研究の結果の整理と考察 ⑬博論構想と研究1・2の総括 ⑭データの分析方法の再吟味 ⑮査読論文作成の検討	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	2年次 秋学期 ①オリエンテーション:論文作成 ②博論と関連研究の方法の比較 ③関連研究の方法の整理と分類 ④関連研究の方法論の問題点 ⑤博論の研究の理論的背景の吟味 ⑥博論の研究の方法論的意義 ⑦投稿論文2編についての検討 ⑧査読論文作成のための検討 ⑨査読論文の目的とデータの評価 ⑩査読論文作成のための結果整理 ⑪査読論文の投稿準備・問題把握 ⑫第2投稿論文の構想の検討 ⑬第3研究の目的・方法の検討 ⑭第3研究関連文献の収集・精読 ⑮第3研究の準備			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
3年次 春学期 ①オリエンテーション:博論構成 ②第3研究の必要性の再吟味 ③新奇性・論理性の再検討 ④理論的背景の再検討 ⑤第3研究の実施・データ収集 ⑥第3研究のデータ分析 ⑦第3研究の結果の整理 ⑧先行研究と結果の比較 ⑨第2投稿論文に向けた問題整理 ⑩第2投稿論文の作成 ⑪博論の構成と問題点の検討 ⑫博論のデータ分析法の再検討 ⑬先行研究と博論の結果の統合性 ⑭先行研究と博論の考察の比較 ⑮先行研究と博論の考察の統合	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	3年次 秋学期 ①オリエンテーション ②博論の研究の概観 ③研究の新奇性 ④研究の論理性 ⑤理論的背景の再考察 ⑥論文の標記法 ⑦先行研究の再検討 ⑧目的の再検討 ⑨方法の記述 ⑩分析法の再検討と記述 ⑪結果の再検討と記述 ⑫考察の再検討と記述 ⑬研究全体のまとめ ⑭引用文献の整理と記述 ⑮今後の展望			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書 1	テキストは使用しない。随時、資料を配付。							
教科書 2								
参考書 1								

授業科目名	心理学研究指導			履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	森信 繁					NO.	
配当学科	心理学研究科(博士課程後期)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	講義・課題学習・発表
テーマと到達目標	<p>テーマ: ストレスと精神機能 到達目標: 学生は、上記テーマに関する以下のどちらかに関する研究を立案・実践出来るようになる。 1) 健康者を対象とした環境に由来するストレス度の評価や、ストレスによる精神機能の変化についての、疫学的及び社会科学的な研究 2) 精神障害の病態形成におよぼすストレスのメカニズムに関する、分子神経科学的研究 学生は、上記についての研究を行い、博士号を取得する。</p>						
概要	<p>1) 疫学的研究 健康者の日々の暮らしの中での環境から由来するストレス度の評価や、ストレスに対する適応・不適応行動を調査して、精神障害の発症に対する予防的な介入法を考える。 健康者の就労状況から由来するストレス度の評価や、ストレスによる業務への適応・不適応行動の調査を行い、精神障害の発症に対する予防的な介入法を考える。 上記の疫学的研究を行う場合は、既に学生が研究を行うフィールドを保有しているか、あるいはパーソナルなコネクションのある事が望ましい。</p> <p>2) 臨床研究 うつ病を対象に末梢血由来のDNAを用いた遺伝子メチル化の計測による、うつ病の診断・治療予測バイオマーカーの開発を行う。</p> <p>3) 動物実験 外傷後ストレス障害(PTSD)モデルラットを用いて、PTSD患者に見られる恐怖記憶の消去の障害の脳内メカニズムについて研究を行い、認知行動療法の効果促進についての新規治療法を開発する。 ストレス暴露によるエピジェネティック機構の変化について、ストレス負荷ラットの脳および血液を用いてDNAメチル化の観点から研究を行う。</p> <p>*実務経験のある教員による授業科目 この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	博士論文の完成と研究科教授会の審査。						
履修条件・注意事項	博士課程の大学院生として、これまでの同領域の国際的な研究背景からみて、新たな魅力ある研究テーマを考え、共同研究も含めた具体的な研究計画書を作成し、能動的に実験を行うことを期待する。研究発表は、口頭発表および論文発表のいずれも、英文での作成を期待する。						
自己学習	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。日々の実験以外に、出来ればその日の実験結果に関する文献的考察を1時間と、翌日の実験についての予習を1時間行う。						
オフィスワ-	火曜3限、6号館4階6401研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次 春学期 ① 先行研究の収集と整理 ② 関連研究の紹介 ③ 関連研究の批判 ④ 関連研究と博論の関係の吟味 ⑤ 博論における理論的背景 ⑥ 先行研究群の方法の吟味 ⑦ 先行研究群の方法論の整理 ⑧ 先行研究群のデータ収集の問題 ⑨ 先行研究群のデータ分析の問題 ⑩ 先行研究群の結果の標記の吟味 ⑪ 先行研究群の結果の整理 ⑫ 先行研究群の結果に対する疑義 ⑬ 先行研究群の結果のまとめ ⑭ 先行研究群の考察の吟味	講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信	1年次 秋学期 ① 関連研究における博論の位置 ② 博論全般の計画 ③ 博論の構想の新奇性 ④ 博論における研究計画の論理性 ⑤ 博論の基礎となる理論 ⑥ 博論と関連研究の理論の吟味 ⑦ 博論における研究方法の工夫 ⑧ 博論の研究の方法の問題の改善 ⑨ 博論の研究データの分析方針 ⑩ 博論の研究結果の記述方針 ⑪ 博論の研究結果の表記方針 ⑫ 博論の研究結果のまとめ方 ⑬ 博論の研究の考察上の視点 ⑭ 博論と他家の考察の吟味 ⑮ 他家の研究の考察のまとめ	講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信
2年次 春学期 ① 関連研究における博論の意義 ② 博論の目的 ③ 博論の新奇性 ④ 博論の論理性 ⑤ 博論の理論的背景の考察 ⑥ 博論の研究の方法の吟味 ⑦ 博論の研究の方法の問題の発見 ⑧ 博論の研究の方法の問題の改善 ⑨ 博論の研究データの分析方針 ⑩ 博論の研究結果の標記の吟味 ⑪ 博論の研究結果の把握 ⑫ 博論の研究結果に対する疑義 ⑬ 博論の研究結果のまとめ ⑭ 博論の考察の吟味 ⑮ 博論の考察のまとめ	講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信	2年次 秋学期 ① 博論の研究と先行研究の関連 ② 博論と関連研究の方法の比較 ③ 関連研究の方法の整理と分類 ④ 関連研究の方法論の問題点 ⑤ 博論の研究の理論的背景の吟味 ⑥ 博論の研究の方法論的意義 ⑦ 博論の研究データの記述 ⑧ 博論の研究データの分析 ⑨ 博論の研究データ分析の問題 ⑩ 博論の研究結果の標記の吟味 ⑪ 博論の研究結果の整理 ⑫ 博論の研究結果に対する問題点 ⑬ 博論の研究結果のまとめ ⑭ 博論の考察の吟味 ⑮ 博論の今までの研究のまとめ	講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表	森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信
3年次 春学期 ① 先行研究と博論の連関 ② 先行の関連研究の統括 ③ 新奇性の再検討	講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表	森信 森信 森信 森信	3年次 秋学期 ① 研究の概観 ② 博論の研究の問題点	講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表	森信 森信 森信 森信

<ul style="list-style-type: none"> ④論理性の再検討 ⑤理論的背景の再検討 ⑥先行研究と博論の方法の吟味 ⑦先行研究と博論のデータ比較 ⑧先行研究と博論の方法論の比較 ⑨先行研究と博論データの比較 ⑩先行研究と博論の結果の比較 ⑪先行研究と博論の結果の関連 ⑫先行研究と博論の結果の検討 ⑬先行研究と博論の結果の統合性 ⑭先行研究と博論の考察の比較 ⑮先行研究と博論の考察の比較 	<p>講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表</p>	<p>森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ③研究の新奇性 ④研究の論理性 ⑤理論的背景の考察 ⑥論文の標記法 ⑦先行研究の検討 ⑧目的の検討 ⑨方法に関連した操作の記述 ⑩方法の記述 ⑪結果の記述 ⑫考察の記述 ⑬研究全体のまとめ ⑭今後の方針 ⑮引用文献の記述 	<p>講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表 講義と発表</p>	<p>森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信 森信</p>
<p>教科書 1</p>	<p>講義スライドを、適宜配布する。</p>				
<p>教科書 2</p>					
<p>参考書 1</p>	<p>標準精神医学 著者:尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編 出版社:医学書院 ISBN:ISBN978-4-260-03246 </p>				
<p>参考書 2</p>					

地域創成農学研究科
博士（前期）課程

授業科目名	地域創成農学特論			履修期	2021年度 春学期		
担当者	相野 公孝					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本講義は、栽培・育種学、植物保護学、食品機能開発学、農業経済学それぞれの視点から見た、各地域の現状と問題点、さらに地域創成の重要性を認識させつつ、地域創成を実現させるための解決策を考えさせる内容とする。上記教育上の観点から、必要科目として、専任教員全員がオムニバス方式で講義を行う。本講義を通じて、農業生産、食品加工、農業経営全般にわたる専門的知識や技術を習得し、第一次産業を主要産業とする地域社会や国際社会における社会状況、特に農業事情に適格に捉えられる人材を養成することを目標とする。						
概要	高付加価値作物の農産物の生産・育種技術、農産物に発生する各種病害の種類と防除方法、植物クリニックセンターの発展・利用、糖質やタンパク質などの栄養素及び二次代謝物含有量の栽培条件による変化、海外からの国境を越えて輸入される食料・農産物の増加の拮抗力として直売場や六次産業化等を核とする地産・地消、地方創生等について講述する。						
評価方法	学期末に実施する試験で評価する。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	講義で配布する資料を復習し、理解できない点は担当教員に尋ねること。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	農産物の生産技術	講義	谷坂				
第2回	農産物の生産技術	講義	谷坂				
第3回	育種技術	講義	松原				
第4回	病害防除	講義	相野				
第5回	病害防除	講義	相野				
第6回	植物保護	講義	森野				
第7回	植物保護	講義	村上				
第8回	植物クリニックセンター	講義	眞山				
第9回	成分の変化	講義	土井裕司				
第10回	成分の変化	講義	土井裕司				
第11回	食品加工	講義	金沢				
第12回	農産物の輸出	講義	濱島				
第13回	農産物の輸出	講義	濱島				
第14回	六次産業	講義	濱島				
第15回	地域創成	講義	濱島				
第16回	試験	試験	濱島				
教科書 1	特になし						
教科書 2							
参考書 1	特になし						
参考書 2							

授業科目名	地域創成農学特論			履修期	2021年度 春学期		
担当者	濱島 敦博					NO.	
配当学科	地域創成農学専攻			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本講義は、本専攻専任教員が海外で行った調査研究、及び文献調査に基づいて獲得、整理した知見を基に、世界各国における農業生産、農業技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済について、各国の現状、優れた点、および問題点について解説しつつ、受講生が国際社会で活躍することの意義、およびその際に留意すべき点について教授する。専任教員全員が、それぞれの専門分野について、オムニバス方式で講義を行う。世界各国における農業生産、農表技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済を的確に捉え、各地域における問題の掘り起こしと解決策する能力を有し、それら地域(国)の発展に寄与できる国際的社會人を養成することを目標とする。						
概要	海外、特にアジア諸国、米国における農業生産、食品加工、流通販売について各分野の専任教員が解説する。海外における栽培・育種の現状と今後の展開、海外における総合的病害虫管理の取組み事例の有効性や今後の展開、黒大豆や昆布などの日本の伝統食材、カリフォルニア州と中国・黒龍江省における稲作の発展過程、中国農業・農村の様態変化及び構造変動、生態系サービスと農業、等について講述する。						
評価方法	学期末に実施する試験で評価する。						
履修条件・注意事項	特になし。						
自己学習	講義で配布する資料を復習し、理解できない点は担当教員に尋ねること。						
オフィスアワー	各回の講義後に対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			第1回	栽培の現状と課題	講義	谷坂隆俊	
			第2回	輸入・輸出関連法と植物防疫	講義	相野公孝	
			第3回	海外における生物的防除の現状	講義	相野公孝	
			第4回	植物バイオテクノロジーの現状と課題	講義	桧原健一郎	
			第5回	植物病害の大流行の今昔	講義	眞山滋志	
			第6回	国際農業機関の取り組み	講義	村上二郎	
			第7回	海外育種の現状	講義	水見英子	
			第8回	機能性食品の科学的根拠	講義	森野真理	
			第9回	海外の機能性食品事情	講義	土井裕司	
			第10回	世界が求める日本の農産物	講義	金沢功	
			第11回	世界の糖質加工産業-1	講義	福田恵温	
			第12回	世界の糖質加工産業-2	講義	福田恵温	
			第13回	世界の発酵乳	講義	林将也	
			第14回	中国の農業	講義	濱島敦博	
			第15回	試験 or まとめ	講義	谷坂隆俊	
教科書 1	特になし。						
教科書 2							
参考書 1	特になし。						
参考書 2							

授業科目名	地域創成農学特論				履修期	2021年度 春学期	
担当者	金沢 功					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本講義は、栽培・育種学、植物保護学、食品機能開発学、農業経済学それぞれの視点から見た、各地域の現状と問題点、さらに地域創成の重要性を認識させつつ、地域創成を実現させるための解決策を考えさせる内容とする。上記教育上の観点から、必要科目として、専任教員全員がオムニバス方式で講義を行う。本講義を通じて、農業生産、食品加工、農業経営全般にわたる専門的知識や技術を習得し、第一次産業を主要産業とする地域社会や国際社会における社会状況、特に農業事情に適格に捉えられる人材を養成することを目標とする。						
概要	高付加価値作物の農産物の生産・育種技術、農産物に発生する各種病害の種類と防除方法、植物クリニックセンターの発展・利用、糖質やタンパク質などの栄養素及び二次代謝物含有量の栽培条件による変化、海外からの国境を越えて輸入される食料・農産物の増加の拮抗力として直売場や六次産業化等を核とする地産・地消、地方創生等について講述する。						
評価方法	学期末に実施する試験で評価する。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	講義で配布する資料を復習し、理解できない点は担当教員に尋ねること。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	農産物の生産技術	講義	谷坂				
第2回	農産物の生産技術	講義	谷坂				
第3回	育種技術	講義	松原				
第4回	病害防除	講義	相原				
第5回	病害防除	講義	相原				
第6回	植物保護	講義	森野				
第7回	植物保護	講義	村上				
第8回	植物クリニックセンター	講義	眞山				
第9回	成分の変化	講義	土井				
第10回	成分の変化	講義	土井				
第11回	食品加工	講義	金沢				
第12回	農産物の輸出	講義	濱島				
第13回	農産物の輸出	講義	濱島				
第14回	六次産業	講義	濱島				
第15回	地域創成	講義	濱島				
第16回	試験	試験	濱島				
教科書 1	特になし						
教科書 2							
参考書 1	特になし						
参考書 2							

授業科目名	地域創成農学特別講義 I				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	桧原 健一郎、谷坂 隆俊					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	
テーマと到達目標	穀物、蔬菜、花卉、果樹等の育種、栽培方法の観点から地域特有の農産物や栽培体系について学び、修士論文研究の背景となる基礎知識を身につけることを目的とする。							
概要	育種、栽培分野に関する国際的な研究ならびに日本の様々な地域における研究内容について概説する。また、現在地域で起きている問題点と育種、栽培的な視点からの解決策に対して学生自らが考察するとともに、授業内においてそれらをまとめて発表、議論を行う。また、積極的に新しい育種、栽培方法についての知識を取り入れるため、最新の学術論文を講義ごとに配布するので、それらを要約して、発表、議論も合わせて行う。							
評価方法	講義態度、意見発表会の内容、AL講義における発言などから総合的に評価する。							
履修条件・注意事項	特になし。							
自己学習	参考資料を第1回講義で配布を行うので、資料を参考に予習、復習を行う。最新の育種、栽培に関する研究論文も配布するので日本語に要約する。							
オフィスワ-	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			桧原・谷坂	1. 育種、栽培目標について 2. 地域における問題点ー育種と栽培の観点ー 3. 育種、栽培に関する学生の意見発表会 4. 多収化の事例 5. 地域適応性の事例 6. ストレス耐性育種の事例 7. 地域特有の栽培方法ー長所と短所についてー 8. 有機栽培方法の事例			講義 講義 講義「AL」 講義 講義 講義「AL」 講義「AL」	桧原・谷坂
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	地域創成農学特別講義Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	相野 公孝、村上 二郎					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
テーマと到達目標	植物と微生物、特に病原菌との相互作用の研究はますます重要となってきた。これらの情報を得ることによって、植物病理の理解を深めるとともに、生態的な病害回避技術開発につながる。その目標は、安全で安定した植物生産を確実にする植物病害防除法の開発に貢献することである。						
概要	植物の病害発生は、病原体の病原性発現と植物の防御応答との攻防の結果である。本講では、植物細胞生理学的な見地から、植物と病原体の相互認識応答に関わる現象を紹介し、分子レベルから見た植物の耐病性を、ポストゲノム時代の植物免疫研究として論じる。 ※実務経験のある教員による授業科目 本授業内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。						
評価方法	レポートにより評価する。						
履修条件・注意事項	植物病理学の知識を備えていること。授業内容の資料は毎回配布するので、ファイルを用意すること。						
自己学習	参考資料を配布するので、第1回目授業からファイルを準備すること。また、講義で用いたスライドの配布を希望する場合は、USBメモリーを用意すること。						
オフィスアワー	各回の授業後に担当教員が対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			第1回	植物の生体防御機構	講義	相野公孝	
			第2回	抵抗性遺伝子と病原体認識機構	講義	相野公孝	
			第3回	耐病性機構にかかわるタンパク質	講義	相野公孝	
			第4回	細胞死現象(アポトーシス)の役割	講義	相野公孝	
			第5回	全身誘導機構とそのシグナル伝達	講義	相野公孝	
			第6回	ウイルスの細胞間移動	講義	村上二郎	
			第7回	ウイルスに対する宿主抵抗性	講義	村上二郎	
			第8回	ジーサイレンシングの分子機構	講義	村上二郎	
教科書 1	事前に資料配布						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域創成農学特別講義Ⅲ				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	土井 裕司、金沢 功、林 将也					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>農作物は、栽培法、土壌、気候などの条件で、糖質やタンパク質などの栄養素と二次代謝物とがその地域特有の含有量となる。栄養素は甘味や旨味を呈し、二次代謝物は苦味などの独特の味を呈するが、これらの混合比率によって地域特有の独特の味を形成する。一方、二次代謝物は、注目されている機能性成分であるものが多い。この独特の味と機能性を持った作物が、その地域特産物である。</p> <p>さらに、我々の生活に関わる二次代謝物は、植物の二次代謝物にとどまらない。微生物の発酵・醸造能を利用した効率的な二次代謝物の生産が研究・産業の両面で盛んに行われている。このような二次代謝物は、ヒトの生活をより豊かにより有意義にし、健康の維持・促進に役立つものである。身近な例では、微生物を利用した発酵・醸造食品の生産や、微生物やその他の生物が生み出す生体触媒である酵素の産業利用、微生物により産生された抗生物質・ビタミン・アミノ酸・核酸などの機能性化合物の食品・医薬品への応用などがある。</p> <p>本講義では、地域の特産物に含まれる、あるいは、特定の微生物が生産する機能性二次代謝物のヒト健康維持機能を説明し、その二次代謝物を豊富に生産する作物や微生物について講述する。これらの講述から、地域特産農産物の付加価値の意義、ならびに、特定の二次代謝物を含む発酵・醸造食品や機能性化合物により作られる食品・医薬品の付加価値の意義を理解することを目標とする。</p>						
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 南あわじ特産タマネギに含まれるケルセチンを摂取した場合のヒト体タンパク質機能調節作用に基づくその機能性の解説と、ケルセチンを豊富に含むタマネギ外皮を利用した加工食品、化粧品、医薬品の開発事例の紹介。鳴門わかめや昆布などの褐藻の食物繊維であるフコイダンの、エイコサノイド分泌調節作用、明石海苔の品質向上研究の紹介と、色落ち海苔を機能性食素材として開発する研究の紹介。 2. 地域特産シイタケに含まれるβ-1,3;1,6-グルカンのレンチナンの、腸上皮細胞サイトカイン受容体発現調節を介した腸炎予防作用の説明。 3. 鳴門わかめに含まれるフコキサンチンのPPARsを介した脂質代謝系調節機能の解説とその応用例の紹介。ナルトオレンジに含まれるβ-クリプトキサンチンの機能性解説とそれを利用した香味加工食品開発の講述。淡路特産キンセンカに含まれるフラボルテインの機能性開発研究と、キンセンカの特異な色を応用した加工食品開発の実例の紹介。 4. 放線菌・コリネ菌、乳酸菌・酵母などの有用微生物を用いた二次代謝物を含む発酵・醸造食品、ならびに、二次代謝物を添加した食品・医薬品の基礎・応用研究と産業利用の紹介。 						
評価方法	毎回の授業終了前に、教員がその授業で講述した要点を課題として提示するので、それに対する回答を10分ほどで小論文として作成する。その内容から、講義内容の理解度(40%)、論文の簡潔明瞭さ(30%)、回答意見の要約能力(30%)を判定し、それを総合評価する。						
履修条件・注意事項	栄養化学、食品化学、生物学の知識を備えていること。授業内容の資料は毎回配布するので、ファイルを用意すること。						
自己学習	小論文課題として毎回の授業終了前に示した内容は、その講義の要点であるので、その内容に関する科学情報を集めて復習する。そして、疑問点があれば、次回の講義あるいはオフィスアワーに質問する。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日、時間は研究室のドアに掲示する。)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 南あわじ産タマネギに含まれるケルセチンを含めてポリフェノールの機能性の講述 第2回 タマネギ外皮を利用した加工食品や化粧品などの開発の実例紹介 第3回 海苔の色素などカロテノイド類の機能性の講述 第4回 色落ち海苔をスナック菓子に加工する開発研究の紹介 第5回 シイタケ食物繊維のレンチナンの抗炎症機能の講述 第6回 食品・医薬品に用いる色素・機能性二次代謝物の微生物生産の講述 第7回 鳴門わかめのフコキサンチンの機能性の講述 or ナルトオレンジに含まれるβ-クリプトキサンチンの機能性の講述 or 淡路特産キンセンカの機能性を利用した食品開発事例の紹介 第8回 放線菌・コリネ菌、乳酸菌・酵母などの微生物が生産する二次代謝物の基礎・応用研究と産業利用の講述	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	土井 裕司 金沢 功 土井 裕司 金沢 功 土井 裕司 林 将也 金沢 功 林 将也		
教科書 1	栄養機能化学 第3版 著者: 栄養機能化学研究会 編集 出版社: 朝倉書店						
教科書 2	食品機能性の科学 著者: 食品機能性の科学 編集委員会 出版社: 産業技術サービスセンター						
参考書 1	「機能性食品の事典」(朝倉書店)2007年 著者: 「栄養・食糧学用語辞典」栄養・食糧学会編(建帛社)2007年						

参考書 2

1. 基礎から学ぶ植物代謝生化学
 2. 応用微生物学 改訂版
 3. 食品微生物学の基礎 (栄養士テキストシリーズ)
 4. 応用微生物学 第2版
著者: 1. 水谷 正治 (編集), 土反 伸和 (編集), 杉山 暁史 (編集)
2. 村尾 沢夫 (編集), 荒井 基夫 (編集)
 3. 藤井 建夫 (著), 中野 宏幸 (著), 宮本 敬久 (著), 左子 芳彦 (著), 小柳 喬 (著), 小長谷 幸史 (著), 里見 正隆 (著), 土戸 哲明 (著), 石田 真巳 (著), 久田 孝 (著), 藤川 浩 (著), 森田 幸雄 (著), 吉田 天士 (著)
 4. 清水 昌 (著)
- 出版社: 1. 羊土社 (2018/12/23)
2. 培風館; 改訂版 (1993/6/1)
3. 講談社 (2013/8/30)
4. 文永堂出版; 第2版 (2008/06)
ISBN: 1. 978-4758120906|2. 978-4563077075|3. 978-4061398382|4. 978-4830041082

授業科目名	地域創成農学特別講義IV				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	濱島 敦博					NO.	AR-AR-3-406	
配当学科	地域創成農				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	
テーマと到達目標	本講義では、「農産物貿易と日本農業」をテーマとし、農産物貿易に関する経済学的知識に基づく一般的な貿易理論を習得した上で、近年のTPP問題に代表されるような自由化が日本農業に与える影響を理解することを到達目標とする。また、併せて、近年社会的関心を集めている、日本の農産物の海外市場への進出状況も教授する。							
概要	本講義は2段階構成となっている。まず、前半では、ヘクシャー・オーリンの定理など経済学における国際貿易理論の概要を説明し、自由貿易と保護貿易を巡る議論の構造やガット・ラウンドやWTOの設立の意義などを経済学的に把握し、近年の「TPP問題」などグローバル化の進展が日本農業に与える影響を教授する。後半部分では、「攻めの農業」というキーワードに代表されるように、日本の農産物・食品の海外進出状況について教授していく。							
評価方法	試験(100%)によって判断する。							
履修条件・注意事項								
自己学習	予復習として、講義が始まる前に前回のレジュメ資料に目を通しておくこと。							
オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限。A402号室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. ガイダンス 2. 国際貿易理論と農産物貿易 3. 農産物貿易の制度的枠組み 4. 農産物の海外輸出の進展 5. 輸出事例①: 青果物 6. 輸出事例②: 畜産物 7. 輸出事例③: 加工食品 8. 農産物輸出の課題と見通し 9. 単位認定試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	本間 正義『農業問題: TPP後、農政はこう変わる』 著者: 福田晋編著『農畜産物輸出拡大の可能性を探る 戦略的マーケティングと物流システム』 出版社: ちくま新書、2014年。 ISBN: 農林統計協会、2016年							
参考書 2	服部信司『TPP問題と日本農業』 出版社: 農林統計協会、2011年							

授業科目名	国際農業学特論				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	谷坂 隆俊、森野 真理、濱島 敦博、眞山 滋志、金沢 功、桧原 健一郎、福田 恵 温、相野 公孝、氷見 英子、土井 裕司、林 将也					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本講義は、本専攻専任教員が海外で行った調査研究、及び文献調査に基づいて獲得、整理した知見を基に、世界各国における農業生産、農業技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済について、各国の現状、優れた点、および問題点について解説しつつ、受講生が国際社会で活躍することの意義、およびその際に留意すべき点について教授する。専任教員全員が、それぞれの専門分野について、オムニバス方式で講義を行う。世界各国における農業生産、農表技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済を的確に捉え、各地域における問題の掘り起こしと解決策する能力を有し、それら地域(国)の発展に寄与できる国際的社會人を養成することを目標とする。						
概要	海外、特にアジア諸国、米国における農業生産、食品加工、流通販売について各分野の専任教員が解説する。海外における栽培・育種の現状と今後の展開、海外における総合的病害虫管理の取組み事例の有効性や今後の展開、黒大豆や昆布などの日本の伝統食材、カリフォルニア州と中国・黒龍江省における稲作の発展過程、中国農業・農村の様態変化及び構造変動、生態系サービスと農業、等について講述する。						
評価方法	学期末に実施する試験で評価する。						
履修条件・注意事項	特になし。						
自己学習	講義で配布する資料を復習し、理解できない点は担当教員に尋ねること。						
オフィスアワー	各回の講義後に対応する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			第1回 栽培の現状と課題 第2回 輸入・輸出関連法と植物防疫 第3回 海外における生物的防除の現状 第4回 植物バイオテクノロジーの現状と課題 第5回 植物病害の大流行の今昔 第6回 国際農業機関の取り組み 第7回 海外育種の現状 第8回 機能性食品の科学的根拠 第9回 海外の機能性食品事情 第10回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界の糖質加工産業-1 第12回 世界の糖質加工産業-2 第13回 世界の発酵乳 第14回 中国の農業 第15回 試験 or まとめ			講義	谷坂隆俊 相野公孝 相野公孝 桧原健一郎 眞山滋志 村上二郎 氷見英子 森野真理 土井裕司 金沢功 福田恵温 福田恵温 林将也 濱島敦博 谷坂隆俊
教科書 1	特になし。						
教科書 2							
参考書 1	特になし。						
参考書 2							

授業科目名	農業経営学特論			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	高田 理					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	農業経営を維持・発展させていくためには、経営を取り巻く環境変化を正確に把握し、環境変化に適合する戦略、形態をとっていくことが重要である。本授業では、農業経営が直面している課題や環境変化を理解するとともに、それらを解決、適合していくための対策を経営戦略論、経営管理論、経営形態論、経営分析論などにもとづいて検討することによって、農業経営の課題解決や新しい経営価値を創造できる知識と技術(能力)を習得、高めることを目標とする。						
概要	農業経営は、常にPlan(計画)-Do(実行)-See(検証)といったマネジメント・サイクル(近年はPDCAサイクル)を繰り返し、経営を維持・発展させている。このことから、本授業では、まず、農業経営の特質、環境変化、課題を理解し、それにもとづく目標・計画について検討する。次いで、その目標・計画を実行していくための、様々な経営戦略(競争戦略、多角化戦略、マーケティング戦略など)、経営規模、経営形態(企業形態、組織形態)、さらには農業政策や関連機関・団体、地域との関係について検討する。最後に、実行結果の分析(経営分析)・検討を通じて次期への改善策について講義する。						
評価方法	授業での発表・ディスカッション、レポート、試験を総合して評価する。						
履修条件・注意事項	ミクロ経済学の基礎知識を持っていること。						
自己学習	食料や農業、農村についての情報を常に入手し、問題意識を持ち、自ら検討すること。						
オフィスワ-	随時、メール等で日時を相談して設定する。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			第1回 農業経営学特論の課題と方法	講義	高田理		
			第2回 農業経営の特徴と課題	講義	高田理		
			第3回 農業経営を取り巻く環境変化	講義	高田理		
			第4回 農業経営の目標と経営管理	講義	高田理		
			第5回 農業経営戦略(その1)-競争戦略-	講義	高田理		
			第6回 農業経営戦略(その2)-多角化戦略-	講義	高田理		
			第7回 農業経営戦略(その3)-マーケティング戦略-	講義	高田理		
			第8回 農業経営規模と集約度	講義	高田理		
			第9回 農業経営の法人化と企業形態	講義	高田理		
			第10回 農業組織化と組織経営	講義	高田理		
			第11回 農業経営と農業政策、農業諸団体(農業協同組合)	講義	高田理		
			第12回 地域活性化と地域農業経営	講義	高田理		
			第13回 農業経営分析(その1)-家族経営分析-	講義	高田理		
			第14回 農業経営分析(その2)-企業経営分析-	講義	高田理		
			第15回 まとめ-農業経営の実践に向けて-	講義	高田理		
			第16回 単位認定試験	試験	高田理		
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	現代農業のマネジメント 著者:木村伸男 出版社:日本経済評論社 ISBN:978-4-8188-1988-7						
参考書 2							

授業科目名	アグリビジネス英語 I			履修期	2021年度 春学期		
担当者	今田 圭介					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	8	授業形態	講義
テーマと到達目標	【文法総復習】語学学習は10歳ごろを分岐点にして条件学習と概念学習に分かれる。条件学習とは個体が環境適応の過程で周りで使われる言葉を自然に吸収し使う行為で赤ちゃんや幼少児童に見られる現象で、文法などの説明がなくても吸収して自分のものとして使う能力を有する現象です。それに対して概念学習とは、理由や理屈などの説明を理解しながら徐々に自分のものにし、使うようになる行為を言います。「なぜ英語はこのような文章に組み立てられているのか」とともに理解し、専門書購読に必要な文法力を養うことを目標とする。						
概要	【文法】語学における文法は建物の土台です。この土台が小さければ小さな建物しか建ちませんし、強固なものであれば高く、大きな建物になります。文法を細かく分けて、パーツ事に重要度の高い物から順次復習と応用を行ないます。【作文】既習文法を使い英作を行ないます。						
評価方法	評価は下記の項目で行ないます。 * 単位認定試験結果(単位認定試験受験資格は規定の通り) * Quiz(小テスト) * 講義参加意欲 * 出席率(遅刻・早退も加味します)						
履修条件・注意事項	語学は忘却曲線との闘いです。学んだものを1週間復習しなければその50%~70%を忘れるとの研究結果があります。1講義休むと2週間空くことになり、その忘却量は相当なものです。出席はマストです。 * 講義中にQuiz(小テスト)が行われますので必ず受講してください。 * オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドセット可)が必要です。						
自己学習	日頃より専門書をひも解き、論文に慣れて行くことが重要です。翻訳ソフトの活用もあると思いますが、そのソフトから排出された訳文に違和感を感じた時などに原文を文法的に分解する能力をつけておくことで翻訳ソフトを良い有効に活用したり、訳文の精度を上げることができるようになります。語学は地道な作業の積み重ねですが、努力は必ず報われます。						
オフィスワ-	授業終了後、休憩時間						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. イントロダクション・実力考査	講義	今田					
2. 文法 be動詞 肯定文、否定文、疑問文	講義	今田					
3. 文法 一般動詞 肯定文、否定文、疑問文	講義	今田					
4. 文法 疑問詞を使った疑問文	講義	今田					
5. 文法 be動詞 過去形 肯定文、否定文、疑問文	講義	今田					
6. 文法 一般動詞 過去形 肯定文、否定文、疑問文	講義	今田					
7. 文法 文の要素と文型 I、II、III 文型	講義	今田					
8. 試験・文法 文の要素と文型 IV、V 文型	試験・講義	今田					
教科書 1	使用しない(必要に応じてプリントを配布します)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	アグリビジネス英語Ⅱ			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	今田 圭介					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	8	授業形態	講義
テーマと到達目標	【文法総復習】語学学習は10歳ごろを分岐点にして条件学習と概念学習に分かれる。条件学習とは個体が環境適応の過程で周りで使われる言葉を自然に吸収し使う行為で赤ちゃんや幼少児童に見られる現象で、文法などの説明がなくても吸収して自分のものとして使う能力を有する現象です。それに対して概念学習とは、理由や理屈などの説明を理解しながら徐々に自分のものにし、使うようになる行為を言います。「なぜ英語はこのような文章に組み立てられているのか」とともに理解し、専門書購読に必要な文法力を養うことを目標とする。						
概要	【文法】語学における文法は建物の土台です。この土台が小さければ小さな建物しか建ちませんし、強固なものであれば高く、大きな建物になります。文法を細かく分けて、パーツ事に重要度の高い物から順次復習と応用を行ないます。 【作文】既習文法を使い英作を行ないます。						
評価方法	評価は下記の項目で行ないます。 * 単位認定試験結果(単位認定試験受験資格は規定の通り) * Quiz(小テスト) * 講義参加意欲 * 出席率(遅刻・早退も加味します)						
履修条件・注意事項	語学は忘却曲線との闘いです。学んだものを1週間復習しなければその50%~70%を忘れるとの研究結果があります。1講義休むと2週間空くことになり、その忘却量は相当なものです。出席はマストです。 * 講義中にQuiz(小テスト)が行われますので必ず受講してください。 * オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドセット可)が必要です。						
自己学習	日頃より専門書をひも解き、論文に慣れて行くことが重要です。翻訳ソフトの活用もあると思いますが、そのソフトから排出された訳文に違和感を感じた時などに原文を文法的に分解する能力をつけておくことで翻訳ソフトを良い有効に活用したり、訳文の精度を上げることができるようになります。語学は地道な作業の積み重ねですが、努力は必ず報われます。						
オフィスワ-	授業終了後、休憩時間						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 文法 比較級、原級 2. 文法 最上級 3. 受動態 4. 受動態 動作主のないもの 5. 助動詞 6. 前置詞 7. 不定詞 8. 試験・文法 動名詞	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験・講義	今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田		
教科書 1	使用しない(必要に応じてプリントを配布します)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	アグリビジネス英語Ⅲ				履修期	2021年度 春学期			
担当者	今田 圭介					NO.			
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義		
テーマと到達目標	【文法総復習】語学学習は10歳ごろを分岐点にして条件学習と概念学習に分かれる。条件学習とは個体が環境適応の過程で周りで使われる言葉を自然に吸収し使う行為で赤ちゃんや幼少児童に見られる現象で、文法などの説明がなくても吸収して自分のものとして使う能力を有する現象です。それに対して概念学習とは、理由や理屈などの説明を理解しながら徐々に自分のものにし、使うようになる行為を言います。「なぜ英語はこのような文章に組み立てられているのか」とともに理解し、専門書購読に必要な文法力を養うことを目標とする。								
概要	【文法】語学における文法は建物の土台です。この土台が小さければ小さな建物しか建ちませんし、強固なものであれば高く、大きな建物になります。 文法を細かく分けて、パーツ事に重要度の高い物から順次復習と応用を行ないます。 【作文】既習文法を使い英作を行ないます。								
評価方法	評価は下記の項目で行ないます。 * 単位認定試験結果(単位認定試験受験資格は規定の通り) * Quiz(小テスト) * 講義参加意欲 * 出席率(遅刻・早退も加味します)								
履修条件・注意事項	語学は忘却曲線との闘いです。 学んだものを1週間復習しなければその50%~70%を忘れるとの研究結果があります。 1講義休むと2週間空くことになり、その忘却量は相当なものです。 出席はマストです。 * 注意1: 講義は全8コマが行われます。 講義日程は4月から5月にかけて発表されますので注意して下さい。 * 注意2: オンライン授業にはイヤホンとマイク(ヘッドセット可)が必要です。								
自己学習	日頃より専門書をひも解き、論文に慣れて行くことが重要です。翻訳ソフトの活用もあると思いますが、そのソフトから排出された訳文に違和感を感じた時などに原文を文法的に分解する能力をつけておくことで翻訳ソフトを良い有効に活用したり、訳文の精度を上げることができるようになります。語学は地道な作業の積み重ねですが、努力は必ず報われます。								
オフィスワ-	授業終了後、休憩時間								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 文法 一般動詞 過去形 肯定文			講義	今田					
2. 文法 一般動詞 過去形 否定文									
3. 文法 一般動詞 過去形 疑問文			講義	今田					
4. 文法 一般動詞 過去形 疑問詞を使った疑問文			講義	今田					
5. 文法 be動詞、一般動詞 過去形 総復習			講義	今田					
6. 文法 未来を表す表現			講義	今田					
7. 文法 現在進行形			講義	今田					
8. 試験 文法 可算名詞・不可算名詞			講義 講義 試験・講義	今田 今田 今田					
教科書 1	テキストは随時プリントを配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	アグリビジネス英語Ⅳ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	今田 圭介					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	
テーマと到達目標	【文法総復習】語学学習は10歳ごろを分岐点にして条件学習と概念学習に分かれる。条件学習とは個体が環境適応の過程で周りで使われる言葉を自然に吸収し使う行為で赤ちゃんや幼少児童に見られる現象で、文法などの説明がなくても吸収して自分のものとして使う能力を有する現象です。それに対して概念学習とは、理由や理屈などの説明を理解しながら徐々に自分のものにし、使うようになる行為を言います。「なぜ英語はこのような文章に組み立てられているのか」とともに理解し、専門書購読に必要な文法力を養うことを目標とする。							
概要	【文法】語学における文法は建物の土台です。この土台が小さければ小さな建物しか建ちませんし、強固なものであれば高く、大きな建物になります。文法を細かく分けて、パーツ事に重要度の高い物から順次復習と応用を行ないます。 【作文】既習文法を使い英作を行ないます。							
評価方法	評価は下記の項目で行ないます。 * 単位認定試験結果(単位認定試験受験資格は規定の通り) * Quiz(小テスト) * 講義参加意欲 * 出席率(遅刻・早退も加味します)							
履修条件・注意事項	語学は忘却曲線との闘いです。学んだものを1週間復習しなければその50%~70%を忘れるとの研究結果があります。1講義休むと2週間空くことになり、その忘却量は相当なものです。出席はマストです。 * 注意1: 講義は全8コマが行われます。講義日程は10月に発表されますので注意して下さい。 * 注意2: オンライン授業にはイヤホンとマイク(ヘッドセット可)が必要です。							
自己学習	日頃より専門書をひも解き、論文に慣れて行くことが重要です。翻訳ソフトの活用もあると思いますが、そのソフトから排出された訳文に違和感を感じた時などに原文を文法的に分解する能力をつけておくことで翻訳ソフトを良い有効に活用したり、訳文の精度を上げることができるようになります。語学は地道な作業の積み重ねですが、努力は必ず報われます。							
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. 文法 冠詞 2. 文法 代名詞 3. 文法 前置詞 4. 文法 接続詞 5. 文法 名詞と形容詞 6. 前文法 副詞 7. 文法 TOEIC Part5 8. 試験・文法 文の要素と文型				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験・講義	今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田
教科書 1	テキストは随時プリントを配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	植物ゲノム解析学特論			履修期	2021年度 春学期			
担当者	桧原 健一郎					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻			年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義、実習	
テーマと到達目標	ゲノム科学においては、DNAシーケンシング技術のみならず、様々な技術や新たな解析手法が目覚ましく発展している。動物、植物、微生物に至る様々な生物種を対象とするライフサイエンス研究分野において、これら技術に関する知識を持つことと同時に活用することが必須になっている。本講義では、植物(作物)に着目して、それらの研究を行う上で必要なゲノム解析に関する基礎的知識を取得するとともに、カリキュラム(研究指導)で実施している修士論文研究に関連するゲノム解析についてアクティブラーニングを含めた実習型講義を行い、ゲノム解析方法の取得、理解を深めることを目的とする。							
概要	大規模塩基配列の決定およびそれらを利用したゲノム科学は、様々な生物における研究の発展に大きく貢献し、今後さらなる技術革新によって益々生物学に関する新しい概念をもたらす原動力となると思われる。本講義では、植物を対象としてゲノムに関する基礎的な知識からゲノム情報の取得方法、利用方法などを説明する。また、修士論文研究内容についてゲノム科学からアプローチについても議論しながら、研究内容に沿ったゲノム情報の利活用方法についてPCを用いて実習を行う。							
評価方法	講義態度、実習内容で評価を行う。							
履修条件・注意事項	ゲノムやDNAに関する修士論文研究を行なっている学生を対象とする。ただし、研究内容に分子生物学的手法を取り入れたい学生も履修することができる。							
自己学習	講義で配布する資料を復習し、理解できない点は尋ねること。							
オフィスワ-	毎週金曜日18:30～19:30をオフィスアワーとする。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 オリエンテーション 第2回 分子生物学のおさらい 第3回 ゲノム科学の歴史 第4～7回 ゲノム研究例 (研究論文の輪読) 第8回 修士論文研究内容の発表 第9回 修士論文研究内容に沿ったゲノム研究手法の探索 第10～14回研究内容に沿った研究手法の実践 第15回得られた研究成果の報告会		講義 講義 講義 AL講義 講義,発表 講義 講義,実習 講義,発表	桧原健一郎					
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	植物保護学特論			履修期	2021年度 春学期		
担当者	森野 真理、相野 公孝					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科(修士)			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	持続可能な農業の実現には、「作物生産の向上」と「地域環境の保全」の相反する事象を両立させる必要がある。この困難な課題の解決を目指し、次世代型の植物保護や作物管理に関する研究を推進するために、植物保護管理学における深い知識と卓越した技術力、洞察力、企画力を修得し、本分野のエキスパートとして活躍できる人材を育成する。						
概要	植物病害防除に対して、化学合成農薬の代替となり得る病原菌と微生物及び作物の相互関係を利用した生物的防除に関して、生物的防除の歴史から始まり、有用微生物の選抜方法、効果判定法及びフィールドでの効果検証までの一連の流れを論述し、農業生態系内での、病原菌、微生物及び作物間の密接な関係を習得する。また、農業生産活動における獣害および侵略的外来種の実態と問題の背景、防除の方法・制度や課題について解説し、近年、野生動物の保護管理計画制度の基礎となっている順応的管理について紹介する。						
評価方法	試験およびレポートにより評価する。						
履修条件・注意事項	参考資料を配布するので、第1回目授業からファイルを準備すること。また、講義で用いたスライドの配布を希望する場合は、USBメモリーを用意すること。						
自己学習	毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。						
オフィスワ-	各回の授業後に担当教員が対応する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	ガイダンス	講義	森野真理				
第2回	獣害の実態:中山間地と都市	講義	森野真理				
第3回	害獣の種特性	講義	森野真理				
第4回	生態系における害獣の位置づけ	講義	森野真理				
第5回	獣害多発の背景	講義	森野真理				
第6回	害獣の防除	講義	森野真理				
第7回	野生動物に関わる法制度	講義	森野真理				
第8回	順応的管理	講義	相野公孝				
第9回	生物防除の歴史と現状	講義	相野公孝				
第10回	有用微生物の選抜方法	講義	相野公孝				
第11回	効果判定法(室内)	講義	相野公孝				
第12回	効果判定法(フィールド)	講義	相野公孝				
第13回	有用微生物の製造法	講義	相野公孝				
第14回	生物農薬の登録方法	講義	相野公孝				
第15回	生物農薬に関する法律	講義	相野公孝				
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	植物病理学特論				履修期	2021年度 春学期		
担当者	相野 公孝、眞山 滋志、村上 二郎					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	食料の安定的供給は農作物の安定した第一次生産に依存するが、植物の安定的生産は病虫害などに対する保護なしには得られない。したがって、本講義のテーマは、植物病害に関する最新の科学的な知見について熟知することであり、その目標は、安全で安定した植物生産を確かにする植物病害防除法の開発に貢献することである。							
概要	植物の病害発生は、病原体の病原性発現と植物の防御応答との攻防の結果である。本講では、植物と病原体の相互認識応答に関わる遺伝子とその産物、抵抗性および病原性発現に関わる生理活性物質とゲノム解析など植物感染科学の最新の情報について論じる。また、輸出農作物の最重要課題である安全性管理法について、特にカビ毒、マイコトキシンとその産生菌の制御を目的とする迅速、簡便な遺伝子診断法などの研究開発について学習する。 ※実務経験のある教員による授業科目 本授業内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。							
評価方法	レポートにより評価する。							
履修条件・注意事項	参考資料を配布するので、第1回目授業からファイルを準備すること。また、講義で用いたスライドの配布を希望する場合は、USBメモリーを用意すること。							
自己学習	毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。							
オフィスワ-	各回の授業後に担当教員が対応する。							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	ガイダンス	講義	眞山滋志					
第2回	宿主特異性の遺伝的背景	講義	眞山滋志					
第3回	抵抗性発現のシグナル伝達	講義	眞山滋志					
第4回	過敏反応と過敏細胞死	講義	眞山滋志					
第5回	抗菌性物質の生成	講義	眞山滋志					
第6回	病原体の病原性発現機構	講義	相野公孝					
第7回	感染に対する宿主細胞反応	講義	相野公孝					
第8回	病原性発現に関わる物質生産	講義	相野公孝					
第9回	病原性遺伝子の発現機構(細菌・ウイルス)	講義	相野公孝					
第10回	病原性遺伝子の発現機構(糸状菌)	講義	相野公孝					
第11回	病原微生物のゲノム解析	講義	村上二郎					
第12回	植物病害の診断	講義	村上二郎					
第13回	植物病害の防除	講義	村上二郎					
第14回	カビ毒の診断	講義	村上二郎					
第15回	カビ毒の防除	講義	村上二郎					
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	日本植物病理学会誌							
参考書 2								

授業科目名	植物保護学演習				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期			
担当者	相野 公孝、森野 真理、村上 二郎					NO.			
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	8	時間数	120	授業形態	演習		
テーマと到達目標	植物保護のうち病害や獣害を対象とする。病害対策は依然として化学的防除に大きく依存しているが、薬剤耐性菌の発達が持続的な阻害する要因となっている。そこで、薬剤耐性菌の問題、さらにはその軽減にもつながる作物の病害抵抗性品種や病害抵抗誘導剤、生物由来の資材などを利用した代替防除技術について理解を深める。また、分子生物学的手法を用いた病原体やマイコトキシン生産菌の診断、獣害の実態把握や生態系管理と対策の構築などについて2年間学ぶ。これを通じて、大学院修了後に社会の各方面で必要となる文書作成やプレゼンテーションの能力のを養うと共に、専門的知識を持つ専門知識を持つ農業の担い手や植物保護アドバイザー等の育成に貢献する。								
概要	作物保護とりわけ植物病原菌の薬剤耐性や作物の病害抵抗性品種、病害抵抗性誘導剤、レタスビックベイン病、イネ科作物赤カビ病菌のマイコトキシン、獣害発生の要因、防除管理の手法と制度。野生動物の生態特性などに関する国内外の学術論文・資料の中から、学生が研究課題に即した文献を選抜・熟読し、レジュメやパワーポイントなどにまとめて発表を行う。発表内容に関して教員や他の学生との質疑応答や討論を行い、文書作成やプレゼンテーションの能力を養う。また、「植物保護学専攻実験」の結果についても適宜発表して実験のブラッシュアップにつなげたり、必要に応じて現地調査や関連機関へのヒアリングなどのフィールドワーク演習を行う。 ※実務経験のある教員による授業科目 本授業内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。								
評価方法	発表の為に作成した配布資料やパワーポイントスライドの質、発表や受け答えの能力、更には他社の発表に対して積極的に質問しているかなど、演習態度も加味して総合評価する。								
履修条件・注意事項	毎回資料が配布されるので、第1回演習からファイルを用意すること。								
自己学習	演習の発表者と課題は事前に連絡されるので、その課題について予習する。また、演習時に配布される資料を事後必ず読み返して復習する。理解できない点があれば教員に質問し、解答を求める。								
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する。)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
「(1)植物保護に関して各自が解決したい研究課題を選択決定できること、(2)それを追求するための実験・調査計画の立案(背景、目的、実験材料及び方法など)、実験や調査を遂行のための技術・手法の習得ができること、(3)結果の解析・評価法、考察の在り方について学び、学術論文の書式についても理解すること」について、適宜課題を設定してゼミ形式で学習を進める。また、研究・調査課題の遂行に必要な実験・調査手法についても指導を行う。これら3項目について、学生の学習状況に合わせて適宜繰り返し指導する。			演習	相野公孝 森野真理 村上二郎	「(1)植物保護に関する研究課題を追求するための実験・調査計画の立案(背景、目的、実験材料及び手法など)、実験や調査を遂行のための技術・手法の習得が出来ること、(2)結果の解析・評価法、考察のあり方について学び、学術論文の書式についても理解すること」について、適宜課題を設けてゼミ形式で学習を進める。また、研究・調査課題の遂行に必要な実験・調査手法についても指導を行う。 これらの2項目について、学生の学習状況に合わせて適宜繰り返し指導する。			演習	相野公孝 森野真理 村上二郎
教科書 1	事前に資料を配布								
教科書 2	特になし								
参考書 1	特になし								
参考書 2	特になし								

授業科目名	植物保護学専攻実験			履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	相野 公孝、村上 二郎					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	8	時間数	240	授業形態	実験・実習
テーマと到達目標	作物病害の防除防除は依然として化学的防除に大きく依存しているが、薬剤耐性菌の発達が薬効低下をもたらす防除の阻害要因となっている。そこで、薬剤耐性菌の問題、さらにはその軽減にもつながる作物の病害抵抗性品種や病害抵抗性誘導剤など代替防除技術の利用に関する実験を行う。2年間の経験を通じて、大学院終了後に社会の各方面で必要となる企画力や実行力、スケジュール管理能力等を養う。また、専門的知識を持つ農業の担い手やアドバイザー等の育成に貢献する。						
概要	作物保護とりわけ植物病原菌の薬剤耐性(Qol剤耐性、SDHI剤耐性ほか)や作物の病害抵抗性品種(ナシの黒星病・黒斑病複合抵抗性など)、病害抵抗性誘導剤アゼピソルSメチルなどに関して新規性と実用的価値の高い実験を行う。得られた成果については国内外の関連学会等で発表すると共に、原著論文として国際誌に投稿する。また、最終的には修士論文にとりまとめるほか、開発された技術等は各地の農業関係機関や団体、企業に情報に情報を提供して実用化を図る。 ※実務経験のある教員による授業科目 本授業内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。						
評価方法	実験に取り組む姿勢、得られた結果を取りまとめる能力、修士論文の内容、専攻実験のテーマの難易度などにより総合評価する。						
履修条件・注意事項	実験を進めるに当たっては実験手法の習熟やデータの記録、保管等が極めて重要となる。このため、必ず当初から実験ノートやパソコン用の記録媒体を用意すること。また、Excelを用いた作図法なども事前に習得していることが望ましい。また、2年間を通じて履修する科目であるが、授業計画に示した内容に対して、半期ごとに実験技術及び知識等の習得状況を確認し、達成が不十分な場合は、補習等を行う。						
自己学習	得られた実験データ等に関して、担当教員と議論することになるので、研究の背景や目的、関連研究の進捗状況等を十分理解できるように務めること。実験準備や片付けも重要である。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明)		実験・実習	相野/村上	第1回 顕微鏡による病原菌の観察		実験・実習	相野/村上
第2回 研究課題の選択(教員からの掲示)		実験・実習	相野/村上	第2回 細胞染色法		実験・実習	相野/村上
第3回 研究課題の選択(聞き取り調査:地域農業研究機関、農業協同組合、地域農家など)		実験・実習	相野/村上	第3回 核酸抽出(DNA)		実験・実習	相野/村上
第4回 研究課題の最終決定(教員との討議)		実験・実習	相野/村上	第4回 PCRによる病原菌の検出		実験・実習	相野/村上
第5回 実験課題の使用法(安全講習などを含む)		実験・実習	相野/村上	第5回 DNAシーケンサーによる病原菌種の特異性		実験・実習	相野/村上
第6回 実験器具・機器の扱い方		実験・実習	相野/村上	第6回 リアルタイムPCRによる病原菌密度の定量		実験・実習	相野/村上
第7回 研究圃場の整備(耕運・畝立てなど)		実験・実習	相野/村上	第7回 中間報告(進捗状況の確認)		実験・実習	相野/村上
第8回 研究用植物の播種(夏季作物)		実験・実習	相野/村上	第8回 研究圃場の整備(耕運・畝立てなど)		実験・実習	相野/村上
第9回 病原菌の採集		実験・実習	相野/村上	第9回 研究用植物の播種(冬季作物)		実験・実習	相野/村上
第10回 各種培地の作成		実験・実習	相野/村上	第10回 培作物の管理(防寒対策など)		実験・実習	相野/村上
第11回 植物病原菌の培養		実験・実習	相野/村上	第11回 培作物の管理(除草・農薬処理など)		実験・実習	相野/村上
第12回 植物病原菌の保存		実験・実習	相野/村上	第12回 病原菌の採集		実験・実習	相野/村上
第13回 病原菌の接種試験		実験・実習	相野/村上	第13回 病原菌の接種試験		実験・実習	相野/村上
第14回 接種試験のい評価		実験・実習	相野/村上	第14回 接種試験の評価		実験・実習	相野/村上
第15回 期末報告(進捗状況)		実験・実習	相野/村上	第15回 期末報告(進捗状況の確認)		実験・実習	相野/村上
教科書 1	事前に資料を配布						
教科書 2							
参考書 1	特になし						
参考書 2	特になし						

授業科目名	食品栄養機能学特論			履修期	2021年度 春学期		
担当者	福田 恵温、土井 裕司、林 将也					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	農作物はヒトの生命・生活活動に必要な栄養素に加えて、さまざまな生体調節機能をもった成分を含んでいる。生体調節機能成分は、ヒトの健康増進作用と関連しており、いわゆる機能性食品成分として注目されている。農作物に付加価値をつけるため、機能性表示が進められている。本講義では、タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの5栄養素のヒトへの基本的な生命維持機能を理解した上で、これまでに知られてきているさまざまな生体調節機能成分のヒトの健康増進機能を理解することを目標とする。						
概要	食品成分のもつ機能は、一次機能、二次機能、三次機能に分類され、タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルは栄養素として一次機能を有している。二次機能は嗜好面での働きであり、呈味物質の働きである。三次機能は生体調節機能で、食物繊維、ポリフェノール、乳酸菌、ペプチドなどの働きである。本講義では、それぞれの食品成分がもつ機能を説明し、それぞれの機能が発現されるメカニズムを解説する。この科目は、大学院教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、食品機能学、栄養科学等が実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	各担当教員による授業の後、レポート提出、授業内容に関するプレゼンテーションを行う。提出されたレポート、プレゼンテーションから講義の理解度、レポートの簡潔明瞭さ、論旨の要約能力を判定し、総合評価する。						
履修条件・注意事項	授業に出席し、レポート作成、プレゼンテーションを行うこと。						
自己学習	学部時代に習得した栄養化学、食品化学、生物学の知識を復習しておくこと。						
オフィスワ-	毎回の授業終了後から講義室で30分間設ける。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	食品の機能	講義	土井裕司				
第2回	タンパク質の機能	講義	土井裕司				
第3回	糖質の機能	講義	福田恵温				
第4回	脂質の機能	講義	土井裕司				
第5回	ビタミンの機能	講義	土井裕司				
第6回	ミネラルの機能	講義	金沢 功				
第7回	呈味物質の機能	講義	土井裕司				
第8回	アミノ酸・ペプチドの機能	講義	林 将也				
第9回	食物繊維・オリゴ糖の機能	講義	福田恵温				
第10回	免疫系に作用する食品成分	講義	福田恵温				
第11回	プロバイオティクスとプレバイオティクス	講義	土井裕司				
第12回	ミネラルの吸収促進成分	講義	土井裕司				
第13回	血糖値上昇抑制成分	講義	土井裕司				
第14回	血圧上昇抑制成分	講義	土井裕司				
第15回	活性酸素と老化	講義	土井裕司				
教科書 1	三訂 食品機能学 著者:寺尾純二・山西倫太郎・高村仁知 共著 出版社:光生館 ISBN:978-4-332-04059-0						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	機能性分析学特論				履修期	2021年度 春学期			
担当者	福田 恵温、土井 裕司					NO.			
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	農作物はたくさんの化合物(成分)を含んでおり、それらはヒトの生命・生活活動の増進に働くもの、毒性を示すなどさまざまである。本講義では、農作物から目的物質を選択的に抽出し、同定する方法を講述する。目的物質をどのように選択的に抽出する検出・分析する技術の原理を習得することを目標とする。								
概要	現在知られている抽出・分析技術は多種多様である。それを知るには有機化学の基本的知識が必要である。本講義の最初は文献検索である。次いで、有機化学の基礎を習得したあと、各種の技術の原理を学ぶ。この科目は、大学院教員としての経験を持つ教員が、その経験を活かし、食品機能分析現場において実践的に役立つ授業を実施する。								
評価方法	講義内容をまとめたレポートを作成してもらい、その内容でもって評価する。								
履修条件・注意事項	化学実験の定量分析を十分に理解していること。また、授業内容の資料は毎回配布するので、ファイルを用意すること。								
自己学習	小論文課題として授業終了前に示した内容は、その講義の要点であるので、その内容に関する科学情報を集めて復習する。そして、疑問点があれば、次回の講義あるいはオフィスアワーに質問する。								
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日、時間は研究室のドアに掲示する。)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回	文献検索法	講義	土井裕司						
第2回	有機化学の基礎 1	講義	土井裕司						
第3回	有機化学の基礎 2	講義	土井裕司						
第4回	物質の抽出法	講義	土井裕司						
第5回	酵素反応	講義	土井裕司						
第6回	細胞培養	講義	土井裕司						
第7回	物質の分離・精製法 1 クロマトグラフィー	講義	福田恵温						
第8回	物質の分離・精製法 2 TLC	講義	福田恵温						
第9回	物質の分離・精製法 3 HPLC	講義	福田恵温						
第10回	質量(MS)分析法の原理	講義	福田恵温						
第11回	MSスペクトルの解析	講義	土井裕司						
第12回	LC/MS	講義	土井裕司						
第13回	GC/MS	講義	土井裕司						
第14回	元素分析	講義	土井裕司						
第15回	分析法のまとめ	講義	土井裕司						
教科書 1	食品分析化学 著者:新藤一敏・森光康次郎 出版社:東京化学同人 ISBN:978-4-8079-1678-8								
教科書 2									
参考書 1	「色から見た食品のサイエンス」((株)サイエンスフォーラム)2004年 著者:「サプリメントデータブック」(オーム社)2005年								
参考書 2									

授業科目名	食品機能開発化学演習				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	福田 恵温、金沢 功					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科(修士)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	8	時間数	120	授業形態	演習	
テーマと到達目標	農作物に含まれる植物二次代謝物はヒト健康増進機能を示すという学術報告が多くある。本演習では、学生たち自身が英文の国際学術誌を検索し、その多くの各術報告の中から学生自身が信憑性が高いと判断した学術報告を選び出し、読解し、内容を要約してまとめ、同じ演習を受講している学生と教員に配布して、全員を対象にプレゼンテーションを行う。また、他の学生のプレゼンテーションを聞いて疑問点を質疑する。このようにして、情報選択能力と要約能力を習得し、また、信頼できるデータを基にした食品機能成分の有効性を理解する能力を身につけることを目標とする。							
概要	<p>タンパク質の消化分解物であるペプチドは食欲増進や抗うつ作用を示すという研究、また、体内吸収されたポリアミン類が遺伝子の異常メチル化を抑えるなどの学術方向を検索し、読解して、発表する。</p> <p>ポリフェノール類の体内吸収機構を理解した上で、ヒト体内でのフラボノイドのグルコース輸送担体の機能調整による糖尿病予防、血管新生抑制、発がん関連受容体の機能調節を介したがん予防、抗酸化効果による疾患予防などの学術報告を検索し、読解して、発表する。</p> <p>フェニルプロパノイド類のいくつかの種類、例えば、レスベラトロールがナノモルレベルの濃度で脳神経系に作用して認知症軽減やリラックス効果を示すなどの機能性の学術報告を検索し、読解して、発表する。キサントフィル類がPPARsに作用して脂質代謝系を調節することでメタボリックシンドローム予防、肥満抑制、抗炎症などの機能性を示すという学術論文を検索し、読解して、発表する。</p> <p>食物繊維が消化管上皮細胞のデグトンなどの受容体を介して体内サイトカイン分泌を調節することで免疫応答系を調節し、アレルギー予防、うつ病軽減、感染症予防などの機能性を示すという学術報告を検索し、読解して、発表する。</p> <p>以上の学術報告の中から集約して信頼できるデータを選別し、また、ヒトでの有効性に焦点を絞って論じているメタアナリシスの学術を探し出し、システムティックレビューとしてまとめる。</p> <p>*実務経験のある教員による授業科目 実験で取り上げる食品関連の研究は、金沢、福田は企業において、日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。</p>							
評価方法	演習では課題を定めて発表を行うが、その準備のために学術報告を精査する。そこで、多くの学術報告の中から信頼できる情報を選択する能力(25%)、発表能力(25%)、疑問点の要約能力(25%)、質疑応答での疑問点抽出能力(25%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	栄養化学、食品化学、生物学、化学の知識を必須する。授業前に課題の案として、学術報告のコピーを複数配布するので、ファイルを準備すること。							
自己学習	毎回の授業終了時に次回演習の課題を示す。その課題に関する学術を収集して熟読することで課題発表の準備を行う。また、課題発表終了時に、発表内容で不明であった点、疑問点などを示す。これらの回答を、再度、学術論文を詳読することで復習する。さらに、疑問点が残れば、次回の講義あるいはオフィスアワーで質問する。							
オフィスアワー	各回の授業時に時間を取って教員が対応する。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
第1回 学術報告の収集法	演習	金沢 功	第1～2回 植物アントラキノンについて課題発表、疑問点抽出、解答調査			演習	金沢 功	
第2回 学術報告の精査選別法	演習	福田恵温	第3～8回 植物キサントフィルについて課題発表、疑問点抽出、解答調査			演習	金沢 功	
第3～4回 学術報告から信頼できる正確な情報を得る。	演習	福田恵温	第9～12回 植物アルカロイドについて課題発表、疑問点抽出、解答調査			演習	金沢 功	
第5～7回 植物フェニルプロパノイドの三次機能に関する課題発表	演習	福田恵温	第13～15回 ヒト消化器官内で成長するペプチドの三次機能に関する課題発表と疑問点抽出及び回答の調査			演習	金沢 功	
第8～9回 植物フェニルプロパノイドの機能性の疑問点抽出とその回答を示唆する学術論文の調査	演習	福田恵温						
第10～15回 植物フラボノイドについて課題発表、疑問点抽出、解答調査	演習	福田恵温						
教科書 1	特になし							
教科書 2								
参考書 1	「農芸化学の事典」、「食品大百科事典」 出版社:朝倉書店							
参考書 2	色から見た食品のサイエンス 出版社:(株)サイエンスフォーラム							

授業科目名	食品機能開発化学専攻実験			履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	土井 裕司、金沢 功					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	8	時間数	240	授業形態	実験・実習
テーマと到達目標	講義と演習で得た知識を応用して実践し、農作物がヒトの健康増進機能成分を多様に含んでいることを、研究成果としてまとめる能力を身につけ、また、それを応用するのが「食品機能開発化学専攻実験の」目標である。その目標を達成するために、学生個々が研究対象作物を選択し、その機能性成分を文献情報などで収集し、これまでに身につけた分析技術を活用して分析する。また、その分析結果を踏まえて、機能性成分を適量含み、かつ、美味しい地域特産の農作物の開発を試みる。そして、それらの成果を研究報告としてまとめる。						
概要	それぞれの学生が目的とする農作物を選び、それに含まれる食品成分の一般分析を行う。その農作物に含まれるフラボノイド類とテルペノイドについてはHPLCで分離溶出して、3次元検出器で解析することで同定する。また、その農作物に含まれるシステイン誘導体類などの含硫化合物をGC/MSで分析することで同定する。さらに、食物繊維についても加水分解し、TLCに供して構成糖を同定する。対象とした農作物をより好ましいものに改良するために、栽培時の太陽光選別照射とマルチ使用法の工夫によるフラボノイドの増産を試みる。同様にキサントフィル類の増産を試みる。栽培時の土壌温度をマルチ使用で調節することで、糖質の甘味を適度に含む栽培法を工夫する。フラボノイド類やキサントフィル類の適度な苦味と、糖質の甘味、タンパク質の旨味が適切に混合した美味しい農作物の栽培法を創出する試みをする。以上の研究成果を論文としてまとめる。						
評価方法	実習後にその記録を、分析方法、結果、まとめ、考察として記入して提出する。提出物の内容から、理解度(30%)、習得度(30%)、達成度(20%)、まとめの適切さ(20%)を判定し、総合評価する。						
履修条件・注意事項	化学実験技術を十分に習得していること。実験の手法と手順を概説したプリントを配布するので、ファイルを用意しておくこと。授業計画に示した内容について、半期ごとに実験技術および知識等の習得状況を確認していくこと。それが十分でないときは補習等を行う。						
自己学習							
オフィスアワー							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1年次 第1～5回 食品成分の一般分析で、精度高い定量技術を習得 第6～10回 逆相HPLC分析でフラボノイド類の同定と定量 第11～15回 順相HPLC分析でテルペノイドの同定と定量 第16～20回 システイン誘導体のGC/MS分析 第21～23回 食物繊維の加水分解とTLCでの構成糖の同定 第24～28回 テクスチャーメーターでの食品の粘弾性測定 第29～30回 まとめ	実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習	土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢	第1～2回 機能性成分増産栽培法の準備 第3～6回 栽培中の気温、太陽光照射度、成長度などの測定とサンプリング 第7回 サンプルからのフラボノイド類とキサントフィル類の抽出および定量 第8～29回 第3～7回の繰り返し 第30回 フラボノイド類とキサントフィル類の増産栽培結果の整理	実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習	土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢		
2年次 第1～2回 糖質含量改善栽培法の準備 第3～6回 栽培中の気温、太陽光照射度、成長度などの測定と適時サンプリング 第7回 サンプルの糖度測定と糖質を抽出しての定量 第8～29回 第3～7回の繰り返し 第30回 糖質含量改善栽培の分析結果の整理とまとめ	実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習	土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢	2年次 第1～2回 機能性成分と糖質を好ましい比率で含む作物の栽培 第3～4回 機能性成分と糖質の適時定量、および適時呈味性試験 第5～10回 第1～4回を継続しながら、ジビエと魚肉加工 第11～15回 第1～4回を継続しながら、加工食品の粘弾性測定 第16～21回 第1～4回を継続しながら、栽培作物を混合してジビエと肉加工品を作成し、そのテクスチャーと味の評価 第22～27回 分析結果と味覚試験結果の整理 第28～30回 栽培法を改善した地域特産農産物と、それを利用した特産加工品に関する研究論文の作成	実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習	土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢 土井・金沢		
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	機能性食品の事典 出版社:朝倉書店						
参考書 2	色から見た食品のサイエンス 出版社:サイエンスフォーラム						

授業科目名	農業経済学特論				履修期	2021年度 春学期		
担当者	濱島 敦博					NO.	AR-AR-2-401	
配当学科	地域創成農				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	経済学の基礎理論に立脚した農業経済に関する基礎知識を習得し、日本農業の特性、課題を経済学的に把握できるようになることを到達目標とする。							
概要	本講義は、地域創成農学部において、経済的側面から農業を把握するための基礎的な導入科目として位置づけられる。そのため、人口、土地・労働、流通・市場、集落構造等、農業に関連する幅広いトピックスについて、経済学的解釈をしつつ、網羅的に教授する。							
評価方法	定期試験またはレポートによって評価する。							
履修条件・注意事項								
自己学習	予復習として、講義が始まる前に前回のレジュメ資料に目を通しておくこと。							
オフィスワ-	火曜日4限、木曜日2限							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1 農業経済とは 2 食料問題と農業調整問題 3 人口増加と栄養不足人口 4 食料の生産と分配 5 経済発展と農業 6 日本農業の特徴と零細分散錯圃 7 農地改革と農地法 8 農業基本法と自立経営 9 新しい基本法と担い手の育成 10組織経営体と企業の農業進出 11農産物の市場と流通 12農産物の需要と供給 13農産物と需要の価格弾力性 14農産物貿易 15農産物流通の新たな動き 16単位認定試験			授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 筆記試験	濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 外部講師 濱島				
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	『農業経済学』 荏開津典生 出版社:岩波書店							
参考書 2								

授業科目名	開発経済学特論				履修期	2021年度 春学期		
担当者	濱島 敦博					NO.	AR-AR-3-411	
配当学科	地域創成農				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	経済発展論は、経済学のツールを用いて、開発途上国の経済発展のメカニズム・経路・手法を分析する学問領域である。開発経済学の基礎理論を理解した上で、個々の国・地域の経済発展の経路における多様性の存在を理解することをもって到達目標とする。							
概要	本講義では、東・東南アジアを中心とした国・地域の事例を紹介しながら、開発経済学の基礎理論を教授する。							
評価方法	試験(80%)、授業態度(20%)にて評価を行う。							
履修条件・注意事項								
自己学習	予復習として、講義が始まる前に前回のレジュメ資料に目を通しておくこと。							
オフィスワ-	火曜日4限、木曜日2限							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回	ガイダンス・授業概要の説明	講義	濱島					
第2回	開発経済学とは:開発経済学の視野と課題	講義	濱島					
第3回	開発経済学の理論的系譜	講義	濱島					
第4回	開発問題と人口:人口転換理論と	講義	濱島					
第5回	労働力移動:二重経済論モデル	講義	濱島					
第6回	工業化①:輸入代替工業化と輸出志向工業化	講義	濱島					
第7回	工業化②:海外直接投資とプロダクトサイクル	講義	濱島					
第8回	農村慣行:分益小作と定額小作	講義	濱島					
第9回	貧困問題と所得格差	講義	濱島					
第10回	マイクロファイナンス	講義	濱島					
第11回	政府開発援助	講義	濱島					
第12回	中所得国の罫	講義	濱島					
第13回	経済発展と市場①:市場経済論の二つの潮流	講義	濱島					
第14回	経済発展と市場②:発展の多様性と固有性	講義	濱島					
第15回	まとめ	講義	濱島					
第16回	単位認定試験	筆記試験	濱島					
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	『開発経済論』原洋之介 出版社:岩波書店							
参考書 2								

授業科目名	農業経済学研究演習 I			履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	濱島 敦博				NO.		
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	8	時間数	120	授業形態 演習	
テーマと到達目標	農業経済または開発経済学の大学院生用のテキスト、及び日本を含む、東・東南アジア地域を対象とした農業・農村問題に関する各種文献の購読を中心に、現在、農業経済学及び開発経済学に分野において議論されている内容を学び、修士論文を作成するために必要な方法論を取得する。2年間の演習を通じて、社会科学領域の学術的研究における多角的な方法を扱うことができるようになることを目指す。また、文書作成能力やプレゼンテーションスキルなど、大学院修了後に求められる、実践的能力を身につける。						
概要	1年次には、本演習は、演習参加者による、各種文献(テキストや先行研究・報告書等)の輪読形式で進め、修士論文のテーマの設定や、統計解析(計量経済)及び現地調査(アンケート調査、エスノグラフィー調査)、史資料判読など、修士論文の作成に必要な方法を身につける。2年次には、各自の研究の進捗状況に応じた研究内容の発表を中心に進める。						
評価方法	研究内容の発表(50%)、課題提出(50%)により評価。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	ミクロ経済学及びマクロ経済学のテキスト初学者については、演習の前後に予習・復習として、然るべきテキストの該当箇所を読むこと。テキストは熟者の学習程度に応じて適宜支持する。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する。)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法 担当者	
第1回 オリエンテーション		演習	濱島	第1回 オリエンテーション		演習	濱島
第2回 テキスト輪読(第1章 経済学、制度、開発、第2章 経済発展の開発の比較分析)		演習	濱島	第2回 先行研究の読解① 先行研究の収集方法		演習	濱島
第3回 テキストの輪読(第3章 経済成長と開発の古典的理論)		演習	濱島	第3回 学術論文の読解② レジュメの切り方		演習	濱島
第4回 テキストの輪読(第4章 開発と低開発の現代モデル)		演習	濱島	第4回 先行研究の読解③ 発表の仕方		演習	濱島
第5回 テキストの輪読(第5章 貧困、不平等とそして開発)		演習	濱島	第5回 先行研究の読解④ 質疑応答の仕方		演習	濱島
第6回 テキストの輪読(第6章 人口増加と経済開発:原因、結果、及び論争)		演習	濱島	第6回 先行研究の読解⑤ 経済モデル		演習	濱島
第7回 テキストの輪読(第7章 都市化及び農村から都市への人口移動)		演習	濱島	第7回 先行研究の読解⑥ 定量的研究		演習	濱島
第8回 テキストの輪読(第8章 人的資本:経済開発における教育と研究)		演習	濱島	第8回 先行研究級の読解⑦ 定性的研究(現地調査)		演習	濱島
第9回 テキストの輪読(第9章 農業の変容と農村開発)		演習	濱島	第9回 研究計画の策定① テーマの設定の仕方		演習	濱島
第10回 テキストの輪読(第10章 環境と開発)		演習	濱島	第10回 研究計画の策定② 実証方法の選択		演習	濱島
第11回 テキストの輪読(第11章 開発政策策定と市場、国家及び市民社会の役割)		演習	濱島	第11回 研究計画の策定③ データの収集の仕方		演習	濱島
第12回 テキストの輪読(第12章 国際貿易理論と開発戦略)		演習	濱島	第12回 研究計画の策定④ 史資料収集の仕方		演習	濱島
第13回 テキストの輪読(第13章 国際収支、開発途上国の責務とマクロ経済安定化論争)		演習	濱島	第13回 研究計画の発表① テーマと方法論		演習	濱島
第14回 テキストの輪読(第14章 海外融資、海外投資と海外援助)		演習	濱島	第14回 研究計画の発表② データ・史資料収集計画		演習	濱島
第15回 テキストの輪読(第15章 開発のための金融と財政政策)		演習	濱島	第15回 総括		演習	濱島
教科書 1	トダロとスミスの開発経済学(第10版) 著者:マイケル・P・トダロ(ピアソン桐原) 出版社:国際協力出版社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	農業経済学研究演習Ⅱ			履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	濱島 敦博				NO.		
配当学科	地域創成農学研究科 地域創成農学専攻			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	8	時間数	120	授業形態	演習
テーマと到達目標	農業経済または開発経済学の大学院生用のテキスト、及び日本を含む、東・東南アジア地域を対象とした農業・農村問題に関する各種文献の購読を中心に、現在、農業経済学及び開発経済学に分野において議論されている内容を学び、修士論文を作成するために必要な方法論を取得する。2年間の演習を通じて、社会科学領域の学術的研究における多角的な方法を扱うことができるようになることを目指す。また、文書作成能力やプレゼンテーションスキルなど、大学院修了後に求められる、実践的能力を身につける。						
概要	1年次には、本演習は、演習参加者による、各種文献(テキストや先行研究・報告書等)の輪読形式で進め、修士論文のテーマの設定や、統計解析(計量経済)及び現地調査(アンケート調査、エスノグラフィー調査)、史資料判読など、修士論文の作成に必要な方法を身につける。2年次には、各自の研究の進捗状況に応じた研究内容の発表を中心に進める。						
評価方法	研究内容の発表(50%)、課題提出(50%)により評価。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	ミクロ経済学及びマクロ経済学のテキスト初学者については、演習の前後に予習・復習として、然るべきテキストの該当箇所を読むこと。テキストは熟者の学習程度に応じて適宜支持する。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する。)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 オリエンテーション		演習	濱島	第1回 オリエンテーション		演習	濱島
第2回 テキスト輪読(第1章 経済学、制度、開発、第2章 経済発展の開発の比較分析)		演習	濱島	第2回 先行研究の読解① 先行研究の収集方法		演習	濱島
第3回 テキストの輪読(第3章 経済成長と開発の古典的理論)		演習	濱島	第3回 学術論文の読解② レジュメの切り方		演習	濱島
第4回 テキストの輪読(第4章 開発と低開発の現代モデル)		演習	濱島	第4回 先行研究の読解③ 発表の仕方		演習	濱島
第5回 テキストの輪読(第5章 貧困、不平等とそして開発)		演習	濱島	第5回 先行研究の読解④ 質疑応答の仕方		演習	濱島
第6回 テキストの輪読(第6章 人口増加と経済開発:原因、結果、及び論争)		演習	濱島	第6回 先行研究の読解⑤ 経済モデル		演習	濱島
第7回 テキストの輪読(第7章 都市化及び農村から都市への人口移動)		演習	濱島	第7回 先行研究の読解⑥ 定量的研究		演習	濱島
第8回 テキストの輪読(第8章 人的資本:経済開発における教育と研究)		演習	濱島	第8回 先行研究級の読解⑦ 定性的研究(現地調査)		演習	濱島
第9回 テキストの輪読(第9章 農業の変容と農村開発)		演習	濱島	第9回 研究計画の策定① テーマの設定の仕方		演習	濱島
第10回 テキストの輪読(第10章 環境と開発)		演習	濱島	第10回 研究計画の策定② 実証方法の選択		演習	濱島
第11回 テキストの輪読(第11章 開発政策策定と市場、国家及び市民社会の役割)		演習	濱島	第11回 研究計画の策定③ データの収集の仕方		演習	濱島
第12回 テキストの輪読(第12章 国際貿易理論と開発戦略)		演習	濱島	第12回 研究計画の策定④ 史資料収集の仕方		演習	濱島
第13回 テキストの輪読(第13章 国際収支、開発途上国の責務とマクロ経済安定化論争)		演習	濱島	第13回 研究計画の発表① テーマと方法論		演習	濱島
第14回 テキストの輪読(第14章 海外融資、海外投資と海外援助)		演習	濱島	第14回 研究計画の発表② データ・史資料収集計画		演習	濱島
第15回 テキストの輪読(第15章 開発のための金融と財政政策)		演習	濱島	第15回 総括		演習	濱島
教科書 1	トダロとスミスの開発経済学(第10版) 著者:マイケル・P・トダロ(ピアソン桐原) 出版社:国際協力出版社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	(研究指導)				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期			
担当者	相野 公孝					NO.	AR-AR-4-518		
配当学科	地域創成農学研究科				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	0	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	植物病理学に関する研究・実験に主体的に取り組み、科学的な思考力を身に付け、卒業論文を完成させる。								
概要	<p>「植物に病気を引き起こすメカニズムの解明」といった基礎研究から、「地域農業生産現場に必要な技術の開発」といった応用研究まで、幅広く取り組んでいく。研究を遂行するのに必要となる知識や技術の修得を、「地域創生農学演習」などの講義を通じて包括的にサポートする。また、卒業論文の作成に向けて、ただ単に機械的な作業を繰り返すだけではなく、生命現象そのものへの興味を高める指導を実践していく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 本授業内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。</p>								
評価方法	卒業論文の作成・提出(50%)およびその過程(50%)で評価する。								
履修条件・注意事項	植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。卒業研究を開始する前に、実験を安全に進めるためのレクチャーを行うので、必ず参加すること。								
自己学習	卒業研究課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね1時間程度復習し、必要に応じて予習も心かける。								
オフィスアワー	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分を実施								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明)			実験・実習	相野・村上	第1回 顕微鏡による病原菌の観察			実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習	相野・村上
第2回 研究課題の選択(教員からの提示)			実験・実習		第2回 細胞染色法				
第3回 研究課題の選択(聞き取り調査:地域農業研究機関、農業協同組合、地域農家など)			実験・実習		第3回 核酸の抽出(DNA)				
第4回 研究課題の最終決定(教員との討議)			実験・実習		第4回 PCRによる病原菌の検出				
第5回 実験施設の使用法(安全講習などを含む)			実験・実習		第5回 DNAシーケンサーによる病原菌種の特異性				
第6回 実験器具・機器の扱い方			実験・実習		第6回 卒業論文の作成指導(データの解析)				
第7回 研究圃場の整備(耕運・畝立てなど)			実験・実習		第7回 卒業論文の作成指導(図・表の作成)				
第8回 研究用植物の播種(夏季作物)			実験・実習		第8回 卒業論文の作成指導(引用文献の収集)				
第9回 病原菌の採集			実験・実習		第9回 卒業論文の作成指導(研究概要・背景)				
第10回 各種培地の作成			実験・実習		第10回 卒業論文の作成指導(材料・方法)				
第11回 植物病原菌の培養			実験・実習		第11回 卒業論文の作成指導(結果)				
第12回 植物病原菌の保存			実験・実習		第12回 卒業論文の作成指導(総合考察)				
第13回 病原菌の接種試験			実験・実習		第13回 卒業論文の作成指導(校閲・修正)				
第14回 接種試験の評価			実験・実習		第14回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(スライドの作成)				
第15回 期末報告(進捗状況の確認)			実験・実習		第15回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(発表練習)				
教科書 1	事前に資料を配布								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	(研究指導)				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	福田 恵温					NO.	AR-AR-4-518	
配当学科	地域創成農				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	0	時間数	60	授業形態	演習	
テーマと到達目標	植物病理学に関する研究・実験に主体的に取り組み、科学的な思考力を身に付け、卒業論文を完成させる。							
概要	「植物に病気を引き起こすメカニズムの解明」といった基礎研究から、「地域農業生産現場に必要な技術の開発」といった応用研究まで、幅広く取り組んでいく。研究を遂行するのに必要となる知識や技術の修得を、「地域創生農学演習」などの講義を通じて包括的にサポートする。また、卒業論文の作成に向けて、ただ単に機械的な作業を繰り返すだけではなく、生命現象そのものへの興味を高める指導を実践していく。							
評価方法	卒業論文の作成・提出(50%)およびその過程(50%)で評価する。							
履修条件・注意事項	植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。卒業研究を開始する前に、実験を安全に進めるためのレクチャーを行うので、必ず参加すること。							
自己学習	卒業研究課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね1時間程度復習し、必要に応じて予習も心がける。							
オフィスワ-	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分を実施							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明)		実験・実習	谷坂・福田・村上・桧原	第1回 顕微鏡による病原菌の観察			実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習 実験・実習	谷坂・福田・村上・桧原
第2回 研究課題の選択(教員からの提示)		実験・実習		第2回 細胞染色法				
第3回 研究課題の選択(聞き取り調査:地域農業研究機関、農業協同組合、地域農家など)		実験・実習		第3回 核酸の抽出(DNA)				
第4回 研究課題の最終決定(教員との討議)		実験・実習		第4回 PCRによる病原菌の検出				
第5回 実験施設の使用法(安全講習などを含む)		実験・実習		第5回 DNAシーケンサーによる病原菌種の特定				
第6回 実験器具・機器の扱い方		実験・実習		第6回 卒業論文の作成指導(データの解析)				
第7回 研究圃場の整備(耕運・畝立てなど)		実験・実習		第7回 卒業論文の作成指導(図・表の作成)				
第8回 研究用植物の播種(夏季作物)		実験・実習		第8回 卒業論文の作成指導(引用文献の収集)				
第9回 病原菌の採集		実験・実習		第9回 卒業論文の作成指導(研究概要・背景)				
第10回 各種培地の作成		実験・実習		第10回 卒業論文の作成指導(材料・方法)				
第11回 植物病原菌の培養		実験・実習		第11回 卒業論文の作成指導(結果)				
第12回 植物病原菌の保存		実験・実習		第12回 卒業論文の作成指導(総合考察)				
第13回 病原菌の接種試験		実験・実習		第13回 卒業論文の作成指導(校閲・修正)				
第14回 接種試験の評価		実験・実習		第14回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(スライドの作成)				
第15回 期末報告(進捗状況の確認)		実験・実習		第15回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(発表練習)				
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	(研究指導)				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期			
担当者	濱島 敦博					NO.	AR-AR-4-518		
配当学科	地域創成農				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	0	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	本学部の専門教育課程の集大成として卒業論文を作成することを目標とする。								
概要	演習Ⅲ及び演習Ⅳで学んだスキル・知識を用いながら、同演習の受講を通じて卒業論文を完成させる。								
評価方法	課題提出(50%)及び発表(50%)によって評価する。								
履修条件・注意事項									
自己学習	関連文献を積極的に自ら読み込むこと。								
オフィスワ-	火曜日4限、木曜日2限。A402号室(濱島)。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション			AL	濱島	1.オリエンテーション			AL	濱島
2.研究計画の発表(課題設定)			AL	濱島	2.研究発表(進捗状況の報告)			AL	濱島
3.研究計画の発表(実証方法)			AL	濱島	3.収集データの分析			AL	濱島
4.データの集め方			AL	濱島	4.収集史資料の分析			AL	濱島
5.史資料の集め方			AL	濱島	5.分析結果の検討(データ)			AL	濱島
6.データの計量的処理の仕方			AL	濱島	6.分析結果の検討(史資料)			AL	濱島
7.史資料の読み方			AL	濱島	7.中間報告			AL	濱島
8.研究計画の発表(.課題設定の再検討)			AL	濱島	8.補足調査の計画			AL	濱島
9.研究計画の発表(実証方法の再検討)			AL	濱島	9.補足調査の実施			AL	濱島
10.データ収集調査			AL	濱島	10.補足調査の整理			AL	濱島
11.史資料収集調査			AL	濱島	11.結果のまとめ			AL	濱島
12.収集データの検討			AL	濱島	12.結果の妥当性の検証			AL	濱島
13.収集史資料の検討			AL	濱島	13.論文の作成①'(文章の校正)			AL	濱島
14.研究の方向性の確認			AL	濱島	14.論文の作成②(図表の整理)			AL	濱島
15.総括			AL	濱島	15.研究発表			AL	濱島
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	(研究指導)			履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	桧原 健一郎					NO.	AR-AR-4-518
配当学科	地域創成農学研究科			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	0	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	大学院生が決めた栽培・育種学に関連したテーマに基づいて、実験計画を立てて実験・調査・研究を行い、大学で学んだ知識や考え方をもとに、新たな発見を見出していくことを目標とする						
概要	栽培・育種学に関連した研究内容を担当教員と議論しながら決め、実験・調査・研究を行っていく。また、研究内容については学生が主体となり、学術論文や書籍などからこれまでの知見や研究内容について理解を深める。得られた研究成果をまとめ、それから考えられる考察を行い、修士論文を作成するとともに修士論文発表会において口頭形式で発表を行う。						
評価方法	実験・調査・研究に関する態度および研究成果の取りまとめた修士論文製作、修士論文発表会をもって総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	演習以外の時間も自主的に実験や学習を行うこと						
自己学習	学術論文などを用いて自分の研究内容について自主的に学習するとともに、研究から得られた結果に対する考察を行うこと。これら予習、復習には各2時間を必要とする。						
オフィスワ-	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.卒業論文研究テーマの決定 2.研究計画 3.実験手法 4.データの取得方法 5.実験手順の確認 6.実験準備 7.実験-DNA抽出 8.実験-PCR 9.実験-電気泳動 10.実験結果のまとめ 11.結果の分析 12.統計解析 13.研究成果に対する考察 14.中間発表 15.秋学期に向けての課題の検討	ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ 実習 実習 実習 実習 ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ	桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎	1.データの分析 2.実験手順の確認 3.実験準備 4.実験-組織固定 5.実験-切片作成 6.実験-脱パラフィンと染色 7.実験データの収集 8.実験データの整理 9.実験結果のまとめ 10.結果の分析 11.統計解析 12.研究成果に対する考察 13.報告・発表準備 14.研究内容の確認・修正 15.卒業論文発表会事前準備 16.卒業論文発表会	ゼミ ゼミ 実習 実習 実習 実習 ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ 発表会	桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎 桧原健一郎		
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	(研究指導)				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期			
担当者	氷見 英子					NO.	AR-AR-4-518		
配当学科	地域創成農				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	0	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	栽培及び育種学に関する研究・実験に主体的に取り組み、科学的な思考力を身に付け、卒業論文を完成させる。								
概要	「植物形態に関わる遺伝子の同定」といった基礎研究から、「地域農業生産現場に必要な技術の開発」といった応用研究まで、幅広く取り組んでいく。研究を遂行するのに必要となる知識や技術の修得を、「地域創成農学演習」などの講義を通じて包括的にサポートする。また、卒業論文の作成に向けて、ただ単に機械的な作業を繰り返すだけではなく、生命現象そのものへの興味を高める指導を実践していく。								
評価方法	卒業論文の作成・提出(50%)およびその過程(50%)で評価する。								
履修条件・注意事項	栽培・育種分野に選考分属した学生を対象とする。卒業研究を開始する前に、実験を安全に進めるためのレクチャーを行うので、必ず参加すること。								
自己学習	卒業研究課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね1時間程度復習し、必要に応じて予習も心がける。								
オフィスワ-	事前にアポイントを取れば、対応する。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明)			実験・実習	谷坂・桧原・氷見・許	第1回 顕微鏡を用いた植物形態の観察			実験・実習	谷坂・桧原・氷見・許
第2回 研究課題の選択(教員からの提示)			実験・実習		第2回 RNA抽出			実験・実習	
第3回 研究課題の選択(聞き取り調査:地域農業研究機関、農業協同組合、地域農家など)			実験・実習		第3回 逆転写実験			実験・実習	
第4回 研究課題の最終決定(教員との討議)			実験・実習		第4回 クローニング実験			実験・実習	
第5回 実験施設の使用法(安全講習などを含む)			実験・実習		第5回 シークエンス解析			実験・実習	
第6回 実験器具・機器の扱い方			実験・実習		第6回 卒業論文の作成指導(データの解析)			実験・実習	
第7回 研究圃場の整備(耕運・畝立てなど)			実験・実習		第7回 卒業論文の作成指導(図・表の作成)			実験・実習	
第8回 研究用植物の播種(夏季作物)			実験・実習		第8回 卒業論文の作成指導(引用文献の収集)			実験・実習	
第9回 植物の形態調査			実験・実習		第9回 卒業論文の作成指導(研究概要・背景)			実験・実習	
第10回 研究用植物の採取			実験・実習		第10回 卒業論文の作成指導(材料・方法)			実験・実習	
第11回 DNAの抽出			実験・実習		第11回 卒業論文の作成指導(結果)			実験・実習	
第12回 PCR解析			実験・実習		第12回 卒業論文の作成指導(総合考察)			実験・実習	
第13回 シークエンス解析			実験・実習		第13回 卒業論文の作成指導(校閲・修正)			実験・実習	
第14回 遺伝子配列と形態比較			実験・実習		第14回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(スライドの作成)			実験・実習	
第15回 期末報告(進捗状況の確認)			実験・実習		第15回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(発表練習)			実験・実習	
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	(研究指導)				履修期	2021年度 春学期～2022年度 秋学期			
担当者	村上 二郎					NO.	AR-AR-4-518		
配当学科	地域創成農(修士)				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	0	時間数	60	授業形態	演習		
テーマと到達目標	植物病理学に関する研究・実験に主体的に取り組み、科学的な思考力を身に付け、卒業論文を完成させる。								
概要	「植物に病気を引き起こすメカニズムの解明」といった基礎研究から、「地域農業生産現場に必要な技術の開発」といった応用研究まで、幅広く取り組んでいく。研究を遂行するのに必要となる知識や技術の修得を、「地域創生農学演習」などの講義を通じて包括的にサポートする。また、卒業論文の作成に向けて、ただ単に機械的な作業を繰り返すだけではなく、生命現象そのものへの興味を高める指導を実践していく。								
評価方法	卒業論文の作成・提出(50%)およびその過程(50%)で評価する。								
履修条件・注意事項	植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。卒業研究を開始する前に、実験を安全に進めるためのレクチャーを行うので、必ず参加すること。								
自己学習	卒業研究課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね1時間程度復習し、必要に応じて予習も心がける。								
オフィスワ-	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分を実施								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明)			実験・実習	村上二郎	第1回 顕微鏡による病原菌の観察			実験・実習	村上二郎
第2回 研究課題の選択(教員からの提示)			実験・実習	村上二郎	第2回 細胞染色法			実験・実習	村上二郎
第3回 研究課題の選択(聞き取り調査:地域農業研究機関、農業協同組合、地域農家など)			実験・実習	村上二郎	第3回 核酸の抽出(DNA)			実験・実習	村上二郎
第4回 研究課題の最終決定(教員との討議)			実験・実習	村上二郎	第4回 PCRによる病原菌の検出			実験・実習	村上二郎
第5回 実験施設の使用法(安全講習などを含む)			実験・実習	村上二郎	第5回 DNAシーケンサーによる病原菌種の特定			実験・実習	村上二郎
第6回 実験器具・機器の扱い方			実験・実習	村上二郎	第6回 卒業論文の作成指導(データの解析)			実験・実習	村上二郎
第7回 研究圃場の整備(耕運・畝立てなど)			実験・実習	村上二郎	第7回 卒業論文の作成指導(図・表の作成)			実験・実習	村上二郎
第8回 研究用植物の播種(夏季作物)			実験・実習	村上二郎	第8回 卒業論文の作成指導(引用文献の収集)			実験・実習	村上二郎
第9回 病原菌の採集			実験・実習	村上二郎	第9回 卒業論文の作成指導(研究概要・背景)			実験・実習	村上二郎
第10回 各種培地の作成			実験・実習	村上二郎	第10回 卒業論文の作成指導(材料・方法)			実験・実習	村上二郎
第11回 植物病原菌の培養			実験・実習	村上二郎	第11回 卒業論文の作成指導(結果)			実験・実習	村上二郎
第12回 植物病原菌の保存			実験・実習	村上二郎	第12回 卒業論文の作成指導(総合考察)			実験・実習	村上二郎
第13回 病原菌の接種試験			実験・実習	村上二郎	第13回 卒業論文の作成指導(校閲・修正)			実験・実習	村上二郎
第14回 接種試験の評価			実験・実習	村上二郎	第14回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(スライドの作成)			実験・実習	村上二郎
第15回 期末報告(進捗状況の確認)			実験・実習	村上二郎	第15回 卒業論文発表会に関するプレゼンテーション資料の作成指導(発表練習)			実験・実習	村上二郎
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

地域創成農学研究科
博士（後期）課程

授業科目名	地域創成農学フロントライン			履修期	2021年度 春学期		
担当者	谷坂 隆俊、末吉 秀二、森野 真理、平井 順、濱島 敦博、眞山 滋志、村上 二朗、桧原 健一郎、福田 恵温、相野 公孝、氷見 英子、土井 裕司、林 将也					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>本専攻の教育研究上の目的は、農業生産、食品加工、農業経営・流通全般にわたる知識と技術を幅広く身につけることを基礎として、地域社会や国際社会における農業の状況や位置づけを的確に捉え、専門分野の探求によって培った高度な知識や技術を通して、地域社会の活性化に寄与できる研究者・専門的職業人を育成することである。</p> <p>本講義は、栽培・育種学、植物保護管理学、食品機能開発化学、地域経済社会学それぞれの分野の最新の研究トピックスを教授し学生各自の研究テーマの内容を深めることを目的とする。</p>						
概要	栽培・育種学、植物保護管理学、食品機能開発化学、地域経済社会学それぞれの分野における最新研究と、それら研究と地域創成との関係と重要性について講述したのち、教員と学生間でディスカッションを行い、講義内容の理解を図る。講義はオムニバス形式で行う。最終回は、担当教員全員と学生が集まり、地域創成と農学研究との関係について総合討論を行う。						
評価方法	レポートの内容と授業態度によって総合的に判断する。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	講義で学習したことを復習する。						
オフィスワ-	週に1回オフィスアワーを設定する(曜日、時間は研究室のドアに掲示する)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 世界の農業を支える育種及び栽培学の歩みと将来展望 第2回 病害発生と生物科学 第3回 味覚に関わる食品成分 第4回 機能性食品研究の進展 第5回 作物における遺伝子機能解析とその応用例 第6回 環境創造型農業を基軸とした地域社会の活性化 第7回 農業と生物多様性の関連性 第8回 酵素の様々な分野への応用 第9回 機能性糖質の開発と応用 第10回 農産物市場と産地形成 第11回 適地適作について 第12回 カビ毒汚染の事例紹介と診断防除法 第13回 発酵が及ぼす食品機能への影響 第14回 第一次産業と密接に関連する地域問題 第15回 地域創成における農学研究の役割	演習	谷坂隆俊 眞山滋志 土井裕司 末吉秀二 桧原健一郎 相野公孝 森野真理 福田恵温 福田恵温 濱島敦博 氷見英子 村上二朗 林将也 平井順 谷坂隆俊					
教科書 1	特になし。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	栽培・育種学フロントライン			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	谷坂 隆俊、桧原 健一郎、氷見 英子					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本専攻の教育研究上の目的は、農業生産、食品加工、農業経営・流通全般にわたる知識と技術を幅広く身につけることを基礎として、地域社会や国際社会における農業の状況や位置づけを的確に捉え、専門分野の探求によって培った高度な知識や技術を通して、地域社会の活性化に寄与できる研究者・専門的職業人を育成することである。本講義は、栽培・育種学、植物保護管理学、食品機能開発化学、地域経済社会学それぞれの分野の最新の研究トピックスを教授し学生各自の研究テーマの内容を深めることを目的とする。						
概要	栽培・育種学、植物保護管理学、食品機能開発化学、地域経済社会学それぞれの分野における最新研究と、それら研究と地域創成との関係と重要性について講述したのち、教員と学生間でディスカッションを行い、講義内容の理解を図る。講義はオムニバス形式で行う。最終回は、担当教員全員と学生が集まり、地域創成と農学研究との関係について総合討論を行う。						
評価方法	レポートの内容と授業態度によって総合的に判断する。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	講義で学習したことを復習する。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する(曜日、時間は研究室のドアに掲示する)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 世界の農業を支える育種及び栽培学の歩みと将来展望 第2回 病害発生と生物科学 第3回 味覚に関わる食品成分 第4回 人口変動と農業との相互作用および今後の農業社会の課題 第5回 作物における遺伝子機能解析とその応用例 第6回 環境創造型農業を基軸とした地域社会の活性化 第7回 農業と生物多様性の関連性 第8回 酵素の様々な分野への応用 第9回 機能性糖質の開発と応用 第10回 農産物市場と産地形成 第11回 適地適作について 第12回 カビ毒汚染の事例紹介と診断防除法 第13回 発酵が及ぼす食品機能への影響 第14回 第一次産業と密接に関連する地域問題 第15回 地域創成における農学研究の役割	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	谷坂隆俊 眞山滋志 土井裕司 末吉秀二 桧原健一郎 相野公孝 森野真理 福田恵温 福田恵温 濱島敦博 氷見英子 村上二郎 林将也 平井順 谷坂隆俊		
教科書 1	特になし。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	栽培・育種学演習				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	谷坂 隆俊、桧原 健一郎、許 冲、氷見 英子					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科(博士後期)				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習	
テーマと到達目標	自然科学系の学術論文は、その内容が世界的真理でなければならず、英文でまとめられることが一般的である。したがって、研究者には学術論文(英文)を自由に読み書きする高い能力が求められる。また、研究結果を第三者が理解できるように説明する能力も重要である。このような能力を身につけるため、本演習では栽培・育種学に関する国際的な学術論文(英文)を理解する能力を養うとともに、その内容を他人にわかりやすく説明できる能力を培う。また、学術論文(英文)の内容を吸収して各自の修士論文研究に活かすことを目標とする。							
概要	本演習では、1年次、2年次ともに春学期及び秋学期に1回ずつ、各学生がゼミ発表を行う。1年次では、学生は各自の修士論文テーマに関連する分野より国際的に重要な学術論文(英文)を選び、その内容をA4用紙2ページ程度に日本語でまとめ、教員及び他学生にわかりやすく説明する。また、2年次では、1年次の発展型として修士論文のテーマと関連する複数の科学論文(英文)を選び、その内容を総説として日本語でまとめ、口頭で発表する。発表後に質疑応答を行い、教員からは学生が学術論文(英文)を正しく理解できているかの確認を行い、他学生からは分かりにくかった部分を質問し、全員で幅広い知識の共有を図るとともに、プレゼンテーション能力を培う。また、修士論文研究の円滑な実施、取りまの為に実験計画検討会及び中間報告を行う。							
評価方法	口頭発表(プレゼンテーション)の内容、各回における質疑応答の内容、授業態度により総合評価する。							
履修条件・注意事項	特になし							
自己学習	各自が選んだ学術論文(英文)を読解し、日本語で要約し担当回にプレゼンテーションを行う。							
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する。)							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者	
第1回 栽培・育種学演習の進め方と意義について解説する。		演習	谷坂/桧原	第1～7回 学術論文(英文)紹介:学生は学術論文(英文)を選び、その内容を日本語でまとめるとともに、口頭で発表する。		演習	谷坂/桧原	
第2～3回 修士論文作成のための研究計画を発表するとともに、その内容を検討する。		演習	谷坂/桧原	第8～9回 修士論文研究の進捗状況について中間報告し今後の研究の方向について論議する。		演習	谷坂/桧原	
第4回 学術論文(英文)の要約と口頭発表の方法について教員が模範講義を行う。		演習	谷坂/桧原	第10～14回 学術論文(英文)紹介:学生は学術論文(英文)を選び、その内容を日本語でまとめるとともに口頭で発表する。		演習	谷坂/桧原	
第5～13回 学術論文(英文)紹介:学生は学術論文(英文)を選び、その内容を日本語でまとめるとともに、口頭で発表する。		演習	谷坂/桧原	第14～13回 学術論文(英文)紹介:学生は学術論文(英文)を選び、その内容を日本語でまとめるとともに、口頭で発表する。		演習	谷坂/桧原	
第14～15回 修士論文研究の進捗状況について中間報告し、今後の研究の方向について論議する。		演習	谷坂/桧原	第15回 修士論文研究に関する年度末報告書を行う。		演習	谷坂/桧原	
教科書 1	特になし							
教科書 2	特になし。							
参考書 1	特になし。							
参考書 2	特になし。							

授業科目名	植物保護管理学フロントライン				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	相野 公孝					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>本専攻の教育研究上の目的は、農業生産、食品加工、農業経営・流通全般にわたる知識と技術を幅広く身につけることを基礎として、地域社会や国際社会における農業の状況や位置づけを的確に捉え、専門分野の探求によって培った高度な知識や技術を通して、地域社会の活性化に寄与できる研究者・専門的職業人を育成することである。</p> <p>本講義は、栽培・育種学、植物保護管理学、食品機能開発化学、地域経済社会学それぞれの分野の最新の研究トピックスを教授し学生各自の研究テーマの内容を深めることを目的とする。</p>						
概要	栽培・育種学、植物保護管理学、食品機能開発化学、地域経済社会学それぞれの分野における最新研究と、それら研究と地域創成との関係と重要性について講述したのち、教員と学生間でディスカッションを行い、講義内容の理解を図る。講義はオムニバス形式で行う。最終回は、担当教員全員と学生が集まり、地域創成と農学研究との関係について総合討論を行う。						
評価方法	レポートの内容と授業態度によって総合的に判断する。						
履修条件・注意事項	特になし						
自己学習	講義で学習したことを復習する。						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する(曜日、時間は研究室のドアに掲示する)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 世界の農業を支える育種及び栽培学の歩みと将来展望 第2回 病害発生と生物科学 第3回 味覚に関わる食品成分 第4回 機能性食品研究の進展 第5回 作物における遺伝子機能解析とその応用例 第6回 環境創造型農業を基軸とした地域社会の活性化 第7回 農業と生物多様性の関連性 第8回 酵素の様々な分野への応用 第9回 機能性糖質の開発と応用 第10回 農産物市場と産地形成 第11回 適地適作について 第12回 カビ毒汚染の事例紹介と診断防除法 第13回 発酵が及ぼす食品機能への影響 第14回 第一次産業と密接に関連する地域問題 第15回 地域創成における農学研究の役割	演習	谷坂隆俊 眞山滋志 土井裕司 末吉秀二 桧原健一郎 相野公孝 森野真理 福田恵温 福田恵温 濱島敦博 水見英子 村上二郎 林将也 平井順 谷坂隆俊		
教科書 1	特になし。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	植物保護管理学演習				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期			
担当者	相野 公孝、森野 真理、眞山 滋志、村上 二郎					NO.			
配当学科	地域創成農学研究科（博士後期）				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習		
テーマと到達目標	植物保護のうち病害や獣害を対象とする。病害対策は依然として化学的防除に大きく依存しているが、薬剤耐性菌の発達が持続的な阻害する要因となっている。そこで、薬剤耐性菌の問題、さらにはその軽減にもつながる作物の病害抵抗性品種や病害抵抗誘導剤、生物由来の資材などを利用した代替防除技術について理解を深める。また、分子生物学的手法を用いた病原体やマイコトキシン生産菌の診断、獣害の実態把握や生態系管理と対策の構築などについて2年間学ぶ。これを通じて、大学院修了後に社会の各方面で必要となる文書作成やプレゼンテーションの能力を養うと共に、専門的知識を持つ専門知識を持つ農業の担い手や植物保護アドバイザー等の育成に貢献する。								
概要	作物保護とりわけ植物病原菌の薬剤耐性や作物の病害抵抗性品種、病害抵抗性誘導剤、レタスビックベイン病、イネ科作物赤カビ病菌のマイコトキシン、獣害発生の要因、防除管理の手法と制度。野生動物の生態特性などに関する国内外の学術論文・資料の中から、学生が研究課題に即した文献を選抜・熟読し、レジュメやパワーポイントなどにまとめて発表を行う。発表内容に関して教員や他の学生との質疑応答や討論を行い、文書作成やプレゼンテーションの能力を養う。また、「植物保護学専攻実験」の結果についても適宜発表して実験のブラッシュアップにつなげたり、必要に応じて現地調査や関連機関へのヒアリングなどのフィールドワーク演習を行う。 ※実務経験のある教員による授業科目 本授業内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。								
評価方法	発表の為に作成した配布資料やパワーポイントスライドの質、発表や受け答えの能力、更には他社の発表に対して積極的に質問しているかなど、演習態度も加味して総合評価する。								
履修条件・注意事項	毎回資料が配布されるので、第1回演習からファイルを用意すること。								
自己学習	演習の発表者と課題は事前に連絡されるので、その課題について予習する。また、演習時に配布される資料を事後必ず読み返して復習する。理解できない点があれば教員に質問し、解答を求める。								
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間は研究室のドアに掲示する。)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
「(1)植物保護に関して各自が解決したい研究課題を選択決定できること、(2)それを追求するための実験・調査計画の立案(背景、目的、実験材料及び方法など)、実験や調査を遂行のための技術・手法の習得ができること、(3)結果の解析・評価法、考察の在り方について学び、学術論文の書式についても理解すること」について、適宜課題を設定してゼミ形式で学習を進める。また、研究・調査課題の遂行に必要な実験・調査手法についても指導を行う。これら3項目について、学生の学習状況に合わせて適宜繰り返し指導する。			演習	相野公孝 森野真理 眞山滋志 村上二郎	「(1)植物保護に関する研究課題を追求するための実験・調査計画の立案(背景、目的、実験材料及び手法など)、実験や調査を遂行のための技術・手法の習得が出来ること、(2)結果の解析・評価法、考察のあり方について学び、学術論文の書式についても理解すること」について、適宜課題を設けてゼミ形式で学習を進める。また、研究・調査課題の遂行に必要な実験・調査手法についても指導を行う。 これらの2項目について、学生の学習状況に合わせて適宜繰り返し指導する。			演習	相野公孝 森野真理 眞山滋志 村上二郎
教科書 1	事前に資料を配布								
教科書 2	特になし								
参考書 1	特になし								
参考書 2	特になし								

授業科目名	食品機能開発化学フロントライン			履修期	2021年度 秋学期		
担当者	土井 裕司、福田 恵温、林 将也					NO.	
配当学科	地域創成農学研究科			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本研究科がフィールドとする南あわじ地域は日本で消費されているほぼ全種類の農畜水産物が生産でき、いずれの産物も味が良いと評価が高い。しかしこの多様な生産と味の高い評価を維持するには、常なる改良と新規開発の努力が必要である。本講義のテーマは、食品化学の観点から、栄養価、味、機能性の点で従来よりも優れた農畜水産物の生産法および産物の加工法を講述して受講生と議論することである。達成目標は、学生が講述と議論から習得した理論を、農畜水産物の加工に実践応用するための詳細な研究計画を立案することができる能力を身につけることである						
概要	人は食物の味を口腔の味覚受容体で感じるが、これは迷走神経を介して脳に伝えられ脳は感知情報として認知する。一方、消化管上皮細胞にも食物成分を感知する受容体があり、この感知情報は自律神経系を介して化学物質認知として脳に伝えられる。この物質認知情報に対して脳は内分泌系の動員も含めて代謝系を調節する。つまり人は、食物を味として予備感知したのちに、消化管で生理機能を有する化学物質として認知し、その物質の化学構造に反応して代謝系と内分泌系を調節することで生命を維持している。したがって農畜水産物を従来よりも優れた食品とするためには、食物成分が化学構造で生体に認知されていることを理解し、個々の成分をより優れた化学構造に加工する方法を研究しなければならない。本講義では、食物が糖質、タンパク質、脂質の栄養成分に対する生体の応答系を基礎生命科学として講述したのちに、ビタミン、無機質、食物繊維、フェニールプロパノイド系ポリフェノール、フラボノイド、カロテノイド、キサントフィル、アルカロイドに対する生体の選択的応答系を講述する。また、食品の加工調理で生じる食品異物に対する応答を講述して、生体が食品成分に選択的に応答し代謝系を調節していることを理解する。そして、この応答系がより優れた呈味性と機能性の成分を含んでいると認識するように食品成分を加工する方法を議論する						
評価方法	毎回の授業終了前に、教員がその授業で講述した課題の要点を受講生と議論する。受講生はその議論を整理し、意見や反論を教員に伝える。その内容から、講義内容の理解度(40%)、情報整理能力(20%)、情報の選別能力(20%)、要約能力(20%)を判定し、それらを総合評価する						
履修条件・注意事項	生物学、化学、栄養化学、食品化学、食品加工化学の知識を十分に備えていること。授業内容の資料は毎回配布するので、ファイルを用意すること						
自己学習	議論課題とした内容はその講義の要点であるので、その内容に関する科学論文情報を集めて復習する。疑問点があれば、次の講義あるいはオフィスアワーに質問する						
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する(曜日、時間は研究室のドアに掲示する)。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			第1回 食物を構成する成分の栄養化学的意味 第2回 非栄養性機能成分の化学構造と生体の応答 第3回 非栄養性機能成分の生理学的機能 第4回 食物繊維と免疫寛容 第5回 プロバイオティクスとプレバイオティクス 第6回 腸内細菌と発酵 第7回 乳酸菌の役割 第8回 ビフィズス菌の役割 第9回 その他の腸内微生物の役割 第10回 機能性食品開発事例Ⅰ 食物繊維 第11回 機能性食品開発事例Ⅱ 機能性オリゴ糖 第12回 機能性食品開発事例Ⅲ トレハロース(生理機能) 第13回 機能性食品開発事例Ⅳ ビタミンC誘導体 第14回 機能性食品開発事例Ⅴ 抗炎症と寿命延長 第15回 食物成分の機能性と生理活性のまとめ			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 	土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 林 将也 林 将也 林 将也 林 将也 林 将也 福田 恵温 福田 恵温 福田 恵温 福田 恵温 福田 恵温 土井裕司
教科書 1	特になし。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	食品機能開発化学演習				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	土井 裕司、福田 恵温、林 将也					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科地域創成農学専攻				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習	
テーマと到達目標	我々が日頃食している食物には、生命維持に必須の栄養機能、生体感覚に訴える機能(嗜好性)、さらに生体調節を行う機能が知られている。最近では食品、食品成分の生理機能に関する研究が精力的に行われ、多くの機能性成分の発見、種々機能性食品の開発が進められている。その中には免疫調節機能など、医薬品に匹敵する機能を有する物質も見出されている。本演習のテーマは種々食物のもつ生理活性を見出し、機能性成分の同定、作用機構を解明した学術論文を国際学術誌から選出、記載内容を読解・理解し、教員や他学生に理解しやすいよう整理して発表するプレゼン能力を培うことを目的とする。さらにこの整理、まとめ、第三者への発表を繰り返すことにより、膨大な科学研究情報の中から有用なものを見出す情報選択能力と、情報を論理的体系的にまとめて自身の研究に応用する能力を身につけることを達成目標とする							
概要	春学期には糖質に対する生体の代謝系の応答機序、タンパク質の消化管内消化を調節する機序、タンパク質消化産物のアミノ酸を生体が認識する機序、脂質を認識する受容体の応答機序、食品成分の免疫応答に関する総説を読解して発表することから始める。秋学期には糖質の加工法、たんぱく質の加工法、アミノ酸の機能脂質関連の学術論文を読解する。さらにこれら論文より得た情報からヒトの健康維持や健康増進に有用な成分を選出し、それら成分の有効な調製法、あるいは加工により新たな機能性成分に変換することを検討した学術論文を検索する。これら論文内容を読解、整理して学生自身の研究に応用する計画を立案、発表する。また、教員との種々ディスカッションを通して自身の研究目標、到達点を明確にする。							
評価方法	国際学術誌に掲載されている多くの論文の中から信頼できる学術論文を選び出す情報選択能力(25%)、情報の要約能力(25%)、発表能力(25%)、情報を自身の研究に応用する能力(25%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	生物学、化学、栄養化学、食品化学、食品加工化学の知識を十分に備えていること。							
自己学習	PubMedなどで論文検索を手早くできるように努力し、多くの論文情報の中から必要な情報を選出する能力を磨いておく。							
オフィスアワー	オフィスアワーは講義後に設ける、あるいは時間を打ち合わせて設ける。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者	
1～2回 学術情報の収集方法と得た情報を精査して信頼できる必要情報を選別する方法		演習	土井裕司	1～4回 食物中の糖質の加工法に関する論文の読解と発表		演習	福田恵温	
3～6回 糖質の代謝応答に関する論文の検索収集と発表		演習	福田恵温	5～7回 タンパク質の加工法に関する論文の読解と発表		演習	林将也	
7～9回 タンパク質に対する消化管応答の論文の読解と発表		演習	林将也	8～11回 食物中のアミノ酸の機能に関する論文の読解と発表		演習	福田恵温	
10～13回 アミノ酸に対する代謝系の応答に関する論文の読解と発表		演習	福田恵温	12～14回 食物中の中性脂質とリン脂質の含有量調節に関する論文の読解と発表		演習	土井裕司	
14～15回 脂質認識タンパク質に関する論文の読解と発表		演習	土井裕司	15回 糖質、タンパク質、脂質を加工することでより優れた食品とする研究計画を立案して発表		演習	土井裕司 福田恵温 林将也	
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	(食品機能開発化学分野学位論文研究)				履修期	2021年度 春学期～2023年度 秋学期		
担当者	土井 裕司、福田 恵温、林 将也					NO.		
配当学科	地域創成農学研究科地域創成農学専攻				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	0	時間数	120	授業形態	演習	
テーマと到達目標	伝統的なあるいは新規の栄養機能性があり美味しい加工食品を創造する個性と創造力を備えるなど、地域固有の加工食品の開発に関する基礎理論及び応用技術を持ち、地域の様々な具体的な要望に対応する研究を目指し、地域創成に貢献する。							
概要	<p>(概要)</p> <p>地域の農畜水産物生産を持続させるために、従来の産物よりも優れた呈味性と機能性の食物に改善する方法、つまり食物の糖質、タンパク質、脂質の栄養価を損なわず、ビタミンと無機質を適量含み、有用な食物繊維と機能性カロテノイドやキサントフィルを残存させ、有害なアルカロイド、微量元素、調理発がん物質を除去し、さらに機能性フラボノイドを増産する食品加工方法を研究開発することを、食品機能開発化学分野の学位論文研究とする。</p> <p>(土井裕司)</p> <p>フェニールプロパノイド系ポリフェノールとフラボノイドの体内吸収特性と機能性発現機構を解析し、機能性を発揮しやすい化学形態に変換する腸内細菌による発酵などの、機能性フラボノイドが豊富な食品に加工する研究を指導する。また機能性カロテノイドやキサントフィルの体内吸収率と体内動態を解析して、体内で有効な機能性を発揮するカロテノイドやキサントフィルを食物中に残存させる食品加工方法の研究開発を指導する。</p> <p>(福田恵温)</p> <p>食品には五味(甘味、塩味、辛味、渋味、旨味)以外にも、食べる際の食感もおいしさに関わってくる。高齢化社会をむかえて、食べやすく、健康維持に役立つ食品の開発も重要な課題である。一方で、大豆のおからに代表されるように、食物繊維、種々栄養分を多く含みながらほとんどが産業廃棄物として処理されている。酵素は食品の物性改善や、未利用資源の活用にも有効であると考えられ、種々酵素による食品加工への応用開発を指導する。</p> <p>(林将也)</p> <p>発酵食品は世界各地で食文化と密接にかかわり、微生物学上の学術的価値を有する。発酵食品には、ヨーグルト、チーズ、しょうゆ、みそ、キムチ、ビール、日本酒、ワインなどがあり多様である。近年、乳酸菌やクロストリジウムなどの腸内細菌と健康の関係が指摘されている。腸内フローラ解析により健康的なヒトの腸内環境を同定する試みが盛んであり、治療への応用が期待される。健康に寄与する有用微生物およびその基質や代謝物の働きを明らかにし、微生物を効果的に腸内に定着させる手法および食事の有害物質を吸着させ効果的に排出する手法の研究開発を指導する</p>							
評価方法	担当テーマへの理解度、研究能力(50%)、研究成果、成果の発表能力(50%)を合計して総合評価とする。							
履修条件・注意事項	生物学、化学、栄養化学、食品化学、食品加工化学の知識を十分に備えていること。							
自己学習	研究テーマ関連文献を調べ整理しておく、また随時、調査結果をまとめてゼミ等で発表すること。							
オフィスアワー	オフィスアワーは随時設ける。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
各研究担当教員による指導(土井、福田、林)			各研究担当教員による指導(土井、福田、林)					
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								